Canon

imageRUNNER
ADVANCE
6075 / 6065 / 6055

スタートガイド

最初にお読みください。

ご使用前に必ず本書をお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

JPN

目的の機能を使用するための設定の流れ

お使いになる機能にあわせて行う、作業および設定の流れを説明しています。

最初に、「第 1 章 お使いになる前に」を参照してください。
→最初にご確認ください：P.1-21
→本製品に管理者としてログインする：P.1-22

以下の機能を使用するために必要なシステム環境については、「第 2 章 ネットワークに接続する前に」を参照してください。
- ファクス（コンピューターから本製品経由で送信）（USB／ネットワーク）→コンピューターから印刷またはファクス送信する：P.2-2
- プリント（USB／ネットワーク）→コンピューターから印刷またはファクス送信する：P.2-2
- スキャンして送信（ファイルサーバーへ送信）→データを送信する：P.2-6

機能によってはオプション製品が必要な場合があります。各機能に必要なオプション製品については、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

ファクス
・リモートファクスサーバー機経由で送受信

ファクス
・本製品から送信

ファクス
・コンピューターから本製品経由で送信（USB）

プリント
（USB）

ファクス
・コンピューターから本製品経由で送信（ネットワーク）

プリント
（ネットワーク）

USB で接続
→USB で接続する：P.3-4

ネットワークに接続
→ネットワークに接続する：P.3-3
→インターフェイスの設定：P.3-6
→通信環境の設定：P.3-8

ネットワークの設定

TCP/IP	Netware
→TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業：P.4-2 →プロトコルの設定（TCP/IP）：P.4-3	→Netware ネットワークで使用するために必要な作業：P.5-2 →プロトコルの設定（Netware）：P.5-3
SMB/CIFS	**AppleTalk**
→SMB/CIFS ネットワークで使用するために必要な作業：P.6-2 →プロトコルの設定（SMB/CIFS）：P.6-3	→Apple Talk ネットワークで使用するために必要な作業：P.7-2 →プロトコルの設定（AppleTalk）：P.7-3

リモートファクス送受信の設定
→リモートファクス送受信の設定：P.13-8

ファクス送信の設定
→ファクス送信の設定：P.13-2

コンピューターからのファクス送信の設定
→第 15 章 コンピューターからファクス送信する前に

コンピューターから印刷するための設定
→第 14 章 コンピューターから印刷する前に

コンピューターからのファクス送信の設定
→第 15 章 コンピューターからファクス送信する前に

コンピューターから印刷するための設定
→第 14 章 コンピューターから印刷する前に

ファクス送信の設定
→ファクス送信の設定：P.13-2

ファクス送信の設定
→ファクス送信の設定：P.13-2

そのまま使用できます。

コピー

ファクス
・本製品で受信

スキャンして保存
保存ファイルの利用
・ボックス
・メモリーメディア

ソフトウェアの登録／更新 *1

*1 配信サーバーにアクセスしてソフトウェアの登録／更新を行う場合は、上の図の「ネットワークに接続」と「ネットワークの設定」が必要です。
また、ソフトウェアの登録／更新をリモート UI から行う場合は、「ネットワークに接続」、「ネットワークの設定」、「リモート UI の設定」が必要です。

スキャンして保存
保存ファイルの利用
・アドバンスドボックス／ネットワーク

スキャンして送信
・ファイルサーバーへ送信

スキャンして送信
・E メール／ I ファクス

リモート UI

MEAP

リモートスキャナー

ネットワークに接続

→ネットワークに接続する : P.3-3
→インターフェイスの設定 : P.3-6

ネットワークの設定

TCP/IP	SMB/CIFS
→TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業 : P.4-2 →プロトコルの設定（TCP/IP）: P.4-3	→SMB/CIFS ネットワークで使用するために必要な作業：P.6-2 →プロトコルの設定（SMB/CIFS）: P.6-3

ネットワークの設定

TCP/IP

→TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業 : P.4-2
→プロトコルの設定（TCP/IP）: P.4-3

アドバンスドボックスのユーザー認証管理設定

→アドバンスドボックスのユーザー管理 : P.12-2

アドバンスドボックスの外部公開設定

→アドバンスドボックスの外部公開設定 : P.12-5

ファイルサーバーの設定 *2

F T P サーバー

→FTP サーバーの設定方法 : P.4-24

WebDAV サーバー

→WebDAV サーバーの設定方法：P.4-30

Windows の共有フォルダー
Samba の共有フォルダー

→ファイルサーバーの設定（SMB/CIFS）: P.6-6

E メール／ I ファクスの設定

→E メール／ I ファクスの設定 : P.4-22

リモート UI の設定

→リモートＵＩを使用するために必要なシステム環境：P.8-2
→リモートＵＩを起動する前に：P.8-3

MEAP 管理機能（SMS）の設定

→SMS を使用するために必要なシステム環境 : P.8-5
→SMS を起動する前に : P.8-6

リモートスキャンの設定

→第 16 章 リモートスキャンする前に

*2 使用できるファイルサーバーは、お使いのネットワークによって異なります。使用できるファイルサーバーの詳細については、お使いのネットワークにあわせて、以下を参照してください。

・TCP/IP ネットワークをお使いの場合：ファイルサーバーの設定（TCP/IP）（→ P.4-24）
・SMB/CIFS ネットワークをお使いの場合：ファイルサーバーの設定（SMB/CIFS）（→ P.6-6）

取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、次のような構成になっています。目的に応じてご参照いただき、本製品を十分にご活用ください。

 このマークが付いているガイドは、製品に同梱されている紙マニュアルです。

 このマークが付いているガイドは、付属の CD-ROM に収められています。

- **本製品をご使用するにあたっての注意事項、設置後の作業や設定について知るには**

スタートガイド（本書）

- **本製品の基本的な操作、便利な使いかたを素早く知るには**

こんなことができます

- **本製品のメンテナンス方法、困ったときの対処方法について知るには**

メンテナンスガイド

- **本製品についてよく寄せられるご質問と、その回答集**

よくあるご質問

- **Windows用プリンタードライバーのインストールのしかたなどについて知るには**

プリンタードライバー インストールガイド

- **Macintosh用プリンタードライバーのインストールのしかたなどについて知るには**
  LIPS LX プリンター用、LIPS プリンター用、PS プリンター用があります。

Mac プリンタドライバ インストールガイド

- **Windows用ファクスドライバーのインストールのしかたなどについて知るには**

ファクスドライバー インストールガイド

- **Macintosh用ファクスドライバーのインストールのしかたなどについて知るには**

Mac FAX ドライバ インストールガイド

- **Windows用スキャナードライバーのインストールのしかたなどについて知るには**

Network ScanGear インストールガイド

e-マニュアル

- 本製品の取り扱い、操作方法についての総合ガイド

  - お使いになる前に
  -基本的な使いかた
  -オプション／ソフトウェアについて
  -設定/登録
  -用紙種類の管理設定
  -トラブルシューティング
  -メンテナンス
  -活用集
  -目的別リンク集

  -コピー
  -ファクス
  -スキャンして送信
  -スキャンして保存
  -保存ファイルの利用
  -受信トレイ
  -セキュアプリント
  -ウェブブラウザー
  -リモートスキャナー
  -モバイルプリント
  -カスタムメニュー
  -状況確認/中止
  -プリント
  -ネットワーク
  -リモートUI
  -MEAP
  -セキュリティー

PDF 形式のマニュアルを表示するには、Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader が必要です。ご使用のシステムに Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader がインストールされていない場合は、アドビ システムズ社のホームページからダウンロードし、インストールしてください。

本書の構成について

第 1 章　お使いになる前に

第 2 章　ネットワークに接続する前に

第 3 章　ネットワークの共通設定

第 4 章　TCP/IP ネットワークで使用する

第 5 章　NetWare ネットワークで使用する（Windows）

第 6 章　SMB/CIFS ネットワークで使用する

第 7 章　AppleTalk ネットワークで使用する（Macintosh）

第 8 章　コンピューターから本製品を管理する

第 9 章　システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする

第 10 章　ファームウェアをアップデートする

第 11 章　ソフトウェアの登録／更新を管理する

第 12 章　アドバンスドボックス機能をお使いになる前に

第 13 章　ファクス送信機能をお使いになる前に

第 14 章　コンピューターから印刷する前に

第 15 章　コンピューターからファクス送信する前に

第 16 章　リモートスキャンする前に

第 17 章　付録

本体やオプションの仕様、レポート、原稿の向きと排紙の向きについて、ローマ字入力表、JIS 漢字コード表などを説明、掲載しています。

目次

第 2 章　ネットワークに接続する前に

第 3 章　ネットワークの共通設定

第 4 章　TCP/IP ネットワークで使用する

第 5 章　NetWare ネットワークで使用する（Windows）

第 6 章　SMB/CIFS ネットワークで使用する

第 7 章　AppleTalk ネットワークで使用する（Macintosh）

第 8 章　コンピューターから本製品を管理する

第 9 章　システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする

第 10 章　ファームウェアをアップデートする

第 11 章　ソフトウェアの登録／更新を管理する

第 12 章　アドバンスドボックス機能をお使いになる前に

第 13 章　ファクス送信機能をお使いになる前に

第 14 章　コンピューターから印刷する前に

第 15 章　コンピューターからファクス送信する前に

第 16 章　リモートスキャンする前に

第 17 章　付録

はじめに

このたびはキヤノン imageRUNNER ADVANCE 6075/6065/6055 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。（なお、本書に記載の各機能の詳細な設定については e- マニュアルを参照してください。）また、お読みいただきました後も大切に保管してください。

本製品のシステム全般に関する設定を行える管理者は、システム管理者、または SSO-H（Single Sign-On H）のシステムアドミニストレーター（Administrator）です。特におことわりがない限り、本書の「管理者」は、システム管理者またはシステムアドミニストレーター（Administrator）を指します。管理者の種類については、e- マニュアル>セキュリティーを参照してください。

本書の読みかた

マークについて

本書では、安全のためにお守りいただきたいことや取り扱い上の制限・注意などの説明に、下記のマークを付けています。

警告	取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
注意	取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
重要	操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルや故障、物的損害を防ぐために、必ずお読みください。
メモ	操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。
	製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止することを示しています。指示内容をよく読み、禁止されている事項は絶対に行わないでください。

キー・ボタンの表記について

本書では、キー・ボタン名称を以下のように表しています。

- タッチパネルディスプレー上のキー：［キー名称］
  例：［キャンセル］
  　　［閉じる］
- 操作パネル上のキー：＜キーアイコン＞＋（キー名称）
  例：（スタート）
  　　（ストップ）
- コンピューター画面上のボタン：［ボタン名称］
  例：［OK］
  　　［追加］

画面について

本書で使われている画面は、特にお断りがない限り、imageRUNNER ADVANCE 6075 に スーパー G3FAX ボード、立面操作部、マルチカラーイメージリーダーユニット、コピートレイが装着されている場合のものです。

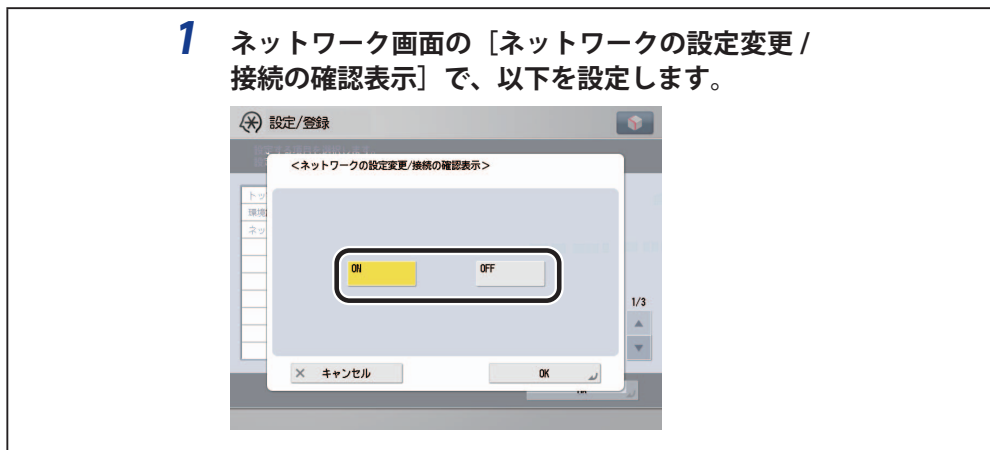
アクセサリー、オプションの組み合わせによって使用できない機能に関しては、本製品の画面には表示されませんが、ご了承ください。

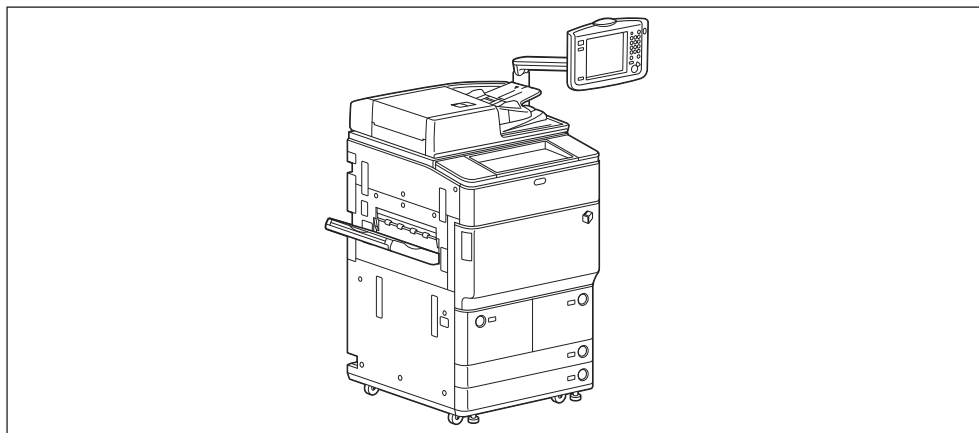
本書で使われているコンピューター操作画面は、お使いの環境によって表示が異なる場合があります。

操作時に押すキーの場所は、（丸）で囲んで表しています。また、操作を行うキーが複数表示されている場合は、それらをすべて囲んでいますので、ご利用に合わせて選択してください。

本マニュアルで使われている画面は、実際の画面と異なる場合があります。

例：

1 ネットワーク画面の［ネットワークの設定変更 / 接続の確認表示］で、以下を設定します。

イラストについて

本書で使われているイラストは、特にお断りがない限り、imageRUNNER ADVANCE 6075 に立面操作部、マルチカラーイメージリーダーユニット、コピートレイが装着されている場合のものです。

略称について

本製品の取扱説明書に記載されている名称は、下記の略称を使用しています。

Microsoft Windows 98 Operating System：	Windows 98
Microsoft Windows Millennium Edition Operating System：	Windows Millennium Edition
Microsoft Windows 2000 Operating System：	Windows 2000
Microsoft Windows 2000 Professional Operating System：	Windows 2000 Professional
Microsoft Windows 2000 Server Operating System：	Windows 2000 Server
Microsoft Windows Server 2003 Operating Systemstem：	Windows Server 2003
Microsoft Windows Server 2003 R2 Operating System：	Windows Server 2003 R2
Microsoft Windows XP Professional Operating System：	Windows XP Professional
Microsoft Windows XP Operating System：	Windows XP
Microsoft Windows Vista Operating System：	Windows Vista
Microsoft Windows Server 2008 Operating System：	Windows Server 2008
Microsoft Windows 7 Operating System：	Windows 7
Microsoft Windows Operating System：	Windows
Novell NetWare：	NetWare
Apple Macintosh：	Macintosh
Apple Mac：	Mac
Extended Unix Code：	EUC

本製品の取扱説明書では、郵便事業株式会社製のはがきを郵便はがきと記載しています。

商標について

MEAP、MEAP ロゴはキヤノン株式会社の商標です。

本製品には、Monotype Imaging, Inc. の認可のもと、Universal Font Scaling Technology または UFST® が含まれています。UFST® は Monotype Imaging, Inc. の商標であり、米国特許商標庁の管轄で登録されているものです。

UFST: Copyright © 1989 - 1996, 1997, 2003, 2004, 2008, all rights reserved, by Monotype Imaging Inc.

Apple、AppleTalk、EtherTalk、LocalTalk、Macintosh、Mac、Mac OS、Safari は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc . の商標です。

Windows、Windows ロゴ、Windows Vista、Windows Vista ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe、PostScript および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ 社) の米国ならびに他の国における商標または商標登録です。

Protected by U.S. Patents 5,737,599; 5,781,785; 5,819,301; 5,929,866; 5,943,063; 6,073,148; 6,515,763; 6,639,593; 6,754,382; 7,046,403; 7,213,269; 7,242,415; Patents pending in the U.S. and other countries.

All instances of the name PostScript in the text are references to the PostScript language as defined by Adobe Systems Incorporated unless otherwise stated. The name PostScript also is used as a product trademark for Adobe Systems' implementation of the PostScript language interpreter.

Except as otherwise stated, any reference to a "PostScript printing device," "PostScript display device," or similar item refers to a printing device, display device or item (respectively) that contains PostScript technology created or licensed by Adobe Systems Incorporated and not to devices or items that purport to be merely compatible with the PostScript language.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, the PostScript logo, and PostScript 3 are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

Linux is a registered trademark of Linus Torvalds. Microsoft and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

PDF ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ 社) の米国ならびに他の国における商標または商標登録です。

Protected by U.S. Patents 6,185,684; 6,205,549; 7,213,269; 7,272,628; 7,278,168; Patents pending in the U.S. and other countries.

All instances of the name PostScript in the text are references to the PostScript language as defined by Adobe Systems Incorporated unless otherwise stated. The name PostScript also is used as a product trademark for Adobe Systems' implementation of the PostScript language interpreter.

Except as otherwise stated, any reference to a “PostScript printing device,” “PostScript display device,” or similar item refers to a printing device, display device or item (respectively) that contains PostScript technology created or licensed by Adobe Systems Incorporated and not to devices or items that purport to be merely compatible with the PostScript language.

Adobe, the Adobe logo, PostScript, the PostScript Logo, and PostScript 3 are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries.

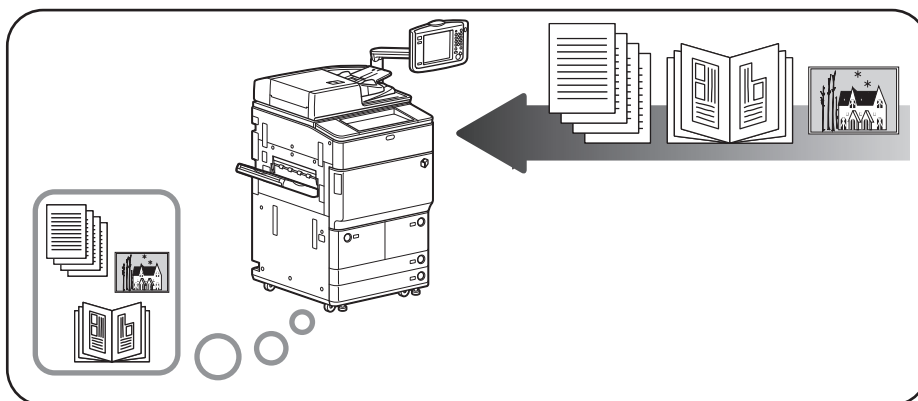
その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

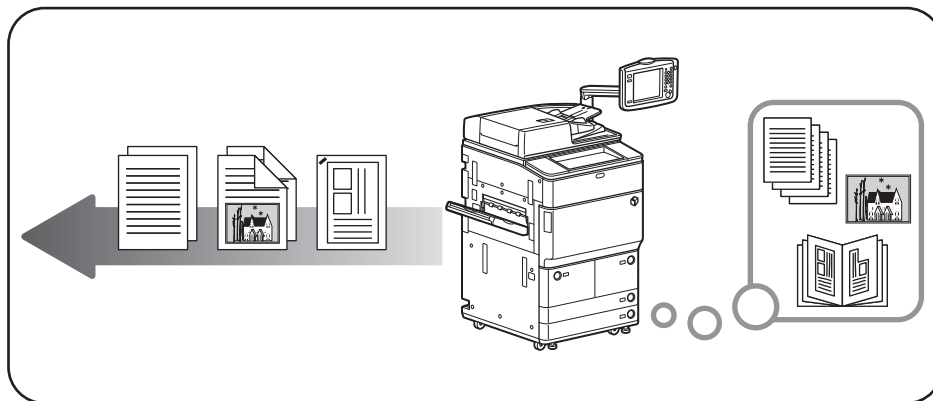
本製品の動作と本書で用いる用語について

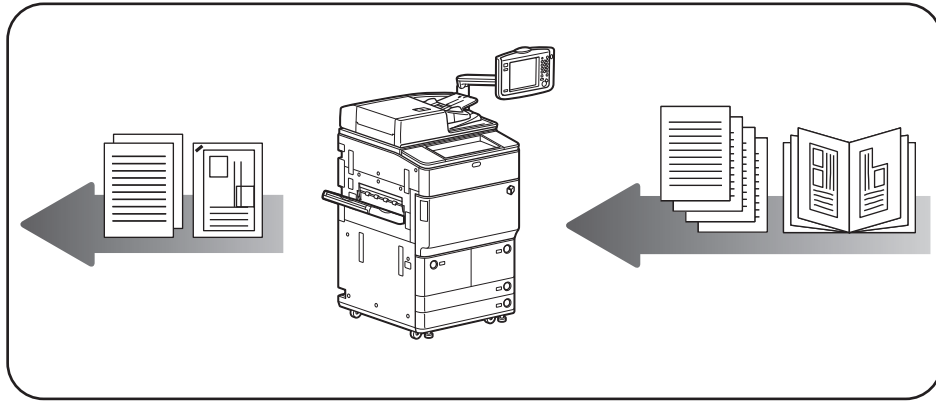
本製品は効率よくプリント処理を行えるように、メモリーを有効に活用しています。たとえば、コピーをとりたい原稿の読み込みが終了すれば、次にコピーをとりたい方は順番を待たずに原稿の読み込みを済ませることができます。また、コピー以外の機能を使って本製品からプリントさせることもできます。本製品はこれらの動作が複合的に処理されますので、コピーに限らずいろいろなプリントが順番を待っていたりプリントされたりします。

本文中での混乱をさけるために、この取扱説明書では「読み込み」、「プリント」、「コピー」を以下のように定義して、コピーをとるときの原稿の読み込みとプリントをしている状況を使い分けて説明する場合があります。

■読み込み

コピーをとりたい原稿の読み込み、送信したい原稿の読み込み、本製品にデータとして保存したい原稿の読み込み

■プリント

コピーの出力、本製品に保存されているデータの出力、コンピューターから本製品に送ったデータの出力

■コピー

原稿の読み込みからプリント、仕上げ（ホチキスなど）までを行った出力

規制について

本体製品名称について

この製品は、販売されている地域の安全規制に従って、以下の（）内の名称で登録されている場合があります。

imageRUNNER ADVANCE 6075/6065/6055 (F155100)

電波障害規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

なお、通信ケーブルはシールド付をご使用ください。 VCCI-B

高調波の抑制について

本機器は JIS C 61000-3-2 高調波電流発生限度値に適合しています。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加できる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレー、プリンター、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

IPv6 Ready Logo について

本製品搭載のプロトコルスタックは、IPv6 Forum が定める IPv6 Ready Logo Phase-1 を取得しています。

物質エミッションに関する認定基準について

粉塵、オゾン、スチレン、ベンゼンおよび TVOC の放散については、エコマーク No.117「複写機 Version2」/No.122「プリンタ Version2」の物質エミッションの放散速度に関する認定基準を満たしています。（トナーは本製品用に推奨しておりますキヤノン NPG-54 トナーを使用し、複写および印刷を行った場合について、試験方法：RAL-UZ122：2006 の付録 2 に基づき試験を実施しました。）

情報セキュリティー規格 (IEEE 2600) について

本製品は、IEEE Std 2600TM-2008(以下、IEEE 2600）という複合機・プリンターの情報セキュリティーに関する国際的な規格に準拠しており、IEEE 2600 で定められたセキュリティーを実現することができます。*

IEEE 2600 で定められた各セキュリティー要件に関する本製品での対応については、e- マニュアル > セキュリティー（IEEE 2600 で定められたセキュリティーについて）を参照してください。

* 本製品のみでは IEEE 2600.1 CC 認証は取得しておりません。

著作権について

本製品には、キヤノン株式会社またはそのライセンサーが、それぞれ下記 (a) から (d) の条件に基づき許諾を受けたソフトウェア・モジュールが含まれています。

第三者のソフトウェアについて

A. お客様がご購入のキヤノン製品（以下、「本製品」）には、第三者のソフトウェア・モジュール（その更新されたものを含み以下、「第三者ソフトウェア」）が含まれており、かかる「第三者ソフトウェア」には、以下１～８の条件が適用されます。

1. お客様が「第三者ソフトウェア」の含まれる「本製品」を、輸出または海外に持ち出す場合は、日本国及び関連する諸外国の規制に基づく関連法規を遵守してください。
2. 「第三者ソフトウェア」に係るいかなる知的財産権、権原および所有権は、お客様に譲渡されるものではなく、「第三者ソフトウェア」の権利者に帰属します。
3. お客様は、「第三者ソフトウェア」を、「本製品」に組み込まれた状態でのみ使用することができます。
4. お客様は、権利者の事前の書面による許可無く、「第三者ソフトウェア」を開示、再使用許諾、販売、リース、譲渡してはなりません。
5. 上記にかかわらず、お客様は、以下の条件に従う場合のみ、「第三者ソフトウェア」を譲渡することができます。
   - お客様が「本製品」に関するすべての権利、および「第三者ソフトウェア」に関するすべての権利および義務を譲渡すること
   - お客様から譲渡を受ける者が、「本製品」に附帯する条件に同意していること
6. お客様は、「第三者ソフトウェア」の全部または一部を修正、改変、逆アセンブル、逆コンパイル、その他リバースエンジニアリング等することはできません。
7. お客様は、「本製品」に含まれる「第三者ソフトウェア」を除去したり、「第三者ソフトウェア」を複製してはなりません。
8. 「第三者ソフトウェア」中のソースコードについては、お客様にいかなるライセンスも許諾されません。

B.「本製品」にAdobe Systems Incorporatedのソフトウェアおよびその関連ドキュメント（以下「Adobeソフトウェア」）が含まれる場合、「Adobeソフトウェア」には、上記1~8の条件に加え、以下の条件が適用されます。

The Software is a “commercial item,” as that term is defined at 48 C.F.R. 2.101 (Oct 1995), consisting of “commercial computer software” and “commercial computer software documentation,” as such terms are used in 48 C.F.R. 12.212 (Sept 1995). Consistent with 48 C.F.R. 12.212 and 48 C.F.R. 227.7202-1 through 227.7202-4 (June 1995), all U.S. Government End Users shall acquire the Software with only those rights set forth herein.

本条において、“Software”という語は、「Adobeソフトウェア」を意味し、指し示すものとします。

C. 上記A.Bの条件にかかわらず、別途固有の許諾条件が用意されている第三者のソフトウェア、および下記に記載されたオープンソースソフトウェアについては、別途の許諾条件が適用されるものとします。

別途固有の許諾条件が用意されている第三者のソフトウェアについて

詳細およびライセンス条件につきましては、本製品に同梱されている CD-ROM 内の e マニュアルをご参照ください。

オープンソースソフトウェアについて

本製品に搭載されるオープンソースソフトウェアについて、対応するそれぞれのライセンス条件に基づき、ソースコードの入手を希望される方は、日本語または英語で下記メールアドレスまでご連絡ください。

<oipossg@canon.co.jp>

詳細およびライセンス条件につきましては、本製品に同梱されている CD-ROM 内の e マニュアルをご参照ください。

原稿などを読み込む際の注意事項

以下を原稿として読み込むか、あるいは複製し加工すると、法律により罰せられる場合がありますのでご注意ください。

■ 著作物など

他人の著作物を権利者に無断で複製などすることは、個人的または家庭内その他これに準ずる限られた範囲においての使用を目的とする場合を除き違法となります。また、人物の写真などを複製する場合には肖像権が問題となることがあります。

■ 通貨、有価証券など

以下のものを本物と偽って使用する目的で複製すること、またはその本物と紛らわしいものを作成することは法律により罰せられます。

- 紙幣、貨幣、銀行券（外国のものを含む）
- 国債証券、地方債証券
- 郵便為替証書
- 郵便切手、印紙
- 株券、社債券
- 手形、小切手
- 定期券、回数券、乗車券
- その他の有価証券

■ 公文書など

以下のものを本物と偽って使用する目的で偽造することは法律により罰せられます。

- 公務員または役所が作成した免許証、登記簿謄本その他の証明書や文書
- 私人が作成した契約書その他権利義務や事実証明に関する文書
- 役所または公務員の印影、署名または記号
- 私人の印影または署名

［関係法律］

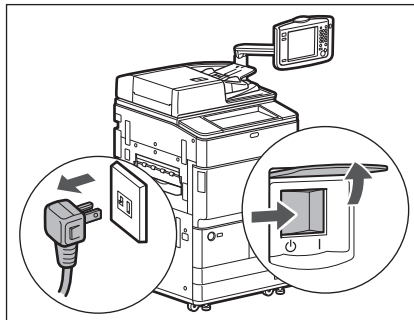
- 刑法
- 著作権法
- 通貨及証券模造取締法
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 郵便法
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙犯罪処罰法
- 印紙等模造取締法

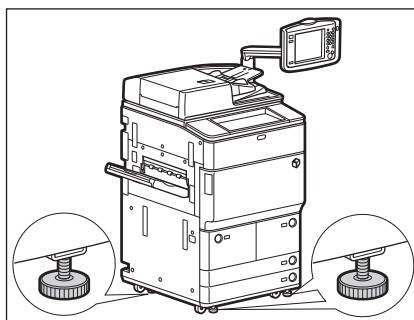
安全にお使いいただくために

本製品をお使いになる前に、この「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、正しくご使用ください。ここに書かれている警告・注意事項は、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容ですので、必ずお守りください。また、本書に記載されていること以外は行わないでください。

設置について

警告

- アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 製品の上に次のような物を置かないでください。これらが製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。
  製品内部に入った場合は、直ちに操作部電源スイッチを切り、本体右側の主電源スイッチを切ってから、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
  - ネックレスなどの金属物
  - コップ、花瓶、植木鉢など、水や液体が入った容器

注意

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所、振動の多い場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 製品には通気口がありますので、壁や物でふさがないように設置してください。通気口をふさがれると製品内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- 製品を次のような場所に設置しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
  - 湿気やほこりの多い場所
  - 水道の蛇口付近などの水気のある場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 高温な場所
  - 火気に近い場所
- 設置したあとは、製品固定用のストッパーは外さないでください。製品が動いたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。

電源について

⚠ 警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものを置いたり、引っぱったり、無理に曲げたりしないでください。傷ついた部分から漏電して、火災や感電の原因になります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因になります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。
- タコ足配線はしないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。火災や感電の原因になります。
- 電源コードはコンセントの奥までしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まないと、火災や感電の原因になります。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行って下さい。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離して行って下さい。
- アース線を接続してください。アース線を接続しないで万一漏電した場合は、火災や感電の原因になります。
- アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。

  〈アース線を接続してもよいもの〉

  電源コンセントのアース端子

  接地工事（D 種）が行われているアース端子

  〈アース線を接続してはいけないもの〉

  水道管：配管の途中でプラスチックになっている場合があり、その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。

  ガス管：ガス爆発や火災の原因になります。

  電話線のアースや避雷針：落雷のときに大きな電流が流れ、火災や感電の原因になります。
- 原則的に延長コードは使用しないでください。また、延長コードの多重配線はしないでください。火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

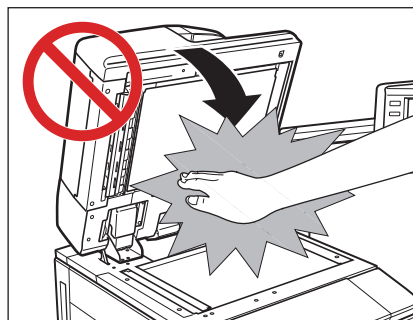
- 表示された以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱると、電源コードの芯線の露出、断線など電源コードが傷つき、その部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。
- いつでも電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りには物を置かないでください。非常時に電源プラグが抜けなくなります。
- 電源コードの修理や交換は、お客様ご自身で行わず、必ず担当サービスにご連絡ください。

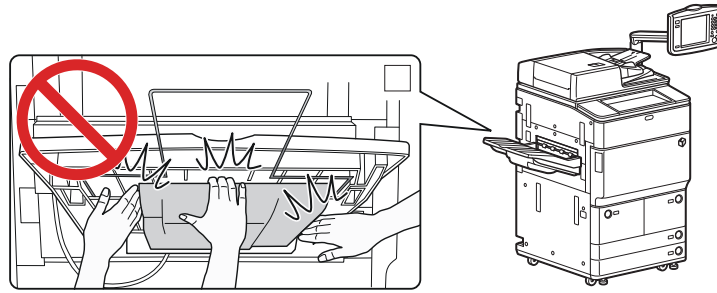
取り扱いについて

⚠ 警告

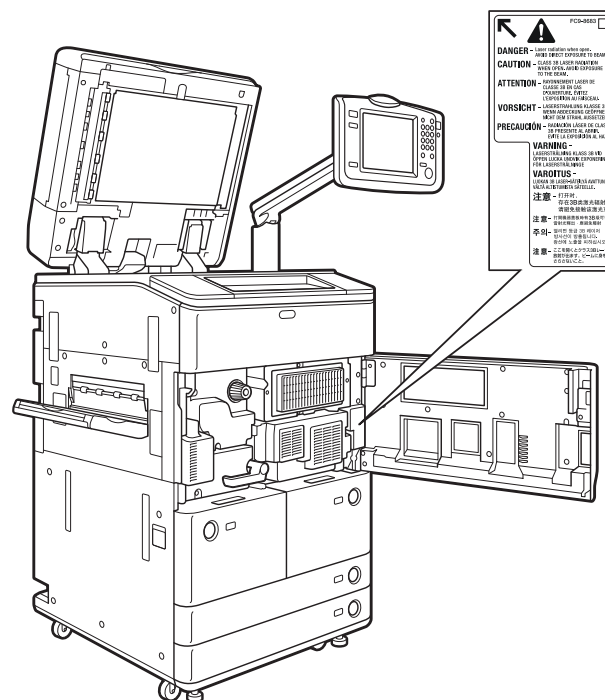
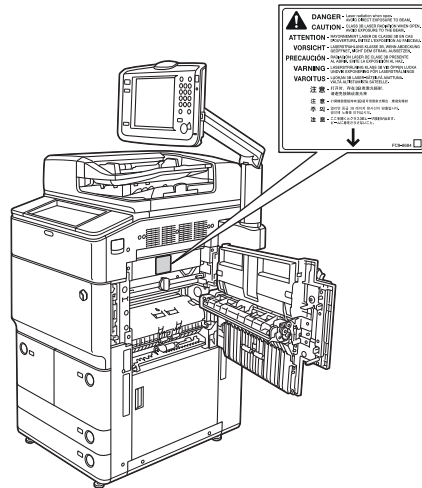
- 製品を分解したり、改造したりしないでください。内部には高圧・高温の部分があり、火災や感電の原因になります。
- 異常な音がしたり、煙が出たり、熱が出たり、変なにおいがした場合は、直ちに操作部電源スイッチを切り、本体右側面の主電源スイッチを切ってから、電源プラグを抜いて、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 製品の近くでは可燃性のスプレーなどは使用しないでください。スプレーのガスなどが製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 製品を移動させる場合は、必ず操作部電源スイッチを切り、本体右側面の主電源スイッチを切ってから、電源プラグを抜き、インターフェイスケーブルを取り外してください。そのまま移動すると電源コードやインターフェイスケーブルが傷つき、火災や感電の原因になります。
- 製品を移動させた後は、電源プラグや電源コネクタが奥までしっかり差し込まれているか確認してください。緩んだ状態で使用すると発熱し、火災の原因になります。
- 製品内部にクリップやホチキスの針などの金属片を落とさないでください。また、水、液体や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）をこぼさないでください。これらが製品内部の電気部分に接触すると、火災や感電の原因になることがあります。これらが製品内部に入った場合は、直ちに操作部電源スイッチを切り、本体右側面の主電源スイッチを切ってから、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- 製品をデジタル複合機としての使用目的以外には使用しないでください。

⚠ 注意

- 製品の上に重いものを置かないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因になることがあります。
- フィーダーは、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。

- 原稿台ガラスに厚い本などをセットしてコピーするときは、フィーダーを強く押さないでください。原稿台ガラスが破損してけがの原因になることがあります。
- コピー、プリント中は、フィニッシャーのトレイに触れないでください。フィニッシャーのトレイはコピー、プリント中に位置が移動するため、けがの原因になることがあります。
- 排紙直後の用紙は高温になっている場合があります。用紙を取り出す際、取り出した用紙を揃える際に低温やけどの原因になることがあります。
- 夜間などで長時間ご使用にならない場合は、安全のため操作部電源スイッチを切ってください。また、連休などで長時間ご使用にならない場合は、安全のため操作部電源スイッチを切り、本体右側面の主電源スイッチを切ってから、電源プラグを抜いてください。
- 左側面など、本製品の排紙部にあるローラーには手を近づけないでください。動作中でなくても、プリントなどのため急に動き出し、衣服や手が巻き込まれて、けがの原因になることがあります。

- シフトトレイ装着時、トレイの付け根部分は用紙をそろえるために動きます。付け根部分に手を入れないでください。けがの原因になることがあります。

- フィニッシャーを装着しているときは、トレイ内のホチキスされる場所やローラー部に手を入れないでください。けがの原因になることがあります。

ステイプルフィニッシャー /
中綴じフィニッシャー

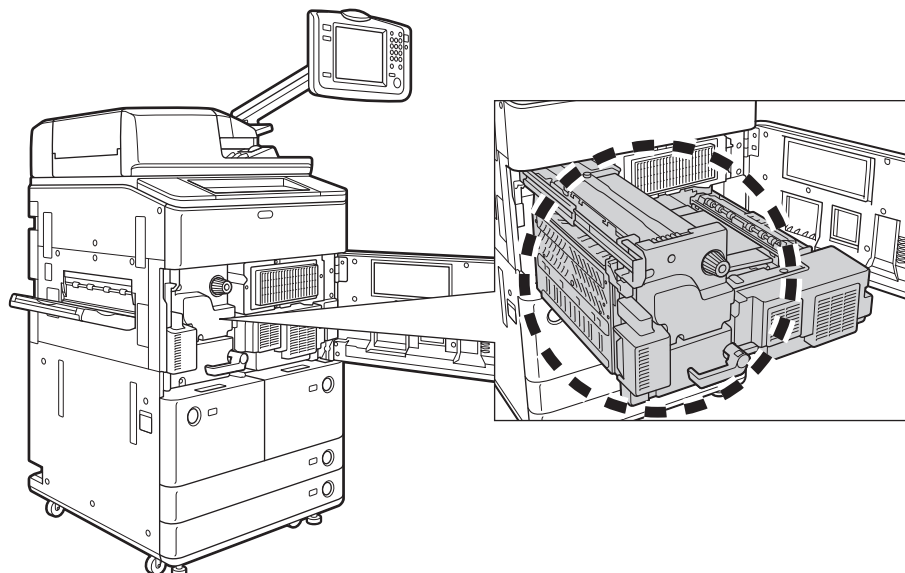
- レーザー光は、人体に有害となる恐れがあります。そのため本製品では、レーザー光はレーザースキャナーユニット内にカバーで密封されており、お客様が通常の操作をする場合にはレーザー光が漏れる心配はありません。安全のために以下の注意事項を必ずお守りください。
- 本書で指示された以外のカバーは、絶対に開けないでください。
- 本製品に貼ってある以下の注意ラベルをはがさないでください。

- この製品はIEC60825-1:2007においてクラス1レーザ製品であることを確認しています。
- 万一レーザー光が漏れて目に入った場合、目に障害が起こる原因になることがあります。
- 本書で規定された、制御、調整および操作手順以外のご利用は、危険な放射線の露出を引き起こす可能性があります。

保守／点検について

⚠ 警告

- 清掃のときは、操作部電源スイッチを切り、本体右側面にある主電源スイッチを切ってから電源プラグを抜いてください。火災や感電の原因になります。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺にたまったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 清掃のときは、必ず水または水で薄めた中性洗剤を含ませて固く絞った布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。
- 製品内部には、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が製品内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になります。
- 使用済みのトナー容器を火中に投じないでください。トナー容器内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。
- 清掃の後は、電源プラグや電源コネクタが奥までしっかり差し込まれているか確認してください。緩んだ状態で使用すると発熱し、火災の原因になることがあります。
- 電源コード・電源プラグを定期的に点検してください。以下の状態がある場合は、火災の原因になりますので、担当サービスまたは弊社お客様相談センターにご連絡ください。
  - 電源プラグに焦げ跡がある
  - 電源プラグの刃が変形している
  - 電源コードを曲げると、電源が切れたり入ったりする
  - 電源コードの被覆に傷、亀裂、へこみがある
  - 電源コードの一部が熱くなる
- 電源コード、電源プラグが以下のように取り扱われていないか、定期的に点検してください。火災や感電の原因になります。
  - 電源コネクタが緩んでいる
  - 電源コードが重い物の下敷きになっていたりホチキスで固定されるなど、ストレスを与えられている
  - 電源プラグが緩んでいる
  - 電源コードが束ねられている
  - 電源コードが通路にはみ出している
  - 電源コードが暖房器具の前にある

⚠ 注意

- 製品内部の定着器周辺は、使用中に高温になります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、定着器周辺に触れないように点検してください。やけどの原因になることがあります。
- 紙づまり処理など内部を点検するとき、定着器周辺に直接触れなくても、定着器周辺の熱に長時間さらされないように注意してください。低温やけどの原因になることがあります。

- 紙づまり時には、画面に表示されているメッセージに従って、つまっている用紙を機械内部に紙片が残らないように取り除いてください。また、表示以外の箇所には無理に手を入れないでください。けがややけどの原因になることがあります。
- 紙づまり処理やトナー容器を交換するときは、トナーで衣服や手を汚さないように注意してください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなることがあります。
- 紙づまりで用紙を製品内部から取り除くときは、紙づまりしている用紙の上にのっているトナーが飛び散らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
- 用紙を補給するとき、原稿づまりや紙づまりを取り除くときは、原稿や用紙の端で手を切らないように、注意して扱ってください。
- 紙づまりで用紙を製品内部から取り除くときは、製品内部で手を切ったりけがをしないように注意してください。用紙を取り除くことができない場合は、担当サービスにお問い合わせください。
- トナー容器を補給口から取り外すときは、トナーが飛び散って目や口などにトナーが入らないように、丁寧に取り出してください。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
- トナー容器は分解しないでください。トナーが飛び散って目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
- トナー容器からトナーが漏れたときは、吸い込んだり直接皮膚につけたりしないように注意してください。皮膚についた場合は、石鹸を使い水で洗い流し、刺激が残る場合や吸い込んだ場合には直ちに医師に相談してください。

消耗品について

⚠ 警告

- トナー容器を火中に投じないでください。トナーに引火して、やけどや火災の原因になります。
- トナー容器、用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーや用紙に引火して、やけどや火災の原因になります。
- トナー容器を廃棄する場合は、トナー容器を袋に入れてトナーが飛び散らないようにし、自治体の指示に従って処理してください。

⚠ 注意

- トナーなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。もしトナーを飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。
- トナー容器は分解しないでください。トナーが飛び散って目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
- トナー容器からトナーが漏れたときは、吸い込んだり直接皮膚につけたりしないように注意してください。皮膚についた場合は、石鹸を使い水で洗い流し、刺激が残る場合や吸い込んだ場合には直ちに医師に相談してください。

その他

⚠ 警告

心臓ペースメーカーをご使用の方へ

- 本製品から微弱な磁気が出ています。心臓ペースメーカーをご使用の方は、異常を感じたら本製品から離れてください。そして、医師にご相談ください。

資源再利用のお願い

キヤノンでは環境保全ならびに資源の有効活用のため、リサイクルの推進に努めております。回収窓口が製品により異なりますので、以下の内容をお読みいただき、ご理解とご協力をお願いします。

■ **使用済み複写機の受け入れ場所について**

使用済みとなった複写機につきましては、次のように回収を行っています。お問い合わせ先に注意してご連絡願います。

	キヤノンでは、環境保全と資源の有効活用のため、回収されたオフィス用、使用済み複写機のリサイクルを推進しています。 使用済みの複写機の回収については、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談センターもしくは担当の営業にお問い合わせください。 なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、廃棄物処理法に従い処分してください。

■ **使用済みドラムユニット、トナー容器（カートリッジを含む）などの回収について**

使用済みとなったトナー容器などにつきましては、次のように回収を行っています。お問い合わせ先に注意してご連絡願います。

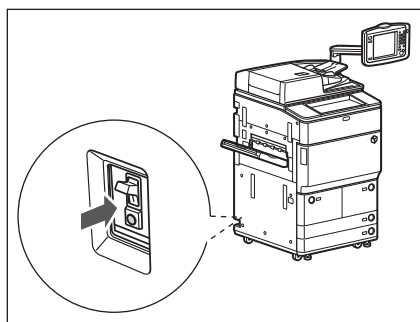
	キヤノンでは、環境保全と資源の有効活用のため、使用済みドラムユニットおよび使用済みトナー容器の回収とリサイクルを推進しています。 使用済みドラムユニット、トナー容器の回収については、担当のサービス店、または弊社お客様相談センターにお問い合わせください。 なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、トナーがこぼれないようにビニール袋等に入れて、地域の条例に従い処分してください。

ブレーカーの定期点検

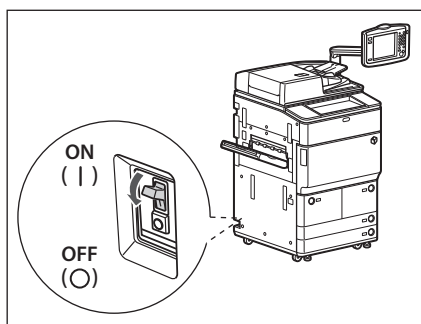
本製品には感電防止のため、過電流や漏電を検知するブレーカーが装着されています。
以下の手順に従って、月に 1 ～ 2 度必ずブレーカーの定期点検を行ってください。

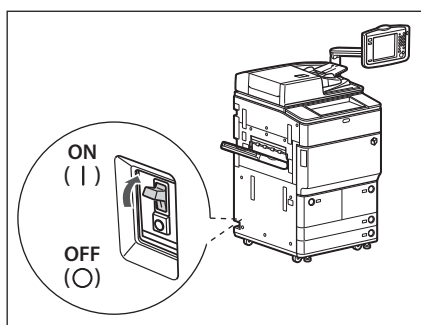
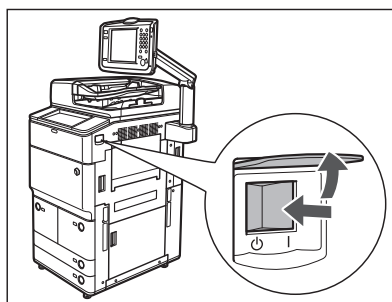
重要
- ブレーカーの定期点検は、本製品の主電源スイッチを切った状態で行ってください。
- ブレーカーの定期点検を行って正常に動作しなかった場合は、担当サービスにご連絡ください。

ブレーカーのチェックのしかた

1 **ボールペンの先などで本体背面のブレーカーのテストボタンを押します。**

重要　テストボタンを押すときは、押し続けないですぐに離してください。

メモ
- ブレーカーは本製品の背面にあります。
- ブレーカーの位置の詳細については、「本体外観」（→ P.1-10）を参照してください。

2 ブレーカースイッチが OFF（○ 側）の方へ倒れることを確認します。

重要
- 主電源を入れたり切ったりする目的でテストボタンを使用しないでください。
- ブレーカースイッチがOFF（○ 側）の方へ倒れない場合は、手順1をもう一度行います。
- 手順1を2〜3度繰り返してもブレーカースイッチがOFF（○ 側）の方へ倒れない場合は、担当サービスにご連絡ください。

3 ブレーカースイッチを ON（I 側）へ戻します。

4 主電源スイッチを「I」側へ倒します。

5 次頁のブレーカー点検チェックシートにテストの日時を記入します。

imageRUNNER ADVANCE 6075/6065/6055 ブレーカー点検チェックシート

ブレーカー点検チェックシートはコピーをとって使用してください。また使用したあとも本製品のそばに置いて、大切に保管してください。

■ ブレーカーの定期点検のしかた

月に 1 ～ 2 度、「ブレーカーの定期点検」（→ P.xxxi）に従って行ってください。

■ ブレーカー点検チェックシートの記入のしかた

点検を行った日と点検者の名前を記入してください。

点検の結果、異常がなければ OK の欄をチェックしてください。異常があった場合は、担当サービスに連絡してください。（NG の欄をチェックしてください。）

点検日	点検者名	点検結果	
		OK	NG

点検日	点検者名	点検結果	
		OK	NG

お使いになる前に

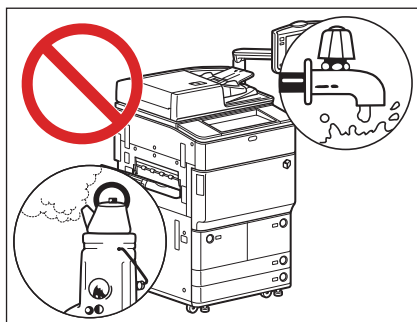
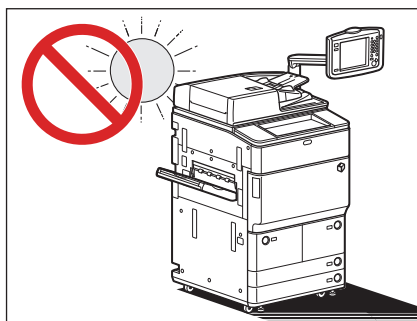
本製品をお使いになる前に知っておいていただきたいことを説明しています。

設置場所と取り扱いについて

設置場所と取り扱いについての注意事項を記載しています。お使いになる前に必ずお読みください。

設置場所のご注意

次のような場所への設置は避けてください

■ **低温、低湿または高温、高湿の場所**
水道の蛇口、湯沸器、加湿器、エアコン、ヒーター、ストーブなどの近く。

■ **直射日光の当たる場所**
やむをえない場合はカーテンなどで遮光してください。カーテンが製品の通気口をふさいだり、電源コードや電源プラグにかぶさらないように注意してください。

■ **換気の悪い場所**

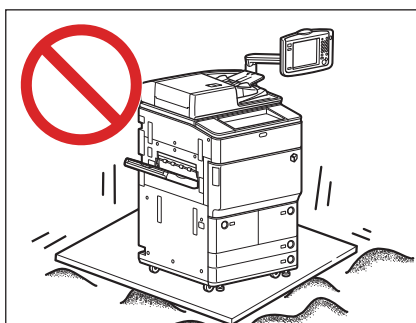
使用中の製品からは、オゾンなどが発生しますが、その量は人体に影響を及ぼさない程度です。ただし、換気の悪い部屋で長時間使用する場合や、大量にプリントする場合には、快適な作業環境を保つため、部屋の換気をするようにしてください。

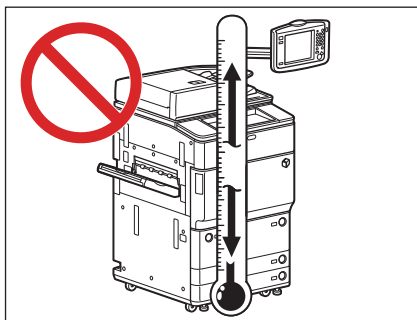
■ **ホコリ、チリなどの多い場所**

■ **アンモニアガスの発生する場所**

■ **アルコール、シンナーなどの近く**

■ **振動の多い場所**

床や土台などが不安定な場所

■ 温度が急に変化する場所

冷えきった部屋を急激に暖めたときなど、製品内部に水滴がつき（結露現象）、画像が著しく損なわれたり、原稿が正しく読み取られなかったり、プリント画像が写らないことがあります。

■ コンピューターなどの電子機器や精密機械の近く

電気的な原因や動作時の振動により、電子機器、精密機器などに悪影響を与えることがあります。

■ テレビ、ラジオなどの電子機器の近く

テレビやラジオ、オーディオ機器に、画面のチラツキや雑音の発生などの受信障害が生じることがあります。製品とは別系統の電源を使用し、離して設置してください。

■ 電話回線について

電話回線の抵抗値と本製品の抵抗値の合計が 1700Ω を超える場合など、電話回線や地域などの条件によって通信できないことがあります。このようなときには、お買い上げの販売店または担当サービスにご連絡ください。

■ 本体固定用のストッパーについて

一度設置したあとは、本体固定用のストッパーは外さないでください。

カセットやペーパーデッキ、本体ユニットをすべて引き出した状態で、機械前部に荷重をかけると、機械が前方に倒れる恐れがあり大変危険です。ストッパーは必ず固定しておいてください。

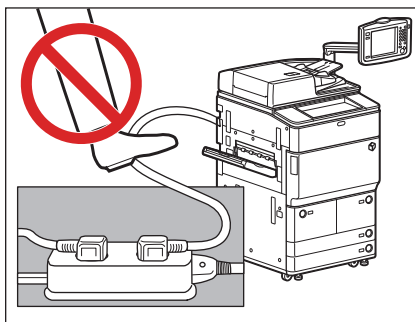
電源は安全な場所から

■ **本体の動作仕様は100 V（90 V～110 V）最大15 Aです。製品の電源プラグは必ず適合した規格のコンセントに接続してください。**

■ **製品への電源供給が安全であること、安定電圧であることを確認してください。**

■ **同じコンセントには、ほかの電気製品を接続しないでください。**

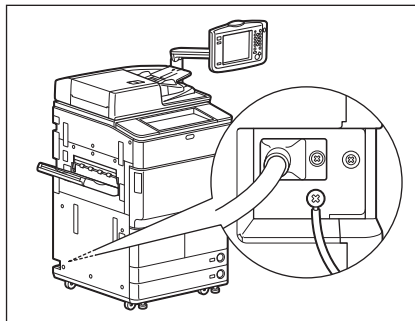
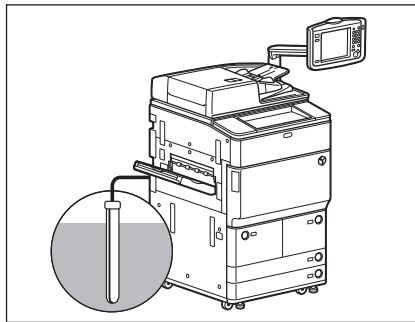
■ **テーブルタップなどによるタコ足配線はしないでください。火災の原因になることがあります。**

■ **電源コードを踏みつけたり、ホチキスなどで固定したり、重いものをのせたりしないでください。コードがいたみ、そのままご使用を続けると、火災や感電などの事故の原因になります。**

■ **電源コードが引っ張られた状態にしないでください。電源プラグが緩んで接続が不完全になると発熱し、火災の原因になることがあります。**

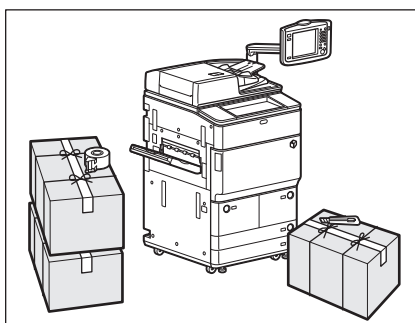
■ **電源コネクタが接続される製品の差込口にストレスが強くかかると、製品の内部で断線や接触不良が発生し、故障の原因になります。また、火災の原因になる場合もあります。**

■ **以下のような取り扱いは避けてください。**
・電源コネクタを頻繁に抜き差しする
・電源コードに足を引っ掛ける
・電源コードが電源コネクタ付近で曲げられ、製品の差込口に継続的なストレスがかかっている
・電源コネクタに強い衝撃を加える

アース線の接続を忘れずに

■ **感電防止のため必ずアース線を接続してください。**

- 接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から抜いて行ってください。
- アース線を接続してよいもの
  - 電源コンセントのアース端子
  - 接地工事（第D種）が行われているアース端子
- アース線を接続してはいけないもの
  - ガス管（引火や爆発の危険があります。）
  - 水道管（配管途中がプラスチックになっている場合があり、その場合はアースの役目を果たしません。ただし水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。）
  - 電話線のアースや避雷針（落雷のときに大量の電流が流れ危険です。）

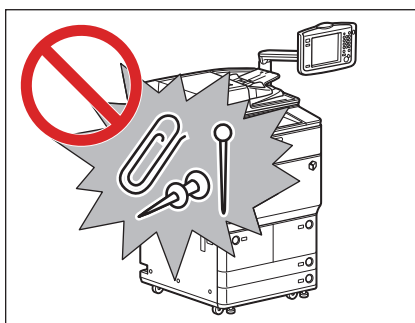
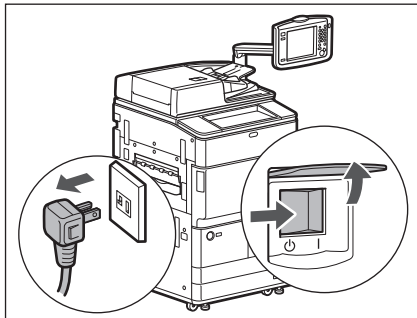
移動の際はご連絡を

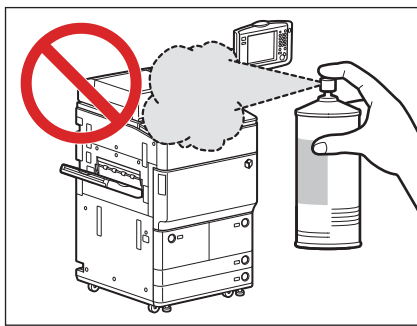
■ **製品の移動は、お客様ご自身で行わず、必ず担当サービスにご連絡ください。**

取扱上のご注意

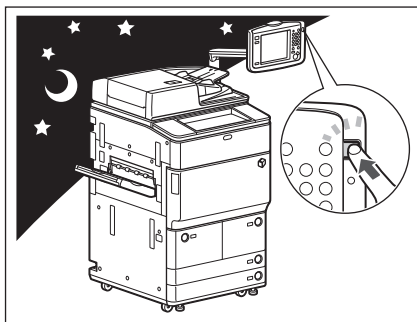
お使いになる前に必ずお読みください。

■ **製品を分解したり、改造したりしないでください。**

■ **製品の内部には高温、高圧になる部分があります。内部点検の際は十分に注意してください。また、この取扱説明書に記載されていないことは行わないでください。**

■ **製品の内部にクリップなどの異物を落とさないでください。また水などの液体をこぼさないでください。これらが電圧部分に接触すると、短絡や漏電などが起き、火災や感電の原因になる恐れがあります。**

■ 異常な音がしたり煙が出たりした場合は、直ちに主電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜き、担当サービスにご連絡ください。また、いつでも電源プラグが引き抜けるよう、電源プラグの周りには物を置かないようにしてください。

■ 動作中に主電源スイッチを切ったり、前カバーを開けたりしないでください。紙づまりの原因になります。

■ 製品の近くでは可燃性のスプレーなどは使用しないでください。火災の原因になります。

■ 使用中の製品からは、オゾンなどが発生しますが、その量は人体に影響を及ぼさない程度です。ただし、換気の悪い部屋で長時間使用する場合や、大量にプリントする場合には、快適な作業環境を保つため、部屋の換気をするようにしてください。

■ 夜間など長時間製品をご使用にならない場合は、操作部電源スイッチを切ってください。

■ モジュラーケーブルには、3 m以内の長さのものを使用してください。

■ USBケーブルには、3 m以内の長さのものを使用してください。

■ 排紙直後の用紙は高温になっている場合があります。用紙を取り出す際、取り出した用紙を揃える際に低温やけどの原因になることがあります。

データのバックアップ／エクスポートについて

本製品は、さまざまなデータ（受信・記録保存したデータや、アドレス帳、設定／登録の設定内容など）を内蔵のハードディスクに保存しています。

万一、ハードディスクに不具合が発生した場合、これらが消失することがあります。大切なデータは定期的にバックアップ／エクスポートを行ってください。

お客様のデータの消失による損害につきましては、弊社は一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

バックアップ／エクスポートできるデータは、以下のとおりです。

メモ
- HDDミラーリングキットを使用することで、本体に装着された2台のハードディスクに同じデータを書き込み、同期させることもできます。その場合でも、双方のハードディスクに不具合が発生するとデータが消失してしまうので、バックアップ／エクスポートを行うことをおすすめします。
- パスワード・暗証番号も同時にバックアップされますが、パスワードの種類によっては、バックアップができないものもあります。

■ アドバンスドボックス／ボックスの文書データ、イメージ合成のフォーム

各データのバックアップについては、e- マニュアル >リモートUIを参照してください。

■ アドレス帳、デバイス設定、設定／登録の設定内容、ウェブブラウザーのお気に入り、プリンター設定、用紙情報

各データのエクスポートについては、e- マニュアル >リモートUIまたはウェブブラウザーを参照してください。

■ カスタムメニューの情報

カスタムメニューの情報のエクスポートについては、e- マニュアル >カスタムメニューを参照してください。

■ アドバンスドボックスのユーザー情報

アドバンスドボックスのユーザー情報のエクスポートについては、e- マニュアル > セキュリティーを参照してください。

■ MEAP関連のデータ

- MEAPアプリケーションのライセンスファイル
  ライセンスファイルのバックアップ（ダウンロード）については、e-マニュアル > MEAPを参照してください。
- MEAPアプリケーションが保存しているデータ
  MEAPアプリケーションによっては、保存しているデータをバックアップできる場合があります。各MEAPアプリケーションの取扱説明書を参照してください。
- SSO-H（Single Sign-On H）のローカルデバイス認証で登録されているユーザーの認証情報
  ユーザーの認証情報のエクスポートについては、e-マニュアル > MEAPを参照してください。

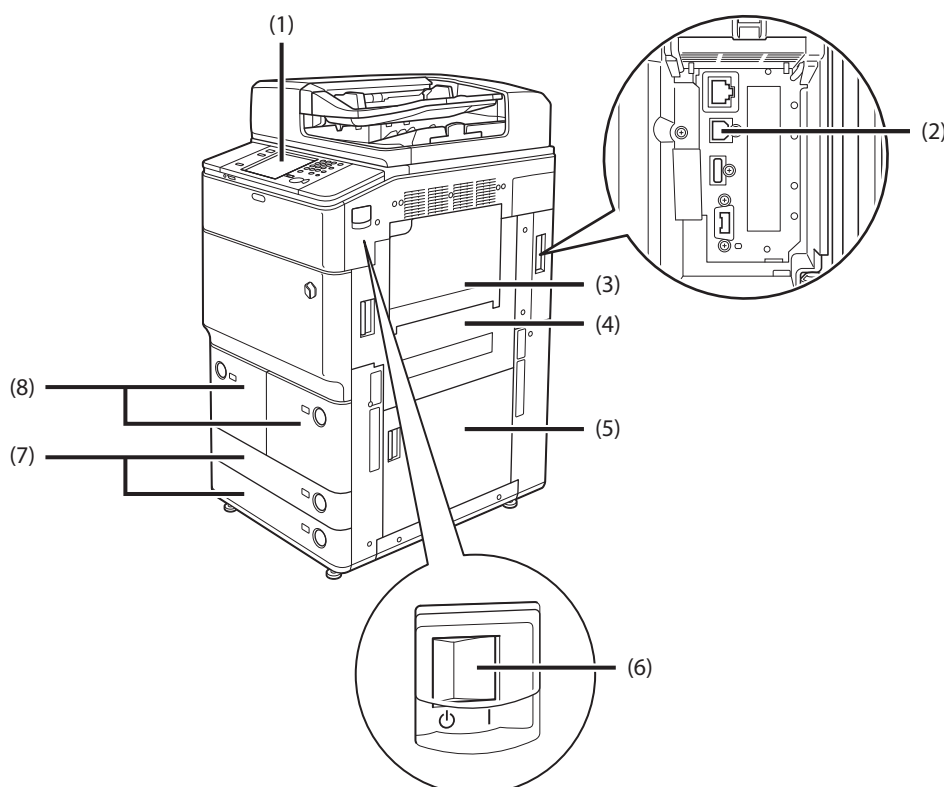
メモ
本製品をネットワークに接続しない状態でお使いの場合は、アドレス帳などの重要な情報をプリントして保管することをおすすめします。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

本体各部の名称とはたらき

本体外観と内部、平面操作パネル、タッチパネルディスプレーについて、各部の名称とはたらきを説明します。

また、オプションを装着した場合の本製品の構成についても紹介します。オプションと、その各部の名称とはたらきの詳細については、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

本体外観

マルチカラーイメージリーダーユニット装着時

1 **平面操作パネル**
本製品を操作するのに必要な、キーやタッチパネルディスプレー、ランプなどがあります。
（→操作パネル各部の名称とはたらき：P.1-13）

2 **USB 差込口**
外付けハードディスクなどを装着するときに使用します。

3 **手差しトレイ**
手差しで用紙がセットできます。郵便はがきはここにセットします。（→ e- マニュアル > 基本的な使いかた）

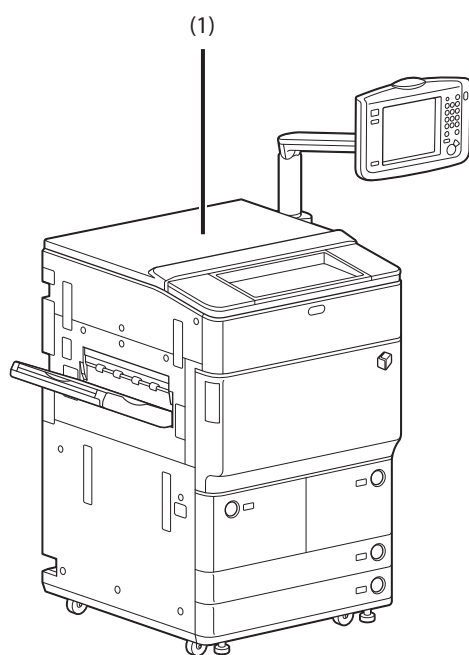
4 **本体右上カバー**
紙づまりを処理するときに、このカバーを開けます。（→ e- マニュアル > トラブルシューティング）

5 **本体右下カバー**
紙づまりを処理するときに、このカバーを開けます。（→ e- マニュアル > トラブルシューティング）

6 **主電源スイッチ**
「I」側に倒すと主電源が入ります。（→主電源と操作部電源について：P.1-14）

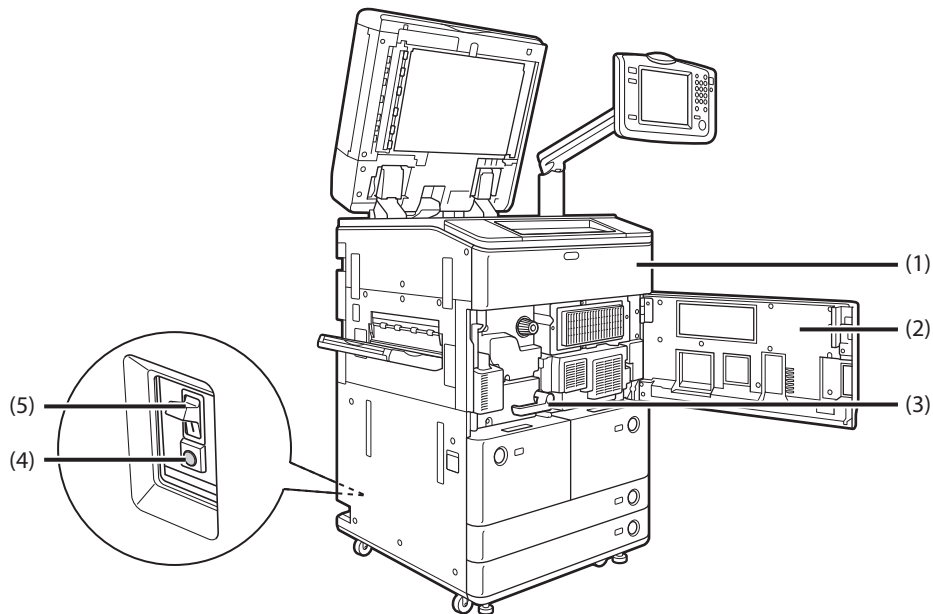
7 **カセット**
680 枚（64 g/m^2）または 550 枚（80 g/m^2）の用紙をセットできます。

8 **ペーパーデッキ**
1700 枚（64 g/m^2）または 1500 枚（80 g/m^2）の用紙をセットできます。）

コピートレイ + 立面操作部装着時

1 **プリンタカバー**
フィーダーの代わりに、プリンタカバーを装着できます。

メモ　本製品に装着するオプションの詳細については、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

本体内部

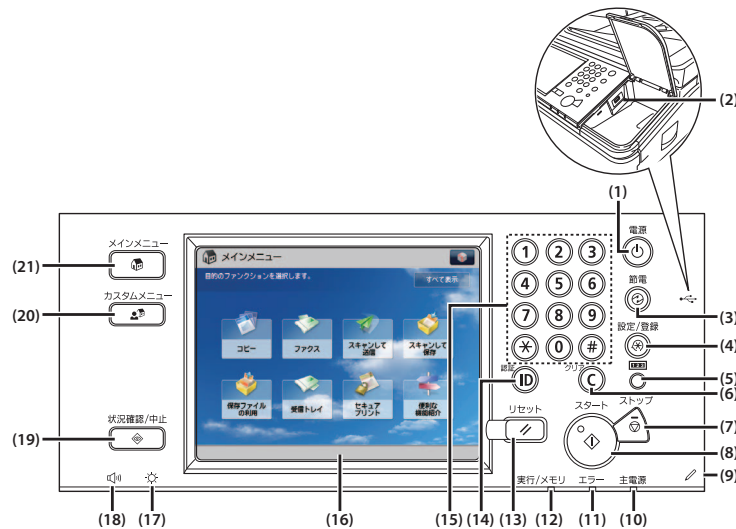
コピートレイ + マルチカラーイメージリーダーユニット + 立面操作部装着時

1 **トナー交換カバー**
トナーを交換するときに開けます。

2 **前カバー**
本体内部の紙づまりを処理するときに、このカバーを開けます。（→ e- マニュアル > トラブルシューティング）

3 **定着搬送ユニット**
本体内部の紙づまりを処理するときに､引き出します。（→ e-マニュアル > トラブルシューティング）

4 **テストボタン**
ブレーカーの定期点検をするときに押します。

5 **ブレーカー**
ブレーカーの定期点検をするときに操作します。漏電防止用ブレーカーです。（→ブレーカーの定期点検：P.xxxi）

操作パネル各部の名称とはたらき

1 **操作部電源スイッチ（サブ電源）**
本製品をスリープ状態にしたり、スリープ状態を解除したりするときに押します。

2 **USB 差込口**
USB メモリーなどの差込口です。

3 **節電キー**
節電モードにするときに押します。消費電力を節約できます。

4 **設定／登録キー**
各種の登録や機能の設定をするときに押します。

5 **カウンター確認キー**
タッチパネルディスプレーにコピーやプリントの総枚数を表示するときに押します。

6 **クリアキー**
入力した数字や文字を取り消すときに押します。

7 **ストップキー**
読み込みジョブ、コピージョブ、ファクスジョブ（読み込みのみ）などの進行中の動作を止めるときに押します。

8 **スタートキー**
動作（読み込み）を開始するときに押します。

9 **操作ペン**
文字入力などタッチパネルディスプレーを操作するときに使用します。 操作ペンを紛失した場合は、担当サービスにお問い合わせください。タッチパネルをシャープペンシルやボールペンなど先のとがったもので押さないでください。

10 **主電源ランプ**
本体主電源が入っているときは点灯、切ってあるときは消灯しています。

11 **エラーランプ**
本製品にトラブルが発生したときに点滅または点灯します。点滅の場合はタッチパネルディスプレーに表示されるメッセージに従ってトラブルの対処をしてください。エラーランプが赤色に点灯し続ける場合は担当サービスへ連絡してください。

12 **実行／メモリーランプ**
本製品が動作中は緑色に点滅します。待機中のジョブやメモリー受信文書があるときは緑色に点灯します。

13 **リセットキー**
設定したモードをデフォルト設定に戻すときに押します。

14 **ID（認証）キー**
部門別 ID 管理を設定しているときに押します。

15 **テンキー**
数値を入力するときに押します。

16 **タッチパネルディスプレー**
各機能の設定画面が表示されます。

メインメニューに表示されていないファンクションがあるときは、［すべて表示］を押して呼び出します。

17 **輝度調整ダイヤル**
画面の明るさを調整します。

18 **音量調整キー**
ファクス送信・受信のアラーム音量や通信音量などの調整画面を表示させたいときに押します。

19 **状況確認／中止キー**
ジョブ状況の確認、プリントの中止などを行うときに押します。また、用紙の残量など本製品の状況を確認するときに押します。

20 **カスタムメニューキー**
カスタムメニューとして登録した、よく使用する機能の設定を呼び出すときに押します。

また、認証機能を使用している場合には、ユーザーごとに設定したカスタムメニュー画面を表示させることができます。
（→ e- マニュアル > カスタムメニュー）

21 **メインメニューキー**
ファンクションを切り替える場合など、メインメニュー画面に戻るときに押します。

メモ 立面操作部の各部の名称とはたらきについては、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

主電源と操作部電源について

本製品には主電源スイッチと操作部電源スイッチの 2 つの電源スイッチがあります。また、過電流や漏電を検知するブレーカーが装着されています。

主電源の入れかた

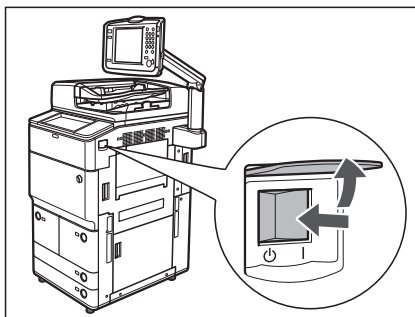
主電源の入れかたについて説明します。

重要　主電源スイッチをいったん切って入れなおす場合、主電源ランプが消灯したあとで、10 秒以上待ってから行ってください。

1 **電源プラグがコンセントに確実に差し込まれているかを確認します。**

警告　濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。

注意　アース線を接続してください。アース線を接続しないで万一漏電した場合は、火災や感電の原因になることがあります。

2 **主電源スイッチを「I」側へ倒して電源を入れます。**

操作パネルの主電源ランプが点灯します。

主電源スイッチを操作するときは、主電源スイッチのカバーを開いてください。

重要　主電源スイッチが入っているのに操作パネルの主電源ランプが点灯しない場合は、ブレーカーが OFF になっていないか必ず確認してください。（→ e- マニュアル > トラブルシューティング）

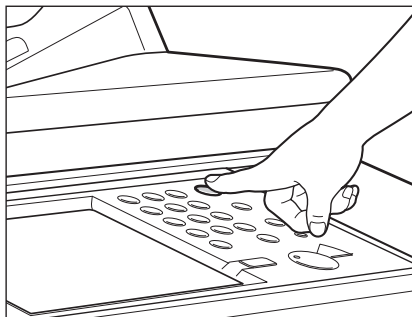
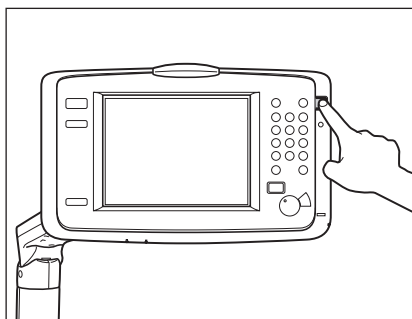
3 **読み込みできる状態になるまでの画面が表示されます。**

ログインサービスを使用する場合は、それぞれの手順に従ってログインしてください。

メモ

- 設定／登録の設定によって、表示させる画面を選択できます。（→ e-マニュアル > 設定/登録）
- 本製品を起動する際に、シャットダウンされたMacintoshがUSBケーブルにより接続されている場合、本製品とともにMacintoshも起動することがあります。この場合は、USBケーブルによる接続を取り外してください。（本製品とMacintoshの間にUSBハブを使用すると、この問題が解決される場合があります。）
- カードリーダーを使用して部門別ID管理をしている場合は、e-マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。
- 部門別ID管理をしている場合は、e-マニュアル > 基本的な使いかたを参照してください。
- SSO-Hを設定している場合は、e-マニュアル > 基本的な使いかたを参照してください。

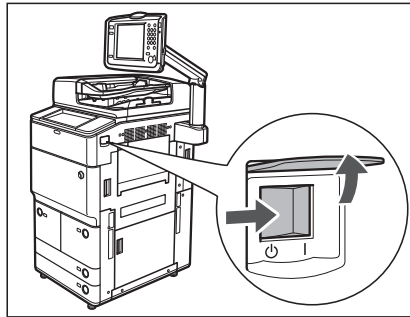
操作部電源スイッチについて

スリープ状態を解除して操作をするときに操作パネル上の操作部電源スイッチを押します。

立面操作部を装着している場合は以下のように操作します。

メモ

- スリープ状態のときでもコンピューターからのデータ受信プリントやIファクス、ファクスの受信は可能です。
- スリープ状態が解除されてから、コピー／プリントができるまでには約30秒かかります。
- ［スリープ時の消費電力］を［少ない］に設定したときは、操作部電源スイッチを押してからタッチパネルディスプレーが表示されるまで、10秒くらいかかる場合があります。

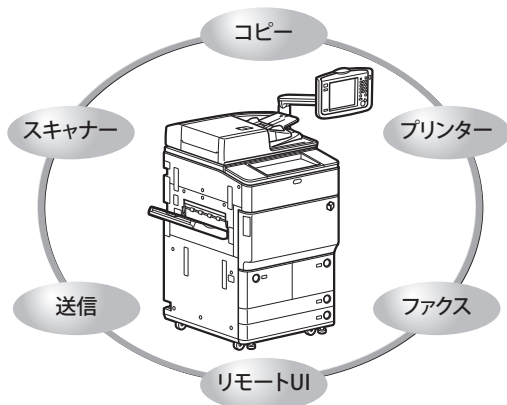
主電源の切りかた

主電源の切りかたについて説明します。本製品の主電源を切る際に実行中のジョブがある場合や、MEAPアプリケーションなどが起動中の場合、ジョブを確認しながらキャンセル処理を行い、ハードディスクへのアクセスを制限します。この処理を行うことによって本製品のハードディスクを保護できます。また、本製品内部の冷却作業を行うハードウェアの終了処理を行います。この処理を行うことによって本製品を安全に終了できます。

1 主電源スイッチを「⏻」側に倒します。

主電源スイッチを操作するときは、主電源スイッチのカバーを開いてください。

重要
- ファクス／Iファクス機能を使用している場合は、主電源スイッチは切らないでください。送受信ができなくなります。
- 終了処理中にしばらく製品が動作し続ける場合があります。本製品の主電源ランプが消灯するまでコンセントを抜かないでください。
- 原稿読み込み時や出力時に主電源スイッチを切ると、紙づまりの原因になることがあります。

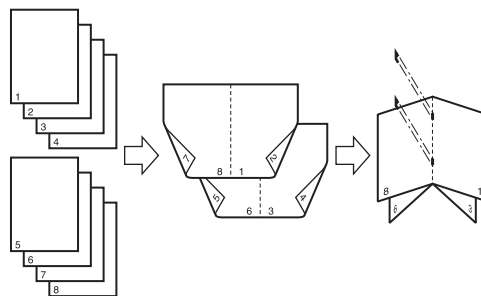
imageRUNNER ADVANCE 6075/6065/6055 のおもな機能

デジタル複合機に求められる多くの要素を実現しています。

imageRUNNER ADVANCE 6075/6065/6055 は、さまざまなドキュメントの入出力環境を効率化する機能を搭載しています。ご使用の環境やお客様のニーズに応じて機能を追加することによって、オフィスにおけるドキュメントワークを最適化できる、新発想のデジタル複合機です。

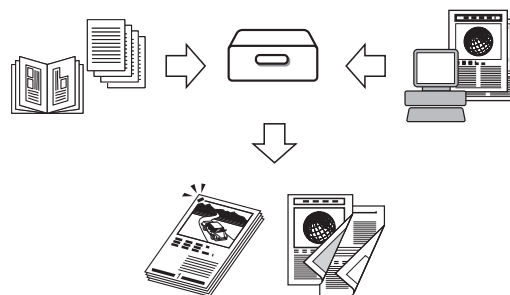
* マークは、オプション装着時に使用できる機能です。各機能に必要なオプション製品については「最初にご確認ください」（→ P.1-21）を参照してください。

コピーする *

→ e- マニュアル > コピー

従来のコピー機能に加え、ミスコピーを防止する「試しコピー」、複数枚の原稿を小冊子になるようにコピーする「製本」、異なるサイズの原稿を一度にセットしてコピーできる「原稿サイズ混載」など、さらに便利な機能で生産性を高めます。

スキャンしたデータを保存する *、保存したデータをプリントする

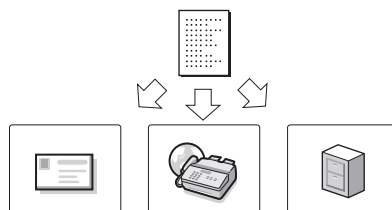
→ e- マニュアル > スキャンして保存、保存ファイルの利用

スキャナー部から取り込んだ紙文書データやコンピューターで作成したデータを保存できます。保存されたデータは、必要なときにプリントしたり、別べつに保管されているデータやコンピューターで作成したデータとまとめてプリントすることもできます。

また、アドバンスドボックスの機能を使用すると、読み込んだ原稿にコンピューターでも利用可能なファイル形式（PDF、JPEG、TIFF）を設定できます。

アドバンスドボックスは、SMB サーバーまたは WebDAV サーバーとして外部公開できます。コンピューターからアドバンスドボックスを参照し、アドバンスドボックス内のファイルをコンピューターへ保存したり、コンピューター内のファイルをアドバンスドボックスへ保存したりできます。

送信機能を活用する *

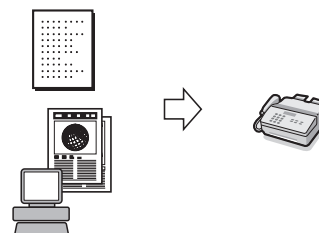
→ e- マニュアル > スキャンして送信

スキャナー部で取り込んだ紙文書データを E メールや I ファクスで送ったり、ファイルサーバーに保存したりできます。ファイル形式（PDF、JPEG、TIFF、XPS）が指定できるので、受け取り側の環境にあわせて自由に設定できます。

ファクスする *

→ e- マニュアル > 本体でのファクス送受信、受信トレイ

ファクス本来の機能の他、スーパー G3 にも対応しているので遠距離通信に威力を発揮し、従来のファクスに比べ、大幅な通信コストの削減も実現します。スキャナー部から読み込んだ原稿だけでなく、スキャンして保存したファイルやコンピューターのデータをファクスで送信できます。

複数の宛先への送信や、受信したファクスの転送も自在です。

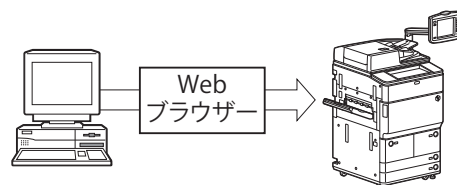
また、リモートファクス送信機能を使用することで、同一ネットワーク内でファクス機能を共有できます。

プリントする

→ e- マニュアル > プリント

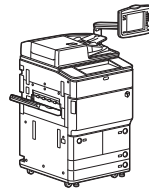
プリントアウト時に両面印刷やページぞろえをしての出力など、いろいろなアウトプットが可能です。ダイレクトプリント拡張キット（PDF/XPS 用）を有効にした場合は、XPS、PDF のダイレクトプリントが可能となります。

リモート UI を活用する

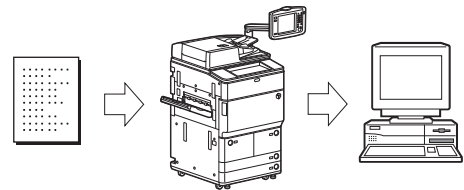
→ e- マニュアル > リモート UI

本製品の状態やジョブの操作、スキャンして保存したファイルのプリント指示などを、コンピューターの Web ブラウザーからコントロールできます。

MEAP を活用する

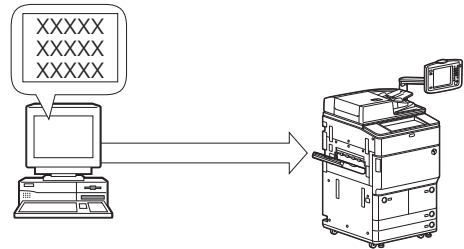
→ e- マニュアル > MEAP

本製品に組み込まれたアプリケーション・プラットフォーム、MEAP（Multifunctional Embedded Application Platform）に対応するアプリケーションをインストールすることにより、本製品に新たな機能を追加できます。

コンピューターに画像を取り込む *

→ e- マニュアル > リモートスキャナー

コンピューターに画像を取り込むことができます。本製品の原稿台を、最大 A3 サイズ 600dpi のスキャナーとして利用できます。

ユーティリティーを活用する

→ e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについて

ユーティリティーソフトウェアを使用すると、ネットワークに接続されている本製品の各種設定をコンピューター上で行うことができます。設定や本製品の状態の確認、文書管理などができます。

お使いになるために必要な作業

お使いになる機能にあわせて行う、作業および設定の流れを説明しています。

最初にご確認ください

本製品の機能には、オプションや作業／設定が必要なものがあります。

ライセンス登録が必要なオプションを利用する場合には「第 9 章 システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする」を、作業／設定が必要な場合には、本書の冒頭の「目的の機能を使用するための設定の流れ」を参照してください。

メモ　ネットワークに接続するために必要なオプションについての詳細は、「第 2 章 ネットワークに接続する前に」を参照してください。

<table>
<tr><th colspan="2">機能</th><th>必要なオプション</th><th>ライセンス登録</th></tr>
<tr><td colspan="2">コピー</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="3">スキャンして保存</td><td>ボックス</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
<tr><td>アドバンスドボックス／ネットワーク</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
<tr><td>メモリーメディア *2</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="3">保存ファイルの利用</td><td>ボックス</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td>アドバンスドボックス／ネットワーク</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td>メモリーメディア</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スキャンして送信</td><td>E メール／ I ファクス</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
<tr><td>ファイルサーバーへ送信</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ファクス送受信</td><td>本製品から送信</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット／スーパー G3FAX ボード</td><td>不要</td></tr>
<tr><td>本製品で受信</td><td>スーパー G3FAX ボード</td><td>不要</td></tr>
<tr><td>コンピューターから本製品経由で送信</td><td>スーパー G3FAX ボード</td><td>不要</td></tr>
<tr><td>リモートファクスサーバー機経由で送受信</td><td>リモート FAX 送信キット</td><td>要</td></tr>
<tr><td colspan="2">プリント</td><td>なし *1</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">リモート UI</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">MEAP 管理機能（SMS）</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ソフトウェアの登録／更新（配信）</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ソフトウェアの登録／更新（手動）</td><td>なし</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">リモートスキャナー</td><td>マルチカラーイメージリーダーユニット</td><td>–</td></tr>
</table>

*1 LIPS V プリンター機能を使用する場合は LIPS V 拡張キット、PS プリンター機能を使用する場合は PS 拡張キットが必要になります。

*2 工場出荷時は、メモリーメディアの表示が「OFF」に設定されています。メモリーメディアを利用するには、環境設定（設定／登録）の［表示設定］→［保存先の表示設定］でメモリーメディアを「ON」に設定してください。

*3 電話機やハンドセットを接続して電話とファクスを併用する場合はファクス受信モードの設定が必要です。詳しくは e- マニュアル>状況確認／中止を参照してください。

本製品に管理者としてログインする

設定を行う前に、本製品に管理者としてログインする必要があります。

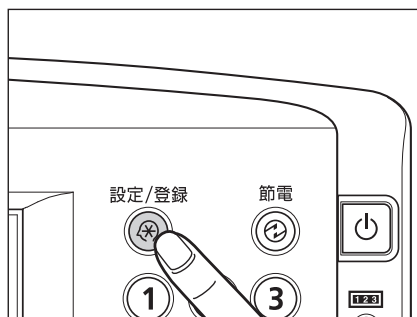
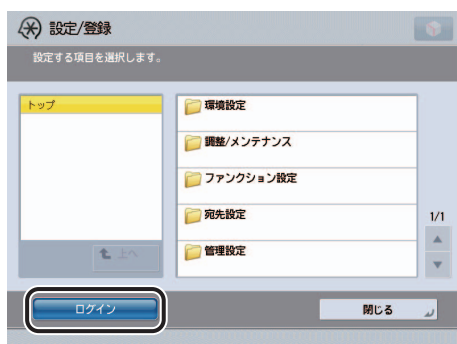
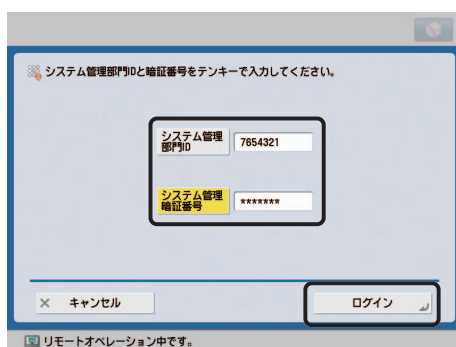
重要 設定／登録画面での操作は、管理者と一般ユーザーで異なります。

- 管理者の場合：
  本製品のシステム全般に関する設定を行える管理者は、システム管理者、またはSSO-H（Single Sign-On H）のシステムアドミニストレーター（Administrator）です。管理者の種類については、e-マニュアル>セキュリティーを参照してください。
  本製品にはデフォルトでシステム管理者情報（システム管理部門ID／システム管理暗証番号）が設定されています。そのため、管理者は、システム管理部門IDとシステム管理暗証番号を入力してログインする必要があります。システム管理部門IDとシステム管理暗証番号の初期値は、それぞれ「7654321」に設定されています。変更してご使用ください。システム管理者情報の設定は、e-マニュアル>セキュリティーを参照してください。管理者権限により操作が可能となる設定／登録の項目については、e-マニュアル>セキュリティー、リモートUIを参照してください。
- 一般ユーザーの場合：
  一般ユーザーは、設定／登録の項目によっては、操作が制限されます。タッチパネルディスプレーでは、操作権限のない項目は、グレーアウトして選択できません。リモートUIでは、操作権限のない項目は、表示されません。

メモ ここでは、工場出荷時の状態を前提にした手順を説明しています。部門別 ID 管理や SSO-H の認証を設定している場合は、それぞれのログインに必要な項目を入力してください。

タッチパネルディスプレーからログインする

操作パネルの（設定／登録）を押したのち、タッチパネルディスプレーから管理者としてログインします。

1 （設定／登録）を押します。

2 ［ログイン］を押します。

3 **システム管理部門 ID とシステム暗証番号を入力したあと、［ログイン］を押します。**

操作終了後は、［ログアウト］または操作パネルの (ID キー）を押して、ログアウトします。

リモート UI からログインする

リモート UI から本製品に接続して、管理者としてログインします。

メモ

- ログインサービスについては、e-マニュアル > MEAP を参照してください。認証機能を設定していない場合は、ログイン画面は表示されません。
- リモートUI に必要なシステム環境や起動するための準備については、「リモートUIを使用するために必要なシステム環境」（→ P.8-2）、「リモートUIを起動する前に（準備）」（→ P.8-3）を参照してください。

1 **Web ブラウザーを起動します。**

2 **アドレス入力欄に以下の URL を入力します。**

http://< 本製品の IP アドレスまたはホスト名 >

3 **システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力したあと、[管理者ログイン] をクリックします。**

操作終了後は [ログアウト] をクリックして、ログアウトします。

ネットワークに接続する前に

対応しているネットワーク環境やお使いのネットワーク環境の確認など、本製品をネットワークに接続する前に知っておいてほしいことを説明しています。

ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境

ネットワークに接続して本製品の機能を使用する場合に必要な、本製品のオプションとシステム環境について説明しています。

重要
- 必要なオプションの詳細については、担当サービスにお問い合わせください。
- Windows 2000をお使いのときは、Service Pack 2以降をインストールしてください。

メモ
オプションの装着または有効化をしないで本製品を使用する場合でも、ネットワークに接続することによって、本製品の各種設定や操作をコンピューター上で行えます。このような設定や操作には、リモート UI やユーティリティーソフトウェアを使用します。リモート UI については e- マニュアル > リモート UI、ユーティリティーソフトウェアについては e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

コンピューターから印刷またはファクス送信する

Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008、および Mac OS X 10.4.9 以降をお使いの場合に LIPS で印刷するときには、オプションは必要ありません。その他の場合にコンピューターから印刷またはファクス送信を行うには、次のオプションが必要です。

重要
- Mac OS 9、またはMac OS X Classic環境をお使いの場合に印刷するときには、AppleTalkネットワークを介してMac OSに標準添付されているApple社製PSを使用する必要があります。
- Macintosh環境でLIPSプリンタードライバー、またはPSプリンタードライバーをお使いの場合は、AppleTalkネットワークからは印刷できません。

必要なオプション

■ TCP/IP、SMB/CIFS、NetWareネットワークで印刷する場合

- LIPSで印刷するとき
  - LIPS V拡張キット
- PSで印刷するとき
  - PS拡張キット

■ AppleTalkネットワークで印刷する場合

- 以下のオプションを有効にして、Mac OSに標準添付されているApple社製PSプリンタードライバーを使用します。
  - PS拡張キット

■ TCP/IP、SMB/CIFS、NetWareネットワークでファクス送信する場合

- FAXボード

重要
- FAXボードの詳細に関しては、e-マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。
- Macintoshをお使いの場合にファクス送信できるのは、USB接続した場合と、TCP/IPネットワークに接続した場合のみです。Macintosh用のファクスドライバーを使用するときは、「第15章　コンピューターからファクス送信する前に」を参照してください。

システム環境

本製品を使用して、コンピューターから印刷またはファクス送信を行うには、使用するネットワークに応じて以下のシステム環境が必要です。

■ TCP/IPネットワークを使用する場合

- 対応しているOS
  - Windows 2000 Server
  - Windows 2000 Professional
  - Windows XP Professional
  - Windows XP Home Edition
  - Windows Server 2003
  - Windows Server 2008
  - Windows Vista Ultimate
  - Windows Vista Business
  - Windows Vista Home Premium
  - Windows Vista Home Basic
  - Windows Vista Enterprise
  - Windows 7 Ultimate
  - Windows 7 Enterprise
  - Windows 7 Professional
  - Windows 7 Home Premium
  - 日本語Solaris Version 1.1.x（SunOS Version 4.1.x）以降
  - 日本語Solaris Version 2.5.x（SunOS Version 5.5.x）以降
  - Mac OS X 10.4.9以降
- コンピューター／メモリー
  - 上記OSが動作する環境

重要　Mac OS Xをお使いの場合のプリンタードライバーの詳細については、「第14章　コンピューターから印刷する前に」を参照してください。

■ SMB/CIFSネットワークを使用する場合

- 対応しているOS
  - Windows 2000 Server
  - Windows 2000 Professional
  - Windows XP Professional
  - Windows XP Home Edition
  - Windows Server 2003
  - Windows Server 2008
  - Windows Vista Ultimate
  - Windows Vista Business
  - Windows Vista Home Premium
  - Windows Vista Home Basic
  - Windows Vista Enterprise
  - Windows 7 Ultimate
  - Windows 7 Enterprise
  - Windows 7 Professional
  - Windows 7 Home Premium
  - Mac OS X 10.3.9以降
  - Mac OS X 10.4
- 対応しているプロトコル
  - NetBIOS over TCP/IP (NetBT)
- コンピューター／メモリー
  - 上記OSが動作する環境

重要　Mac OS X 10.3.9 以降 /10.4 をお使いの場合に SMB/CIFS ネットワークを使用できるのは、Mac OS に標準添付されている Apple 社製 PS で印刷するときのみです。

■ NetWareネットワークを使用する場合

- 対応しているサーバー
  - Novell NetWare Version 3.2J/4.1/4.11/4.2/5/5.1/6/6.5
- 対応しているクライアント
  - Windows 2000 Server
  - Windows 2000 Professional
  - Windows XP Professional
  - Windows XP Home Edition
  - Windows Server 2003
  - Windows Server 2008
  - Windows Vista Ultimate
  - Windows Vista Business
  - Windows Vista Home Premium
  - Windows Vista Home Basic
  - Windows Vista Enterprise
  - Windows 7 Ultimate
  - Windows 7 Enterprise
  - Windows 7 Professional
  - Windows 7 Home Premium
- コンピューター／メモリー
  - 上記OSが動作する環境

■ AppleTalkネットワークを使用する場合

- 対応しているAppleTalk
  - EtherTalkフェーズ2
- 対応しているOSやコンピューターなどについては、「第14章　コンピューターから印刷する前に」を参照してください。

重要　本製品は、Macintosh の LocalTalk ネットワークには対応していません。

E メール／I ファクスを使用する

必要なオプション

E メール／I ファクス機能を使用するには、オプションは必要ありません。

システム環境

本製品の E メール／I ファクス機能を使用するには、以下のシステム環境が必要です。

- 対応しているメール転送用サーバーソフトウェア
  - Sendmail8.93以降（UNIX）
  - Microsoft Exchange Server (Windows)
    （Microsoft Exchange Server5.5＋Service Pack1以降）
  - Lotus Domino R4.6以降（Windows）
- 対応しているメール受信用サーバーソフトウェア
  - Qpopper2.53以降（UNIX）
  - Microsoft Exchange Server (Windows）
    （Microsoft Exchange Server5.5＋Service Pack1以降）
  - Lotus Domino R4.6以降（Windows）

メモ　本製品から E メールや I ファクスを送信するときは、SMTP を使用してメールサーバーに送信します。本製品が E メールを受信するときは、メールサーバーに送信された E メールや I ファクスを POP3 プロトコルで受信する方法と、本製品の SMTP 受信機能を利用して直接受信する方法があります。後者の方法で受信するときは、メールサーバーが POP3 プロトコルをサポートしている必要はありません。（本製品が受信できる E メールは、I ファクス画像と、通信時にエラーが発生した場合のエラーメールのみです。）

データを送信する

必要なオプション

データ送信機能を使用するには、オプションは必要ありません。

システム環境

本製品からファイルサーバーへデータを送信するには、使用するネットワークに応じて以下のシステム環境が必要です。

■ TCP/IPv4ネットワークを使用する場合（FTPを使用する場合）

- 対応しているサーバー
  - Windows 2000 Server＋インターネットインフォメーションサービス（IIS）5.0
  - Windows XP Professional＋IIS 5.1
  - Windows Server 2003＋IIS 6.0
  - Windows Server 2008＋IIS 7.0
  - Windows Vista Ultimate＋IIS 7.0
  - Windows Vista Business＋IIS 7.0
  - Windows Vista Home Premium＋IIS 7.0
  - Windows Vista Home Basic＋IIS 7.0
  - Windows Vista Enterprise＋IIS 7.0
  - Windows 7 Ultimate＋IIS 7.5
  - Windows 7 Enterprise＋IIS 7.5
  - Windows 7 Professional＋IIS 7.5
  - Windows 7 Home Premium＋IIS 7.5
  - Windows Server 2008 R2＋IIS 7.5
  - 日本語Solaris Version 2.6以降
  - Red Hat Linux 7.2以降
  - Mac OS X
- 対応しているプロトコル
  - TCP/IPv4

■ TCP/IPv6ネットワークを使用する場合（FTPを使用する場合）

- 対応しているサーバー
  - Windows 7 Ultimate＋IIS 7.5
  - Windows 7 Enterprise＋IIS 7.5
  - Windows 7 Professional＋IIS 7.5
  - Windows 7 Home Premium＋IIS 7.5
  - Windows Server 2008 R2＋IIS 7.5
  - 日本語Solaris Version 9以降
  - Red Hat Enterprise Linux AS/ES/WS 4.0 以降
  - Mac OS X 10.3以降
- 対応しているプロトコル
  - TCP/IPv6

■ TCP/IPv4ネットワークを使用する場合（WebDAVを使用する場合）

- 対応しているWebDAVサーバー
  - Windows 2000 Server＋IIS 5.0
  - Windows 2000 Professional＋IIS 5.0
  - Windows XP Professional＋IIS 5.1
  - Windows Server 2003＋IIS 6.0
  - Windows Server 2008＋IIS 7.0
  - Windows Vista Ultimate＋IIS 7.0
  - Windows Vista Business＋IIS 7.0
  - Windows Vista Home Premium＋IIS 7.0
  - Windows Vista Home Basic＋IIS 7.0
  - Windows Vista Enterprise＋IIS 7.0
  - Windows 7 Ultimate＋IIS 7.5
  - Windows 7 Enterprise＋IIS 7.5
  - Windows 7 Professional＋IIS 7.5
  - Windows 7 Home Premium＋IIS 7.5
  - Windows Server 2008 R2＋IIS 7.5
  - Windows 2000 Server＋Apache 2.0 for Win 32
  - Windows XP Professional＋Apache 2.0 for Win 32
  - Windows Server 2003＋Apache 2.0 for Win 32
  - Windows Server 2008＋Apache 2.0以降
  - Windows Vista Ultimate＋Apache 2.0以降
  - Windows Vista Business＋Apache 2.0以降
  - Windows Vista Home Premium＋Apache 2.0以降
  - Windows Vista Home Basic＋Apache 2.0以降
  - Windows Vista Enterprise＋Apache 2.0以降
  - Windows 7 Ultimate＋Apache 2.0以降
  - Windows 7 Enterprise＋Apache 2.0以降
  - Windows 7 Professional＋Apache 2.0以降
  - Windows 7 Home Premium＋Apache 2.0以降
  - Windows Server 2008 R2＋Apache 2.0以降
  - 日本語Solaris Version 2.6以降＋Apache 2.0以降
  - Red Hat Enterprise Linux AS/ES/WS 4.0以降＋Apache 2.0以降
  - Mac OS X
- 対応しているWebDAVサーバーのプロトコル
  - TCP/IPv4

■ TCP/IPv6ネットワークを使用する場合（WebDAVを使用する場合）

●対応しているWebDAVサーバー

- Windows Server 2003＋IIS 6.0
- Windows Server 2008＋IIS 7.0
- Windows Vista Ultimate＋IIS 7.0
- Windows Vista Business＋IIS 7.0
- Windows Vista Home Premium＋IIS 7.0
- Windows Vista Home Basic＋IIS 7.0
- Windows Vista Enterprise＋IIS 7.0
- Windows 7 Ultimate＋IIS 7.5
- Windows 7 Enterprise＋IIS 7.5
- Windows 7 Professional＋IIS 7.5
- Windows 7 Home Premium＋IIS 7.5
- Windows Server 2008 R2＋IIS 7.5
- Windows Server 2008＋Apache 2.0以降
- Windows Vista Ultimate＋Apache 2.0以降
- Windows Vista Business＋Apache 2.0以降
- Windows Vista Home Premium＋Apache 2.0以降
- Windows Vista Home Basic＋Apache 2.0以降
- Windows Vista Enterprise＋Apache 2.0以降
- Windows 7 Ultimate＋Apache 2.0以降
- Windows 7 Enterprise＋Apache 2.0以降
- Windows 7 Professional＋Apache 2.0以降
- Windows 7 Home Premium＋Apache 2.0以降
- Windows Server 2008 R2＋Apache 2.0以降
- 日本語Solaris Version 9以降＋Apache 2.0以降

●対応しているWebDAVサーバーのプロトコル

- TCP/IPv6

重要　プロキシー経由でインターネットに接続する場合は、プロキシーサーバーが IPv6 をサポートしている必要があります 。

■ SMB/CIFSネットワークを使用する場合

●対応しているサーバー

- Windows 2000 Server
- Windows 2000 Professional
- Windows XP Professional
- Windows XP Home Edition
- Windows Server 2003
- Windows Server 2008
- Windows Vista Ultimate
- Windows Vista Business
- Windows Vista Home Premium
- Windows Vista Home Basic
- Windows Vista Enterprise
- Windows 7 Ultimate
- Windows 7 Enterprise
- Windows 7 Professional
- Windows 7 Home Premium
- Windows Server 2008 R2

●対応しているファイル転送用サーバーソフトウェア

- Samba 2.2.8a以降（UNIX/Linux/Mac OS X 10.3/10.4）

●対応しているプロトコル

- NetBIOS over TCP/IP（NetBT）

お使いのネットワーク環境の確認

以下を参考に、本製品を接続するネットワーク環境を確認して、必要な作業を行ってください。

Windows のネットワークの例

Windows のネットワーク環境の場合には、使用するプロトコルは TCP/IP と NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）です。これらのプロトコルは同時に使用できます。また、本製品は、IPv4（Internet Protocol Version 4）に加えて IPv6（Internet Protocol Version 6）にも対応しており、IPv4 ネットワークと IPv6 ネットワークの両方と通信できるデュアルスタック構成となっています。IPv4 機能、および IPv6 機能を使用するかどうかを選択できます。IPv4 機能と IPv6 機能の両方を有効にすることもできます。本製品の IPv4 ネットワークと IPv6 ネットワークは、IPSec（Security Architecture for Internet Protocol）による暗号化もサポートしています。（→ e- マニュアル > ネットワーク）IPSec 機能を使用するために必要なオプションについては、e- マニュアル > オプション／ソフトウェアについてを参照してください。

E メール／ I ファクスの機能を使用する場合は TCP/IP プロトコルが必要です。

「第 3 章 ネットワークの共通設定」の設定を行ってから、使用するプロトコルに合わせて、以下を参照してください。

- 「第4章　TCP/IPネットワークで使用する」
- 「第6章　SMB/CIFSネットワークで使用する」

重要　本製品は NetBEUI には対応していません。

Macintosh のネットワークの例

Mac OS 8/9 では、使用するプロトコルは AppleTalk（EtherTalk）になります。Mac OS X では、AppleTalk（EtherTalk）、TCP/IP、NetBIOS（NetBIOS over TCP/IP）のいずれかを使用できます。E メール／ I ファクス、データ送信の機能を使用する場合は TCP/IP プロトコルが必要です。

「第 3 章 ネットワークの共通設定」の設定を行ってから、使用するプロトコルに合わせて、以下を参照してください。

- 「第4章　TCP/IPネットワークで使用する」
- 「第6章　SMB/CIFSネットワークで使用する」
- 「第7章　AppleTalkネットワークで使用する（Macintosh）」

重要　Mac OS のバージョンやプリンタードライバーの種類によって、使用できるプロトコルが異なります。詳細は、「第 14 章　コンピューターから印刷する前に」を参照してください。

UNIX のネットワークの例

UNIX では、使用するプロトコルは TCP/IP になります。

「第 3 章 ネットワークの共通設定」の設定を行ってから、「第 4 章 TCP/IP ネットワークで使用する」の設定を行ってください。

いろいろなコンピューターが混在しているネットワークの例

いろいろなコンピューターが混在しているときは、使用しているコンピューターに応じて各作業を行います。

例えば、Windows XP と Macintosh を使用している場合は、「Windows のネットワークの例」(→ P.2-9) と「Macintosh のネットワークの例」(→ P.2-9)の両方の設定を行ってください。

E メール／I ファクスの機能を使用する場合は TCP/IP プロトコルが必要です。データ送信の機能を使用する場合は、TCP/IP、NetBIOS プロトコルのいずれかが必要です。

「第 3 章 ネットワークの共通設定」の設定を行ってから、使用するプロトコルに合わせて、以下を参照してください。

- 「第4章　TCP/IPネットワークで使用する」
- 「第6章　SMB/CIFSネットワークで使用する」
- 「第7章　AppleTalkネットワークで使用する（Macintosh）」

ネットワークの共通設定

本製品をネットワーク環境で使用するためのプロトコル共通の設定項目について説明しています。各プロトコルの設定（第 4 章〜第 7 章）を行う前に、必ず本章で説明する項目を設定してください。

ネットワーク環境で使用するために必要な作業

本製品をネットワーク環境で使用するには、最初に以下の作業および設定を行います。

1 **ケーブルの接続**（→ P.3-3）

本製品をネットワークケーブルでネットワークに接続します。

2 **インターフェイスの設定**（→ P.3-6）

本製品とネットワーク上のコンピューターが通信できるように設定します。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- リモートUI

3 **通信環境の設定**（→ P.3-8）

本製品とネットワーク上のコンピューターの通信環境を設定します。

4 **IEEE802.1X 認証の設定**

IEEE802.1X 認証を設定します。

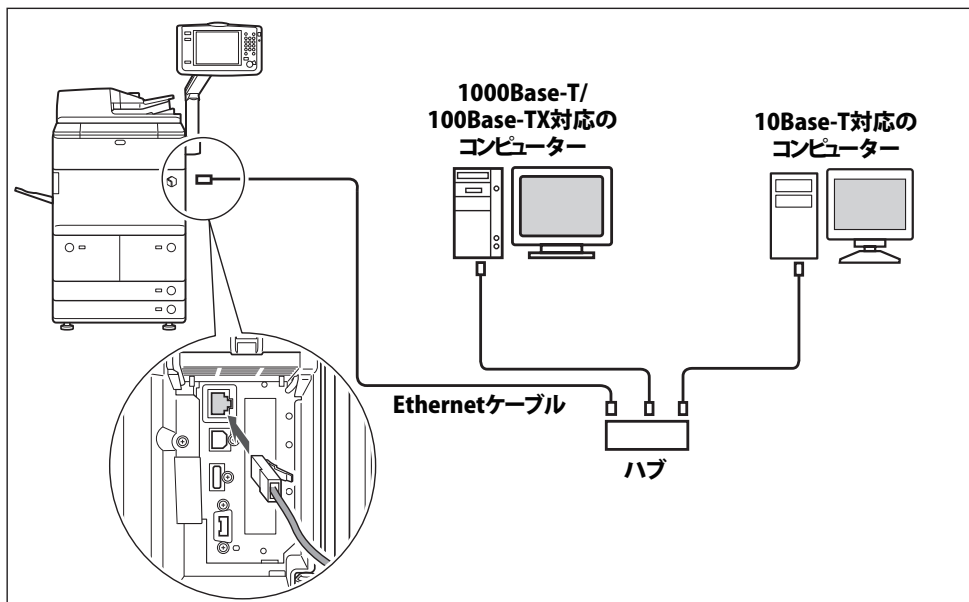
ケーブルの接続

本製品を 1000Base-T、100Base-TX、または 10Base-T の Ethernet に対応したネットワークケーブルで、ネットワークに接続します。また、USB ケーブルで、コンピューターと USB 接続できます。

重要　本製品にネットワークケーブルや USB ケーブルは付属していません。あらかじめご使用のコンピューターやネットワークに合ったケーブル（別売）をご用意ください。

ネットワークに接続する

本製品は、TCP/IP、AppleTalk、NetWare ネットワークに対応しており、Windows、Macintosh、UNIX、Linux などのコンピューターと接続して使用できます。また、本製品は、1000Base-T、100Base-TX、および 10Base-T に対応しているので、多くの LAN へすぐに接続できます。

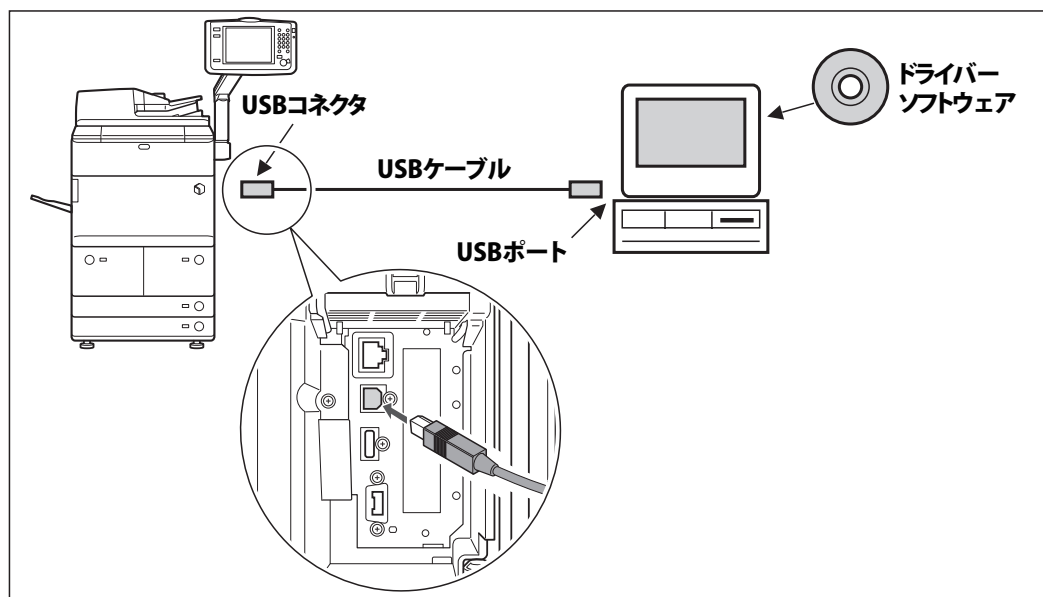
100Base-TX、10Base-T の場合は、カテゴリー 5 対応のツイストペアケーブルで本製品の RJ-45 コネクタとハブのポートを接続します。ケーブルやハブなどは、必要に応じて別途ご用意ください。1000Base-T をお使いの場合には、エンハンスドカテゴリー 5 対応のツイストペアケーブルを使用することをおすすめします。

警告　ネットワークケーブルを接続するときは、必ず本体右側面にある主電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。（→「第 1 章　お使いになる前に」）感電の原因となることがあります。

重要　AppleTalk ネットワーク上に 2 台以上の機器が接続されている場合、それぞれの電源は、10 秒以上間隔をおいて入れてください。

メモ
- 本製品は、Ethernetの種類（1000Base-T、100Base-TX、または10Base-T）を自動認識します。
- 1000Base-T、100Base-TX、10Base-T対応の機器が混在しているときは、スイッチングハブなど、1000Base-T、100Base-TX、10Base-Tのすべてに対応した機器が必要です。詳しくは、お買い求めの販売店、または担当サービスへお問い合わせください。
- ネットワークケーブルを接続したら、以下の作業を行います。設定方法については、各取扱説明書を参照してください。
  - 日付／時刻の設定やユーザー管理設定（→e-マニュアル > 設定/登録、セキュリティー）
  - 各種ネットワークの設定
  - 日付／時刻の設定やユーザー管理設定（→e-マニュアル > 設定/登録、セキュリティー）
  - 各種ネットワークの設定
  - 必要なドライバーのインストール（→「第14章　コンピューターから印刷する前に」、「第15章　コンピューターからファクス送信する前に」）
  - 必要なユーティリティーソフトウェアのインストール（→各ユーティリティーソフトウェアの説明書）
- Macintosh用のファクスドライバーについては、「第15章　コンピューターからファクス送信する前に」を参照してください。

USB で接続する

本製品は、USB ポートを装備したコンピューターと接続できます。

USB ケーブルで、本製品の USB コネクタとコンピューターの USB ポートを接続します。本製品は、USB 2.0 High-Speed に対応しています。コンピューター本体には、使用している OS に合わせて本製品に付属の CD-ROM に収められているドライバーやユーティリティーソフトウェアをインストールします。ドライバーのインストールについては、「第 14 章　コンピューターから印刷する前に」、「第 15 章　コンピューターからファクス送信する前に」を、ユーティリティーソフトウェアのインストールについては各ユーティリティーソフトウェアの説明書を参照してください。

警告
- 本製品の主電源スイッチを入れた状態でUSBケーブルを接続するときは、アース線が接続されていることを確認してください。アース線が接続されていない状態でUSBケーブルを接続すると、感電の原因になります。
- 本製品の主電源スイッチを入れた状態でUSBケーブルを抜き差しするときは、コネクタの金属部分に触れないでください。感電の原因になります。

重要
- 次のようなときは、USBケーブルを抜き差ししないでください。コンピューターや本製品の動作不良の原因になります。
  - ドライバーのインストール中
  - コンピューターの電源を入れたあとのOS起動中
  - プリント中
- コンピューターの電源および本製品の主電源スイッチが入っている状態でUSBケーブルを抜き差しする場合は、抜いたあとに必ず5秒以上の間隔を空けてから差し込んでください。抜いた直後に差し込むと、コンピューターや本製品の動作不良の原因になります。
- 本製品とコンピューターをUSBで接続する場合は、［USBデバイスを使用］（USB設定画面）が［ON］になっていることを確認してください。（→e-マニュアル > セキュリティー）

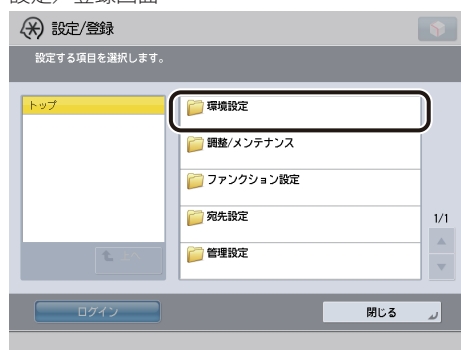
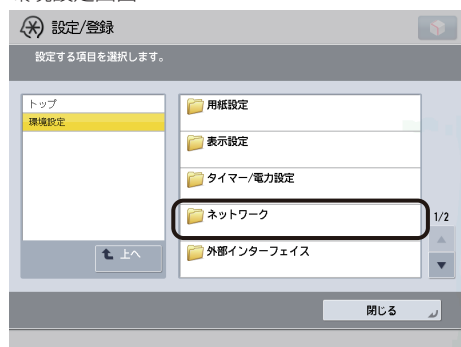
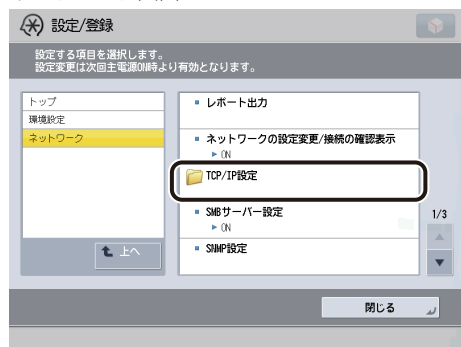
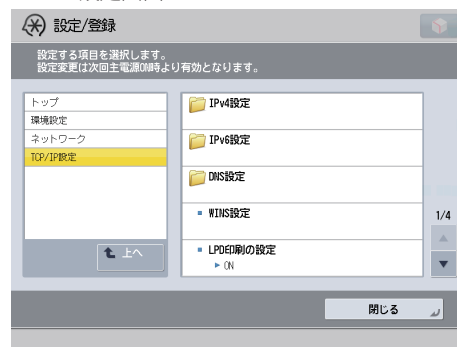
メモ
- 本製品をUSBケーブルでMacintoshと接続している場合は、本製品を起動する際、またはスリープ状態から復帰する際、シャットダウンされたMacintoshも起動することがあります。このようなときには、USBケーブルによる接続を取り外してください。（本製品とMacintoshの間にUSBハブを使用すると、この問題が解決する場合があります。）
- USBインターフェイスは、接続するコンピューターのOSによって、以下のように異なります。詳細については、お買い求めの販売店、または担当サービスへお問い合わせください。
  - Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008：USB 2.0 Hi-Speed/USB Full-Speed（USB 1.1相当）
  - Mac OS 8、9、X（10.3.2以前）、X（Classic）：USB Full-Speed（USB 1.1相当）
  - Mac OS X（10.3.3以降）：USB 2.0 Hi-Speed/USB Full-Speed（USB 1.1相当）
  - Macintosh用のファクスドライバーについては、「第15章　コンピューターからファクス送信する前に」を参照してください。

タッチパネルディスプレーからのネットワーク設定について

本機のネットワーク設定は、操作パネルの（設定／登録）を押したのち、タッチパネルディスプレーから管理者としてログインして行います。（→ P.1-22）

ネットワーク設定は、[環境設定] → [ネットワーク] 内の項目をお使いのネットワーク環境に合わせて設定します。以下は、ネットワーク設定に関する画面遷移です。

第 4 章から第 7 章で各種ネットワークを設定するときに、この遷移図を参照してください。

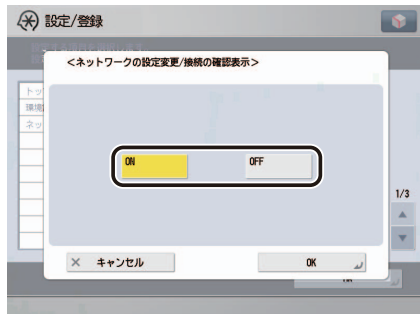
設定／登録画面

環境設定画面

ネットワーク画面

TCP/IP 設定画面

ひとつ上の階層に戻りたい場合は、[上へ] を押します。

重要 操作パネルで設定した内容は、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に有効になります。設定後は、主電源をいったん切り、10 秒以上たってから再度主電源を入れてください。

インターフェイスの設定

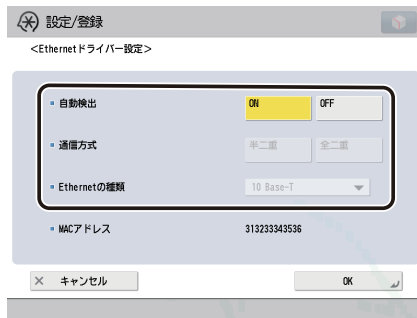
ここでは、本製品の操作パネルを使用してインターフェイスを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、e-マニュアル > 設定 / 登録、リモート UI を参照してください。

1 **ネットワーク画面の［ネットワークの設定変更 / 接続の確認表示］で、以下を設定します。**

［ON］：ネットワーク接続に関係するエラーなどが発生した場合、各種メッセージがタッチパネルディスプレー上に表示されます。本製品をネットワーク環境で使用する場合は［ON］を選択してください。

［OFF］：ネットワーク接続に関するメッセージがタッチパネルディスプレー上に表示されなくなります。本製品をネットワークに接続しないでお使いになる場合には、［OFF］を選択してください。

重要 ネットワークに正常に接続されている状態で［ネットワークの設定変更 / 接続の確認表示］を［ON］から［OFF］に変更しても、ネットワーク接続は切断されません。また、ネットワーク画面のすべての項目の設定内容も変更されません。

2 ネットワーク画面の［Ethernet ドライバー設定］で、以下を設定します。

● Ethernetの通信方式と種類を自動的に判別する

□ ＜自動検出＞：［ON］

［ON］を選択した場合でも、本製品の主電源を入れたまま、ネットワークケーブルを通信速度の異なるハブに接続したり、ネットワークケーブルを接続しなおしたりすると、自動検出できません。主電源をいったん切り、10秒以上たってから再度主電源を入れてください。（ケーブルの接続は、本製品の主電源を切った状態で行ってください。）

重要
- 本製品はEthernetの形式を自動的に判別しますので、通常は［ON］を選択してください。
- <自動検出>が「ON」に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。

● Ethernetの形式の設定を固定するためにEthernetの通信方式と種類を手動で設定する

□ ＜自動検出＞：［OFF］

＜通信方式＞、＜ Ethernet の種類＞で、お使いのネットワーク環境に合った項目を選択してください。

重要
- 1000Base-T接続する場合は、＜通信方式＞で［全二重］を選択してください。
- <Ethernetの種類>が「10 Base-T」または「100 Base-TX」に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。

通信環境の設定

ここでは、本製品とネットワーク上のコンピューターの通信環境を設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、e- マニュアル > 設定 / 登録、リモート UI を参照してください。

重要　［SNMP 設定］は、AppleTalk ネットワークには対応していません。

1 ネットワーク画面の［SNMP 設定］で、SNMPv1 を設定します。

< SNMPv1 を使用>を［ON］：以下の手順で 、MIB アクセス権限とコミュニティー名を設定してください。

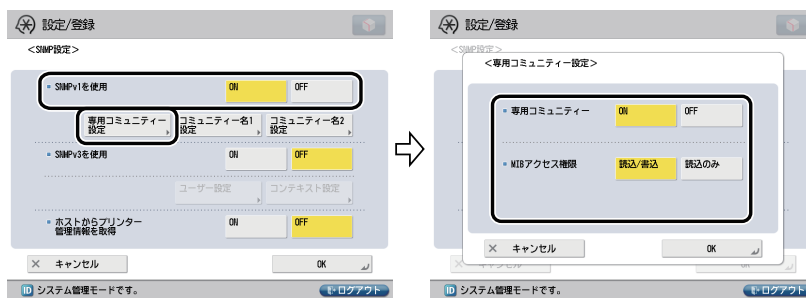
重要

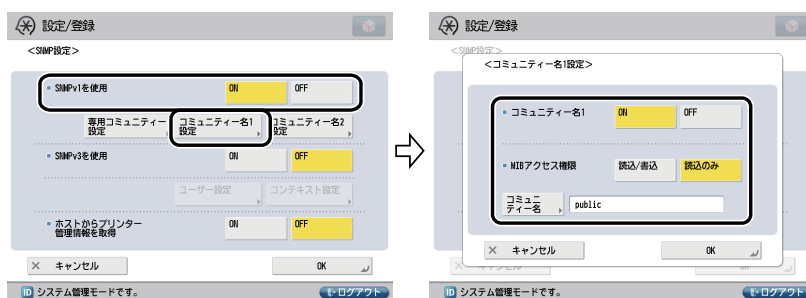
- 本製品は、管理機能としてSNMPv1とSNMPv3をサポートしています。SNMPv1とSNMPv3は、同時に使用できます。SNMPv1のアクセス権限（読み出しのみ可能、読み出し／書き込み可能）の設定、および通信経路の暗号化などのセキュリティー機能を持つSNMPv3の設定によって、より強固なセキュリティー機能を備えたデバイス管理を実現できます。以下の表に、SNMPv1とSNMPv3の組み合わせを記載します。

SNMPv1		SNMPv3	説明
SNMPv1 を使用	MIB アクセス権限	SNMPv3 を使用	
ON	読込 / 書込	ON/OFF	情報の取得に SNMPv1 を使用するユーティリティーソフトウェアから、本製品の各項目の参照と設定が可能です。SNMPv1 で書き込み可能な設定になっているため 、< SNMPv3 を使用>の設定に関わらず、SNMPv3 によるセキュリティーは強化されません。
ON	読込のみ	ON	情報の取得に SNMPv1 を使用するユーティリティーソフトウェアからは、本製品の各項目の参照のみが可能です。アクセス権限のあるユーザーのみが、SNMPv3 を使用するユーティリティーソフトウェアで本製品の各項目を設定できます。
ON	読込のみ	OFF	情報の取得に SNMPv1 を使用するユーティリティーソフトウェアから、本製品の各項目の参照のみが可能です。
OFF	―	ON	アクセス権限のあるユーザーのみが、SNMPv3 を使用するユーティリティーソフトウェアで本製品の各項目の参照と設定を行えます。
OFF	―	OFF	ユーティリティーソフトウェアからは、本製品の各項目の参照と設定は行えません。

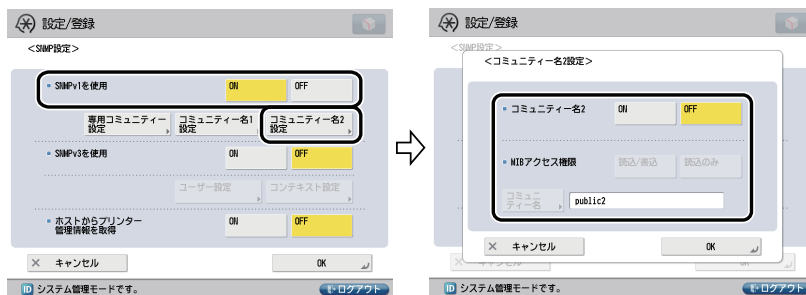
- キヤノン製のドライバーやユーティリティーソフトウェアを使用する場合は、以下の設定を行ってください。
  - <SNMPv1を使用>を「ON」に設定して［専用コミュニティー設定］を選択→<専用コミュニティー>を「ON」に設定→<MIBアクセス権限>の［読込/書込］を選択
  - ［専用ポート設定］を「ON」に設定
- 本製品は、設定値の設定や参照ができるコンピューターのIPアドレスを制限できます。IPアドレスを制限すると、＜SNMPv1を使用＞、＜SNMPv3を使用＞、および［専用ポート設定］が「ON」でも、データの送受信を許可されたIPアドレスを持つコンピューター以外からは設定／参照できなくなります。詳細は、「TCP/IPv4の設定」（→ P.4-3）、および「TCP/IPv6の設定」（→ P.4-9）を参照してください。

● 専用コミュニティーを設定する

□　［専用コミュニティー設定］→［ON］を押したあと、<MIBアクセス権限>を設定します。

● コミュニティー名1を設定する

□　［コミュニティー名1設定］→［ON］を押したあと、<MIBアクセス権限>と［コミュニティー名］を設定します。

［コミュニティー名］は、「public」以外の名称に変更できます。

● コミュニティー名2を設定する

□　［コミュニティー名2設定］→［ON］を押したあと、<MIBアクセス権限>と［コミュニティー名］を設定します。

［コミュニティー名］は、「public2」以外の名称に変更できます。

2 SNMPv3 を設定します。

＜ SNMPv3 を使用＞を［ON］：以下の手順で、ユーザーとコンテキストを設定してください。

メモ

初期設定で以下の設定内容の SNMPv3 ユーザーが登録されています。必要に応じて、削除するか、内容を変更してお使いください。

- ユーザー名：initial
- MIBアクセス権限：読込/書込
- セキュリティー設定：認証あり/暗号化あり
- 認証アルゴリズム：MD5
- 認証パスワード：initial
- 暗号化アルゴリズム：DES
- 暗号化パスワード：initial

● SNMPv3ユーザーを追加する

□ ［ユーザー設定］→［登録］を押したあと、ユーザー名、MIBアクセス権限、セキュリティーを設定します。

セキュリティー設定ドロップダウンリストから［認証あり / 暗号化あり］を選択した場合は、認証アルゴリズムと暗号化アルゴリズムの設定が必要です。認証アルゴリズムを選択したあと、認証パスワードを入力します。次に、暗号化アルゴリズムを選択したあと、暗号化パスワードを入力してください。セキュリティー設定ドロップダウンリストから［認証あり / 暗号化なし］を選択した場合は、認証アルゴリズムを選択したあと、認証パスワードを入力します。

● SNMPv3ユーザーの設定内容を確認／変更する

□ ［ユーザー設定］を押して設定内容を確認／変更したいユーザーを選択したあと、［詳細/編集］を押します。

設定内容を確認したあと、必要に応じて項目の設定を変更してください。

● SNMPv3ユーザーを削除する

□ ［ユーザー設定］を押して設定を削除したいユーザーを選択したあと、［削除］を押します。

● SNMPv3ユーザーの状態を変更する

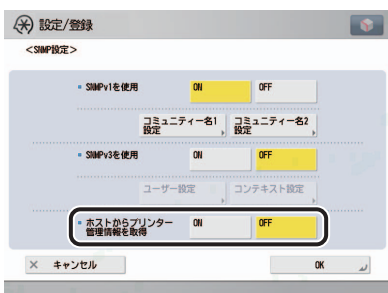
☐ ［ユーザー設定］を押して状態を変更したいユーザーを選択したあと、［ユーザーの有効/無効］を押します。

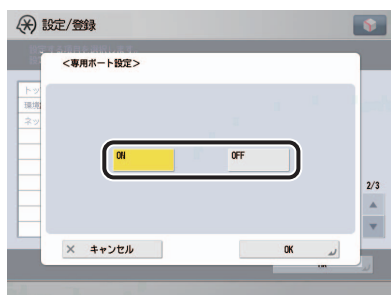
● コンテキストを編集する

☐ ［コンテキスト設定］を押して、コンテキストを編集します。

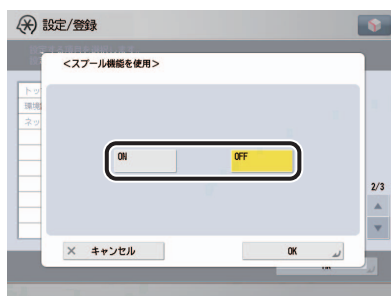
コンテキストを追加する場合は、［登録］を押して、新しいコンテキストを追加してください。コンテキストを変更する場合は、変更するコンテキストを選択したあと［編集］を押してコンテキスト名を変更してください。コンテキストを削除する場合は、削除するコンテキストを選択したあと［削除］を押してください。

メモ　コンテキストの初期設定として NULL コンテキストが登録されています。NULL コンテキストは削除できません。また、NULL コンテキストはコンテキスト設定画面には表示されません。

3 プリンター管理情報のモニタリングを設定します。

＜ホストからプリンター管理情報を取得＞を「ON」：Windows Server 2008/Vista/7 をお使いの場合でポートに［Standard TCP/IP Port］を設定したとき、SNMP によるポートモニタリング機能が自動的に有効になり、プリントアプリケーションやプリンターポートなどのプリンター管理情報を取得できます。

4 ネットワーク画面の［専用ポート設定］で、以下を設定します。

［ON］：キヤノン製のドライバーやユーティリティーソフトウェア（LIPS プリンタードライバーなど）から、本製品の詳細情報の設定や参照が可能です。

重要
- キヤノン製のドライバーやユーティリティーソフトウェアを使用する場合は、以下の設定を行ってください。
  - <SNMPv1を使用>を「ON」に設定して［専用コミュニティー設定］を選択→<専用コミュニティー>を「ON」に設定→<MIBアクセス権限>の［読込/書込］を選択
  - ［専用ポート設定］を「ON」に設定
- 本機をリモートファクスのサーバー機として使用する場合は、［専用ポート設定］を「ON」にしてください。リモートファクスの設定については、「リモートファクス送受信の設定」（→ P.13-8）を参照してください。
- 本製品は、設定値の設定や参照ができるコンピューターのIPアドレスを制限できます。IPアドレスを制限すると、＜SNMPv1を使用＞、＜SNMPv3を使用＞、および［専用ポート設定］が「ON」でも、設定や参照を許可されたIPアドレスのコンピューター以外からは設定／参照できなくなります。詳細は、「TCP/IPv4の設定」（→ P.4-3）、および「TCP/IPv6の設定」（→ P.4-9）を参照してください。

5 ネットワーク画面の［スプール機能を使用］で、以下を設定します。

［ON］：本製品に送信した印刷ジョブを本製品のハードディスクにスプールできます。

重要
PS 拡張キットを有効にした場合、以下に注意してください。
- リモートUIで印刷したいPDF、XPS、またはPSのファイルのURLを指定することによって、そのファイルを印刷できます。この機能を使用するときは、本項目の設定に関わらず、印刷ジョブは常にスプールされます。

メモ
印刷ジョブをハードディスクにスプールすると、印刷ジョブを送信したコンピューターの開放時間が早くなります。

TCP/IP ネットワークで使用する

CHAPTER

本製品を TCP/IP ネットワークで使用するための設定方法について説明しています。

TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業

TCP/IP ネットワークで使用するために必要な作業は、次のとおりです。

1　プロトコルの設定（TCP/IP）（→ P.4-3）

プロトコルの設定を行います。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- リモートUI
- キヤノン製のユーティリティーソフトウェア

2　印刷またはファクス送信を行うコンピューターの設定（→ e- マニュアル > ネットワーク）

印刷またはファクス送信を行う各コンピューターの設定を行います。（お使いのモデルによっては、コンピューターから印刷またはファクス送信を行うには、オプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては、「ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境」（→ P.2-2）を参照してください。）

3　ファイルサーバーの設定（→ファイルサーバーの設定（TCP/IP）：P.4-24）

本製品からのファイルの送信先となるコンピューターの設定を行います。

重要

- 手順1、3の作業は、お使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。
- 本製品またはプリンターオプションには、UNIXで利用できるプリンタードライバーソフトウェアは付属していません。（UNIXをお使いの場合にプリンターを設定するには、LPDを使用してください。）
- ファクスオプションには、UNIXで利用できるファクスドライバーソフトウェアは付属していません。UNIXからはファクス送信できません。
- TCP/IPを利用したネットワーク通信を行うためには、決められたポートを開放する必要があります。本製品は、［ネットワーク］の各設定項目を［ON］にすることで必要なポートが開放されるようになっています。使用しない機能の設定は［OFF］にすることをおすすめします。ポートを開放した状態では、第三者から不正アクセスされる可能性があります。

プロトコルの設定（TCP/IP）

ここでは、本製品の操作パネルを使用してプロトコルを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、e- マニュアル > 設定 / 登録、リモート UI を参照してください。

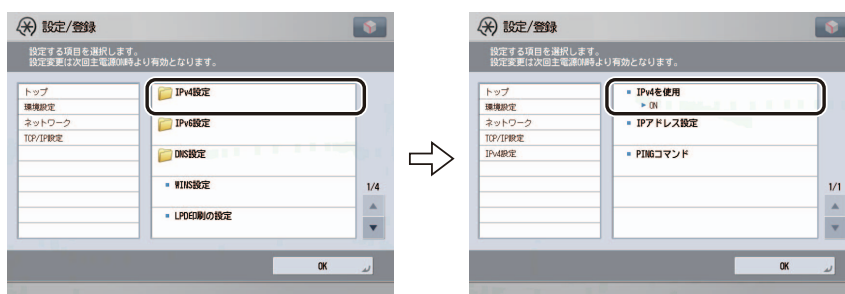
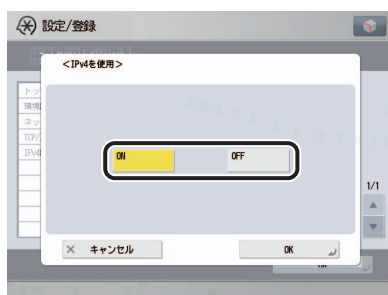
重要　インターネット上の外部サーバーにアクセスする機能をお使いのとき、ファイアウォールの設定などによってはアクセスできないことがあります。このような場合は、お使いのネットワーク環境の管理者にご確認ください。

TCP/IPv4 の設定

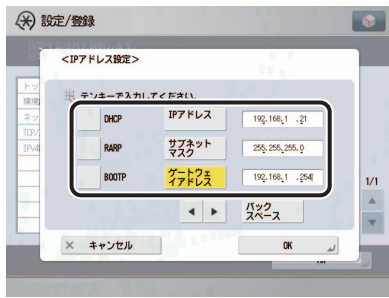
操作パネルによる TCP/IPv4 固有の設定手順は、次のとおりです。TCP/IPv4 固有の設定が終わったら「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）の手順に従い必要な項目を設定して、「TCP/IPv4 の設定の確認」（→ P.4-20）の手順に従ってネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認してください。既に TCP/IPv6 機能を設定済みで、TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定が終わっている場合は、本手順のあと設定の確認のみを行ってください。

IPv6 通信も同時に使用する場合は 、「TCP/IPv6 の設定」（→ P.4-9）の手順に従い必要な項目を設定したあと 、「TCP/IPv6 の設定の確認」（→ P.4-21）の手順に従って設定を確認してください 。

重要　本製品にはプリインストール済みの鍵ペアとサーバー証明書が登録されております。この鍵ペアとサーバー証明書を使用して、SSL 暗号化通信を行うことができます。TCP/IP 設定画面の［SSL 設定］、［IPSec 設定］についての詳細については、e- マニュアル > ネットワークを参照してください。

1　**TCP/IP 設定画面の［IPv4 設定］→［IPv4 を使用］を押します。**

2　**［IPv4 を使用］で、以下を設定します。**

＜ IPv4 を使用＞を「ON」：IPv4 ネットワークを使用できます。

＜ IPv4 を使用＞を「OFF」：IPv4 に関連する設定／登録の内容に関わらず、IPv4 ネットワークは使用できません。ARP（Address Resolution Protocol、アドレス解決プロトコル）テーブルも無効になります。

3 IPv4 設定画面の［IP アドレス設定］で、以下を設定します。

● IPアドレスを固定で使用する

□ ［DHCP］、［RARP］、［BOOTP］：すべて「OFF」

［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］に適切な値を入力してください。

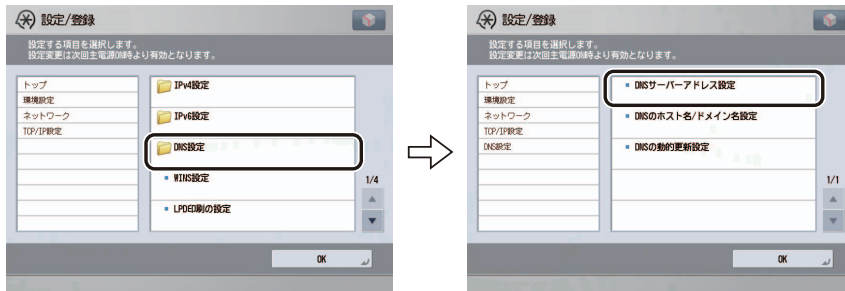
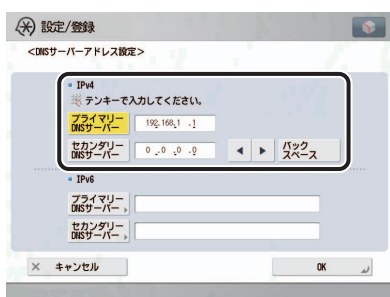
メモ DHCP、RARP、BOOTP を使用可能かどうかのチェックは、2 分程度かかりますので、使用しない場合は設定を OFF にしておくことをおすすめします。

● IPアドレスを自動で取得する

□ ［DHCP］、［RARP］、［BOOTP］：いずれか1つのみ「ON」

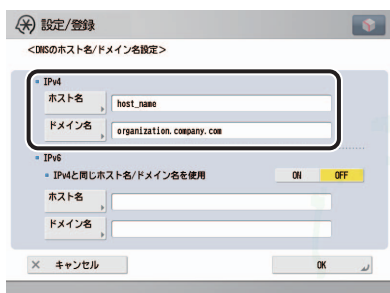
DHCP、RARP、BOOTP で情報を取得できなかった場合、ここで設定した値を使用しますので、［IP アドレス］、［サブネットマスク］、［ゲートウェイアドレス］を入力してください。

メモ
- DHCP、RARP、BOOTPのいずれかを使用する設定を行ってから本製品を再起動すると、操作パネルのTCP/IP設定画面には、これらから取得した値が表示されます。（あらかじめ各IPアドレス、ホスト名、ドメイン名が設定してあった場合は、DHCP、RARP、BOOTPで取得できた項目については上書きされます。）
- DHCPを使用する場合、DNSの動的更新機能を使用しないときには、DHCPサーバーで、常に本製品に同じIPアドレスが割り当てられるように設定しておくことをおすすめします。（IPアドレスが同じでないと、本製品のホスト名とIPアドレスを対応させることができません。）

4 TCP/IP 設定画面の［DNS 設定］→［DNS サーバーアドレス設定］を押します。

5 ［DNS サーバーアドレス設定］の< IPv4 >で、以下を設定します。

DNS の動的更新機能を使用する場合は 、［プライマリー DNS サーバー］に DNS サーバーの IPv4 アドレスを入力します 。

セカンダリー DNS サーバーを設定しないときは、<0.0.0.0> を設定します。

重要 手順 3 で［DHCP］、［BOOTP］のいずれかを「ON」にした場合、手動で設定した DNS サーバーアドレスは上書きされます。

6 DNS 設定画面の［DNS のホスト名 / ドメイン名設定］の< IPv4 >で、以下を設定します。

［ホスト名］には本製品の名称、［ドメイン名］には本製品が属するネットワークドメイン名を入力します。DNS の動的更新機能を使用する場合は 、ホスト名とドメイン名を設定する必要があります。

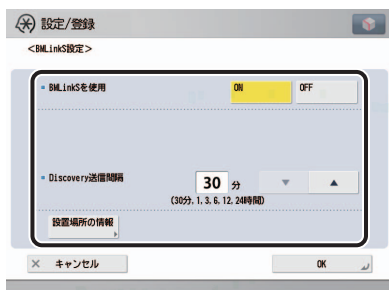
重要 手順 3 で［DHCP］、［BOOTP］のいずれかを「ON」にした場合、手動で設定したホスト名 、ドメイン名は上書きされます。

7 DNS 設定画面の［DNS の動的更新設定］の< IPv4 >で、以下を設定します。

< DNS の動的更新>を「ON」：ダイナミック DNS サーバーがある環境で、デバイスの IPv4 アドレス、ホスト名、ドメイン名に設定した名前を、DNS の動的更新機能によって自動的に DNS サーバーに登録できます 。

メモ

- Windows 2000 ServerをDHCPサーバーにしてDHCPサービスを利用している場合に本製品のDNSレコードを登録したいときには、以下の設定をDHCPサーバー上で行ってください。
  - DHCPサーバーの［スコープ］アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［DNS］ページで、［DNSのDHCPクライアント情報を自動的に更新する］にチェックマークを付けて、［DHCPクライアントから要求があったときのみDNSを更新する］を選択します。
- Windows Server 2003をDHCPサーバーにしてDHCPサービスを利用している場合に本製品のDNSレコードを登録したいときには、以下の設定をDHCPサーバー上で行ってください。
  - DHCPサーバーの［スコープ］アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［DNS］ページで、［以下の設定に基づいて、DNS動的更新を有効にする］にチェックマークを付けて、［DHCPクライアントから要求があったときのみDNSのAおよびPTRレコードを動的に更新する］を選択します。
  - Active Directory環境ではさらに、DHCPサーバーのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［詳細設定］ページで［資格情報］をクリックします。［DNS動的更新資格情報］ダイアログボックスで、Active Directoryのユーザー名、ドメイン、パスワードを入力します。
- Windows Server 2008をDHCPv4サーバーにしてDHCPv4サービスを利用している場合に本製品のDNSレコードを登録したいときには、以下の設定をDHCPv4サーバー上で行ってください。
  - DHCPv4サーバーの［スコープ］アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［DNS］ページで、［以下の設定に基づいて、DNS動的更新を有効にする］にチェックマークを付けて、［DHCPクライアントから要求があったときのみDNSのAおよびPTRレコードを動的に更新する］を選択します。
  - Active Directory環境ではさらに、DHCPv4サーバーのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［詳細設定］ページで［資格情報］をクリックします。［DNS動的更新資格情報］ダイアログボックスで、Active Directoryのユーザー名、ドメイン、パスワードを入力します。

8 **TCP/IP 設定画面の［BMLinkS 設定］で、以下を設定します。**

＜ BMLinkS を使用＞を「ON」にすると、［HTTP を使用］の設定は、自動的に「ON」になります。ただし、＜ BMLinkS を使用＞を「OFF」にしても、［HTTP を使用］の設定内容は変更されません。

＜ Discovery 送信間隔＞で本製品の機器情報をネットワークに送信する間隔を選択します。

［設置場所の情報］を押して、BMLinkS に対応した機器をネットワーク上で検索するときのキーワードになる以下の項目を入力します。すべての項目を入力する必要はありません。

［国 / 地域名］：　本製品が設置されている国／地域を選択します。
［会社 / 組織名］：　本製品が設置されている会社や組織を入力します。
［部門名］：　本製品が設置されている部門を入力します。
［ビル名］：　本製品が設置されている建物の名前を入力します。
［階数］：　本製品が設置されている階を入力します。
［ブロック名］：　本製品が設置されているブロック（フロア内の位置）を入力します。

重要

- IPv6には対応していません。
- ＜BMLinkSを使用＞が「ON」に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。

メモ

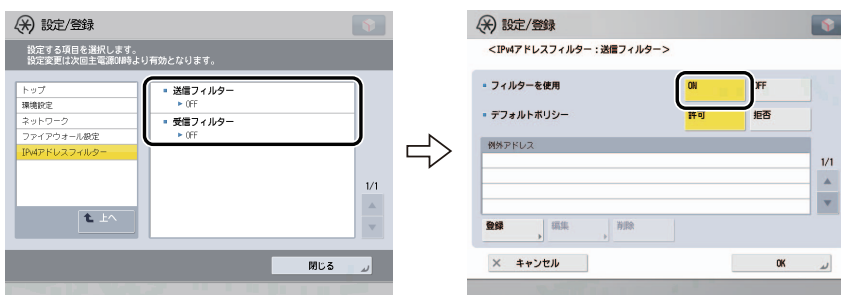
BMLinkS のプリントサービスを使用して印刷するには、印刷を行うコンピューターの設定が必要です。詳しくは、e- マニュアル > プリントを参照してください。

9 ネットワーク画面の［ファイアウォール設定］→［IPv4 アドレスフィルター］で、以下を設定します。

本項目を設定すると、IPv4 アドレスを使って受信パケットと送信パケットのフィルタリングを行い、本製品とコンピューター間でデータを送受信する際のセキュリティーを向上できます。［IPv4 アドレスフィルター］を使用環境に合わせて設定することによって、第三者から不正アクセスされるリスクを低減できます。

指定した IPv4 アドレスを持つコンピューターと本製品間でのデータ送受信を拒否する場合は、送信フィルターまたは受信フィルターのデフォルトポリシーを許可に設定して IPv4 アドレス（拒否 IPv4 アドレス）を指定します。この結果、指定した IPv4 アドレスを持つコンピューターと本製品間でデータを送受信できなくなります。さらに、そのコンピューター上ではリモート UI が使用できなくなり、ユーティリティーソフトウェアで本製品の情報を表示／設定できなくなります。指定した IPv4 アドレスを持つコンピューターのみとデータを送受信する場合は、送信フィルターまたは受信フィルターのデフォルトポリシーを拒否に設定して IPv4 アドレス（許可 IPv4 アドレス）を指定します。この結果、本製品がデータを送受信できるのは、指定した IPv4 アドレスを持つコンピューターのみになります。リモート UI を使用したり、ユーティリティーソフトウェアで本製品の情報を表示／設定できるのも指定した IPv4 アドレスを持つコンピューターのみになります。

● **指定したIPv4アドレスを持つコンピューターとのデータ送受信を拒否する：**

□ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「ON」にします。

□ <デフォルトポリシー>を「許可」にします。

□ ［登録］を押して、データの送受信を拒否するIPv4アドレスを単独設定／範囲設定します。またはIPv4アドレスのプレフィックスとプレフィックス長を指定します。

メモ　本手順で設定した IPv4 アドレスを持つ機器と本製品間でデータを送受信しようとした場合は、ブロック履歴が残ります。ブロック履歴を参照する手順は、e- マニュアル > ネットワークを参照してください。

● **指定したIPv4アドレスを持つコンピューターのみとデータを送受信する：**

□ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「ON」にします。

□ <デフォルトポリシー>を「拒否」にします。

□ ［登録］を押して、データの送受信を許可するIPv4アドレスを単独設定／範囲設定します。またはIPv4アドレスのプレフィックスとプレフィックス長を指定します。

● **データの送受信を制限しない：**

□ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「OFF」にします。

重要

- IPv4アドレス、IPv4アドレス範囲、またはIPv4アドレスのプレフィックスは、それぞれ合計16個（16組）まで設定できます。
- 範囲を指定する場合、［開始アドレス］≦［終了アドレス］となるように入力してください。
- 使用しない設定になっているプロトコルやプリントアプリケーションは、［ファイアウォール設定］の設定内容を変更するだけでは使用できません。各プロトコルや各プリントアプリケーションをそれぞれ使用できるように設定する必要があります。
- ［プレフィックス長］に「255」を入力した場合は、IPv4アドレスは設定されません。
- ［プレフィックス長］に「0」を入力した場合は、すべてのIPv4アドレスが設定されます。

TCP/IPv6 の設定

ここでは、本製品の操作パネルで TCP/IPv6 固有の設定を行う方法について説明しています。

TCP/IPv6 固有の設定が終わったら「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）の手順に従い必要な項目を設定して、「TCP/IPv6 の設定の確認」（→ P.4-21）の手順に従ってネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認してください。既に TCP/IPv4 機能を設定済みで、TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定が終わっている場合は、本手順のあと設定の確認のみを行ってください。

IPv4 通信も同時に使用する場合は 、「TCP/IPv4 の設定」（→ P.4-3）の手順に従い必要な項目を設定したあと 、「TCP/IPv4 の設定の確認」（→ P.4-20）の手順に従って設定を確認してください 。

本製品では、以下の IPv6 アドレスを最大で 7 個まで登録できます 。IPv6 通信では 、複数の IPv6 アドレスを同時に使用できます 。

重要　本製品に割り当てられた IPv6 アドレスが他のノードと同一である場合は、画面に IPv6 アドレスが表示されていたとしても実際には IPv6 通信を利用できないことがあります。

■ リンクローカルアドレス（1個）

同一リンク内でのみ有効なアドレスです。リンクローカルアドレスは 、特定のプレフィックス（fe80::）と、本製品の MAC アドレスから生成したインターフェイス識別子から自動的に設定されます。本製品では 、IPv6 機能を使用している場合 、常に 1 個のリンクローカルアドレスが登録されています 。

■ 手動アドレス（0～1個）

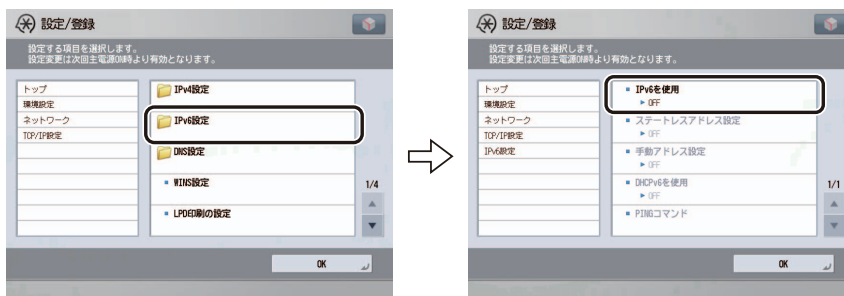
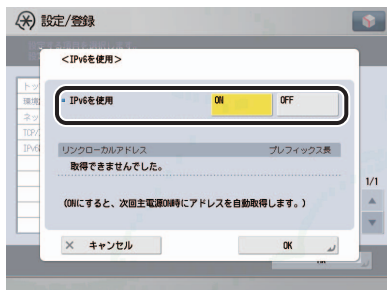
操作パネルからの入力によって設定する、固定のアドレスです。

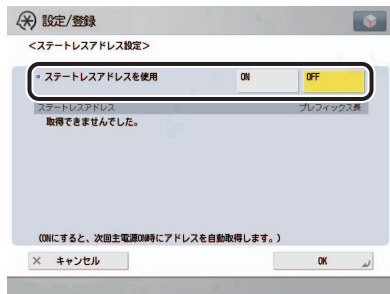
■ ステートレスアドレス（0～4個）

ステートレスアドレスは 、本製品の起動時に 、ルーターから通知される RA（Router Advertisement）に含まれるプレフィックス（所属するネットワークを示す情報）と本製品の MAC アドレスを使用して自動的に設定されます。

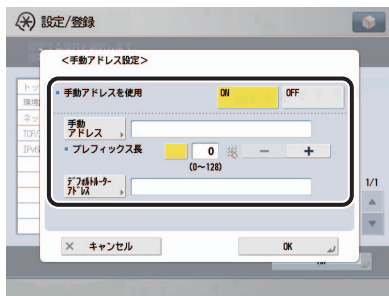
■ ステートフルアドレス（0～1個）

ステートフルアドレスは 、DHCPv6 を使用して 、DHCP サーバーから取得できます 。

1 **TCP/IP 設定画面の［IPv6 設定］→［IPv6 を使用］を押します。**

2 **［IPv6 を使用］で、以下を設定します。**

＜ IPv6 を使用＞を「ON」：IPv6 ネットワークを使用できます 。リンクローカルアドレスが自動的に設定されます。

3 IPv6 設定画面の［ステートレスアドレス設定］で、以下を設定します。

＜ステートレスアドレスを使用＞を「ON」：本製品の起動時に、ステートレスアドレスが自動的に設定されます。

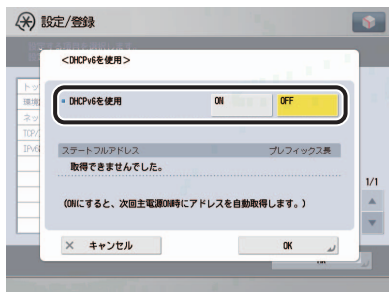
メモ　ステートレスアドレスは、本製品を再起動したとき（主電源を入れたとき）に破棄されます。

4 IPv6 設定画面の［手動アドレス設定］で、以下を設定します。

＜手動アドレスを使用＞を「ON」：IPv6 アドレスを手動で設定できます。

［手動アドレス］に IPv6 アドレスの値、［プレフィックス長］に IPv6 アドレスのプレフィックス長を入力します。

［デフォルトルーターアドレス］にデフォルトルーターアドレスの値を入力します。デフォルトルーターアドレスを指定しない場合は、［デフォルトルーターアドレス］を空欄にしてください。

重要
- ［手動アドレス］を空欄にすると、手動アドレスを使用できません。また、［手動アドレス］に、以下のアドレスを設定することもできません。
  - マルチキャストアドレス
  - すべて0で構成されるアドレス
  - IPv4互換アドレス（上位96ビットが0で下位32ビットにIPv4アドレスが入っているIPv6アドレス）
  - IPv4射影アドレス（上位96ビットが0:0:0:0:0:ffff:で下位32ビットにIPv4アドレスが入っているIPv6アドレス）
- ［デフォルトルーターアドレス］に、マルチキャストアドレス、およびすべて0で構成されるアドレスは設定できません。

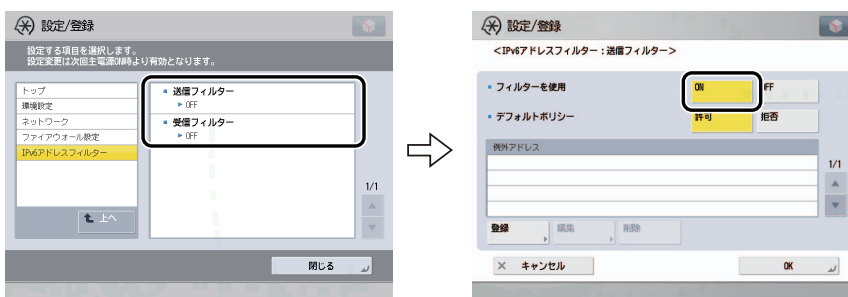
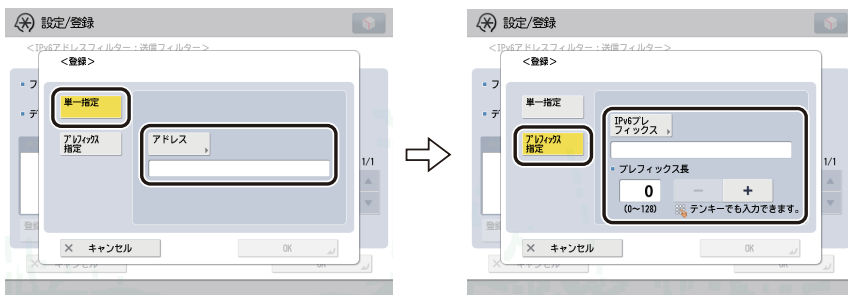
5 IPv6 設定画面の［DHCPv6 を使用］で、以下を設定します。

＜DHCPv6 を使用＞を「ON」：DHCPv6 を使用して、DHCP サーバーからステートフルアドレスを取得できます。

6 ネットワーク画面の［ファイアウォール設定］→［IPv6 アドレスフィルター］で、以下を設定します。

本項目を設定すると、IPv6 アドレスを使って受信パケットと送信パケットのフィルタリングを行い、本製品とコンピューター間でデータを送受信する際のセキュリティーを向上できます。［IPv6 アドレスフィルター］を使用環境に合わせて設定することによって、第三者から不正アクセスされるリスクを低減できます。

指定した IPv6 アドレスを持つコンピューターと本製品間でのデータ送受信を拒否する場合は、送信フィルターまたは受信フィルターのデフォルトポリシーを許可に設定して IPv6 アドレス（拒否 IPv6 アドレス）を指定します。この結果、指定した IPv6 アドレスを持つコンピューターと本製品間でデータを送受信できなくなります。さらに、そのコンピューター上ではリモート UI が使用できなくなり、ユーティリティーソフトウェアで本製品の情報を表示／設定できなくなります。指定した IPv6 アドレスを持つコンピューターのみとデータを送受信する場合は、送信フィルターまたは受信フィルターのデフォルトポリシーを拒否に設定して IPv6 アドレス（許可 IPv6 アドレス）を指定します。この結果、本製品がデータを送受信できるのは、指定した IPv6 アドレスを持つコンピューターのみになります。

● 指定したIPv6アドレスを持つコンピューターとのデータ送受信を拒否する：

- ☐ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「ON」にします。

- ☐ <デフォルトポリシー>を「許可」にします。
- ☐ ［登録］を押して、データの送受信を拒否するIPv6アドレスを単独設定します。またはIPv6アドレスのプレフィックスとプレフィックス長を指定します。

メモ　本手順で設定した IPv6 アドレスを持つ機器と本製品間でデータを送受信しようとした場合は、ブロック履歴が残ります。ブロック履歴を参照する手順は、e- マニュアル > ネットワークを参照してください。

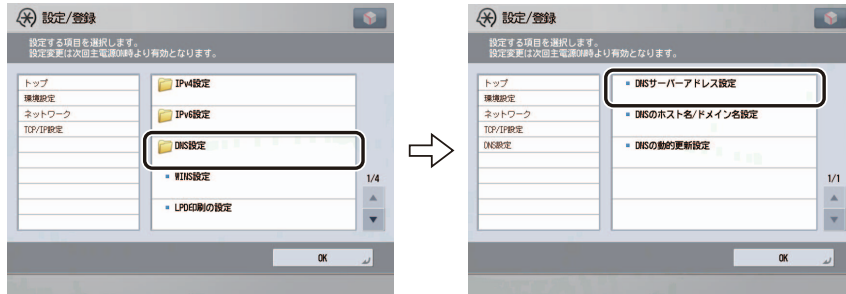
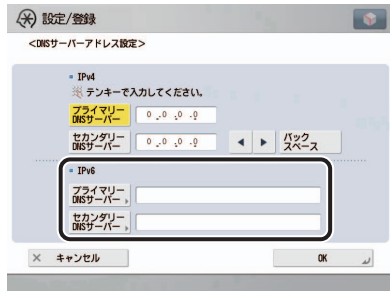
● 指定したIPv6アドレスを持つコンピューターのみとデータを送受信する：

- ☐ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「ON」にします。
- ☐ <デフォルトポリシー>を「拒否」にします。
- ☐ ［登録］を押して、データの送受信を許可するIPv6アドレスを単独設定します。またはIPv6アドレスのプレフィックスとプレフィックス長を指定します。

● データの送受信を制限しない：

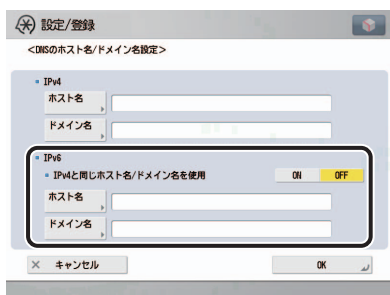
- ☐ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「OFF」にします。

重要
- IPv6アドレス、またはIPv6アドレスのプレフィックスは、それぞれ合計16個（16組）まで設定できます。
- IPv6アドレスとして、マルチキャストアドレスは指定できません。
- 使用しない設定になっているプロトコルやプリントアプリケーションは、［ファイアウォール設定］の設定内容を変更するだけでは使用できません。各プロトコルや各プリントアプリケーションをそれぞれ使用できるように設定する必要があります。
- ［プレフィックス長］に「255」を入力した場合は、IPv6アドレスは設定されません。
- ［プレフィックス長］に「0」を入力した場合は、すべてのIPv6アドレスが設定されます。

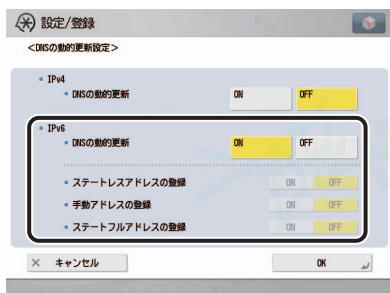
7 TCP/IP 設定画面の［DNS 設定］→［DNS サーバーアドレス設定］を押します。

8 ［DNS サーバーアドレス設定］の< IPv6 >で、以下を設定します。

DNS の動的更新機能を使用する場合は、［プライマリー DNS サーバー］に DNS サーバーの IPv6 アドレスを入力します。

セカンダリー DNS サーバーを指定しない場合は、［セカンダリー DNS サーバー］を空欄にしてください。

重要
- ［プライマリーDNSサーバー］および［セカンダリーDNSサーバー］に、以下のアドレスは設定できません。
  - マルチキャストアドレス
  - すべて0で構成されるアドレス
- 手順5で<DHCPv6を使用>を「ON」にした場合、手動で設定したDNSサーバーのIPv6アドレスは上書きされます。

9 DNS 設定画面の［DNS のホスト名 / ドメイン名設定］の < IPv6 >で、以下を設定します。

< IPv4 と同じホスト名 / ドメイン名を使用>を「ON」: IPv4 通信と同じホスト名、ドメイン名を IPv6 通信でも設定できます。「OFF」にした場合は、［ホスト名］には本製品の名称、［ドメイン名］には本製品が属するネットワークドメイン名を入力します。DNS の動的更新機能を使用する場合は、ホスト名とドメイン名を設定する必要があります。

重要　手順 5 で< DHCPv6 を使用>を「ON」にした場合、手動で設定したドメイン名は上書きされます。また、< IPv4 と同じホスト名 / ドメイン名を使用>で「ON」を選択しても、DHCPv6 サーバーから取得したドメイン名が使用されます。

10 DNS 設定画面の［DNS の動的更新設定］の < IPv6 >で、以下を設定します。

< DNS の動的更新>を「ON」: ダイナミック DNS サーバーがある環境で、デバイスの IPv6 アドレス、ホスト名、ドメイン名に設定した名前を、DNS の動的更新機能によって自動的に DNS サーバーに登録できます。

<ステートレスアドレスの登録>を「ON」:DNS の動的更新機能によって、ステートレスアドレスを自動的に DNS サーバーに登録できます。

<手動アドレスの登録>を「ON」: DNS の動的更新機能によって、手動アドレスを自動的に DNS サーバーに登録できます。

<ステートフルアドレスの登録>を「ON」:DNS の動的更新機能によって、ステートフルアドレスを自動的に DNS サーバーに登録できます。

重要　Windows 2000 Server と Windows Server 2003 は、DHCPv6 サーバーには対応していません。

メモ　Windows Server 2008 を DHCPv6 サーバーにして DHCPv6 サービスを利用している場合に本製品の DNS レコードを登録したいときには、以下の設定を DHCPv6 サーバー上で行ってください。

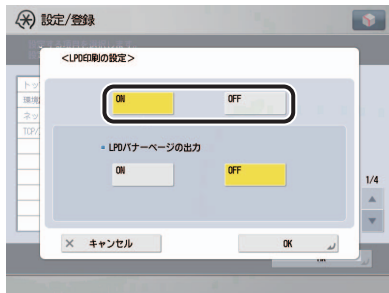
- DHCPv6サーバーの［スコープ］アイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［DNS］ページで、［以下の設定に基づいて、DNS動的更新を有効にする］にチェックマークを付けて、［DHCPクライアントから要求があったときのみDNSのAおよびPTRレコードを動的に更新する］を選択します。
- Active Directory環境ではさらに、DHCPv6サーバーのアイコンを右クリックして、ポップアップメニューから［プロパティ］を選択します。表示されたダイアログボックスの［詳細設定］ページで［資格情報］をクリックします。［DNS動的更新資格情報］ダイアログボックスで、Active Directoryのユーザー名、ドメイン、パスワードを入力します。

TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定

ここでは、本製品の操作パネルで TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通する設定を行う方法について説明しています。

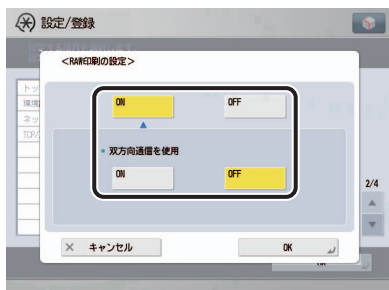
お使いのネットワーク環境に必要な項目を設定してください。TCP/IPv4 通信と TCP/IPv6 通信を両方使用する場合は、それぞれに必要な項目を設定してください。

本手順の設定後は、「TCP/IPv4 の設定の確認」（→ P.4-20）、「TCP/IPv6 の設定の確認」（→ P.4-21）の手順に従ってネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認してください。

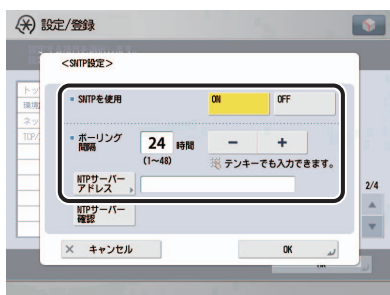
1 TCP/IP 設定画面の［LPD 印刷の設定］で、以下を設定します。

［ON］：プリントアプリケーションに LPD を使用できます。

メモ

- LIPS V拡張キット、またはPS拡張キットを有効にした場合のみ、バナーページを出力できます。
- バナーページは、プリントジョブごとに出力を設定されています。<LPDバナーページの出力>を「ON」にした場合でも、バナーページを出力しないように設定されているプリントジョブのときにはバナーページが出力されません。

2 TCP/IP 設定画面の［RAW 印刷の設定］で、以下を設定します。

［ON］：プリントアプリケーションに Raw を使用できます。

双方向通信を行う場合は、<双方向通信を使用>を「ON」にします。

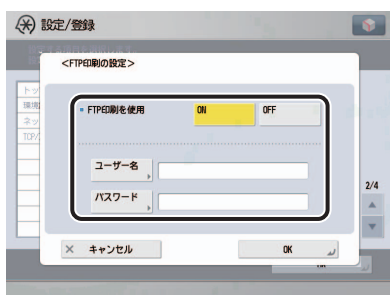
3 TCP/IP 設定画面の［SNTP 設定］で、以下を設定します。

＜ SNTP を使用＞を［ON］：SNTP を使用して時刻同期が可能です。

時刻の同期をとる間隔を、＜ポーリング間隔＞で選択します。

［NTP サーバーアドレス］に NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力してください。

重要

- SNTPによるNTPサーバーとの時刻同期を行う場合は、事前に本製品を使用する地域のタイムゾーンを設定する必要があります。タイムゾーンの設定方法はe-マニュアル > 設定/登録を参照してください。
- IPSec通信を使用する場合にIKE（Internet Key Exchange）の認証に電子署名方式を設定する（→e-マニュアル > ネットワーク）ときは、＜SNTPを使用＞を［ON］にする必要があります。

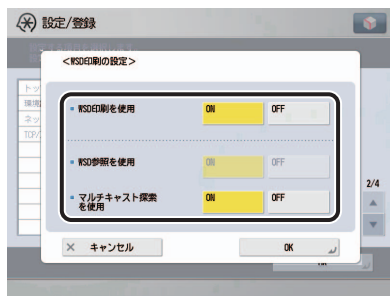
4 TCP/IP 設定画面の［FTP 印刷の設定］で、以下を設定します。

＜ FTP 印刷を使用＞を［ON］：プリントアプリケーションに FTP を使用できます。

［ユーザー名］に FTP サーバーにログインするためのユーザー名を入力します。

［パスワード］に FTP サーバーにログインするためのパスワードを入力します。

重要

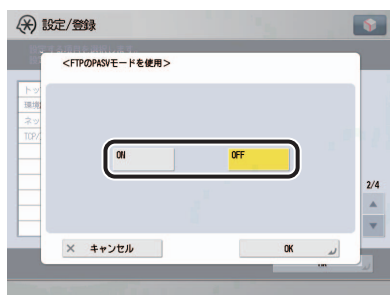
- ［ユーザー名］、［パスワード］を設定しない場合は、任意のユーザー名、パスワードが有効になります。
- ［ユーザー名］、［パスワード］を設定せず、FTPサーバーにログインする際にユーザー名として「anonymous」を入力した場合、または［ユーザー名］に「anonymous」を設定した場合は、ジョブの履歴にはパスワードがユーザー名として表示されます。（ジョブの履歴は、タッチパネルディスプレーで （状況確認/中止）→［コピー/プリント］→［ジョブ履歴］を順に押すと表示されます。）

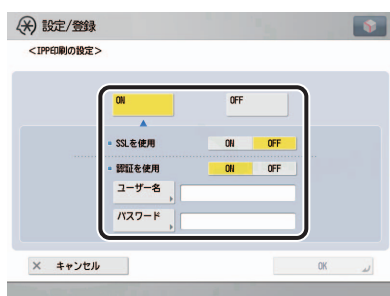
5 TCP/IP 設定画面の［WSD 印刷の設定］で、以下を設定します 。

Windows Vista/7/Server 2008 をお使いの場合、本項目を設定してください。

＜ WSD 印刷を使用＞を「ON」: プリントアプリケーションに WSD（Web Services on Devices）を使用できます 。［ON］を選択した場合は、［HTTP を使用］の設定は自動的に「ON」になります。

＜ WSD 参照を使用＞の設定は、＜ WSD 印刷を使用＞を「ON」にすると自動的に「ON」になり、WSD を使用してデバイスの情報取得を行うことができます。

マルチキャストによる検索要求に応答するには、＜マルチキャスト探索を使用＞を「ON」にします。

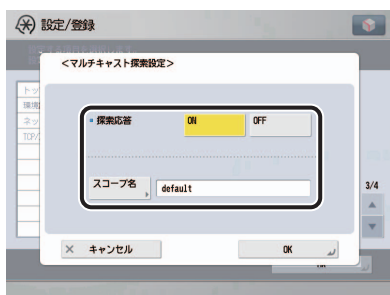
6 TCP/IP 設定画面の［FTP の PASV モードを使用］で、以下を設定します。

重要 FTP の PASV モードを使用するかどうかは、ご使用のネットワーク環境および送信先のファイルサーバーの設定に依存します。FTP の PASV モードを設定する前に、必ずお使いのネットワーク環境の管理者にご確認ください。

7 TCP/IP 設定画面の［IPP 印刷の設定］で、以下を設定します。

［ON］: プリントアプリケーションに IPP を使用できます。［ON］を選択した場合は、［HTTP を使用］の設定は自動的に「ON」になります。

IPP の通信データの SSL による暗号化を行う場合は、＜ SSL を使用＞を「ON」にします。

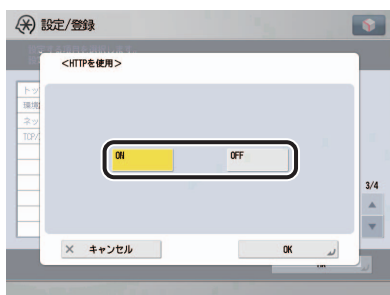
IPP 認証機能を使用する場合は 、＜認証を使用＞を「ON」にして、［ユーザー名］に IPP 認証で使用するユーザー名を、［パスワード］に IPP 認証で使用するパスワードを入力します。

重要 ＜ SSL を使用＞を「ON」にして SSL 通信を行うには、使用する鍵ペアが必要になります。鍵ペアは、プリインストールされている鍵ペアを使用するか、本製品で独自の鍵ペアを生成して使用鍵として設定します。使用鍵の説明と独自の鍵ペアの生成方法については、e- マニュアル > セキュリティーを参照してください。

8 TCP/IP 設定画面の［マルチキャスト探索設定］で、以下を設定します。

＜探索応答＞を［ON］：他デバイスの機器情報配信機能による自動検索や、ユーティリティーソフトウェアからのマルチキャスト探索の応答が可能になります。

必要に応じて、［スコープ名］にマルチキャスト探索で使用されるスコープ名を入力します。

メモ　アドレス帳や部門管理 ID などの設定／登録設定情報を複数のデバイスに配布して、設定内容を共有する方法については、e- マニュアル > セキュリティーを参照してください。

9 TCP/IP 設定画面の［HTTP を使用］で、以下を設定します。

［ON］：リモート UI、IPP 印刷、BMLinks、WSD 印刷、部門別 ID 管理の暗証番号確認、WebDAV サーバーを使用できます。

10 TCP/IP 設定画面の［プロキシー設定］で、以下を設定します。

下記の場合に、ご使用のネットワーク環境に応じて本項目を設定します。

- ダイレクトプリント拡張キット（PDF/XPS用）を有効にした場合にリモートUIからダイレクトプリントするとき
- ウェブブラウザー拡張キット（Webページを本製品のタッチパネルディスプレーで閲覧するために用いるオプションの拡張キット。詳細は、e-マニュアル > ウェブブラウザーを参照してください。）を有効にした場合
- WebDAVサーバーを使用する場合に、WebDAVクライアントをプロキシー経由でインターネットに接続するとき
- ユーザー署名＆タイムスタンプ拡張キットを有効にした場合

［サーバーアドレス］にプロキシーサーバーの IP アドレス、または FQDN（starfish.company.com のような形式）を入力します。

［ポート番号］にプロキシーサーバーのポート番号を入力します。

同一ドメインにもプロキシーを使用する場合は、＜同一ドメインにもプロキシーを使用＞を「ON」にします。

プロキシー認証を使用する場合は、［認証設定］を押したあと、＜プロキシー認証を使用＞を「ON」にして、［ユーザー名］にプロキシー認証で使用するユーザー名を、［パスワード］にプロキシー認証で使用するパスワードを入力します。

重要　ダイレクトプリント拡張キット（PDF/XPS 用）を有効にした場合は、リモート UI で印刷したい PDF、XPS、または PS のファイルの URL を指定することによって、そのファイルを印刷できます。この機能を利用するには、［プロキシー設定］をお使いの環境に合わせて正しく設定してください。（本手順を参照）

11 ネットワーク画面の［ファイアウォール設定］→［MAC アドレスフィルター］で、以下を設定します。

本項目を設定すると、MAC（Media Access Control）アドレスを使って受信パケットと送信パケットのフィルタリングを行い、データを送受信する際のセキュリティーを向上できます。［MAC アドレスフィルター］を使用環境に合わせて設定することによって、第三者から不正アクセスされるリスクを低減できます。
指定した MAC アドレスを持つ機器と本製品間でのデータ送受信を拒否する場合は、送信フィルターまたは受信フィルターのデフォルトポリシーを許可に設定して MAC アドレス（拒否 MAC アドレス）を指定します。この結果、指定した MAC アドレスを持つ機器と本製品間でデータを送受信できなくなります。指定した MAC アドレスを持つ機器のみとデータを送受信する場合は、送信フィルターまたは受信フィルターのデフォルトポリシーを拒否に設定して MAC アドレス（許可 MAC アドレス）を指定します。この結果、本製品がデータを送受信できるのは、指定した MAC アドレスを持つ機器のみになります。

重要　MAC アドレスは、100 個まで設定できます。

● **指定したMACアドレスを持つ機器とのデータ送受信を拒否する：**

□ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「ON」にします。

□ <デフォルトポリシー>を「許可」にします。

□ ［登録］を押して、データの送受信を拒否するMACアドレスを指定します。

● **指定したMACアドレスを持つ機器のみとデータを送受信する：**

□ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「ON」にします。

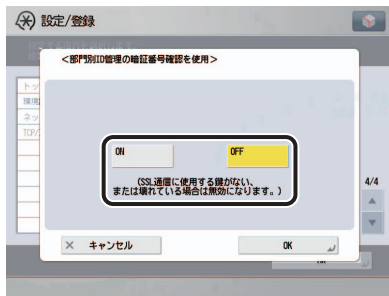
□ <デフォルトポリシー>を「拒否」にします。

□ ［登録］を押して、データの送受信を許可するMACアドレスを指定します。

重要　< デフォルトポリシー > を「拒否」にすると、本手順で設定した MAC アドレスを持つ機器としかデータを送受信できません。そのため、設定の際には MAC アドレスをよく確認してください。該当する MAC アドレスが存在しない場合は、データを送受信できなくなります。

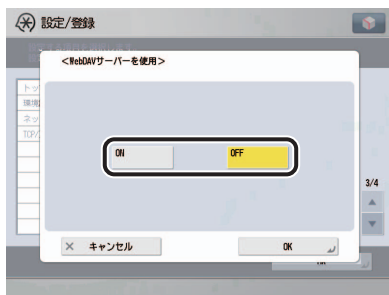
● **データの送受信を制限しない：**

□ ［送信フィルター］または［受信フィルター］を押して、<フィルターを使用>を「OFF」にします。

12 TCP/IP 設定画面の［部門別 ID 管理の暗証番号確認を使用］で、以下を設定します。

［ON］：Windows Vista/7 対応のドライバーを使用して印刷する際に、部門別 ID と暗証番号を確認できます。［ON］を選択した場合は、［HTTP を使用］の設定は自動的に「ON」になります。

重要

- 部門別IDと暗証番号の確認を行うには、SSL暗号化通信に使用する鍵ペアが必要になります。<部門別ID管理の暗証番号確認を使用>を「ON」にしても、鍵ペアが壊れていたり、無効だったりしたときには、部門別IDと暗証番号は確認できません。鍵ペアを削除したあと、e-マニュアル > セキュリティーを参照して、新しい鍵ペアを登録してください。
- 鍵ペアが存在しない場合には、<部門別ID管理の暗証番号確認を使用>を「ON」にできません。鍵ペアは、プリインストールされている鍵ペアを使用するか、本製品で独自の鍵ペアを生成して使用鍵として設定します。使用鍵の説明と独自の鍵ペアの生成方法については、e-マニュアル > セキュリティーを参照してください。

13 TCP/IP 設定画面の［WebDAV サーバーを使用］で、以下を設定します。

［ON］：WebDAV サーバーを使用してコンピューターから本製品のアドバンスドボックスにアクセスできます。［ON］を選択した場合は、［HTTP を使用］の設定は自動的に「ON」になります。

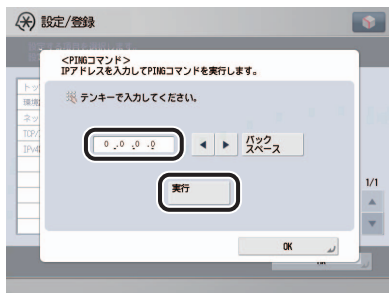
メモ

WebDAVサーバーの使用によって、アドバンスドボックスにアクセスするコンピューターの認証、およびコンピューターと本製品間での SSL 暗号化通信が可能になります。

TCP/IPv4 の設定の確認

ここでは、ネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認します。

1 TCP/IP 設定画面の［IPv4 設定］→［PING コマンド］を押します 。

2 ［PING コマンド］で、以下を確認します。

ネットワーク上に存在する任意の IP アドレスを入力したあと［実行］を押すと、タッチパネルディスプレーに PING コマンドの実行結果が表示されます。

正しく設定できていなかった場合は、「インターフェイスの設定」（→ P.3-6）、「TCP/IPv4 の設定」（→ P.4-3）、および「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）の設定内容を確認します。

重要
- 「起動時間の設定」（→P.4-23）で本製品のネットワーク部の起動時間を設定している場合は、本製品の主電源を入れたあと、［起動時間の設定］で設定した時間が経過してからPINGコマンドを実行してください。
- 本製品をスイッチングハブなどに接続している場合、ネットワークの設定が正しくても、ネットワークへの接続ができないことがあります。この場合は、本製品のネットワーク部分の起動時間を遅らせることで解決できることがあります。起動時間の設定方法は「起動時間の設定」（→P.4-23）を参照してください。

3 TCP/IP 設定画面の［SNTP 設定］で、以下を確認します。

［NTP サーバー確認］を押して「OK」と表示された場合、SNTP による時刻同期が正常に動作しています。

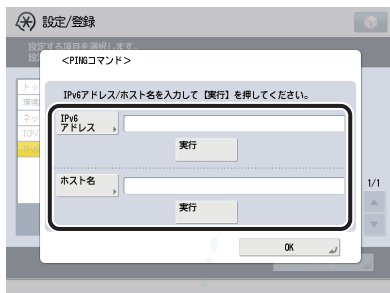
「エラー」と表示された場合は、「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）の手順 3 で設定した NTP サーバーアドレスの設定内容を確認してください。

［NTP サーバー確認］を実行しても、時刻設定は更新されません。本製品と NTP サーバーとの間で通信可能かどうかを確認してください。

TCP/IPv6 の設定の確認

ここでは、TCP/IPv6 ネットワークの設定が正しくできているかどうかを確認します。

1 TCP/IP 設定画面の［IPv6 設定］→［PING コマンド］を押します 。

2 ［PING コマンド］で、以下を確認します。

［IPv6 アドレス］にネットワーク上に存在する任意の IPv6 アドレスを入力したあと［実行］を押すと、タッチパネルディスプレーに PING コマンドの実行結果が表示されます。

［ホスト名］に本製品のホスト名を入力したあと［実行］を押すと、タッチパネルディスプレーに PING コマンドの実行結果が表示されます。

正しく設定できていなかった場合は、「インターフェイスの設定」（→ P.3-6）、「TCP/IPv6 の設定」（→ P.4-9）、および「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）の設定内容を確認します。

重要

- 「起動時間の設定」（→P.4-23）で本製品のネットワーク部の起動時間を設定している場合は、本製品の主電源を入れたあと、［起動時間の設定］で設定した時間が経過してからPINGコマンドを実行してください。
- 本製品をスイッチングハブなどに接続している場合、ネットワークの設定が正しくても、ネットワークへの接続ができないことがあります。
  この場合は、本製品のネットワーク部分の起動時間を遅らせることで解決できることもあります。起動時間の設定方法は「起動時間の設定」（→P.4-23）を参照してください。

3 TCP/IP 設定画面の［SNTP 設定］で、以下を確認します。

［NTP サーバー確認］を押して「OK」と表示された場合、SNTP による時刻同期が正常に動作しています。

「エラー」と表示された場合は、「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）の手順 3 で設定した NTP サーバーアドレスの設定内容を確認してください。

［NTP サーバー確認］を実行しても、時刻設定は更新されません。本製品と NTP サーバーとの間で通信可能かどうかを確認してください。

E メール／I ファクスの設定

1 （設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［E メール /I ファクス設定］→［通信設定］を押します。

2 E メール／I ファクスを受信するためのメールサーバーを設定します。

本製品の受信機能は SMTP、POP3 の双方をサポートしています。

本製品が受信できる E メールは、I ファクス画像と、通信時にエラーが発生した場合のエラーメールのみです。

● Eメール／Iファクスを本製品のSMTP受信機能を使用して受信する

☐ 本製品のホスト名をDNSサーバーに登録したあと、以下の項目を設定します。

< SMTP 受信>を「ON」に、< POP >を「OFF」にします。

［E メールアドレス］に本製品の E メールアドレスを入力します。ユーザー名（@ マークの前の部分）は、任意の名前を設定できます。登録したホスト名を、E メールアドレスの @ マークの後ろに入力します。

< SSL の許可（SMTP 受信）>を「常に SSL」にすると、SSL を使用して暗号化したデータのみ受信を許可して、ホスト側からの SSL を使用しない通信は拒絶されます。

< SSL の許可（SMTP 受信）>を「ON」にすると、ホストから要求があった場合に限り、SSL を使用して暗号化したデータの受信が許可されます。

重要

- SMTPホストが暗号化をサポートしていない場合は、<SSLの許可（SMTP受信）>を「ON」にしても、通信内容は暗号化されません。
- <SSLの許可（SMTP受信）>を「常にSSL」または「ON」にしてSSL通信を行うには、使用する鍵ペアを事前に生成しておく必要があります。e-マニュアル＞セキュリティーを参照して、鍵ペアを生成してください。

● Eメール／IファクスをPOPサーバーを使用して受信する

☐ <POP>を「ON」に、<SMTP受信>を「OFF」にします。

［E メールアドレス］に、本製品の E メールアドレスを入力します。

［POP サーバー］に、POP サーバーの IP アドレスまたは名称を入力します。

［POP アドレス］に、POP サーバーにアクセスするときのログイン名を入力します。

［POP パスワード］に、POP サーバーにアクセスするときのパスワードを入力します。

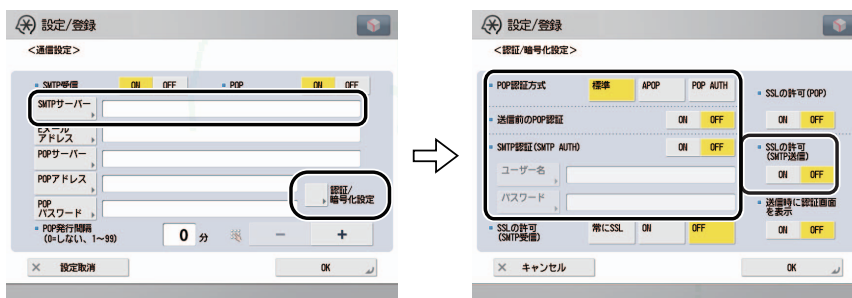
POP サーバーに対して受信メールを確認する< POP 発行間隔>を設定します。「0」に設定した場合、POP の自動発行は行いません。手動で受信する方法は、e- マニュアル＞状況確認 / 中止を参照してください。

< POP 認証方式>の［標準］、［APOP］、［POP AUTH］から、POP サーバーがサポートしている認証方式を選択します。

通信内容を暗号化する場合は、< SSL の許可（POP）>を「ON」にします。

重要

- <POP発行間隔>が10分以下（「0」の場合を除く）に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。
- POPサーバーが暗号化をサポートしていない場合は、<SSLの許可（POP）>を「ON」にしても、通信内容は暗号化されません。
- <SSLの許可（POP）>を「ON」にしてSSL通信を行うには、使用する鍵ペアを事前に生成しておく必要があります。e-マニュアル＞セキュリティーを参照して、鍵ペアを生成してください。

3 Eメール／Iファクスを送信するためのメールサーバーを設定します。

● **POPサーバーにログインしてからメールを送信する方式（POP before SMTP）のSMTPサーバーを使用する**

□ ［SMTPサーバー］にSMTPサーバーのIPアドレスまたは名称を入力します。

<送信前のPOP認証>を「ON」に、<SMTP認証（SMTP AUTH）>を「OFF」にします。

● **SMTPサーバーにログインしてからメールを送信する方式（SMTP Authentication）のSMTPサーバーを使用する**

□ ［SMTPサーバー］にSMTPサーバーのIPアドレスまたは名称を入力します。

<SMTP認証（SMTP AUTH）>を「ON」に、<送信前のPOP認証>を「OFF」にします。

［ユーザー名］に、SMTPサーバーにログインするためのユーザー名を入力します。Microsoft社製のSMTPサーバーをお使いの場合は、［ユーザー名］は「ユーザー名@ドメイン名」の形式で入力してください。

［パスワード］にSMTPサーバーにログインするためのパスワードを入力します。

SSLを使用して送信データを暗号化する場合は、<SSLの許可（SMTP送信）>を「ON」にします。

送信時に認証画面を表示する場合は、<送信時に認証画面を表示>を「ON」にします。

重要 SMTPホストが暗号化をサポートしていない場合は、<SSLの許可（SMTP送信）>を「ON」にしても、通信内容は暗号化されません。

● **メール送信時に認証を必要としないSMTPサーバーを使用する**

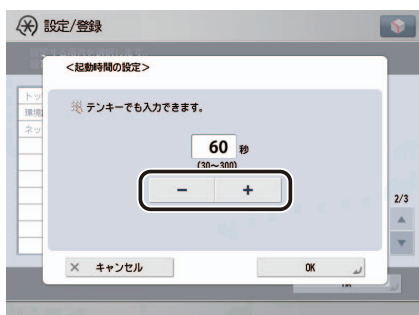
□ ［SMTPサーバー］にSMTPサーバーのIPアドレスまたは名称を入力します。

<SMTP認証（SMTP AUTH）>、<送信前のPOP認証>を両方とも「OFF」にします。

起動時間の設定

本製品をスイッチングハブなどに接続している場合は、ネットワークの設定が正しくてもネットワークへの接続ができないことがあります。これは、スイッチングハブ間でのスパニングツリー処理により、本製品をスイッチングハブに接続した直後は本製品とスイッチングハブ間の通信ができないためです。

この場合は、本製品の通信開始を待機させる必要があります。

1 ネットワーク画面の［起動時間の設定］で、以下を設定します。

［－］［＋］のいずれかを押して、本製品のネットワーク部の起動時間を設定します。

ファイルサーバーの設定（TCP/IP）

本製品からネットワーク上のコンピューターにデータを送信するには、送信先となるコンピューター（ファイルサーバー）の設定が必要です。

TCP/IP ネットワークでは、次のいずれかにデータを送信できます。

- FTPサーバー（Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008 R2、UNIX、Linux、Mac OS X）
- WebDAVサーバー（Windows 2000 Professional/XP/Vista/7/2000 Server/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2、UNIX、Linux、Mac OS X）
- Windowsの共有フォルダー（Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2）
- Sambaの共有フォルダー（UNIX、Linux、Mac OS X）

ここでは、FTP サーバーと WebDAV サーバーの設定方法を説明しています。

Windows の共有フォルダー、および Samba の共有フォルダーの設定方法については、「第 6 章　SMB/CIFS ネットワークで使用する」の「ファイルサーバーの設定（SMB/CIFS）」（→ P.6-6）を参照してください。

4

TCP/IP ネットワークで使用する

重要

- Sambaは、2.2.8a以降に対応しています。
- ここでは、本製品からのデータの送信先となるコンピューターの設定手順のみを説明しています。実際に本製品からネットワーク上のサーバーにデータを送信するには、本製品操作パネルで宛先を設定する必要があります。宛先の設定方法は、e-マニュアル >スキャンして送信を参照してください。
- ここで説明する操作の手順は、FTPサーバーとWebDAVサーバーの設定手順例です。お使いの環境によっては設定手順が異なることがあります。

FTP サーバーの設定方法

Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合

ここでは、［既定の FTP サイト］のデフォルトのホームディレクトリーを使用する場合の手順を説明しています。それ以外の設定を行う場合は、IIS の説明書を参照して FTP サイトとホームディレクトリーを設定してください。

FTP サーバーの設定はお使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。

手順中の画面や項目名は、Windows 2000 のものです。お使いの OS の種類によっては、項目名などが異なることがあります。

重要

- Windows 2000 Server/XP Professional/Vista/7/Server 2003/Server 2008 R2をFTPサーバーとして使用するためには、IISがインストールされている必要があります。お使いのコンピューターにIISがインストールされていない場合は、設定を行う前に「データを送信する」の「システム環境」（→P.2-6）を参照してお使いのOSに必要なIISをインストールしてください。インストール方法の詳細は、OSの説明書などを参照してください。
- FTPサーバーにアクセスするユーザーのユーザー認証は、FTPサーバーとなるWindows 2000 Server、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2003、Windows Server 2008 R2のローカルのアカウントデータベースを参照して行います。したがって、FTPサーバーとなるWindows 2000 Server、Windows XP Professional、Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2003、Windows Server 2008 R2に登録したドメインユーザーのアカウントを使っても、他のドメインのFTPサーバーへは本製品から直接データを送信できません。

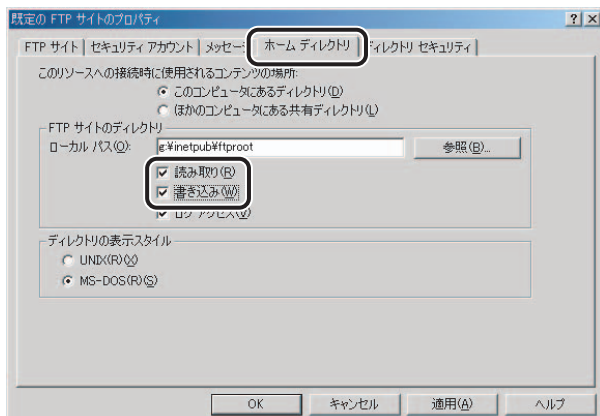
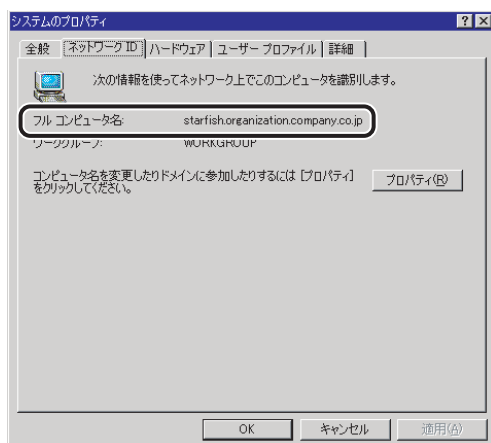
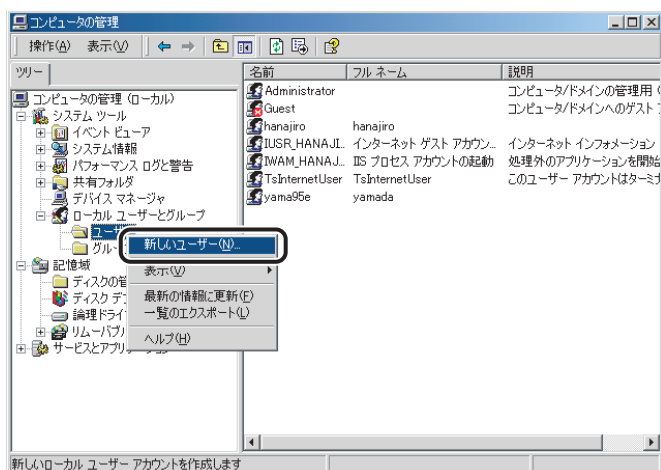
メモ

Windows Vista 以降をお使いの場合には、操作の途中で確認ダイアログが表示されることがあります。そのようなときには、ユーザー名とパスワードを入力してください。詳細は、OS の説明書などを参照してください。

1 **FTP サイトとして定義するディレクトリーに適切なアクセス権を持つグループのメンバーとしてログオンして、IIS を起動します。**

ドライブやディレクトリーのアクセス権の設定は環境によって異なります。詳細は、Windows の説明書を参照してください。

2 **［既定の FTP サイトのプロパティ］ダイアログボックスの［セキュリティアカウント］で、匿名での接続を許可するオプションのチェックマークを外します。**

3 ［既定の FTP サイトのプロパティ］ダイアログボックスの［ホームディレクトリ］ページで［読み取り］と［書き込み］の両方にチェックマークを付けます。

4 ［マイコンピュータ］の［プロパティ］をクリックして、［システムのプロパティ］ダイアログボックスを開き、［フルコンピュータ名］を確認します。

5 ［マイコンピュータ］の［管理］をクリックして、［コンピュータの管理］ウィンドウを開き、［システムツール］の中の［ローカルユーザーとグループ］の［ユーザー］フォルダーを右クリックして［新しいユーザー］を選択します。

6 ［新しいユーザー］ダイアログボックスで、［ユーザー名］、［パスワード］、［パスワードの確認入力］を入力して、［作成］をクリックします。

ユーザー名とパスワードは、半角 24 文字以内で設定します。

［ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要］にチェックマークを付けて新規ユーザーを追加した場合は、新規ユーザーはいったんパスワードを変更してからでないと、本製品からファイルを送信できません。（本製品でパスワードは変更できません。）

メモ　Active Directory 環境では、ユーザーの登録手順は上記と異なります。詳細は、Windows の説明書を参照してください。

7 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定例：

- サーバー側の設定
  ［フルコンピュータ名］：starfish.organization.company.com
  ［既定のFTPサイト］のホームディレクトリー¥Inetpub¥ftprootにshareというディレクトリーを作り、shareをデータの送信先にする。
- 本製品の宛先の設定
  <プロトコル>：FTP
  ［ホスト名］：starfish.organization.company.com
  ［フォルダーへのパス］：share
  ［ユーザー名］：（手順5で設定したユーザー名）
  ［パスワード］：（上記ユーザーのパスワード）

- 本製品の宛先の［ホスト名］の設定で、上記の設定例のように手順4で確認したフルコンピュータ名を使用する場合には、DNSサーバーが必要です。（本製品とFTPサーバーが同じサブネット内にある場合でも必要です。）DNSサーバーがない場合は、［ホスト名］の設定には、FTPサーバーのIPアドレスを使用してください。
- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角128文字（全角64文字）以内です。また、［フォルダーへのパス］は半角255文字（全角127文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるようにサーバー側を設定してください。
- タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されないことがあります。
- FTPのポート番号を21以外に設定してIPv4ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <FTPサーバーのIPv4アドレス>:<ポート番号>
  例：192.168.1.21:21000
- IPv6ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <IPv6アドレス>:<ポート番号>
  例：[5aed:90a0:bc05:01d2:568a:2fc0:0001:12ee]:21000

UNIX/Linux をお使いの場合

UNIX/Linux のコンピューターを FTP サーバーとして使用するために必要な環境については 、「データを送信する」の「システム環境」（→ P.2-6）を参照してください。

お使いの環境によっては、FTP を使用するための詳細な設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いのネットワーク環境の管理者にご相談ください。

---

1 **ワークステーションにスーパーユーザーとしてログインしたあと、本製品からファイルを送信するユーザーとパスワードを設定します。**

ユーザー名とパスワードは、半角 24 文字以内で設定します。

2 **送信先として使用する共有ディレクトリーを作成したあと、ファイルを送信するユーザーの読み取り、書き込みを許可します。**

3 **本製品の操作パネルで宛先を設定します。**

宛先の設定例：

- サーバー側の設定
  ホスト名：　starfish
  ドメイン：　organization.company.com
  ユーザーのホームディレクトリーが/home/hsatoで、/home/hsato/shareをデータの送信先にする。
- 本製品の宛先の設定
  ＜プロトコル＞：FTP
  ［ホスト名］：starfish.organization.company.com
  ［ユーザー名］：（手順1で設定したユーザー名）
  ［パスワード］：（上記ユーザーのパスワード）
  ［フォルダーへのパス］には以下のいずれかを入力してください。
- share（相対パスを入力する場合）
  /home/hsato/share（絶対パスを入力する場合）
  画面の例は、Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2の画面（→P.4-24）を参照してください。

重要

- 本製品の宛先の［ホスト名］の設定で、上記の設定例のようにホスト名を使用する場合には、DNSサーバーが必要です。（本製品とFTPサーバーが同じサブネット内にある場合でも必要です。）DNSサーバーがない場合は、［ホスト名］の設定には、FTPサーバーのIPアドレスを使用してください。
- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角128文字（全角64文字）以内です。また、［フォルダーへのパス］は半角255文字（全角127文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるようにサーバー側を設定してください。
- タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されないことがあります。
- FTPのポート番号を21以外に設定してIPv4ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <FTPサーバーのIPv4アドレス>:<ポート番号>
  例：192.168.1.21:21000
- IPv6ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <IPv6アドレス>:<ポート番号>
  例：[5aed:90a0:bc05:01d2:568a:2fc0:0001:12ee]:21000

Mac OS X をお使いの場合

1 **Mac OS X に管理者としてログインして、［システム環境設定］ウィンドウを開きます。**

2 **［共有］をクリックして、［FTP サービス］にチェックマークを付けたあと、ツールバーの［すべてを表示］をクリックします。**

3 **［アカウント］をクリックして［アカウント］ウィンドウを開き、本製品から Mac OS X にデータを送信するユーザーとパスワードを設定します。**

ユーザー名とパスワードは、半角 24 文字以内で設定します。

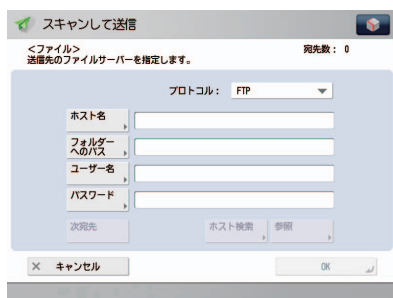
4 **送信先として使用する共有フォルダーを作成します。**

設定例：
Home フォルダーの中の［パブリック］フォルダーの中に、「FTP_Folder」というフォルダーを作成します。

5 **手順 4 で作成した共有フォルダーを選択した状態で、［ファイル］メニューの［情報を見る］をクリックして、［所有権とアクセス権］の［詳細な情報］を選択します。オーナー、グループのメンバーの読み取り／書き込みを許可します。**

6 **本製品の操作パネルで宛先を設定します。**

宛先の設定例：

- サーバー側の設定（上記手順で設定した内容）
  ユーザー名「yoko」の［Home］フォルダー中の［Public］フォルダーの中に「FTP_Folder」というフォルダーを作り、「FTP_Folder」をファイルの送信先にする。
- 本製品の宛先の設定
  ＜プロトコル＞：FTP
  ［ホスト名］：MacintoshのIPアドレス
  ［ユーザー名］：（手順3で設定したユーザー名）
  ［パスワード］：（上記ユーザーのパスワード）
  ［フォルダーへのパス］には以下のいずれかを入力してください。
  Public/FTP_Folder（相対パスを入力する場合）
  /Users/yoko/Public/FTP_Folder（絶対パスを入力する場合）

重要

- 操作パネルの［フォルダーへのパス］に入力できるのは、半角255文字（全角127文字）以内です。255文字以内になるように送信先を設定してください。
- タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されないことがあります。
- FTPのポート番号を21以外に設定してIPv4ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <FTPサーバーのIPv4アドレス>:<ポート番号>
  例：192.168.1.21:21000
- IPv6ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <IPv6アドレス>:<ポート番号>
  例：[5aed:90a0:bc05:01d2:568a:2fc0:0001:12ee]:21000

WebDAV サーバーの設定方法

WebDAV 送信機能とは、スキャナーから読み込んだ画像ファイル、ファクス受信後に転送された画像ファイル、またはボックスやシステムボックスから送信された画像ファイルを、WebDAV プロトコルを使用してインターネットやイントラネット上の WebDAV サーバーの指定ディレクトリーに送信する機能です。

ここでは、WebDAV 発行ディレクトリーのサーバーへのセットアップ手順を説明しています。発行ディレクトリーをセットアップすると、アクセス権のあるユーザーは、ディレクトリー内のファイルの操作を行えるようになります。

WebDAV サーバーの設定は、お使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。

Windows 2000/XP/Vista/7/2000 Server/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2 で IIS をお使いの場合

手順中の項目名は、Windows 2000 のものです。お使いの OS の種類によっては、項目名などが異なることがあります。

重要

- お使いのコンピューターにIISがインストールされていない場合は、設定を行う前に「データを送信する」の「システム環境」（→P.2-6）を参照してお使いのOSに必要なIISをインストールしてください。インストール方法の詳細は、OSの説明書などを参照してください。
- WebDAVサーバーへの送信は、サーバーの認証を受ける必要があります。WebDAVサーバーを使用する前に、認証を有効にしてください。認証方法は、匿名認証、基本認証、ダイジェスト認証で、それ以外の認証方法では認証エラーとなります。匿名認証を有効にすると、全てのユーザーにアクセスが許可され、他の二つの認証方法が設定してあってもIISは常に匿名認証を優先します（優先度は、高い順に匿名認証、ダイジェスト認証、基本認証になります）。高いセキュリティーを必要とする場合は、匿名アクセスのチェックマークを外してください。基本認証、ダイジェスト認証には、WebDAVサーバーのアドレス帳に登録されているユーザー名とパスワードを使用します。各認証の設定方法の詳細は、IISの説明書を参照してください。
- IIS 7.0/IIS 7.5に対してWebDAV送信する場合には、基本認証かダイジェスト認証のいずれかを使用してください。
- IIS6.0を使用してダイジェスト認証を設定する場合にプロキシー経由でWebDAVサーバーに接続するときには、本製品の操作パネルで［WebDAV送信時にチャンク分割送信を使用］を「ON」にする必要があります。（→ e-マニュアル>設定/登録）
- IIS 7.0でWebDAVを使用する場合は、Microsoft WebDAV ExtensionをIISのサイトからダウンロードして別途インストールする必要があります。詳細はIISの説明書を参照してください。

1 **［マイコンピュータ］をクリックして、C:/Inetpub フォルダーに送信先として使用する物理ディレクトリーを作成します。**

重要

wwwroot の既定の DACL は他のディレクトリーのものと異なるため、物理ディレクトリーは C:/Inetpub/wwwroot フォルダーには作成できません。

2 **仮想ディレクトリーを作成します。**

☐ IISを起動して、IISスナップインでディレクトリーを追加するWebサイトを選択します。

☐ ［操作］メニューから［新規作成］－［仮想ディレクトリ］を選択します。

☐ 仮想ディレクトリーの作成ウィザードに従って、ディレクトリーの作成を完了させます。

手順 1 で作成したディレクトリーのパスを、仮想ディレクトリーの物理的パスとして指定します。

IIS 7.0/IIS 7.5 の場合は、IIS を起動して、左側の接続ペインで［Default Web Site］を右クリックします。次に、［仮想ディレクトリの追加］を選択して、エイリアスと物理パスを入力します。

3 WebDAV クライアントによるファイルの書き込みを受け付けられるように、仮想ディレクトリーのプロパティで［書き込み］にチェックマークを付けます。

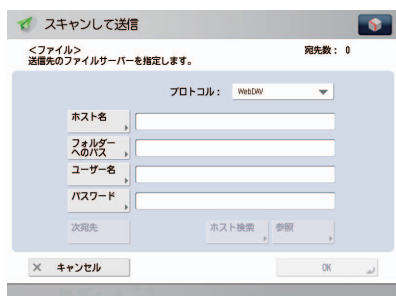
IIS 6.0 の場合は 、IIS マネージャの［Web サービス拡張］で［WebDAV］を［許可］に設定します。

IIS 7.0/IIS 7.5 の場合は、IIS マネージャ／ IIS マネージャーの左側の接続ペインから作成した仮想ディレクトリーを選択したあと、［ホーム］の［WebDAV オーサリング規則］／［WebDAV Authoring Rules］をダブルクリックします。［操作］の［オーサリング規則の追加］／［Add Authoring Rule］をクリックして、適切なアクセス設定を入力します。左側の接続ペインから仮想ディレクトリーを再度選択します。［操作］の［アクセス許可の編集］をクリックして、プロパティダイアログボックスの［セキュリティ］タブで、その物理ディレクトリーに対するアクセス権を設定します。

4 IIS の説明書を参照して、SSL 暗号化通信に必要な設定を行います。

5 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定例：

- サーバー側の設定
  C:/Inetpub/export/share/home/users/という物理ディレクトリーを作ったあとで、このディレクトリーにリンクする仮想ディレクトリーを作り、データの送信先にする。
- 本製品の宛先の設定
  ＜プロトコル＞：WebDAV
  ［ホスト名］：https://starfish.cse.canon.co.jp/
  ［フォルダーへのパス］：/export/share/home/users/
  ［ユーザー名］：（WebDAVサーバーの基本認証、ダイジェスト認証に必要なユーザー名）
  ［パスワード］：（WebDAVサーバーの基本認証、ダイジェスト認証に必要なパスワード）

重要

- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角128文字（全角64文字）以内です。また、［フォルダーへのパス］は半角255文字（全角127文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるようにサーバー側を設定してください。
- タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されないことがあります。
- マスターブラウザーとなっているコンピューターと本製品の操作パネルの表示言語が異なる場合、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
- IPv6ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
  <IPv6アドレス>:<ポート番号>
  例：[5aed:90a0:bc05:01d2:568a:2fc0:0001:12ee]:21000

Apache をお使いの場合

以下の手順では、Windows のファイルシステム上で、C:/Program Files/Apache Group/Apache2 配下に users/user_name/WebDAV ディレクトリーを作成する場合を例として説明しています。

重要
- Mac OS Xには、Apache 1.3が標準添付されています。それ以外の場合にお使いのコンピューターにApacheがインストールされていないときには、設定を行う前に「データを送信する」の「システム環境」（→P.2-6）を参照して、お使いのOSに必要なApacheをApache Software Foundationのホームページ（http://www.apache.org/）からダウンロードしてインストールします。SSLを使用する場合は、Apache-SSLオフィシャルサイト（http://www.apache-ssl.org/）からSSLに対応したApacheをダウンロードしてインストールしてください。Apacheのインストール後は、起動して正常にサービス動作するか確認してください。
- Mac OS Xをお使いの場合にはApacheの設定ファイル（/etc/httpd/httpd.conf）はrootが保有しているため、次のいずれかを行ってからWebDAVを設定してください。詳細については、Macintoshの説明書、またはApache Software Foundationのホームページ（http://www.apache.org/）を参照してください。
  - Terminalからsudoコマンドまたはsuコマンドを使ってroot権限を取得する。
  - Finderで一時的にApacheの設定ファイルのパーミッションをWebDAVサーバーを設定するユーザーに変える（WebDAVサーバーの設定後にパーミッションは元に戻してください）。
- WebDAVサーバーへの送信は、サーバーの認証を受ける必要があります。WebDAVサーバーを使用する前に、認証を有効にしてください。認証方法は、基本認証、ダイジェスト認証で、それ以外の認証方法では認証エラーとなります。ディレクトリータブに、基本認証とダイジェスト認証の両方を記述した場合は、最後の記述が有効になります。認証には、WebDAVサーバーのアドレス帳に登録されているユーザー名とパスワードを使用します。各認証の設定方法の詳細は、Apache Software Foundationのホームページ（http://www.apache.org/）を参照してください。

1 httpd.conf を編集します。

❑ 行頭の「#」を削除して、WebDAVモジュールを組み込みます。

変更対象となるディレクティブ：

- 変更前
  #LoadModule dav_module modules/mod_dav.so
  #LoadModule dav_fs_module modules/mod_dav_fs.so
- 変更後
  LoadModule dav_module modules/mod_dav.so
  LoadModule dav_fs_module modules/mod_dav_fs.so

❑ サーバー名称を設定します。

変更対象となるディレクティブ：

- 変更前
  #ServerName localhost:80
- 変更後
  #ServerName localhost:80
  ServerName Apache-Server.ccm.canon.co.jp:80

❑ ユーザーディレクトリーを変更します。

変更対象となるディレクティブ：

- 変更前
  UserDir "My Documents/My Website"
- 変更後
  # UserDir "My Documents/My Website"
  UserDir "C:/Program Files/Apache Group/Apache2/users""

❑ DAV機能を有効にするため、以下のディレクティブを追加します。

<Location /~user_name/WebDAV>

DAV On

</Location>

2 SSL 暗号化通信に必要な設定を行ったあと、Apache サービスが SSL に対応した状態で起動するように httpd.conf を変更します。

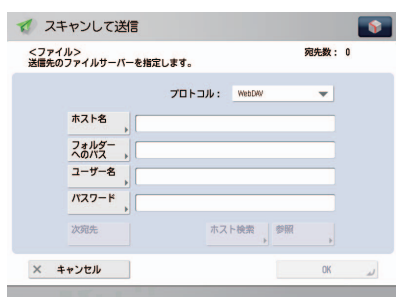
詳細については、Apache Software Foundation のホームページ（http://www.apache.org/）を参照してください。

3 Apache を再起動します。

4 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定例：

• サーバー側の設定
C:/Program Files/Apache Group/Apache2配下にusers/user_name/WebDAVディレクトリーを作り、データの送信先にする。

• 本製品の宛先の設定
＜プロトコル＞：WebDAV
［ホスト名］：https://Apache-Server.ccm.canon.co.jp/
［フォルダーへのパス］：/~user_name/WebDAV/
［ユーザー名］：（WebDAVサーバーの基本認証、ダイジェスト認証に必要なユーザー名
［パスワード］：（WebDAVサーバーの基本認証、ダイジェスト認証に必要なパスワード）

重要

• 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角128文字（全角64文字）以内です。また、［フォルダーへのパス］は半角255文字（全角127文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるようにサーバー側を設定してください。
• タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されないことがあります。
• マスターブラウザーとなっているコンピューターと本製品の操作パネルの表示言語が異なる場合、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
• IPv6ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。
<IPv6アドレス>:<ポート番号>
例：[5aed:90a0:bc05:01d2:568a:2fc0:0001:12ee]:21000

5

CHAPTER

NetWare ネットワークで使用する（Windows）

本製品を NetWare ネットワークに接続して使用するための設定方法について説明しています。

NetWare ネットワークで使用するために必要な作業

NetWare ネットワークで使用するために必要な作業は、次のとおりです。

1 NetWare プリントサービスの設定（→ e- マニュアル > ネットワーク）

NetWare プリントサービスの設定を行います。（お使いのモデルによっては、コンピューターから印刷、ファクス送信を行うにはオプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては「ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境」（→ P.2-2）を参照してください。）

以下のいずれかのソフトウェアを使用してコンピューター上から設定できます。

- NWADMINまたはPCONSOLE（NetWareに付属のNovell社製ソフトウェア）
- キヤノン製のユーティリティーソフトウェア

2 プロトコルの設定（NetWare）（→ P.5-3）

プロトコルの設定を行います。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- リモートUI
- キヤノン製のユーティリティーソフトウェア

3 印刷またはファクス送信を行うコンピューターの設定（→ e- マニュアル > ネットワーク）

印刷またはファクス送信を行う各コンピューターの設定を行います。（お使いのモデルによっては、コンピューターから印刷またはファクス送信を行うにはオプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては、「ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境」（→ P.2-2）を参照してください。）

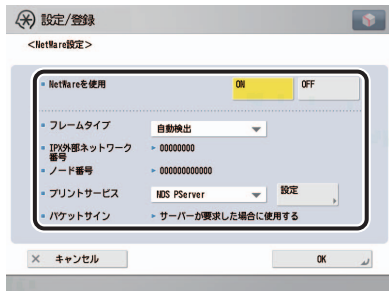
重要

- 手順1、2の作業は、お使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。
- 本製品の操作パネル、NWADMIN、またはPCONSOLE以外で設定を行う場合は、お使いのネットワーク環境でTCP/IPv4プロトコルが使用できる必要があります（IPv6には対応していません）。

プロトコルの設定（NetWare）

ここでは、本製品の操作パネルを使用してプロトコルを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、e- マニュアル > 設定 / 登録、リモート UI を参照してください。

1 **ネットワーク画面の［NetWare 設定］で、以下を設定します。**

＜ NetWare を使用＞：［ON］

フレームタイプドロップダウンリストから、使用するフレームタイプを選択します。［自動検出］を選択すると、フレームタイプを自動的に判断します。

プリントサービスドロップダウンリストから、「NetWare プリントサービスの設定」（→ e- マニュアル > ネットワーク）で設定したプリントサービスを選択します。プリントサービスの種類は以下のとおりです。

- Bindery PServer：キューサーバーモードで使用します。（バインダリーモードのプリントサービス）
- RPrinter：リモートプリンターモードで使用します。（バインダリーモードのプリントサービス）
- NDS PServer：キューサーバーモードで使用します。（NDSのプリントサービス）
- NPrinter：リモートプリンターモードで使用します。（NDSのプリントサービス）

重要
- ［NetWare設定］が表示されない場合は、担当サービスにお問い合わせください。
- <NetWareを使用>が「ON」に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。

2 ［設定］を押して、プリントサービスの詳細を設定します。

NDS PServer の設定画面

Bindery PServer の設定画面

「NetWare プリントサービスの設定」（→ e- マニュアル > ネットワーク）で設定したツリー名、コンテキスト名、ファイルサーバー名、プリントサーバー名を設定します。（設定項目はプリントサービスによって異なります。

設定方法は、［参照］を押して参照画面で各項目をリストから選択する方法と、各項目を文字入力する方法があります。

重要　各項目の値を参照画面でリストから選択する場合は、「起動時間の設定」（→ P.4-23）で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。

● NDS PServerまたはNPrinterを参照画面で設定する（ブラウズ権が特定のユーザーに限定されていない場合）

- ☐ 参照画面で［ログインスキップ］を押します。

  ブラウズ権が特定のユーザーに限定されていない場合は、NetWare にログインしなくても設定できます。

- ☐ 使用するプリントサーバーが属するツリー、使用するプリントサーバーが属するコンテキスト、使用するプリントサーバーを選択します。
- ☐ ［OK］を押します。
- ☐ NDS PServerの場合は、必要に応じてNDS PServer設定画面の各項目を設定します。

● NDS PServerまたはNPrinterを参照画面で設定する（ブラウズ権が特定のユーザーに限定されている場合）

- ☐ 参照画面で、ログインする＜ツリー＞を選択します。
- ☐ ［下へ］を押して、ログインする＜コンテキスト＞を選択します。
- ☐ ［ログイン］を押して、ネットワークパスワードの入力画面でブラウズ権が与えられているユーザーの［ユーザー名］と［パスワード］を入力します。

  ブラウズ権が特定のユーザーに限定されている場合は、ブラウズ権が与えられているユーザーとして NetWare にログインする必要があります。

  ユーザー名は "CN=username" の形式で入力します。パスワードが設定されていない場合は、［パスワード］には何も入力しないでください。

- ☐ ［OK］を押します。
- ☐ 使用するプリントサーバーが属するツリー、使用するプリントサーバーが属するコンテキスト、使用するプリントサーバーを選択します。
- ☐ NDS PServerの場合は、必要に応じてNDS PServer設定画面の各項目を設定します。

● **Bindery PServerまたはRPrinterを参照画面で設定する**

❑ 参照画面で使用するプリントサーバーが属する＜ファイルサーバー＞を選択します。

❑ ネットワークパスワードの入力画面で、ファイルサーバーの［ユーザー名］と［パスワード］を入力します。

パスワードが設定されていない場合は、［パスワード］には何も入力しないでください。

❑ ［下へ］を押して、＜プリントサーバー＞を選択します。

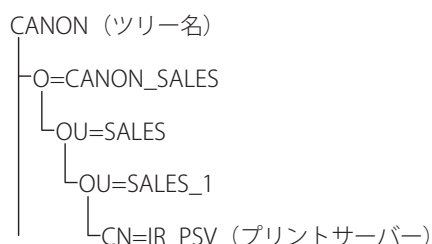
❑ ［OK］を押します。

❑ Bindery PServerの場合は、必要に応じてBindery PServer設定画面の各項目を設定します。

● **NDS PServerまたはNPrinterを文字入力で設定する**

❑ ［ツリー名］にプリントサーバーが属するツリー名を、［コンテキスト名］にプリントサーバーへのコンテキストを、［プリントサーバー名］にプリントサーバー名を入力します。

設定例：

```
CANON（ツリー名）
 |
 ├O=CANON_SALES
 |  |
 |  └OU=SALES
 |     |
 |     └OU=SALES_1
 |        |
 |        └CN=IR_PSV（プリントサーバー）
```

上記のような環境の場合、ツリー名、コンテキスト名は次のように入力します。

（左辺の「xx=」は省略できます。）

［ツリー名］：　CANON

［コンテキスト名］：　ou=SALES_1.ou=SALES.o=CANON_SALES
または SALES_1.SALES.CANON_SALES

❑ NDS PServerの場合は、必要に応じてその他の各項目を設定します。

● **Bindery PServerまたはRPrinterを文字入力で設定する**

❑ ［ファイルサーバー名］にプリントサーバーが属するファイルサーバー名を、［プリントサーバー名］にプリントサーバー名を入力します。

❑ Bindery PServerの場合は、必要に応じてその他の各項目を設定します。

SMB/CIFS ネットワークで使用する

本製品を SMB/CIFS ネットワークに接続して使用するための設定方法について説明しています。

SMB/CIFS ネットワークで使用するために必要な作業

SMB/CIFS ネットワークで使用するために必要な作業は、次のとおりです。

1 **プロトコルの設定（SMB/CIFS）（→ P.6-3）**

プロトコルの設定を行います。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- リモートUI

2 **印刷またはファクス送信を行うコンピューターの設定（→ e- マニュアル > ネットワーク）**

印刷またはファクス送信を行う各コンピューターの設定を行います。（お使いのモデルによっては、コンピューターから印刷またはファクス送信を行うにはオプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては、「ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境」（→ P.2-2）を参照してください。）

3 **ファイルサーバーの設定（SMB/CIFS）（→ P.6-6）**

本製品からのファイルの送信先となるコンピューターの設定を行います。

重要
- 手順1、3の作業は、お使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。
- 本製品では、SMB/CIFSネットワークで対応しているベースプロトコルはTCP/IPv4とTCP/IPv6です。NetBEUIには対応していません（プリントアプリケーションはSMBを使用します）。

プロトコルの設定（SMB/CIFS）

ここでは、本製品の操作パネルを使用してプロトコルを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、e- マニュアル > 設定 / 登録、リモート UI を参照してください。

TCP/IP の設定

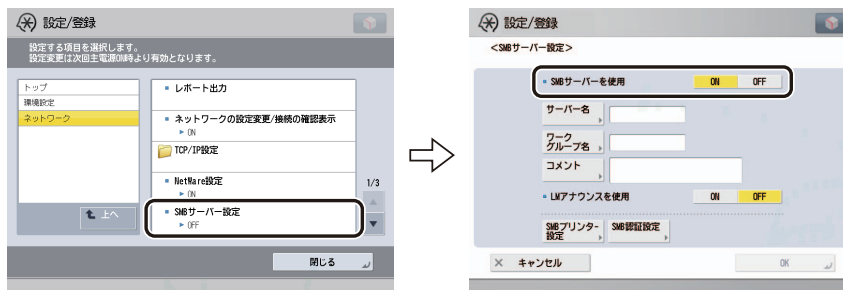
1 TCP/IP の設定を行います。

TCP の設定を行っていない場合は、「第 4 章　TCP/IP ネットワークで使用する」の「TCP/IPv4 の設定」（→ P.4-3）、「TCP/IPv6 の設定」（→ P.4-9）、および「TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定」（→ P.4-14）を参照して設定を行います。

SMB と WINS の設定

本製品を SMB/CIFS ネットワーク上で使用するには、本製品の SMB の設定が必要です。

WINS（Windows Internet Name Service）による名前解決を使用する場合は、続いて WINS の設定を行います。WINS は、NetBIOS 名（SMB/CIFS ネットワークでのコンピューター名やプリンター名）と、IP アドレスを対応させるサービスです。WINS を使用するには、WINS サーバーの IP アドレスの設定が必要です。

1 ネットワーク画面の［SMB サーバー設定］を押したあと、<SMB サーバーを使用 > を［ON］にします。

重要　<SMB サーバーを使用 > が「ON」に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。

2 SMB サーバー設定画面で、以下を設定します。

［サーバー名］：本製品が属するコンピューター名を入力します。ネットワーク上の他のコンピューターやプリンターなどで使用している名前と重複しない名前を入力してください。全角文字も使用できます。

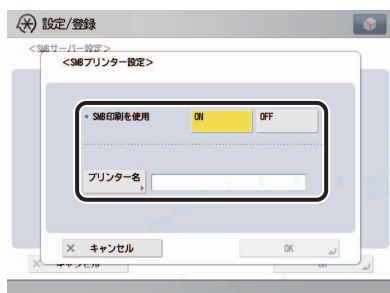
［ワークグループ名］：本製品が属するワークグループ名を入力します。お使いの環境にワークグループがない場合は、Windows 上でワークグループを作成して、そのワークグループ名を入力してください。全角文字も使用できます。

［コメント］：必要に応じてプリンターに関するコメントを入力します。プリンターの情報を見るときに、ここに指定したコメントが表示されます。全角文字も使用できます。

<LM アナウンスを使用 > を「ON」：本製品の存在を LAN Manager に通知できます。

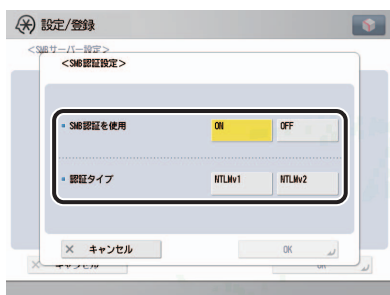
<LM アナウンスを使用 > を「OFF」：LAN Manager から本製品を参照する必要がない場合は、［OFF］を選択するとネットワークのトラフィックを抑えられます。

重要
- ［ワークグループ名］にドメイン名は指定できません。
- ［サーバー名］と［ワークグループ名］にはスペースを含む名称を設定できません。

3 SMB プリンターを設定するには、［SMB プリンター設定］を押して、以下を設定します。

<SMB 印刷を使用 > を「ON」：SMB 印刷を使用できます。

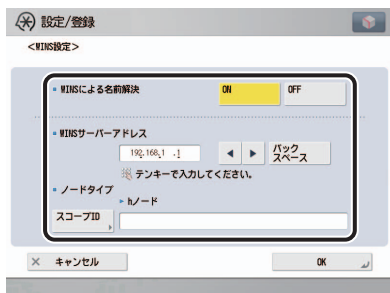
［プリンター名］：本製品のプリンター名を入力します。

重要
- ［プリンター名］にはスペースを含む名称を設定できません。
- お使いのモデルによっては、コンピューターから印刷またはファクス送信を行うには、オプションを追加する必要があります。それぞれに必要なオプションについては、e-マニュアル >ネットワークについてを参照してください。

4 SMB 印刷に認証機能を使用するには、［SMB 認証設定］を押して、以下を設定します。

<SMB 認証を使用 > を「ON」：SMB 印刷を行うことができるのは、アドバンスドボックスのユーザー管理の認証を通過したユーザーだけです。（アドバンスドボックスのユーザー管理については、e- マニュアル > セキュリティーを参照してください。）また、SMB 印刷には NTLMv1 認証と NTLMv2 認証を使用できます。NTLMv1 認証と NTLMv2 認証は、同時に設定することもできます。

< 認証タイプ > の［NTLMv1］：NTLMv1 認証を使用します。

< 認証タイプ > の［NTLMv2］：NTLMv2 認証を使用します。Windows Vista/7/Server 2008 をお使いの場合に設定してください。

5 WINS の設定を行う場合は、TCP/IP 設定画面の［WINS 設定］で、以下を設定します。

< WINS による名前解決>を［ON］:WINS の名前解決を使用できます。［WINS サーバーアドレス］に、WINS サーバーの IP アドレスを入力してください。

お使いのネットワーク環境のコンピューター側でスコープ ID を設定しているときは、［スコープ ID］を入力します。スコープ ID は、プリンター、コンピューターが使用できる範囲を決めるための識別子です。WINS の名前解決を使用する場合もしない場合も、スコープ ID を参照します。

重要

- IPアドレスの決定方法がDHCPの場合、DHCPサーバーからWINSサーバーのIPアドレスを取得できるときにはいつでも、DHCPサーバーから取得したIPアドレスが上書きされます。
- スコープIDを設定したときは、スコープIDが異なるコンピューターとは通信できません。
- お使いのネットワーク環境のコンピューター側でスコープIDを設定していないときは、［スコープID］は空欄にしておいてください。
- ［SMBサーバー設定］の［サーバー名］と［ワークグループ名］を設定した状態で<WINSによる名前解決>を「ON」にした場合は、<SMBサーバーを使用>を「OFF」に設定しても、WINSの名前登録機能は有効になっています。

ファイルサーバーの設定（SMB/CIFS）

本製品からネットワーク上のコンピューターにファイルを送信するには、送信先となるコンピューター（ファイルサーバー）の設定が必要です。SMB/CIFS ネットワークでは、Windows の共有フォルダー、UNIX/Linux ＋ Samba の共有フォルダー、および Mac OS X+Samba の共有フォルダーへファイルを送信します。ここでは、共有フォルダーの設定手順について説明しています。

重要
- Sambaは、2.2.8a以降に対応しています。
- ここでは、本製品からのデータの送信先となるコンピューターの設定手順のみを説明しています。実際に本製品からネットワーク上のサーバーにデータを送信するには、本製品操作パネルで宛先を設定する必要があります。宛先の設定方法は、e-マニュアル > スキャンして送信を参照してください。
- ここで説明する操作の手順は、共有フォルダーの設定手順例です。お使いの環境によっては設定手順が異なることがあります。

TCP/IP ネットワークの接続

本製品からのファイルの送信先となるコンピューターに TCP/IP クライアントソフトウェアをインストールして、TCP/IP ネットワークを使用できるようにします。詳しくは、OS の説明書を参照してください。

TCP/IP ネットワークでは、FTP サーバーを本製品からのデータの送信先として設定できます。FTP サーバーの設定方法については、「ファイルサーバーの設定（TCP/IP）」（→ P.4-24）を参照してください。

SMB/CIFS ネットワークと共有フォルダーの設定

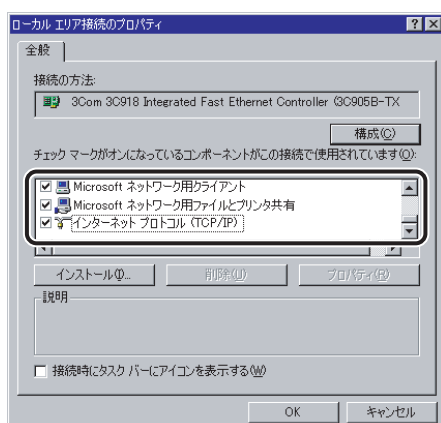
Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2 をお使いの場合

ファイルサーバーの設定は、お使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。

Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2 には、アクセスできるユーザー数またはクライアント数に制限があります。このユーザー数またはクライアント数を超えた場合、Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2 へはデータを送信できません。

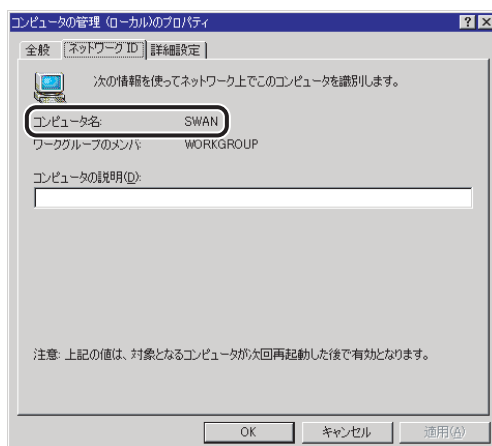
手順中の画面や項目名は、Windows 2000 のものです。お使いの OS の種類によっては、項目名などが異なることがあります。

メモ
Windows Vista 以降をお使いの場合には、操作の途中で確認ダイアログが表示されることがあります。そのようなときには、ユーザー名とパスワードを入力してください。詳細は、OS の説明書などを参照してください。

1 **管理者の権限で Windows にログオンしたあと、［ローカルエリア接続のプロパティ］ダイアログボックスで、［Microsoft ネットワーク用クライアント］、［Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有］、［インターネットプロトコル（TCP/IP）］のすべてにチェックマークを付けます。**

2 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をダブルクリックして、［インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ］ダイアログボックスを表示します。

3 ［全般］ページで［詳細設定］をクリックしたあと、［WINS］ページで［NetBIOS over TCP/IP を有効にする］を選択します。

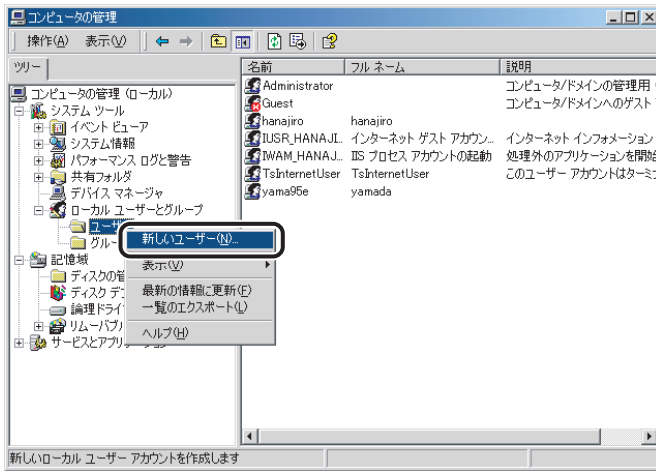
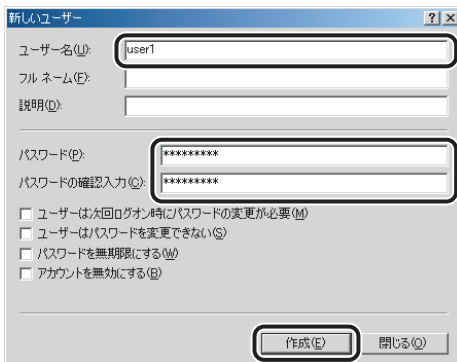
4 必要に応じてコンピューターを再起動します。

5 コンピュータ名を確認します。

Windows 2000 の場合は、［マイコンピュータ］の［管理］をクリックして［コンピュータの管理］ウィンドウを開きます。［コンピュータの管理（ローカル）］の［プロパティ］を選択して［コンピュータの管理（ローカル）のプロパティ］ダイアログボックスを表示して、［ネットワーク ID］ページで［コンピュータ名］を確認します。

Windows XP/Server 2003 の場合は、［マイコンピュータ］の［プロパティ］を選択して、［コンピュータ名］ページで［変更］をクリックします。［コンピュータ名の変更］ダイアログボックスで［詳細］をクリックして、［DNS サフィックスと NetBIOS コンピュータ名］ダイアログボックスを表示して、［NetBIOS コンピュータ名］を確認します。

Windows Vista/Server 2008 の場合は、［コンピュータ］の［プロパティ］を選択して、［コンピュータ名、ドメインおよびワークグループの設定］の［設定の変更］をクリックします。［システムのプロパティ］ダイアログボックスの［コンピュータ名］ページで、［変更］をクリックします。［コンピュータ名 / ドメイン名の変更］ダイアログボックスの［詳細］をクリックします。表示されたダイアログボックスの［NetBIOS コンピュータ名］を確認します。

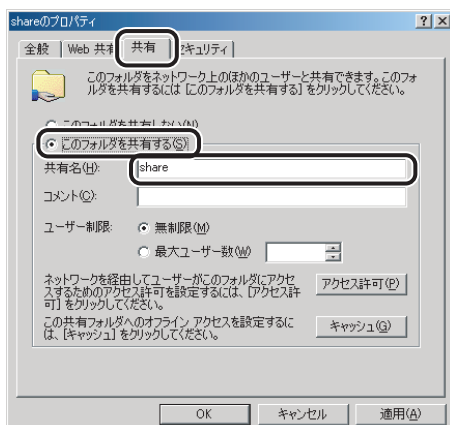
Windows 7/Server 2008 R2 の場合は、［コンピューター］の［プロパティ］を選択して、［コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定］の［設定の変更］をクリックします。［システムのプロパティ］ダイアログボックスの［コンピューター名］ページで、［変更］をクリックします。［コンピューター名 / ドメイン名の変更］ダイアログボックスの［詳細］をクリックします。表示されたダイアログボックスの［NetBIOS コンピューター名］を確認します。

6 ［マイコンピュータ］の［管理］をクリックして、［コンピュータの管理］ウィンドウを開き、［システムツール］の中の［ローカルユーザーとグループ］の［ユーザー］フォルダーから［新しいユーザー］を選択します。

7 ［新しいユーザー］ダイアログボックスで、［ユーザー名］、［パスワード］、［パスワードの確認入力］を入力して、［作成］をクリックします。

ユーザー名は半角20文字（全角10文字）以内、パスワードは半角14文字以内で設定します。

［ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要］にチェックマークを付けて新規ユーザーを追加した場合は、新規ユーザーはいったんパスワードを変更してからでないと、本製品からはファイルを送信できません。（本製品ではパスワードは変更できません。）

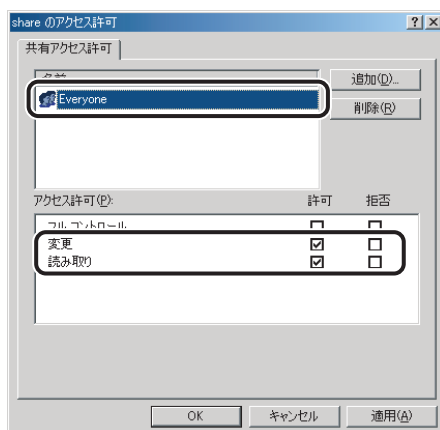
メモ

- Active Directory環境では、ユーザーの登録手順は上記と異なります。詳細は、Windowsの説明書を参照してください。
- Active Directory環境でユーザーがログオンできるコンピューターが管理者によって制限されている場合、コンピューターの名前をActive Directoryに登録しておく必要があります。ユーザーアカウントのプロパティダイアログボックスでコンピューター名に「CANON+コンピューターのMACアドレスの下8桁+00」を設定してください。例えば、お使いのコンピューターのMACアドレスが「00:00:11:22:33:44」のときには、CANON1122334400を設定します。

8 共有するフォルダーのプロパティダイアログボックスを開き、［共有］ページで［このフォルダを共有する］を選択したあと、［共有名］を入力します。

9 アクセス許可を設定します。

● 共有フォルダーを作成したドライブがFATまたはFAT32フォーマットの場合（［セキュリティ］タブがない場合）

□ ［アクセス許可］をクリックして、ダイアログボックスを表示します。

共有するフォルダーへのアクセスを許可するユーザーまたはグループを選択して、［アクセス許可］で、［変更］と［読み取り］の両方にチェックマークを付けます。

● 共有フォルダーを作成したドライブがNTFSフォーマットの場合

□ ［セキュリティ］ページを表示します。

共有するフォルダーへのアクセスを許可するユーザーまたはグループを選択あるいは追加して、［アクセス許可］で、［書き込み］と［読み取りと実行］以上のアクセス権を設定します。フォルダー内のファイルには、［書き込み］と［読み取り］以上のアクセス権を設定します。

メモ

- Windows XPで［セキュリティ］タブを表示するには、Windows XPのフォルダオプションで［簡易ファイルの共有を使用する］のチェックマークを外します。
  ［簡易ファイルの共有を使用する］にチェックマークを付けると、ファイルを共有できます。お使いの環境に合わせて設定してください。
  詳しい手順は、Windows XPの説明書を参照してください。
- Active Directory環境では、共有フォルダーのセキュリティーの設定手順は上記と異なります。詳細は、Windowsの説明書を参照してください。

10 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定は、［参照］を押してリストから選択する方法、［ホスト検索］を押して検索する方法、および各項目を文字入力する方法があります。

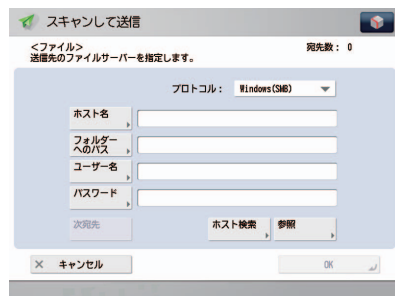
宛先の設定例：

- サーバー側の設定（上記手順で設定、確認した内容）

［コンピュータ名］／［NetBIOS コンピュータ名］：	swan
［共有名］：	share

share の中に Images というフォルダーを作り、Images をファイルの送信先にする。

- 本製品の宛先の設定

＜プロトコル＞：	Windows（SMB）
［ホスト名］：	¥¥swan¥share（共通フォルダーのパス）
［フォルダーへのパス］：	¥Images
［ユーザー名］：	（上記手順で設定したユーザー名）
［パスワード］：	（上記ユーザーのパスワード）

重要

- 各項目の値を参照画面でリストから選択する場合は、「起動時間の設定」（→P.4-23）で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。
- 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角128文字（全角64文字）以内です。また、［フォルダーへのパス］には半角255文字（全角127文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるように、サーバー側を設定してください。
- タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
- マスターブラウザーとなっているコンピューターと本製品の操作パネルの表示言語が異なる場合、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ

- 宛先の［ホスト名］は、次の形式でも指定できます。後者の場合はDNSサーバーが必要です。
  ¥¥192.168.2.100¥share
  ¥¥host_name.organization.company.co.jp¥share
- 宛先の［ユーザー名］は、次の形式でも指定できます。
  - domain_name¥user_name（ドメイン名は半角15文字（全角7文字）以内、ユーザー名は半角20文字（全角10文字）以内）
    この形式でユーザー名を設定すると、指定したドメインでのユーザーの権限がSMB通信に適用されます。
  - user_name@organization.company.com（全部で半角128文字（全角64文字）以内）
    この形式は、Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2がドメインコントローラーとなっているドメインに属しているWindows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2に送信するときのみ、指定可能です。

UNIX/Linux/Mac OS X 10.3/10.4 で Samba をお使いの場合

Samba は、2.2.8a 以降に対応しています。

お使いの環境によっては、Samba を使用するための詳細な設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いのネットワーク環境の管理者にご相談ください。

1 Samba の共有フォルダーにアクセスするユーザーとパスワードを設定します。

ユーザー名は半角 20 文字以内、パスワードは半角 14 文字以内で設定します。

● **UNIX/Linux：**

□ ワークステーションにスーパーユーザーとしてログインしたあと、ユーザー名とパスワードを設定します。

● **Mac OS X 10.3/10.4：**

□ Macintoshの説明書を参照して、ユーザー名とパスワードを設定します。

2 本製品の操作パネルで宛先を設定します。

宛先の設定は、［参照］を押してリストから選択する方法、［ホスト検索］を押して検索する方法、および各項目を文字入力する方法があります。

宛先の設定例：

• サーバー側の設定

コンピューター名：	swan
共有名：	share

share の中に Images というフォルダーを作り、Images をデータの送信先にする。

• 本製品の宛先の設定

＜プロトコル＞：	Windows (SMB)
［ホスト名］：	¥¥swan¥share（共有フォルダーのパス）
［フォルダーへのパス］：	¥Images
［ユーザー名］：	（上記手順で設定したユーザー名）
［パスワード］：	（上記ユーザーのパスワード）

画面の例は、Windows 2000/XP/Vista/7/Server 2003/Server 2008/Server 2008 R2 の画面（→ P.6-6）を参照してください。

重要
• 各項目の値を参照画面でリストから選択する場合は、「起動時間の設定」（→P.4-23）で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。
• 操作パネルの［ホスト名］に入力できるのは、半角128文字（全角64文字）以内です。また、［フォルダーへのパス］には半角255文字（全角127文字）以内です。それぞれ制限文字数以内になるように、サーバー側を設定してください。
• タッチパネルディスプレーの表示言語を切り替えると、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。
• マスターブラウザーとなっているコンピューターと本製品の操作パネルの表示言語が異なる場合、［ホスト名］や［フォルダーへのパス］が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ
• 宛先の［ホスト名］は、次の形式でも指定できます。後者の場合はDNSサーバーが必要です。
¥¥192.168.2.100¥share
¥¥host_name.organization.company.co.jp¥share
• 宛先の［ユーザー名］は、次の形式でも指定できます。
  • domain_name¥user_name（ドメイン名は半角15文字（全角7文字）以内、ユーザー名は半角20文字（全角10文字）以内）
  この形式でユーザー名を設定すると、指定したドメインでのユーザーの権限がSMB通信に適用されます。

AppleTalk ネットワークで使用する（Macintosh）

AppleTalk ネットワークに接続して本製品を使用するための設定方法について説明しています。

AppleTalk ネットワークで使用するために必要な作業

AppleTalk ネットワークで使用するために必要な作業は、次のとおりです。

1 Macintosh のネットワークの設定

AppleTalk ネットワークの設定を行うには、Macintosh の説明書を参照して AppleTalk を有効にしてください。

2 プロトコルの設定（AppleTalk）（ → P.7-3）

本プロトコルの設定を行います。以下のいずれかを使用して設定できます。

- 本製品の操作パネル
- リモートUI
- キヤノン製のユーティリティーソフトウェア

3 印刷を行うコンピューターの設定（→ e- マニュアル > ネットワーク）

印刷を行う各コンピューターの設定を行います。

重要

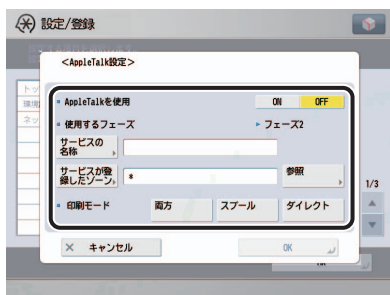
- お使いのモデルによっては、印刷するにはオプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境」（→P.2-2）を参照してください。
- 手順2の作業は、お使いのネットワーク環境の管理者と相談して設定することをおすすめします。

プロトコルの設定（AppleTalk）

ここでは、本製品の操作パネルを使用してプロトコルを設定する方法について説明しています。最初に設定を行うときは、本製品の操作パネルを使用してください。

最初の設定後に設定内容を変更する場合は、本製品の操作パネル以外を使用することもできます。詳細は、e- マニュアル > 設定 / 登録、リモート UI を参照してください。

重要 お使いのモデルによっては、AppleTalk ネットワークで印刷するにはオプションを追加する必要があります。必要なオプションについては、「ネットワークに接続して使用する場合に必要なオプションとシステム環境」（→ P.2-2）を参照してください。

1 ネットワーク画面の［AppleTalk 設定］で、以下を設定します。

＜ AppleTalk を使用＞を［ON］：AppleTalk ネットワークを使用できます。

［サービスの名称］に、半角 32 文字（全角 16 文字）以下でプリンターの名称を入力します。ここで設定した名称が Macintosh のプリンター画面に表示されます。

お使いのネットワーク環境にゾーンが設定されている場合は［サービスが登録したゾーン］にゾーン名称を入力します。

PS 拡張キットを有効にして PS プリンタードライバーを使用する場合は、印刷ジョブにスプールを適用するかどうかを設定します。

［スプール］：［サービスの名称］で指定したプリンターは、印刷ジョブをハードディスクに常にスプールしてから印刷します。［サービスの名称］で「Printer1」と入力して＜印刷モード＞を［スプール］に設定した場合、Macintosh のプリンター画面には、「Printer1_S」と表示されます。

［ダイレクト］：［サービスの名称］で指定したプリンターは、印刷ジョブをハードディスクに常にスプールせずに印刷します。［サービスの名称］で「Printer2」と入力して＜印刷モード＞を［ダイレクト］に設定した場合、Macintosh のプリンター画面には、「Printer2_D」と表示されます。

［両方］：［サービスの名称］で指定したプリンターは、印刷ジョブをハードディスクにスプールしてから印刷することも、ハードディスクにスプールせずに印刷することもできます。［サービスの名称］で「Printer3」と入力して＜印刷モード＞を［両方］に設定した場合、Macintosh のプリンター画面には、「Printer3_S」、および「Printer3_D」と表示されます。そのため、印刷するたびに Macintosh のプリンター画面で印刷ジョブをスプールするかどうかを選択できます。

重要
- <AppleTalkを使用>が「ON」に設定されている場合、本製品は完全なスリープ状態には移行しません。
- プリンターが同じゾーン内に複数あるときは、それぞれ固有の名称を付けてください。
- ゾーン名称は、［参照］を押してリストから選択することもできます。

コンピューターから本製品を管理する

コンピューターから本製品を管理するために使用する、リモート UI、SMS で必要なシステム環境、起動の準備について説明しています。

リモート UI を使用するために必要なシステム環境

リモート UI は、以下のシステム環境での動作を保証しています。

■ Windows

OS	対応ブラウザー
Windows 2000 Professional Windows XP Windows Vista Windows 7	Microsoft Internet Explorer 6 以降

■ Macintosh

OS	対応ブラウザー
MacOS 10.3 以降	Safari 1.3.2 以降

重要

- MEAPのログインサービスによっては、使用できるブラウザーが制限される場合があります。ログインサービスの詳細は、e-マニュアル > MEAPを参照してください。
- お使いのWebブラウザーの種類やバージョンによっては、リモートUIの画面表示が異なる場合があります。
- 本製品は、IPv6アドレスにも対応しています。IPv6アドレスにアクセスするには、お使いの環境がIPv6に対応している必要があります。

メモ

Web サーバーなど、上記以外のソフトウェアは必要ありません。（Web サーバーは本製品に内蔵されています。）

リモート UI を起動する前に（準備）

管理者は、リモート UI を起動する前に、以下の設定を行ってください。

■ ネットワーク設定

［環境設定］（設定／登録）の［ネットワーク］の項目を設定します。また本製品の IP アドレスを確認してください。（→プロトコルの設定（TCP/IP）：P.4-3）

■ リモートUIを「ON」に設定する

［管理設定］（設定／登録）の［リモート UI の ON/OFF］を「ON」に設定します。また、［デバイス管理］（設定／登録）の［デバイス情報の設定］で設定しておくことをおすすめします。

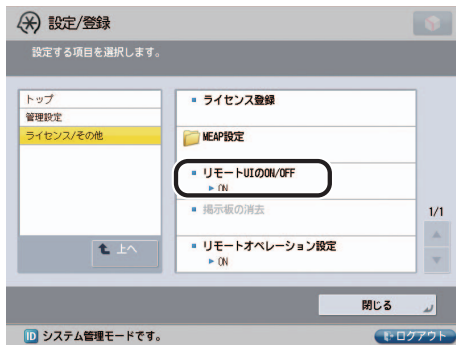
重要

- プロキシーサーバー経由での接続はできません。プロキシーサーバーをお使いの環境では、以下のような設定を行ってください。（設定はネットワーク環境によって異なりますので、お使いのネットワーク環境の管理者に相談してください。）
  - Webブラウザーのプロキシーサーバーの設定で、［例外］（プロキシーを使用しないアドレス）に本製品のIPアドレスを追加します。
- Webブラウザーで、クッキー（Cookie）、Java Scriptが利用できるように設定していない場合は、本製品の設定を変更できません。
- 本製品の操作パネルを使用しているときは、リモートUIで同じ操作をすると最後に行った設定が有効になります。
- 同時に複数のリモートUIを起動しているときは、最後に行った設定が有効になります。
  リモートUIは1つだけ起動することをおすすめします。
- Webブラウザーから文字を入力するときは、本製品のタッチパネルディスプレーから入力できる文字を使用してください。それ以外の文字を使用すると、本製品で正常に表示／認識されないことがあります。

リモート UI を有効にする

リモート UI を有効にするかどうかの設定は、本製品の操作パネルから行います。

メモ　［リモート UI の ON/OFF］を「ON」に設定することで、必要なポートが開放されるようになっていますが、使用しない場合は「OFF」に設定することをおすすめします。ポートを開放した状態では、第三者から不正アクセスされる可能性があります。

1 （設定／登録）→［管理設定］→［ライセンス / その他］→［リモート UI の ON/OFF］を押します。

2 ［ON］を押して SSL を使用するかどうか選択します。

リモート UI を有効にしない場合は［OFF］を押します。

< SSL を使用>：

［ON］：SSL のセキュア通信を使用します。
［OFF］：SSL のセキュア通信を使用しません。

<参照印刷を使用>：

［ON］：URL を指定してプリントできます。
［OFF］：URL を指定してプリントできません。

メモ　［SSL を使用］の設定変更は、［管理設定］（設定／登録）にある［ライセンス / その他］の［SSL を使用］にも適用されます。

3 ［OK］を押します。

指定したモードが設定されます。

4 本製品の主電源を切り、10 秒以上待ってからもう一度主電源スイッチを入れなおします。

メモ　リモート UI の ON/OFF の設定は、本製品の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。電源の入れかた／切りかたは、「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

SMS を使用するために必要なシステム環境

SMS は、以下のシステム環境での動作を保証しています。

■ OS／対応ブラウザー

OS	対応ブラウザー
Windows 2000 Professional SP4	Internet Explorer 6 SP1
Windows XP Professional SP3	Internet Explorer 7
Windows Vista SP2	Internet Explorer 8
Windows 7	Internet Explorer 8
Mac OS X 10.3	Safari 1.3.2
Mac OS X 10.4	Safari 2.0.4
Mac OS X 10.5	Safari 3.1.2
Mac OS X 10.6	Safari 4.0.3

重要　ブラウザーは以下のように設定されている必要があります。
- JavaScriptが有効な状態になっている
- セッションごとのCookieの使用が有効な状態になっている

メモ　Web サーバーなど、上記以外のソフトウェアは必要ありません。（Web サーバーは本体に内蔵されています。）

SMS を起動する前に（準備）

管理者は、SMS を起動する前に、本体を起動して以下のことを行ってください。

■ ネットワーク設定

［環境設定］（設定／登録）の［ネットワーク］の項目を設定します。また本体の IP アドレスを確認してください。IP アドレスがわからないときは、管理者にご連絡ください。（→プロトコルの設定（TCP/IP）：P.4-3）

■ SSLの設定をする

［管理設定］（設定／登録）にある［ライセンス / その他］の［MEAP 設定］の［SSL 設定］を「ON」にしておきます。「ON」にしないと SMS にログインすることができません。

■ Webブラウザーから本体にアクセスできるようにする

［環境設定］（設定／登録）にある［ネットワーク］の［TCP/IP 設定］の［HTTP を使用］を「ON」に設定しておきます。「ON」にしないと Web ブラウザーから本体にアクセスできません。

重要

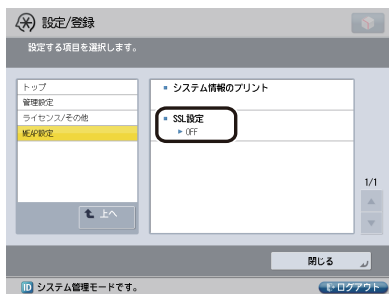
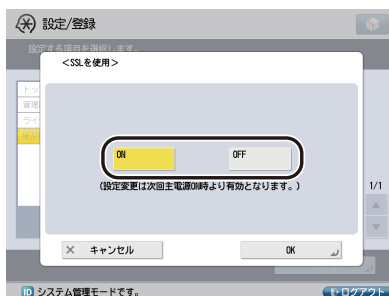
- プロキシーサーバー経由で接続することはできません。プロキシーサーバーをお使いの環境では、以下のような設定を行ってください。（設定はネットワーク環境によって異なりますので、環境の管理者に相談してください。）
  - Webブラウザーのプロキシーサーバーの設定で、［例外］（プロキシーを使用しないアドレス）に本体のIPアドレスを追加します。
- Webブラウザーで、クッキー（Cookie）、JavaScriptが利用できるように設定していない場合は、SMSを使用することはできません。
- Webブラウザーから文字を入力するときは、本体のタッチパネルディスプレーから入力できる文字を使用してください。それ以外の文字を使用すると、本体で正常に表示／認識されないことがあります。

SSL の設定をする

SMS を使用する場合、SSL 通信を使用する必要があります。

メモ　工場出荷時は、「OFF」に設定されています。

1 （設定／登録）→［管理設定］を押します。

2 ［ライセンス / その他］→［MEAP 設定］→［SSL 設定］を押します。

3 ［ON］を押します。

［ON］：SSL 通信を使用します。

［OFF］：SSL 通信を使用しません。

メモ
- ［SSLを使用］のON/OFFの設定は、［管理設定］（設定／登録）の［リモートUI のON/OFF］の<SSLを使用>のON/OFFの設定と連動します。
- ［SSLを使用］を「ON」に設定するには、［管理設定］（設定／登録）の［証明書設定］でSSL 暗号化通信に必要な鍵ペアとサーバー証明書を設定する必要があります。SSLの鍵生成については、e-マニュアル > セキュリティーを参照してください。

4 ［OK］を押します。

指定したモードが設定されます。

5 本体の主電源を切り、10 秒後に電源を入れなおします。

メモ　［SSL を使用］の ON/OFF の設定は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。電源の入れかた／切りかたは、「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

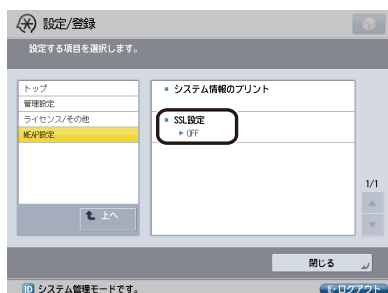
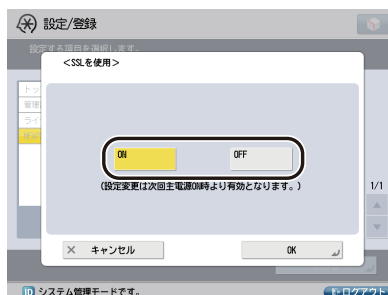
Web ブラウザーから本体にアクセスできるようにする

Web ブラウザーから本製品にアクセスして MEAP 機能を使用する場合に使用します。

重要　［HTTP を使用］を「ON」に設定することで必要なポートを開くことができますが、ポートを使用しない場合は「OFF」にすることをおすすめします。ポートを開いたままにしておくと、第三者から不正にアクセスされる可能性があります。

メモ　工場出荷時は、「ON」に設定されています。

1　（設定／登録）→［環境設定］を押します。

2　［ネットワーク］→［TCP/IP 設定］→［HTTP を使用］を押します。

3　［ON］を押します。

［ON］：HTTP を使用します。

［OFF］：HTTP を使用しません。

4　［OK］を押します。

指定したモードが設定されます。

5　本体の主電源を切り、10 秒後に電源を入れなおします。

重要　［HTTP を使用］の ON/OFF の設定は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。電源の入れかた／切りかたは、「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

9 CHAPTER

システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする

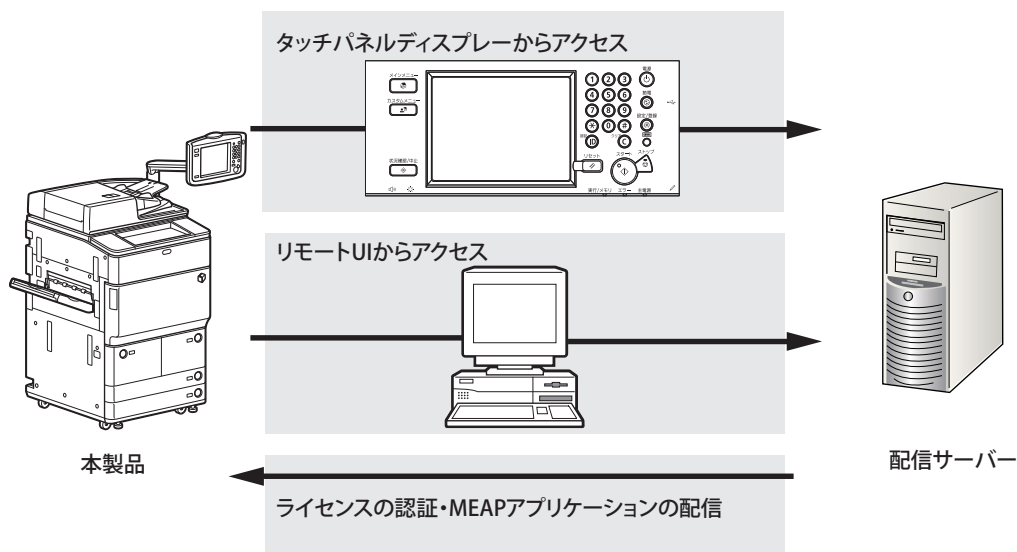
システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする方法について説明します。

こんなことができます

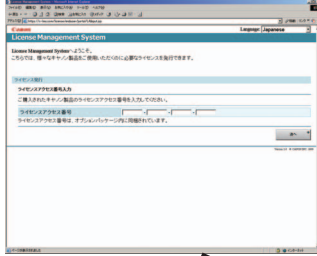
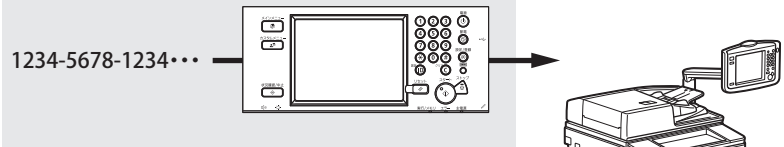
「ソフトウェアの登録／更新」の機能を使って、システムオプション／ MEAP アプリケーションを本製品にインストールできます。タッチパネルディスプレー、コンピューター（リモート UI）のどちらからでも、本機能を使用することが可能です。

メモ
- 複数のユーザーが同時に「ソフトウェアの登録／更新」を使用することはできません。
- 他のユーザーがSMS（Service Management Service）にログインしている場合、リモートUI から「ソフトウェアの登録／更新」を使用することはできません。
- 以下の操作を行うと、一定時間リモートUI から「ソフトウェアの登録／更新」を使用できません。
  - SMS のRemote Login Service が設定されている場合に、［ポータル］または［ログアウト］を押さずにWeb ブラウザーを終了したとき
  - SMS のRemote Login Service が設定されていない場合に、［ポータル］を押さずにWeb ブラウザーを終了したとき
  - SMS の［ログアウト］、［SMS からのログアウト］、［リモートUI へ］を押さずにWeb ブラウザーを終了したとき
- SMS についての詳細は、e-マニュアル > MEAP を参照してください。

本製品を外部ネットワークに接続して作業する場合

本製品から配信サーバーにアクセスして、システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールできます。

9
システムオプション／MEAP アプリケーションをインストールする

本製品を外部ネットワークに接続しないで作業する場合

License Management System から取得したライセンスファイル／ライセンスキーを使って、システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールできます。

ライセンス登録が必要なシステムオプション／ MEAP アプリケーションをお使いになるには

システムオプションと MEAP アプリケーションについて

さまざまなシステムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールして、本製品の機能を拡張できます。

■ システムオプション

本製品にインストールできるシステムオプションは、以下となります。

- LIPS V拡張キット
- PS拡張キット
- ダイレクトプリント拡張キット（PDF/XPS用）
- リモートFAX送信キット
- スキャンソリューション機能拡張キット
- スキャンソリューションセキュリティー機能拡張キット
- ユーザー署名＆タイムスタンプ拡張キット
- 暗号化セキュアプリントキット
- 地紋拡張キット
- ジョブロック拡張キット
- データ消去キット
- ウェブブラウザー拡張キット
- モバイル接続キット
- ACCESS MANAGEMENT SYSTEM拡張キット
- リモートオペレーションキット

■ MEAPアプリケーション

上記のシステムオプション以外で本製品の機能を拡張する場合は、MEAP アプリケーションをインストールします。

メモ

以下のような MEAP アプリケーションの管理を行う場合は、SMS（Service Management Service）をお使いください。（→ e- マニュアル > MEAP）

- 本製品にインストールされているMEAP アプリケーションの確認
- MEAP アプリケーションが使用しているハードディスク領域の確認
- すでにインストールされているMEAPアプリケーションへのライセンス追加

システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする方法について

本製品にシステムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする方法は、本製品を外部ネットワークに接続して作業する場合と、接続しないで作業する場合とで異なります。以下を参照のうえ、ご使用の条件にあった方法を選択してください。

メモ　本製品を外部ネットワークに接続する方法は、「第 4 章 TCP/IP ネットワークで使用する」を参照してください。

本製品を外部ネットワークに接続して作業する場合

以下のいずれかの方法でインストールしてください。

メモ　配信サーバーと正常に通信が行われるかを確認するため、必要に応じて、インストールする前に通信テストを行ってください。（「タッチパネルディスプレーから通信テストを行う」（→ P.11-4)、「リモート UI から通信テストを行う」（→ P.11-7)）

方法	参照ページ
タッチパネルディスプレーからのインストール	タッチパネルディスプレーからインストールする（配信）（→ P.9-6）
リモート UI からのインストール	リモート UI からインストールする（配信）（→ P.9-8）

本製品を外部ネットワークに接続しないで作業する場合

■ システムオプションのインストール

以下のいずれかの方法でインストールしてください。

メモ　複数のシステムオプションをインストールするときは、リモート UI から作業することをおすすめします。

方法	必要な作業とその順序	参照ページ
タッチパネルディスプレーからのインストール	1. License Management System からのライセンスキー取得	ライセンスキー／ライセンスファイルを取得する（→ P.9-11）
	2. タッチパネルディスプレーからのライセンスキー登録	タッチパネルディスプレーからシステムオプションをインストールする（→ P.9-12）
リモート UI からのインストール	1. License Management System からのライセンスファイルの取得	ライセンスキー／ライセンスファイルを取得する（→ P.9-11）
	2. リモート UI からのライセンスファイルのインストール	リモート UI からシステムオプションをインストールする（手動）（→ P.9-13）

■ MEAP アプリケーションのインストール

以下の方法で、インストールしてください。

方法	必要な作業とその順序	参照ページ
リモート UI からのインストール	1. License Management System からのライセンスファイル取得	ライセンスキー／ライセンスファイルを取得する（→ P.9-11）
	2. リモート UI からのライセンスファイル・アプリケーションファイルのインストール	リモート UI から MEAP アプリケーションをインストールする（手動）（→ P.9-15）
	3. SMS からの MEAP アプリケーションの開始	MEAP アプリケーションを使用できる状態にする（→ P.9-18）

本製品を外部ネットワークに接続してインストールする

本製品を外部ネットワークに接続している場合は、配信サーバーとの連携によってシステムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールできます。

メモ　あらかじめ、パッケージに同梱されているライセンスアクセス番号証書を準備しておいてください。

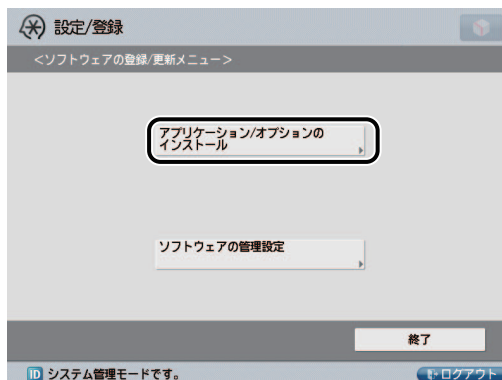
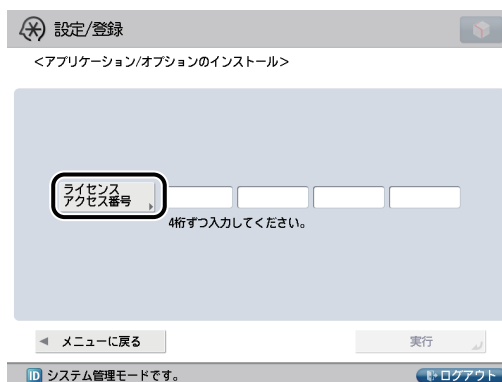
タッチパネルディスプレーからインストールする（配信）

タッチパネルディスプレーから、本製品にシステムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールします。

重要　ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→タッチパネルディスプレーからログインする：P.1-22）

メモ
- インストールできるMEAPアプリケーションは、最大19個までです。
- MEAPアプリケーションが使用できるハードディスク領域は、最大約1GBまでです。
- MEAP アプリケーションによっては、インストールに特定の条件を必要とする場合があります。詳細については、各MEAPアプリケーションの取扱説明書を参照してください。

1 （設定／登録）→ [管理設定] → [ライセンス / その他] → [ソフトウェアの登録 / 更新] を押します。

2 [アプリケーション / オプションのインストール] を押します。

3 [ライセンスアクセス番号] を押します。

4 ライセンスアクセス番号を 4 桁ずつ入力します。

ライセンスアクセス番号を 4 桁入力→ [OK] を押します。この操作を 4 回繰り返して、計 16 桁のライセンスアクセス番号を入力します。

5 [実行] を押します。

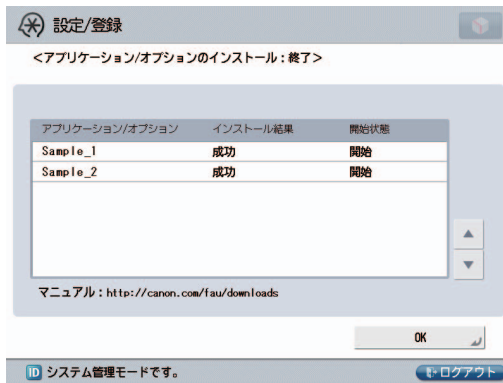
6 システムオプション、MEAP アプリケーションを選択したあと、[インストール] を押します。

[開始しない]：MEAP アプリケーションのインストールのみを行い、開始しない場合に押します。

重要 MEAP アプリケーションのインストール時に [開始しない] を押した場合は、MEAP アプリケーションを使用する前に開始の状態にする必要があります。（→ MEAP アプリケーションを使用できる状態にする：P.9-18）

メモ 複数のシステムオプション／ MEAP アプリケーションが選択できますが、同じ製品でバージョンが異なるものは、同時に選択できません。

契約画面が表示された場合は、内容を確認して [同意する] をクリックしてください。

7 インストール結果画面を確認します。

システムオプションのインストールに成功すると、<インストール結果>に「再起動後有効」というメッセージが表示されます。本製品を再起動して、機能を有効化してください。

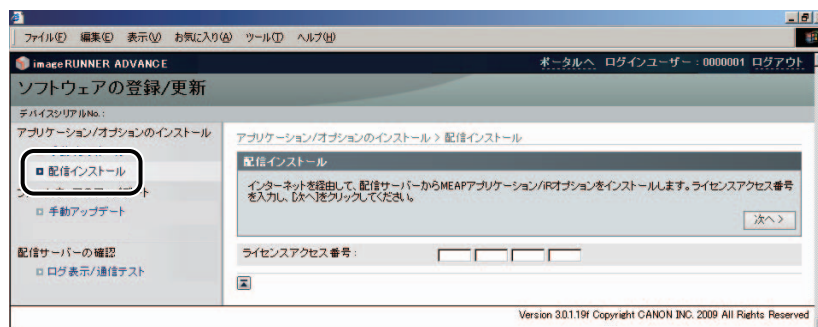
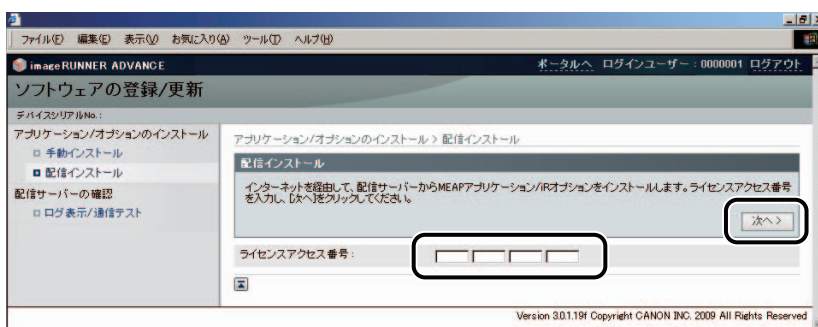
メモ お使いのコンピューターから、インストール結果画面に表示されるマニュアルダウンロードサイトの URL へアクセスして、インストールしたシステムオプション／ MEAP アプリケーションのマニュアルをダウンロードできます。（→マニュアルや関連ソフトウェアなどをダウンロードする：P.9-19）

リモート UI からインストールする（配信）

リモート UI から、本製品にシステムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールします。

重要 ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→リモート UI からログインする：P.1-23）

1 リモート UI のトップページから、［設定 / 登録］→［ライセンス / その他］→［ソフトウェアの登録 / 更新］をクリックします。

2 [配信インストール] をクリックします。

3 ライセンスアクセス番号を入力し、[次へ] をクリックします。

配信サーバーへの問い合わせ後、ライセンスアクセス番号が確認されると、インストールできるシステムオプション／ MEAP アプリケーションの情報が表示されます。

メモ　ライセンスアクセス番号が正しくない場合は、エラーページが表示されます。

4 システムオプション、MEAP アプリケーションを選択して、[インストール開始] をクリックします。

インストール後の動作：
開始：インストールした MEAP アプリケーションを開始状態にします。
停止：インストールした MEAP アプリケーションを停止状態にします。

重要　MEAP アプリケーションのインストール時に [停止] を選択した場合は、MEAP アプリケーションを使用する前に開始の状態にする必要があります。（→ MEAP アプリケーションを使用できる状態にする：P.9-18）

契約画面が表示された場合は、内容を確認して [同意します] をクリックします。

5 インストール結果ページを確認します。

システムオプションのインストールに成功すると、「デバイスを再起動してください。」というメッセージが表示されます。本製品を再起動して、機能を有効化してください。

[配信インストールへ] をクリックすると、配信インストールページへ戻ります。

メモ　インストール結果ページに表示されるマニュアルダウンロードサイトの URL へアクセスして、インストールしたシステムオプション／ MEAP アプリケーションのマニュアルをダウンロードできます。（→マニュアルや関連ソフトウェアなどをダウンロードする：P.9-19）

本製品を外部ネットワークに接続しないでインストールする

本製品を外部ネットワークに接続せずに作業する場合に、システムオプション／ MEAP アプリケーションをインストールする方法を説明します。

ライセンスキー／ライセンスファイルを取得する

ライセンスキーまたはライセンスファイルを取得します。

- ライセンスキー：タッチパネルディスプレーからシステムオプションをインストールするときに取得してください。
- ライセンスファイル：リモートUIからシステムオプション／MEAPアプリケーションをインストールするときに取得してください。

メモ
- あらかじめ、パッケージに同梱されているライセンスアクセス番号証書を準備しておいてください。
- お持ちのMEAP アプリケーションのパッケージにライセンスアクセス番号が記載されていない場合は、MEAP アプリケーションの販売元からライセンスファイルが支給されます。ここで説明しているライセンスキー／ライセンスファイルの取得は、必要ありません。詳細については、各MEAP アプリケーションの取扱説明書を参照してください。

1 ライセンスキー／ライセンスファイルを取得するために必要な管理番号を確認します。

ライセンスキー／ライセンスファイルを取得するには、以下の管理番号が必要になります。

- ライセンスアクセス番号：ライセンスアクセス番号証書をご確認ください。
- デバイスシリアルNo .：本製品の 123 を押したときに画面左下に表示される［シリアルNo.］を確認して、控えておいてください。

2 http://www.canon.com/lms/license/ にアクセスします。

3 画面の指示に従って、ライセンスキー／ライセンスファイルを取得します。

ライセンスキーを取得した場合は、「タッチパネルディスプレーからシステムオプションをインストールする」（→ P.9-12）を参照してください。

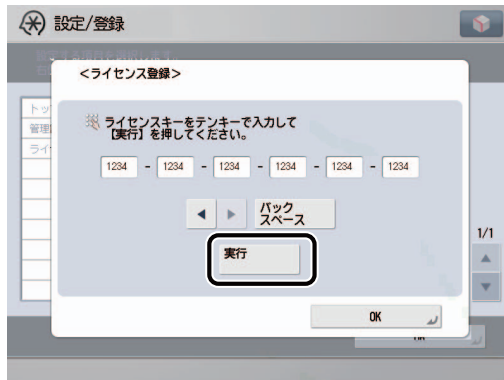
ライセンスファイルを取得した場合は、「リモート UI からシステムオプションをインストールする（手動）」（→ P.9-13）または「リモート UI から MEAP アプリケーションをインストールする（手動）」（→ P.9-15）を参照してください。

タッチパネルディスプレーからシステムオプションをインストールする

タッチパネルディスプレーからライセンスキーを登録して、本製品にシステムオプションをインストールします。

重要 ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→タッチパネルディスプレーからログインする：P.1-22）

1 （設定／登録）→［管理設定］→［ライセンス / その他］→［ライセンス登録］を押します。

2 0 - 9（テンキー）でライセンスキーを入力したあと、［実行］を押します。

表示される項目

［◀］［▶］：カーソルを移動するときに押します。

［バックスペース］：数字を押し間違えたときに押します。カーソル位置の手前の数字が消去されて、正しい数字が入力できます。

「ライセンスキーの値が正しくありません。ライセンスキーを確認してください。」というメッセージが表示されたときは、［OK］を押したあと、正しいライセンスキーを入力しなおしてください。
「インストールするために、必要な機能が足りません。」というメッセージが表示されたときは、ライセンスキーを登録できません。［OK］を押したあと、登録を中止してください。

3 ［OK］を押します。

登録した機能は、本製品の再起動後に使用できる状態になります。

リモート UI からシステムオプションをインストールする（手動）

リモート UI から、本製品にシステムオプションををインストールします。

重要 ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→リモート UI からログインする：P.1-23）

1 **リモート UI のトップページから、［設定 / 登録］→［ライセンス / その他］→［ソフトウェアの登録 / 更新］をクリックします。**

2 **［手動インストール］をクリックします。**

3 ［参照］をクリックして、インストールするライセンスファイルを選択し、[次へ] をクリックします。

ライセンスファイル：拡張子が「lic」のファイルです。

メモ
- アプリケーションファイルのパスは、使用しません。
- ファイルのパスを直接入力して指定することもできます。

4 インストールの確認ページの内容を確認して、[インストール] をクリックします。

リモート UI から MEAP アプリケーションをインストールする（手動）

リモート UI から、本製品に MEAP アプリケーションをインストールします。

重要 ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→リモート UI からログインする：P.1-23）

メモ

- インストールできるMEAPアプリケーションは、最大19 個までです。
- MEAPアプリケーションが使用できるハードディスク領域は、最大約1GB までです。
- MEAPアプリケーションによっては、インストールに特定の条件を必要とする場合があります。詳細については、各MEAPアプリケーションの取扱説明書を参照してください。

1 **リモート UI のトップページから、［設定 / 登録］→［ライセンス / その他］→［ソフトウェアの登録 / 更新］をクリックします。**

2 **［手動インストール］をクリックします。**

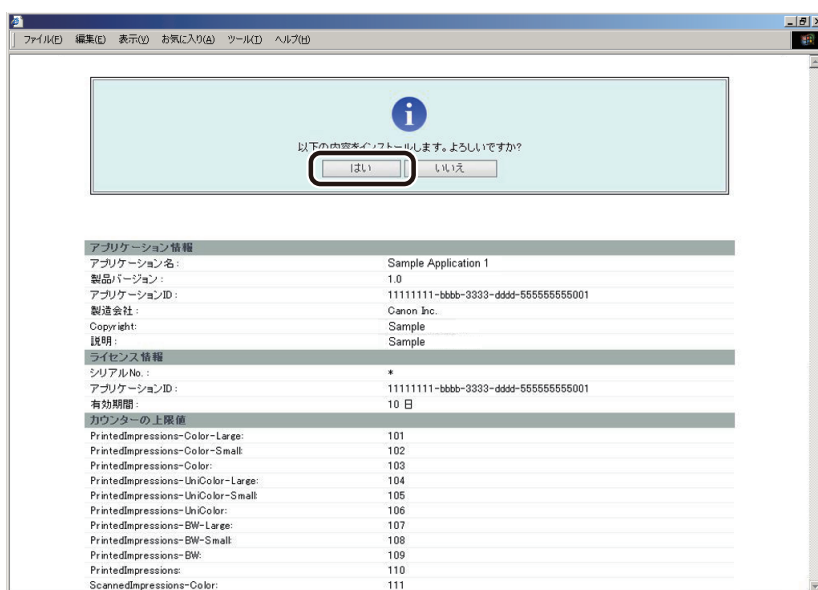
3 ［参照］をクリックして、インストールするアプリケーションファイルとライセンスファイルをそれぞれ選択し、［次へ］をクリックします。

アプリケーションファイル：拡張子が「jar」のファイルです。

ライセンスファイル：拡張子が「lic」のファイルです。

重要
- ライセンスファイルのみをインストールすることはできません。
- MEAPアプリケーションをインストールするときは、必ずライセンスファイルを指定してください。ライセンスファイルの指定をせずにインストールすることはできません。

メモ
ファイルのパスを直接入力して指定することもできます。

4 インストールの確認ページの内容を確認して、［はい］をクリックします。

MEAP アプリケーションによっては、使用許諾の画面が表示される場合があります。内容を確認して、［同意します］をクリックしてください。

新規に MEAP アプリケーションをインストールする場合に表示される画面には、以下の情報が記載されています。

- アプリケーション情報
- ライセンス情報

MEAP アプリケーションを上書きする場合に表示される画面には、以下の情報が記載されています。

- 現在のアプリケーション情報
- 上書き後のアプリケーション情報

「インストールしています ... しばらくお待ちください。」というメッセージが再び表示されたあと、インストールが始まります。インストールが終了したら、[手動インストールへ] をクリックして、手動インストール画面へ戻ります。

重要　インストールした MEAP アプリケーションを使用するには、MEAP アプリケーションを開始の状態にする必要があります。「MEAP アプリケーションを使用できる状態にする」（→ P.9-18）を参照してください。

MEAP アプリケーションを使用できる状態にする

SMS の画面から、インストールした MEAP アプリケーションを使用できる状態にします。

メモ　SMS の詳細については、e- マニュアル > MEAP を参照してください。

1 **SMS のトップページから、［MEAP アプリケーション管理］をクリックします。**

2 **開始する MEAP アプリケーションの [開始] をクリックします。**

マニュアルや関連ソフトウェアなどをダウンロードする

インストールしたシステムオプション／ MEAP アプリケーションのマニュアルや関連ソフトウェアなどを、以下の URL からダウンロードします。

http://canon.com/fau/downloads

メモ
- あらかじめ、パッケージに同梱されているライセンスアクセス番号証書を準備しておいてください。
- ダウンロードするマニュアルがない場合は、本製品に同梱されているe-マニュアル内の機能の説明を参照してください。
- リモートUI からインストールした場合は、インストール結果画面に表示されるリンクから上記URL へ移動できます。その際、ライセンスアクセス番号は自動で入力されます。

1 **お使いのコンピューターの Web ブラウザーを起動します。**

2 **アドレス入力欄に URL を入力します。**

3 **ライセンスアクセス番号を入力したあと、画面に従ってマニュアルや関連ソフトウェアなどをダウンロードします。**

ソフトウェアをダウンロードした場合は、そのソフトウェアのマニュアルを参照してインストールしてください。

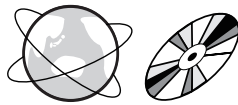
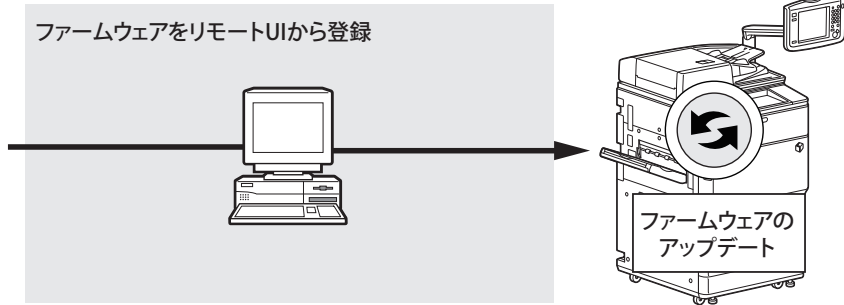
ファームウェアをアップデートする

本製品のファームウェアをアップデートする方法について説明します。

ファームウェアをアップデートできます

「ソフトウェアの登録／更新」の機能を使って、本製品のファームウェアを最新バージョンにアップデートできます。コンピューター（リモート UI）から、本機能を使用することが可能です。

メモ
- 複数のユーザーが同時に［ソフトウェアの登録/更新］を使用することはできません。
- 他のユーザーがSMS（Service Management Service）にログインしている場合、リモートUI から「ソフトウェアの登録／更新」を使用できません。
- 以下の操作を行うと、一定時間リモートUI から［ソフトウェアの登録/更新］を使用できません。
  - SMS のRemote Login Service が設定されている場合に、［ポータル］または［ログアウト］を押さずにWeb ブラウザーを終了したとき
  - SMS のRemote Login Service が設定されていない場合に、［ポータル］を押さずにWeb ブラウザーを終了したとき
  - SMS の［ログアウト］、［SMS からのログアウト］、［リモートUI へ］を押さずにWeb ブラウザーを終了したとき
- SMS についての詳細は、e-マニュアル > MEAP を参照してください。

別途配布されるデータを使って、ファームウェアをアップデートできます。

リモート UI からアップデートする（手動）

本製品に接続したリモート UI から、ファームウェアをアップデートします。

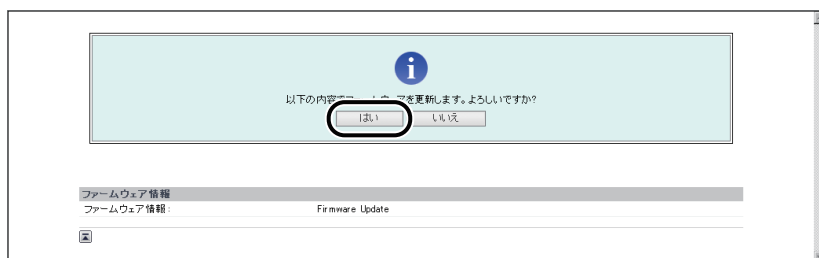
重要　ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→リモート UI からログインする：P.1-23）

メモ　ここで説明している操作を行うためには、別途配布されるファームウェアのデータが必要です。

1 **リモート UI のトップページから、［設定 / 登録］→［ライセンス / その他］→［ソフトウェアの登録 / 更新］をクリックします。**

2 **［手動アップデート］をクリックします。**

3 ［参照］をクリックしてアップデートに使用するファームウェアを選択し、［次へ］をクリックします。

4 アップデートの確認ページの内容を確認して、［はい］をクリックします。

新規ファームウェアが本製品に適用されます。「ファームウェアを更新しました。デバイスを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、本製品を再起動してください。

ソフトウェアの登録／更新を管理する

本製品を外部ネットワークに接続して使用する場合の、ソフトウェアの登録／更新の管理方法について説明します。

タッチパネルディスプレーから管理する

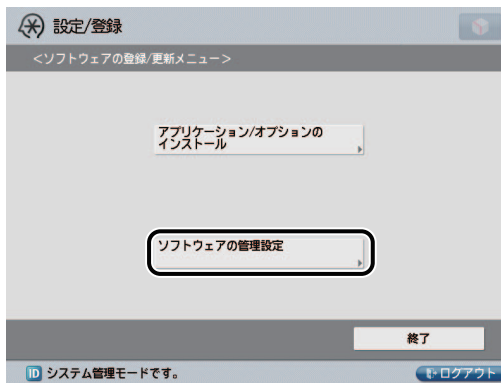
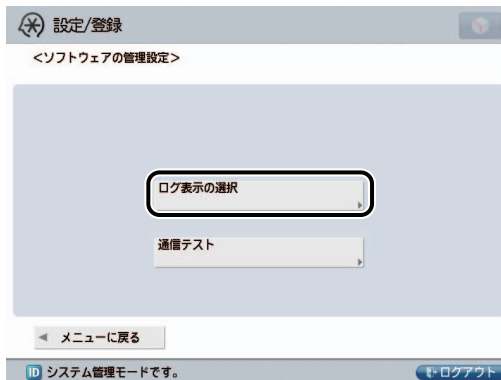
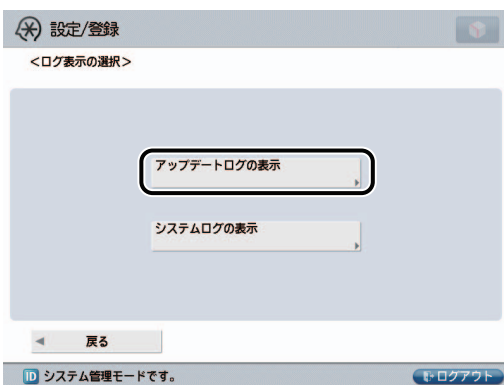
タッチパネルディスプレーからインストール履歴の表示・通信テストを行います。

重要　ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。（→タッチパネルディスプレーからログインする：P.1-22）

タッチパネルディスプレーからインストール履歴を表示する

システムオプション／MEAP アプリケーションのインストール履歴を確認します。

1 （設定／登録）→ [管理設定] → [ライセンス / その他] → [ソフトウェアの登録 / 更新] を押します。

2 [ソフトウェアの管理設定] を押します。

3 [ログ表示の選択] を押します。

4 ［アップデートログの表示］を押します。

システムオプション／ MEAP アプリケーションのインストール履歴が表示されます。

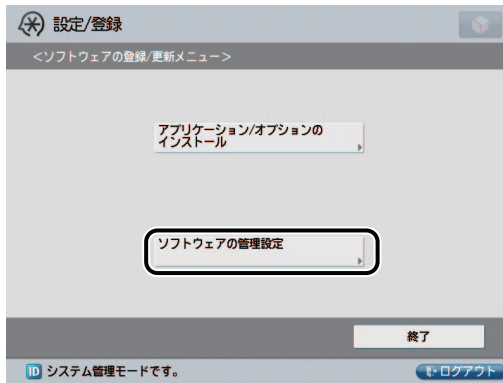
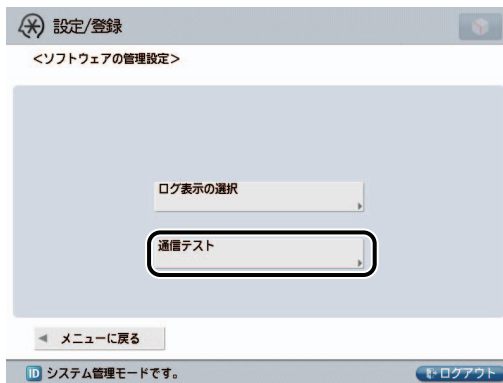
タッチパネルディスプレーから通信テストを行う

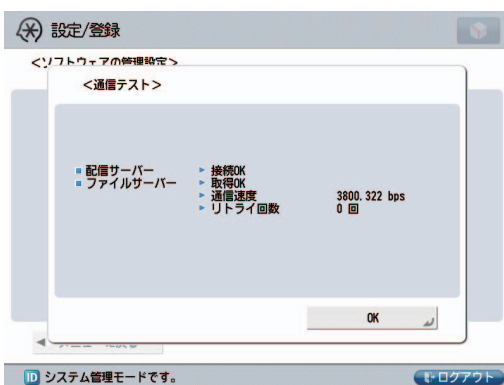
配信サーバーと正常に通信が行われるかを確認します。

1 （設定／登録）→ [管理設定] → [ライセンス / その他] → [ソフトウェアの登録 / 更新] を押します。

2 [ソフトウェアの管理設定] を押します。

3 [通信テスト] を押します。

ソフトウェアの登録／更新を管理する
11

4 [はい] を押します。

配信サーバーから、テスト用コンテンツがダウンロードされます。

通信テストが終了すると、通信テスト結果画面が表示されます。

メモ 通信テスト結果画面で「NG」と表示された場合は、ネットワークケーブルが抜けていないか、ネットワーク設定に問題がないかを確認してください。解決しないときは、担当サービスにお問い合わせください。

リモート UI から管理する

リモート UI からのインストール履歴の表示・通信テストを行います。

重要 ここで説明している操作を行うためには、本製品に管理者としてログインする必要があります。(→リモート UI からログインする：P.1-23)

リモート UI からインストール履歴を表示する

システムオプション／ MEAP アプリケーションのインストール履歴を確認します。

1 **リモート UI のトップページから、［設定 / 登録］→［ライセンス / その他］→［ソフトウェアの登録 / 更新］をクリックします。**

2 **[ログ表示 / 通信テスト] をクリックします。**

3 **ログ表示ビュードロップダウンリストから［アップデートログ］を選択して、［切替］をクリックします。**

システムオプション／ MEAP アプリケーションのインストール履歴が表示されます。

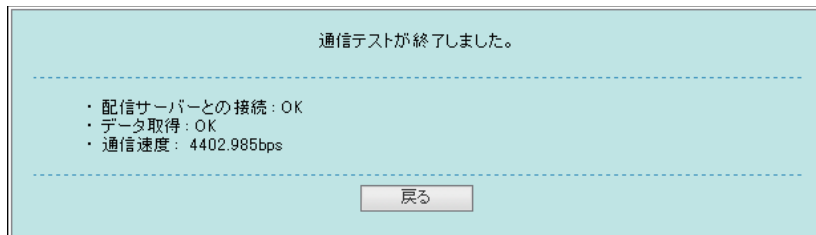
リモート UI から通信テストを行う

配信サーバーと正常に通信が行われるかを確認します。

1 **リモート UI のトップページから、［設定 / 登録］→［ライセンス / その他］→［ソフトウェアの登録 / 更新］をクリックします。**

2 [ログ表示 / 通信テスト] → [通信テスト] をクリックします。

確認ダイアログが表示されたら、[はい] をクリックします。

配信サーバーから、テスト用コンテンツがダウンロードされます。

通信テストが終了すると、通信テスト結果画面が表示されます。

メモ　通信テスト結果画面で「NG」と表示された場合は、ネットワークケーブルが抜けていないか、ネットワーク設定に問題がないかを確認してください。解決しないときは、担当サービスにお問い合わせください。

12 CHAPTER

アドバンスドボックス機能をお使いになる前に

アドバンスドボックスを使用するユーザーを管理したり、WebDAV または SMB で外部公開したりするには、以下の作業および設定を行います。

アドバンスドボックスのユーザー管理

アドバンスドボックスのユーザー管理とは、認証管理されているアドバンスドボックス内の共有／個人スペース内のファイルにアクセスするとき、および SMB 認証を設定した状態で SMB プリント機能を使用するときにユーザー認証を行う、認証アプリケーションです。アドバンスドボックスの管理者が共有／個人スペースへの一般ユーザーのアクセス権を設定することで、ユーザーごとにデータの閲覧や出力を制限できます。

ユーザー管理の各種設定を行うには、Web ブラウザーから本体へアクセスしてログインする必要があります。アクセス方法は、リモート UI のポータルページから行います。

1 **Web ブラウザーを起動します。**

2 **アドレス入力欄に以下の URL を入力します。**

http://< 本体の IP アドレスまたはホスト名 >

［ログイン］ページが表示されます。

3 **部門 ID と暗証番号を入力したあと、［管理者ログイン］をクリックします。**

システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号の初期値は、それぞれ「7654321」に設定されています。変更してご使用ください。

リモート UI のポータルページが表示されます。

4 **ポータル画面のアプリケーションから［アドバンスドボックスのユーザー管理］をクリックします。**

アドバンスドボックスのユーザー管理の［ログイン］ページが表示されます。

5 ユーザー名とパスワードを入力したあと、［ログイン］をクリックします。

ユーザー名の初期値は「Administrator」、パスワードは「password」に設定されています。変更してご使用ください。

［ユーザー管理］ページが表示されます。

6 ［ユーザーの追加］をクリックします。

7 必要な項目を入力し、［追加］をクリックします。

新規のユーザー情報が登録されます。

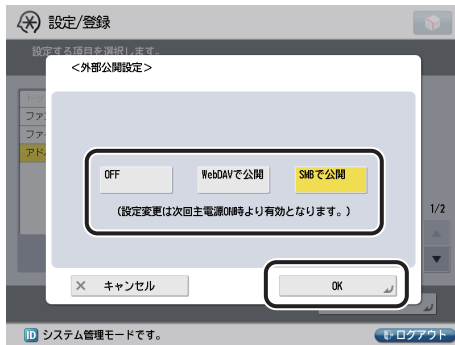
アドバンスドボックスの外部公開設定

本製品のアドバンスドボックスを、WebDAV サーバーまたは SMB サーバーとしてネットワーク上に公開するかどうかを設定します。また、公開したアドバンスドボックスを使用するユーザーを認証管理するかどうかも設定できます。認証管理を使用すると、アドバンスドボックスのユーザー管理に登録されたユーザーのみ、アドバンスドボックスを使用できます。（→ e- マニュアル > セキュリティー）

重要　アドバンスドボックスは、WebDAV と SMB で同時に公開することはできません。

アドバンスドボックスを WebDAV、または SMB で公開する

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ファイル保存 / 利用］→［アドバンスドボックス設定］→［外部公開設定］を押します。**

2 **アドバンスドボックスを公開するかどうか設定したあと、［OK］を押します。**

［OFF］：アドバンスドボックスは外部に公開されません。

［WebDAV で公開］：アドバンスドボックスを WebDAV サーバーとして公開します。

［SMB で公開］：アドバンスドボックスを SMB サーバーとして公開します。

重要
- SMBで公開する場合は、［環境設定］（設定／登録）でSMBサーバーを使用する設定を「ON」に設定する必要があります。（→SMBとWINSの設定：P.6-3）
- WebDAVで公開する場合は、［環境設定］（設定／登録）の［ネットワーク］→［TCP/IP設定］→［WebDAVサーバーを使用］を「ON」に設定する必要があります。

公開するアドバンスドボックスの認証管理を設定する

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［ファイル保存 / 利用］→［アドバンスドボックス設定］→［認証管理］を押します。**

● **アドバンスドボックスをSMBサーバーとして公開して認証管理を使用する場合：**

□ ［ON］→［OK］を押します。

重要　認証管理を使用するときは、［環境設定］（設定／登録）の［SMB 認証設定］で <SMB 認証を使用 > を「ON」に設定して、認証タイプを設定する必要があります。（→ SMB と WINS の設定：P.6-3）

● **アドバンスドボックスをWebDAVサーバーとして公開して認証管理を使用する場合：**

□ ［ON］→［OK］を押します。

□ ［アドバンスドボックス設定］内の［WebDAVサーバー設定］で認証タイプの［Basic］を押します。

アドバンスドボックス設定では、外部公開設定や認証管理の他、共有スペースの初期化や個人スペースの作成を許可するかどうかなどを設定できます。詳しくは、e- マニュアル>セキュリティーを参照してください。

また、外部公開されている他機のアドバンスドボックス（ネットワーク）に本製品からアクセスする場合には、他機のアドバンスドボックスをネットワークプレースとして登録する必要があります。詳しくは、e- マニュアル>セキュリティーを参照してください。

ファクス送信機能をお使いになる前に

ファクス送信の設定やユーザー情報の登録方法など、本製品のファクス機能を使用する前に知っておいてほしいことを説明しています。

ファクス送信の設定

本製品を設置したあと、使用を始める前に設定、登録が必要な項目と、その設定方法について説明します。

重要　必要な登録を正しく行わずにご利用になりますと、正しく機能しない場合があります。

メモ
- ファクスを送信するには、FAXボードを装着するか、リモートFAX送信キットを有効にする必要があります。
- ここでは、FAXボードを装着している場合の設定について説明します。
- リモートFAX送信キットを使用する場合の設定については、「リモートファクス送受信の設定」（→ P.13-8）を参照してください。

■ **ダイヤルインの契約／設定について**

FAX ボードを装着した場合は、ダイヤルインサービスを利用できます。ダイヤルインサービスとは、1 本の電話回線で複数の番号を利用できるサービスです。ダイヤルインサービスを利用するには、NTT との契約が必要です。詳しくは NTT にお問い合わせください。

本製品では、[モデルダイヤルイン設定]を「ON」に設定すると、1 回線あたり 2 つの電話番号を利用できます（→ e-マニュアル > 設定 / 登録）。

また、G3 回線増設キット（2 回線）または G3 回線増設キット（3・4 回線）の装着により、最大 4 回線まで増設できます。さらに各回線の［モデルダイヤルイン設定］を「ON」に設定すると、最大 8 つの電話番号を利用してファクスを送受信できます。

電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）

本製品に接続する電話回線の種類を設定します。

電話回線の種別は、電話会社とお客様の契約にもとづいて設定されています。ダイヤル回線（パルス回線）かプッシュ回線（トーン回線）かを確認して、正しい登録をしてください。設定が誤っていると通信できません。

G3 回線増設キット（2 回線）、または G3 回線増設キット（2 回線）と G3 回線増設キット（3・4 回線）を装着している場合は、増設した通信回線の種類も選択する必要があります。

重要　ここで選択する電話回線の種類は、標準回線（回線 1）のものです。増設した回線の種類の選択は e- マニュアル > 設定 / 登録を参照してください。

メモ　この設定を行うには、FAX ボードが必要です。

1 **（設定 / 登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［回線設定］→［回線 1］→［回線種類の選択］を押します。**

2 **回線の種類を選択したあと、［OK］を押します。**

電話回線の種類がわからないときは、最寄りのお客様が契約している電話会社の支店、営業所にお問い合わせください。

表示言語の切替の設定

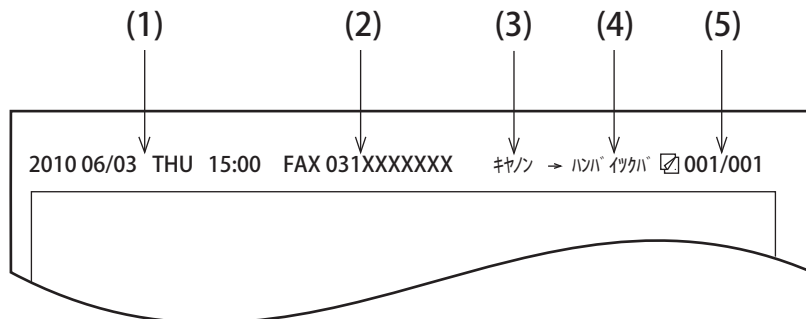
言語の切替をする場合は、あらかじめ [表示言語 / キーボードの切替の ON/OFF]（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）を「ON」に設定してからアドレス帳やユーザー略称などの登録をしてください。

［表示言語 / キーボードの切替］を「ON」に設定した場合、「OFF」に設定していたときに登録した宛先表やユーザー略称などが、正しくタッチパネルディスプレーに表示されないことがあります。この場合は、［表示言語 / キーボードの切替］を「ON」に設定してから登録しなおすか、「OFF」のまま使用してください。

［表示言語 / キーボードの切替］を「ON」に設定している場合は、「かな漢」「カタカナ」「記号（全角）」「コード入力」モードは使用できません。

発信元記録の登録

ファクスで送信した相手の記録紙に印字される発信元の情報を登録します。

登録された発信元記録は、以下のようにプリントされます。また、受信側の機種によっては、通信中の画面などに発信元記録が表示されます。

(1) 日付と時刻
　送信した日付と時刻が記録されます。

(2) ファクス番号
　本製品のファクス番号が記録されます。

(3) こちらの名前
　ユーザー略称や発信人の名称に登録されている名称が記録されます。

(4) 相手の名前
　アドレス帳を利用して送信する場合、相手先の名称も登録されていると、その名称が記録されます。（→e-マニュアル> 本体でのファクス送受信）

(5) 原稿枚数
　何枚目の原稿か記録されます。

メモ

- 発信元記録の各項目が登録されていても、発信元記録を印字しないように設定できます。（→e-マニュアル > 設定/登録）
- 発信元記録を印字するように設定されていて、登録されていない項目がある場合は、登録されている項目と原稿枚数が印字されます。
- 相手の名前を印字するには、［ファンクション設定］（設定／登録）の［発信元記録］で、「相手先略称の表示」を「ON」に設定してください。（→e-マニュアル > 設定/登録）
- SSO-Hによる認証でログインしている場合は、発信人の名称としてログインユーザー名を選択できます（発信人の名称のリストの「100」にログインユーザー名が表示されます）。SSO-Hによるログインサービスについては、e-マニュアル > MEAPを参照してください。

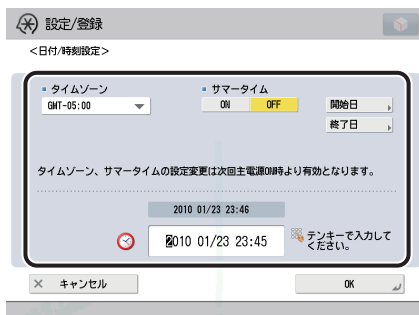
日付／時刻を設定する（日付／時刻設定）

現在の日付と時刻を設定します。設定した時刻と日付は、時刻指定機能の基準時刻になります。

•GMT：　グリニッジ標準時を GMT（Greenwich Mean Time）と呼びます。
• タイムゾーン：　世界の地域別標準時は、GMT（± 0 時）からの時差（±12 時間以内）を使用して表されます。同じ標準時を使用している地域をタイムゾーンといいます。日本の標準時は GMT より 9 時間先行しているため、［GMT+09：00］と設定します。
• サマータイム：　国によっては、夏季に時間を進める夏時間を採用しています。この夏時間をサマータイムと呼びます。

メモ　ネットワーク上のサーバーとの日付／時刻あわせを自動的に行うこともできます。（→ TCP/IPv4 と TCP/IPv6 に共通の設定：P.4-14）

1 （設定／登録）→［環境設定］→［タイマー／電力設定］→［日付 / 時刻設定］を押します。

2 ⓪～⑨（テンキー）で、現在の日付（西暦、月、日）と時刻を入力します。

年は西暦の 4 桁を入力します。

月日、時刻は 0 を含む数字 4 桁を入力します。時刻の表示形式は 24 時間制です。

例：　5 月 6 日　→ 0506
　　　7 時 5 分　→ 0705
　　　23 時 18 分　→ 2318

メモ　入力を間違えたときは、ⓒ（クリア）を押して、西暦から入力しなおしてください。

● **タイムゾーンを設定する場合**

□ タイムゾーンドロップダウンリストを押したあと、タイムゾーンを選択します。

● **サマータイムを設定する場合**

□ ［ON］→［開始日］を押します。

□ 月、日のドロップダウンリストを押したあと、設定する項目を選択します。

□ ［－］［＋］を押して時刻を設定したあと、［OK］を押します。

□ ［終了日］を押して、開始日と同じように終了日の設定をしたあと、［OK］を押します。

メモ　サマータイムを設定すると、開始日から終了日までの一定期間、本製品の基準時刻を自動的に 1 時間進めることができます。

3 ［OK］を押します。

本製品のファクス番号を登録する（ユーザー電話番号の登録）

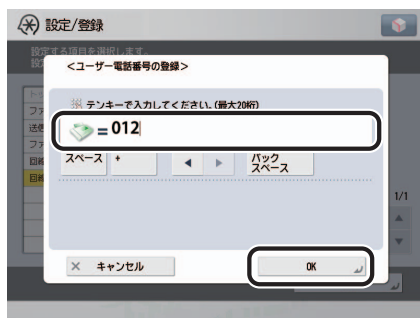
本製品でファクスを使用するときのファクス番号を登録します。登録したファクス番号は、原稿を送信したとき、発信元記録として相手先の記録紙にプリントされます。

相手先の機種によっては、通信中にタッチパネルディスプレーなどに表示されます。

重要　ここで登録するファクス番号は、標準回線（回線 1）のものです。増設回線のファクス番号の登録は、e- マニュアル > 設定 / 登録を参照してください

メモ　この設定を行うには、FAX ボードが必要です。

1 （設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［回線設定］→［回線 1］→［ユーザー電話番号の登録］を押します。

2 登録するファクス番号を⓪～⑨（テンキー）で入力したあと、［OK］を押します。

［スペース］：　局番とファクス番号の間に空白（スペース）を入れる場合に使用します。

［＋］：　ファクス番号に国番号を入れる場合に国番号とファクス番号の間に使用します。

［◀］［▶］：　カーソルを移動するときに押します。

［バックスペース］：　カーソルの前の 1 文字を削除するときに押します。

［ファンクション設定］（設定／登録）で、ナンバーディスプレイ（発信者番号通知）サービスとモデムダイヤルインサービスを設定できます。設定方法については、e- マニュアル > 設定 / 登録を参照してください。

会社や部署の名称を登録する（ユーザー略称の登録）

会社や部署の名称などをユーザー略称に登録します。

登録したユーザー略称は、原稿をファクスで送信したとき、発信元記録として相手先に表示／プリントされます。相手先の機種によっては、通信中にタッチパネルディスプレーなどにも表示されます。

メモ
- この機能は、FAXボードを装着している場合に使用できます。
- 増設回線のユーザー略称は別途登録する必要があります。（→e-マニュアル > 設定/登録）
- 発信元記録にユーザー略称をプリントできます。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［回線設定］→［回線 1］→［ユーザー略称の登録］を押します。**

2 **名称を入力したあと、［OK］を押します。**

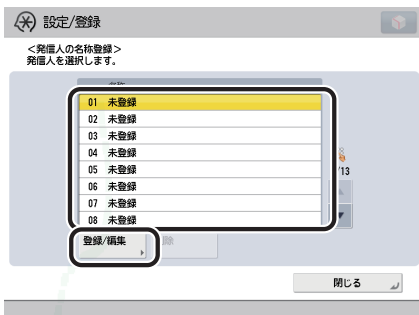
個人の名称を登録する（発信人の名称登録）

部や課の名称、個人名などを発信人の名称に登録します。

発信人の名称は、発信元記録として相手先に表示／プリントできます。

メモ
- ユーザー略称の代わりに発信人の名称を表示／プリントする場合は、［その他の機能］の［発信人］から設定します。（→e-マニュアル > 本体でのファクス送受信）
- この機能は、FAXボードを装着している場合に使用できます。

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［発信人の名称登録］を押します。**

2 **発信人の名称を登録する番号（項目）を選択したあと、［登録 / 編集］を押します。**

発信人の名称は、99 件（01 ～ 99）まで登録できます。

登録してある発信人の名称を削除するには、削除する発信人の名称の番号を選択したあと、［削除］を押します。複数の発信人の名称を削除する場合は、1 つずつ選択して削除してください。

3 **発信人の名称を入力したあと、［OK］を押します。**

リモートファクス送受信の設定

電話回線に接続されていない imageRUNNER ADVANCE シリーズからでも、リモートファクスサーバー機を介することで、ファクスの送受信ができます。

リモートファクス送受信を行うために必要な作業は、次のとおりです。

1　サーバー側の設定（→ P.13-8）

リモートファクス送受信を行う際、経由サーバーとして使用する imageRUNNER ADVANCE シリーズの設定を行います。

2　クライアント側の設定（→ P.13-9）

リモートファクス送受信をする imageRUNNER ADVANCE シリーズの設定を行います。

重要
- サーバー側のimageRUNNER ADVANCEシリーズがFAXボードを装着し、クライアント側のimageRUNNER ADVANCEシリーズがリモートFAX送信キットを有効にしている場合に使用できます。
- リモートファクスサーバー機で部門別ID管理を設定している場合は、リモートファクスサーバー機に登録されている部門IDと暗証番号でリモートファクスクライアント機にログインすると、送信できます。

サーバー側の設定

クライアント機からのファクスを送信するかどうか設定する

クライアント機からのファクスを送信するかどうか設定します。

重要　本機をリモートファクスのサーバー機として使用する場合は、［専用ポート設定］（環境設定）を「ON」にしてください。（→ e- マニュアル > ネットワーク）

1 **（設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［リモートファクス設定］を押します。**

2 **［リモートファクスを使用］を押します。**

3 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

[ON]：リモートファクス機能を使用します。

[OFF]：リモートファクス機能を使用しません。

クライアント機への転送設定をする

受信したファクス文書を I ファクスとしてクライアント機へ転送するための設定をします。ファクス文書を転送するには、サーバー機にクライアント機の I ファクスアドレスを転送先として登録するほか、必要に応じて各種の転送条件を設定する必要があります。転送設定の詳細については、e- マニュアル > 設定 / 登録を参照してください。

クライアント側の設定

リモートファクス送信設定をする

クライアント側のリモートファクス送信設定をします。設定内容は次のとおりです。

■ リモートファクスサーバーアドレス

サーバー側の imageRUNNER ADVANCE シリーズ（リモートファクスサーバー）の IP アドレスまたはホスト名を指定します。

IP アドレスを指定する場合は、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの登録ができます。

■ 送信タイムアウト

送信タイムアウトの時間を設定しておくと、設定時間が経過した場合に、サーバー側の複合機から応答がないときは、リモートファクス送信を中止します。

■ 送信回線数

リモートファクスを送信する際に選択できる回線の数を設定します。回線数はリモートファクスサーバー機に接続されている電話回線の数と同じにしてください。

メモ
- リモートファクスサーバー機がモデムダイヤルイン設定で増設している回線は、[送信回線数] で設定する回線数には含めないでください。
- リモートファクスサーバー機がモデムダイヤルイン設定で増設している回線は、リモートファクスクライアント機側のモデムダイヤルイン設定をリモートファクスサーバー機と同じにすることによって、リモートファクス送信時に選択できるようになります。

■ 優先回線の選択

送信するときに、回線が使用中でなければ、［優先送信］を設定した回線を選択して送信します。回線を自動で選択するか、送信回線の選択で設定した回線を使用するかを選択します。

メモ
- リモートファクスサーバー機がモデムダイヤルイン設定で増設している回線は、［送信回線数］で設定する回線数には含めないでください。（→e- マニュアル>設定/登録）
- リモートファクスサーバー機がモデムダイヤルイン設定で増設している回線は、リモートファクスクライアント機側のモデムダイヤルイン設定をリモートファクスサーバー機と同じにすることによって、リモートファクス送信時に選択できるようになります。

1 （設定／登録）→［ファンクション設定］→［送信］→［ファクス設定］→［リモートファクス送信設定］を押します。

● **リモートファクスサーバーアドレスを指定する場合**

□ ［リモートファクスサーバーアドレス］を押します。

□ ホスト名またはIPアドレスを入力したあと、［OK］を押します。

ホスト名とは、サービスを提供しているホストコンピューターをネットワーク上で識別するためにつけられた固有の名前です。リモートファクスサーバーの名前を入力します。

● **送信タイムアウトを設定する場合**

□ ［送信タイムアウト］を押します。

□ ［−］［＋］を押して送信タイムアウト時間を設定したあと、［OK］を押します。

● **送信回線数を選択する場合**

□ ［送信回線数］を押します。

□ 使用する回線数を設定します。

● **優先回線を選択する場合**

□ ［優先回線選択］を押します。

□ ［自動選択］または優先的に使用する回線を選択します。

リモートファクス受信設定をする

クライアント側のリモートファクス受信設定をします。

リモートファクス受信をするには、I ファクスとしてサーバー機から転送された文書を受信するための設定を行う必要があります。I ファクスの設定の流れについては、「E メール／ I ファクスを使用する」（→ P.2-5）を参照してください。

コンピューターから印刷する前に

14

CHAPTER

コンピューターから印刷するには、プリンタードライバーのインストールと、プリンタードライバーでプリンターのオプション設定を行う必要があります。

プリンタードライバーをインストールする

プリンタードライバーは、アプリケーションソフトウェアから印刷するときに必要なソフトウェアです。プリンタードライバーで印刷に関する設定を行います。

必要なシステム環境

プリンタードライバーをお使いになるには、以下のシステム環境が必要です。

メモ　お使いのプリンタードライバーのバージョンによって、サポートするOSが異なる場合があります。

■ Windowsをお使いの場合

- OS
  - Windows 2000
  - Windows XP
  - Windows Server 2003
  - Windows Server 2008
  - Windows Vista
  - Windows 7
- コンピューター
  - 上記OSが動作するコンピューター
- メモリー
  - 上記OSが動作するために必要なメモリー

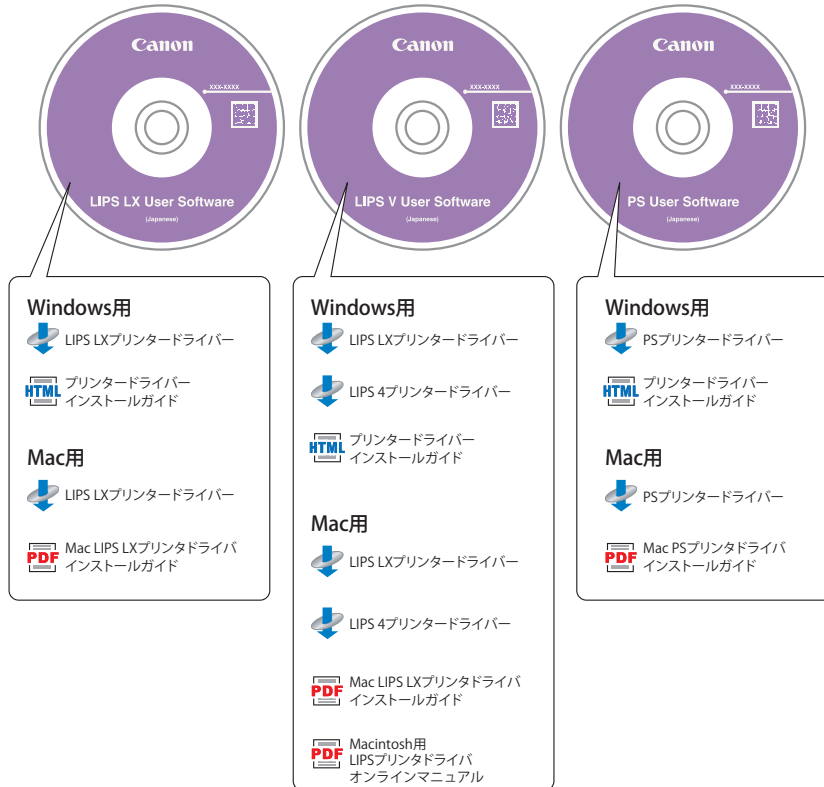
■ Macをお使いの場合

- OS
  - LIPS LX プリンタードライバー：Mac OS X 10.4.9以降
  - LIPS4 プリンタードライバー：Mac OS 9、Mac OS X 10.2.8以降
  - PS プリンタードライバー：Mac OS X 10.4.9以降
- コンピューター
  - 上記OSが動作するコンピューター
- メモリー
  - 上記OSが動作するために必要なメモリー

適切なプリンタードライバーを選択する

プリンタードライバーは、User Software CD-ROM に収録されています。複数の CD-ROM が付属している場合には、以下の情報を参考に、CD-ROM およびプリンタードライバーを選択してください。

付属する CD-ROM は、お使いの製品、システム環境によって異なります。

■ 各CD-ROMの内容

■ **プリンタードライバーの特長**

LIPS LX プリンタードライバー：

印刷データの処理をコンピューターとプリンターで負荷分散することによって、従来よりも高速で安定した印刷ができるほか、少ないメモリーでの動作を実現します。

LIPS 4 プリンタードライバー：

帳票印刷に便利なフォームオーバーレイ機能をはじめ、さまざまな印刷機能を設定できます。また、さまざまなコンピューター環境に適応できます。

LIPS 4 プリンタードライバーをインストールしたい場合は、LIPS V User Software CD-ROM のメニュー画面で［付属ソフトウェア（LIPS4 ドライバーなど）］ボタンをクリックします。

PS プリンタードライバー：

アプリケーションソフトウェアの印刷データを PS プリンター用のデータに変換して、プリンターへ送ります。印刷データの変換以外にも、印刷の仕上がりに関して、色調整などの詳細な設定を行うことができ、DTP/POD ユース向けに適したプリント環境を提供します。

メモ　使用できるプリンタードライバーは、以下の手順で確認できます。

1. 操作パネルの 123（カウンター確認）を押します。
2. カウンター確認画面で［デバイス構成確認］を押します。
3. ［オプション］に表示されるプリンタードライバー名を確認します。

インストールする

インストール手順の詳細については、Windows をお使いの場合は「プリンタードライバー インストールガイド」を、Mac をお使いの場合はインストールガイド（PDF）を参照してください。

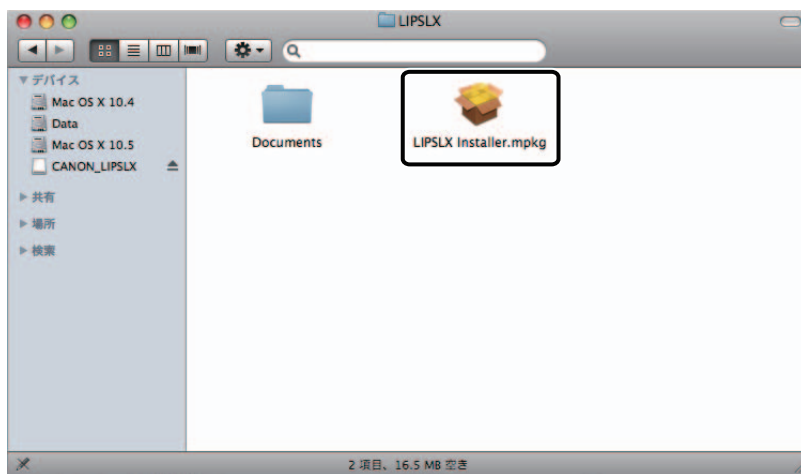
■ **CD-ROMメニュー画面（Windowsの場合）**

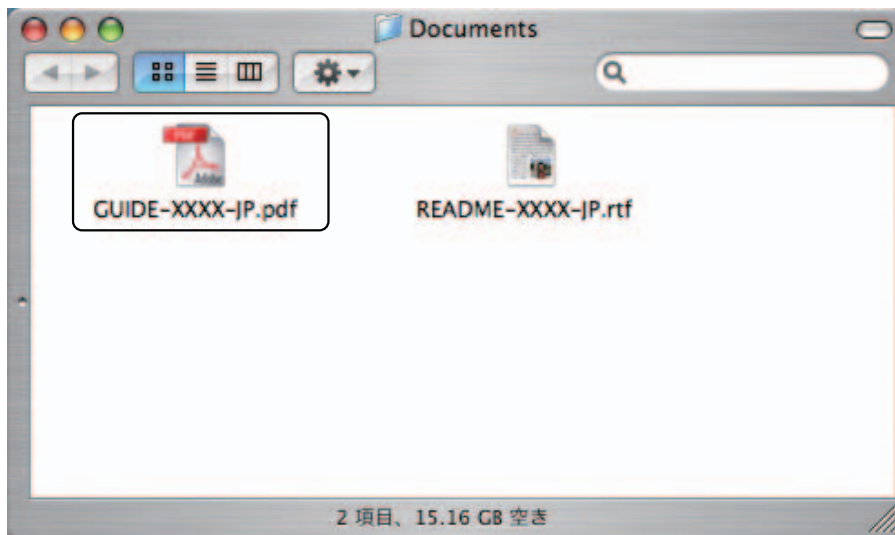
User Software CD-ROM のメニュー画面から、プリンタードライバーのインストール、および「プリンタードライバーインストールガイド」の表示ができます。

Mac をお使いの場合は Mac プリンタドライバインストールガイドを参照してください。

メモ　「プリンタードライバー インストールガイド」は、インストール開始後には表示できません。「プリンタードライバー インストールガイド」を参照する場合は、インストール開始前に表示してください。

■ インストール（Mac の場合）

インストールセットフォルダー内の Installer アイコンをダブルクリックしてインストーラーを起動します。

■ マニュアル表示（Mac の場合）

インストールセットフォルダー内の PDF アイコンをダブルクリックしてインストールガイドを表示します。

メモ　LIPS4 プリンタードライバーの場合は オンラインマニュアルが表示されます。

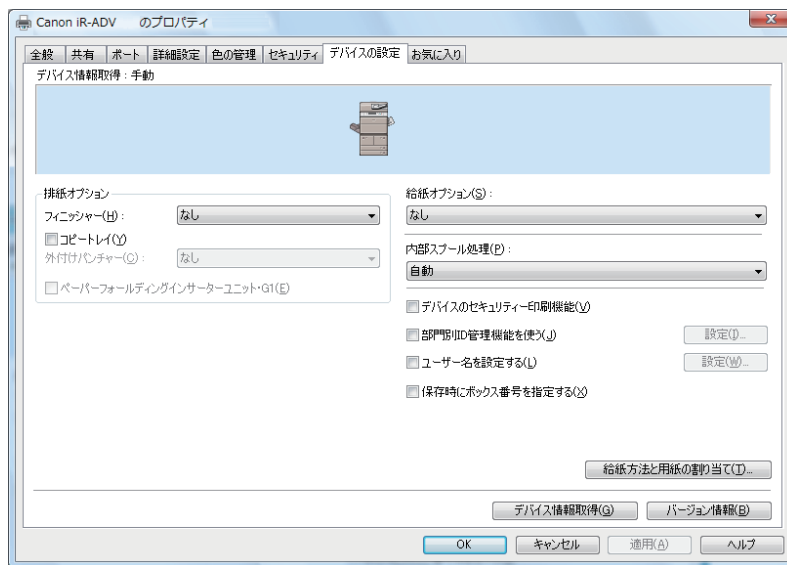
プリンターのオプション設定をする

本製品の機能を正しくお使いになるには、必ずプリンタードライバーで本体に装着されているオプション（給紙カセット、フィニッシャーなど）の設定を行ってください。

Windows をお使いの場合

通常、オプション設定は、ドライバーのインストール時に自動的に行われます。プリンタードライバーの［デバイスの設定］ページで設定を確認できます。

［デバイスの設定］ページは、プリンターフォルダーからお使いのプリンターのプロパティーを選択して表示してください。

詳しい手順については「プリンタードライバー インストールガイド」またはヘルプを参照してください。

インストール時に設定が行われなかった場合は、［デバイス情報取得］をクリックして、本体のオプション情報を取得してください。デバイス情報取得がエラーになったときは、本体に装着されているオプションを手動で設定してください。

プリンターを共有してお使いの場合は、プリントサーバーに「Canon Driver Information Assist Service」をインストールすると、［デバイス情報取得］の機能をお使いになれます。「Canon Driver Information Assist Service」のインストールの詳しい手順については、「プリンタードライバー インストールガイド」を参照してください。

Mac をお使いの場合

プリンタードライバーで［プリンタ情報］ダイアログを表示して、プリンター情報を取得します。

［プリンタ情報］ダイアログは、プリンタードライバーの各パネルで［プリンタ情報］をクリックすると表示されます。

詳しい手順についてはインストールガイド（PDF）またはヘルプを参照してください。

メモ　プリンタードライバーの種類とバージョン、およびプリンターの接続方法によっては、プリンターのオプションを手動で設定します。詳しくはインストールガイド（PDF）を参照してください。

その他の付属ソフトウェアについて

User Software CD-ROM には、以下のソフトウェアも収録されています。必要に応じてご利用ください。お使いのシステム環境により、付属するソフトウェアは異なります。

■ FontGallery（Windowsのみ）

FontGallery（CD-ROM\FGALLERY フォルダー）には、和文書体、かな書体、欧文書体が収められています。これらのフォントを利用することにより、より多彩な文字表現が可能になります。また、欧文書体には、ユーロフォントも含まれていますので、アクセント記号や特殊な記号を表現することもできます。

インストール方法については、README.TXT を参照してください。

メモ
- Windows Vista には対応しておりません。
- このソフトウェアは、LIPS V User Software CD-ROM にのみ収録されています。

■ PPD ファイル

PS プリンタードライバーを使用して QuarkXPress と PageMaker から印刷するには、PPD（PostScriptPrinterDescription）ファイルをインストールする必要があります。

インストール方法については、以下のファイルを参照してください。

- Windows：プリンタードライバー インストールガイド
- Mac OS 9： Readme.pdf (¥PS_PPD¥MacOS9)
  Mac OS X： PPD_GUIDE.pdf (¥PS_PPD¥MacOSX)

メモ　このソフトウェアは、PS User Software CD-ROM にのみ収録されています。

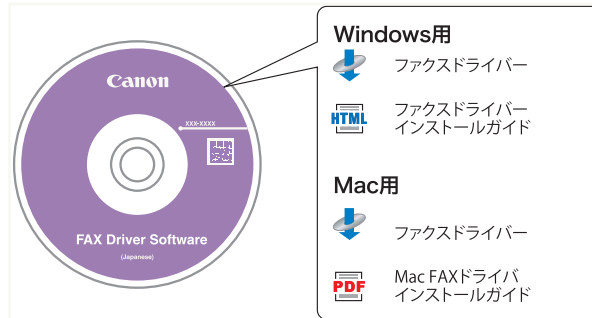
コンピューターからファクス送信する前に

15
CHAPTER

コンピューターからファクス送信をするには、ファクスドライバーのインストールと、ファクスドライバーでファクスのオプション設定を行う必要があります。

ファクスドライバーをインストールする

ファクスドライバーは、アプリケーションソフトウェアからファクス送信するときに必要なソフトウェアです。ファクスドライバーでファクス送信に関する設定を行います。

ファクスドライバーのインストールは、FAX Driver Software CD-ROM から行います。CD-ROM に収録されている内容は以下のとおりです。

必要なシステム環境

ファクスドライバーをお使いになるには、以下のシステム環境が必要になります。

メモ　お使いのファクスドライバーのバージョンによって、サポートする OS が異なる場合があります。

■ Windowsをお使いの場合

- OS
  - Windows 2000 Server/Professional
  - Windows XP
  - Windows Server 2003
  - Windows Server 2008
  - Windows Vista
  - Windows 7
- コンピューター
  - 上記OSが動作するコンピューター
- メモリー
  - 上記OSが動作するために必要なメモリー

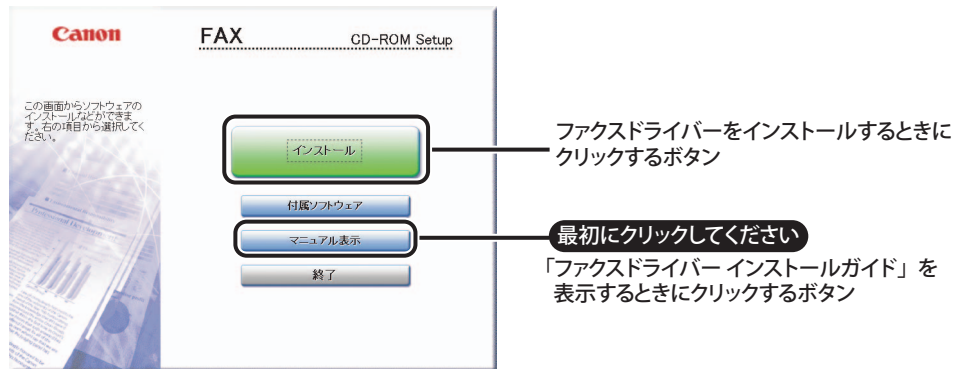
■ Macをお使いの場合

- OS
  - Mac OS X 10.4.9以降
- コンピューター
  - 上記OSが動作するコンピューター
- メモリー
  - 上記OSが動作するために必要なメモリー

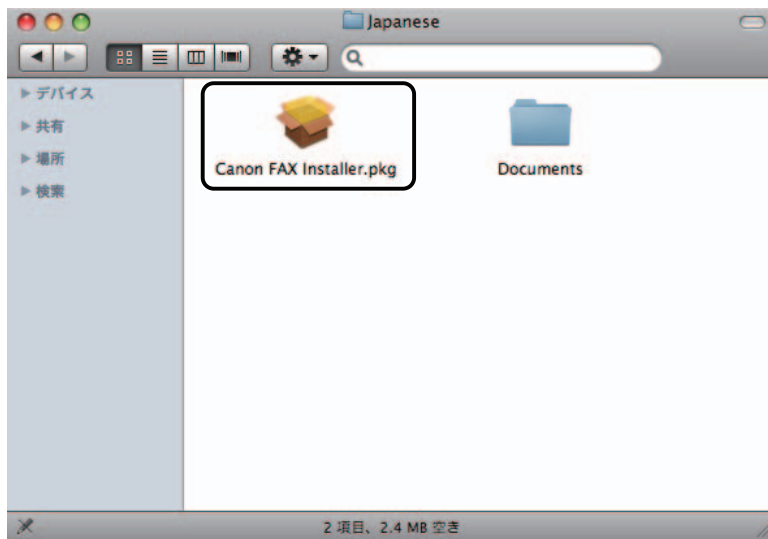
インストールする

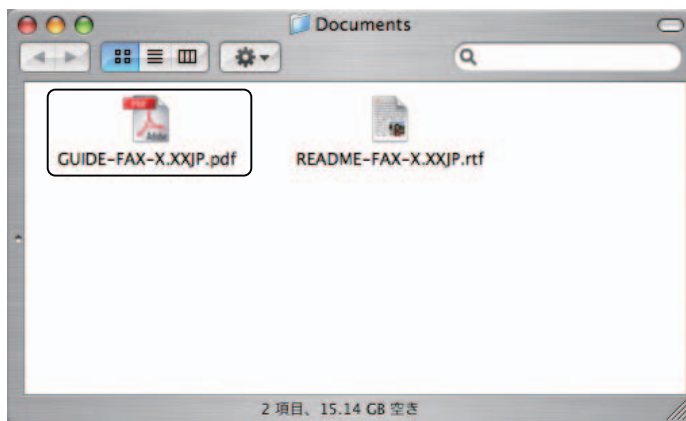
インストール手順の詳細については、Windows をお使いの場合は「ファクスドライバー インストールガイド」を、Mac をお使いの場合は「Mac FAX ドライバインストールガイド」（PDF）を参照してください。

■ CD-ROMメニュー画面（Windowsの場合）

FAX Driver Software CD-ROM のメニュー画面から、ファクスドライバーのインストールおよび「ファクスドライバー インストールガイド」を表示できます。

メモ　「ファクスドライバー インストールガイド」は、インストール開始後には表示できません。「ファクスドライバー インストールガイド」を参照する場合は、インストール開始前に表示してください。

■ インストール（Macの場合）

インストールセットフォルダー内の Installer アイコンをダブルクリックしてインストーラーを起動します。

■ マニュアル表示（Macの場合）

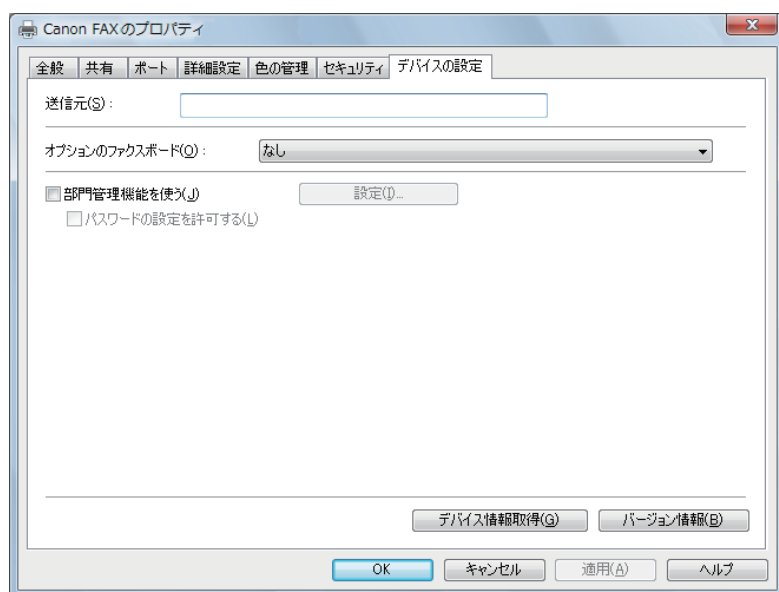
インストーラーセットフォルダー内の PDF アイコンをダブルクリックしてインストールガイドを表示します。

ファクスのオプション設定をする

本製品の機能を正しくお使いになるには、必ずファクスドライバーで本体に装着されているオプション（ファクスボードなど）の設定を行ってください。

Windows をお使いの場合

通常、オプション設定は、ドライバーのインストール時に自動的に行われます。ファクスドライバーの［デバイスの設定］ページで設定を確認できます。

［デバイスの設定］ページは、プリンターフォルダーからお使いのプリンターのプロパティーを選択して表示してください。

詳しい手順については「ファクスドライバー インストールガイド」またはヘルプを参照してください。

インストール時に設定が行われなかった場合は、［デバイス情報取得］をクリックして、本体のオプション情報を取得してください。デバイス情報取得がエラーになったときは、本体に装着されているオプションを手動で設定してください。

ファクスを共有してお使いの場合は、プリントサーバーに「Canon Driver Information Assist Service」をインストールすると、［デバイス情報取得］の機能をお使いになれます。「Canon Driver Information Assist Service」のインストールの詳しい手順については、「ファクスドライバーインストールガイド」を参照してください。

Mac をお使いの場合

ファクスドライバーで［プリンタ情報］ダイアログを表示して、ファクスの情報を取得します。

［プリンタ情報］ダイアログは、ファクスドライバーの［特別処理］パネルで［プリンタ情報］をクリックすると表示されます。

詳しい手順についてはインストールガイド（PDF）またはヘルプを参照してください。

メモ　ファクスドライバーのバージョン、およびファクスの接続方法によっては、ファクスのオプションを手動で設定します。詳しくはインストールガイド（PDF）を参照してください。

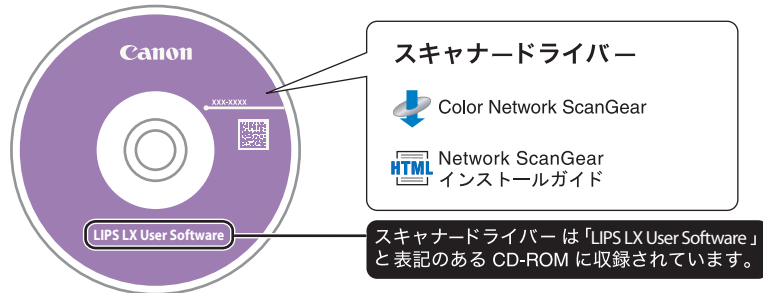
16
CHAPTER

リモートスキャンする前に

本製品をネットワークスキャナーとして使用するには、スキャナードライバーのインストールが必要です。

スキャナードライバーをインストールする

スキャナードライバーはネットワーク上のデジタル複合機をスキャナーとして使用するために必要なドライバーです。スキャナードライバーでスキャンに関する設定を行います。

スキャナードライバーのインストールは、プリンタードライバーと同じ User Software CD-ROM から行います。CD-ROM に収録されている内容は以下のとおりです。

■ **Color Network ScanGear**

TWAIN 対応アプリケーションソフトウェアから呼び出して使用するスキャナードライバーです。このドライバーを使用して原稿をスキャンします。

TWAIN 対応アプリケーションソフトウェアは以下のものがあげられます。ご参考にしてください。

- Adobe Photoshop
- Adobe Acrobat
- Office 2000 以降のMicrosoft Word /Excel/PowerPoint

必要なシステム環境

スキャナードライバーをお使いになるには、以下のシステム環境が必要です。

■ ソフトウェア

● OS
- Windows 2000
- Windows XP
- Windows Server 2003
- Windows Server 2008
- Windows Vista
- Windows 7

● アプリケーションソフトウェア
- TWAIN対応アプリケーションソフトウェア
  （Adobe Photoshop、Adobe Acrobat、Office 2000以降のMicrosoft Word/Excel/PowerPointなど）

■ ハードウェア

● コンピューター
- 対応OSが動作するコンピューター

● ハードディスク
- 対応OSの動作に必要な容量のハードディスク

● メインメモリー
- 対応OSの動作に必要な容量のメモリー

● 640 × 480 ドット以上の表示解像度（800 × 600 ドット以上推奨）、256 色以上の表示色数を持つディスプレー

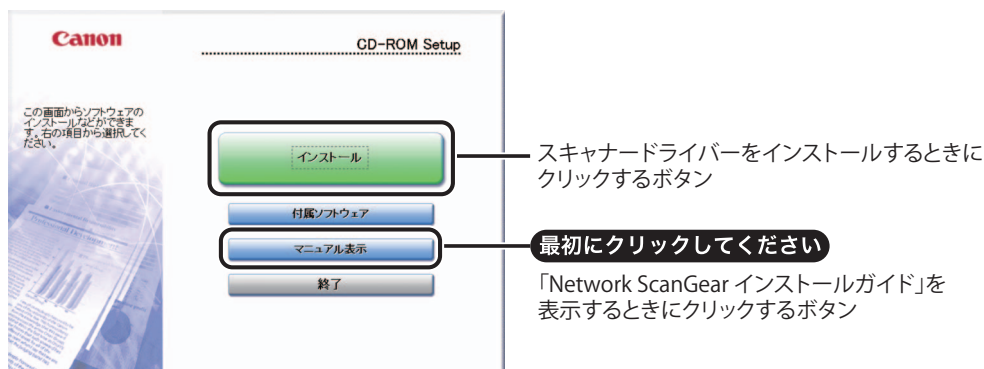
● Ethernet上でTCP/IPおよびUDP/IPによる通信が可能なネットワークホストアダプタ

メモ 大量の画像やデータサイズの大きい画像をスキャンすると、メモリー不足などのエラーが発生したり、スキャン速度が著しく低下したりすることがあります。この場合、以下のような処理を行ってください。
- ハードディスク内の不要なファイルを整理するなどして十分な空き容量を確保するか、ハードディスクを増設する
- 解像度の設定を下げてスキャンしなおす
- RAM を増設する
- 仮想メモリーサイズをなるべく大きめに設定する
- 一度にスキャンする原稿の枚数を減らす

リモートスキャンする前に

16

インストールする

インストール手順の詳細については「Network ScanGear インストールガイド」を参照してください。
CD-ROM のメニュー画面から、スキャナードライバーのインストールの実行および「Network ScanGear インストールガイド」を表示できます。

メモ 「Network ScanGear インストールガイド」は、インストール開始後には表示できません。「Network ScanGear インストールガイド」を参照する場合は、インストール開始前に表示してください。

リモートスキャンする前に必要な設定

スキャナードライバーをインストールしたら、リモートスキャンを行うために以下の設定を行う必要があります。
詳しい手順については、「Network ScanGear インストールガイド」を参照してください。

■ スキャナーのオンラインとオフラインを切り替える

スキャナードライバーを起動してスキャンするためには、あらかじめプリンター側でスキャナーをオンラインに設定する必要があります。

スキャナーをオンラインにすると、ネットワークで接続された機器との通信が可能になり、コンピューターからのデータを受信できるようになります。

■ 使用するネットワークスキャナーを選択する

Color Network ScanGear を使ってスキャンを行うために、スキャナーとして使用するネットワーク上のプリンターを ScanGear Tool で選択します。インストール直後はスキャナーが選択されていないので、ご使用の前にこの操作を行う必要があります。

メモ　ScanGear Tool は、Color Network ScanGear と同時にインストールされるソフトウェアです。

17

CHAPTER

付録

本体やオプション機器の仕様および便利な情報について記載しています。

レポート

メモ　レポートがプリントされるには、以下の条件がすべて揃っていることが必要です。

- ［ファンクション設定］（設定／登録）の［用紙カセット自動選択のON/OFF］で、［その他］を「ON」に設定している給紙箇所がある。
- その給紙箇所に、下記いずれかのサイズの用紙がある
  - A3
  - A4
  - A4R
  - B4
- その用紙が、以下いずれかのタイプである
  - 普通紙（64～90g/m^2）
  - 再生紙（64～90g/m^2）
  - 薄紙（52～63g/m^2）
  - 色紙（64～90g/m^2）

  ただし、［ファンクション設定］（設定／登録）の［用紙カセット自動選択のON/OFF］で、コピーの［用紙の種類を考慮する］を「ON」に設定している場合は、色紙に設定されている給紙箇所からは給紙されません。

カウンターレポート

コピーやプリントのカウンターや送信カウンターをレポートとしてプリントします。カウンタープリントレポートはカウンター確認画面でプリントできます。（→ e- マニュアル > 基本的な使いかた）

■ トータルカウンターの種類

カウンター確認画面で表示されるトータルカウンターの種類がプリントされます。

■ カウント数

トータルカウンターの種類ごとのカウント数がプリントされます。

■ 送信／ファクスカウンターの種類

送信／ファクスカウンター確認画面で表示されるカウンターの種類がプリントされます。

メモ　FAX ボードを装着していない場合、またはリモート FAX 送信キットを有効にしていない場合には、「送信カウンター」と表示されます。

■ カウント数

カウンターの種類ごとのカウント数がプリントされます。

プリント履歴レポート

プリントの履歴をレポートとしてプリントします。プリント履歴レポートは、状況確認／中止画面でプリントできます。（→ e- マニュアル > 状況確認 / 中止）

■ 部門ID

部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID が記載され、部門 ID ごとにプリント履歴がプリントされます。

■ 受付番号

プリントを受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 日時

プリントが終了した日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ ジョブ名

プリントされた文書名またはジョブの種類がプリントされます。

■ ユーザー名

プリントを行ったユーザー名がプリントされます。

■ 枚数

プリント 1 部あたりの枚数とプリント部数がプリントされます。

■ 結果

OK または NG がプリントされます。

OK はプリントが正常終了したときにプリントされます。

NG の場合、並べて終了コードまたは STOP がプリントされます。

機器情報配信先リスト

機器情報配信の配信先の情報をプリントします。機器情報配信先リストは、必要に応じて手動でプリントします。（→ e- マニュアル > セキュリティー）

■ 配信先

登録してある配信先の IP アドレスがプリントされます。

■ 配信先受信可能データ

登録してある配信先で受信可能な項目をプリントします。

■ 自動配信

登録してある配信先に対して、自動配信が設定されているときは "ON"、設定されていないときは "OFF" とプリントされます。

■ 自動配信データ

自動配信が設定されている場合に、配信する機器情報をプリントします。

機器情報通信履歴レポート

機器情報配信の配信 / 受信の履歴をレポートとしてプリントします。機器情報配信 / 受信履歴レポートは、自動でも手動でもプリントできます。

レポートは、100 件の文書の配信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択できます。また、配信／受信別にプリントすることもできます。（→ e- マニュアル > セキュリティー）

■ 開始時刻

機器情報の配信／受信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。（* マークはすでに機器情報配信／受信レポートをプリントしたことのある履歴です。）

■ 終了時刻

機器情報の配信／受信が終了した日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 種別

機器情報を配信したか受信したかプリントされます。

■ 通信先

配信の場合は、配信先をプリントします。

受信の場合は、配信元をプリントします。

■ データ内容

機器情報を配信／受信したデータ内容をプリントします。

■ 通信結果

正常に配信／受信が終了したときは "OK"、配信／受信エラーのときは "NG" とプリントされます。

NG の場合、並べて終了コードがプリントされます。

送信ジョブリスト

送信のジョブ状況を一覧で確認できます。送信ジョブリストは、状況確認／中止画面でプリントできます。(→ e-マニュアル > 状況確認 / 中止)

メモ　送信ジョブリストには、ファクス、E メール、I ファクス、ファイルサーバーの宛先に送信するジョブが表示されます。

■ 受付時刻

送信を受け付けた日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。ログインサービスに SSO-H を設定している場合、受付時刻の下にログイン時のユーザー名が表示されます。(自動転送などユーザーが特定できない場合は表示されません。)

■ 開始時刻

タイマージョブのときのみ、送信が開始される時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 相手先アドレス

送信先のアドレスがプリントされます。

■ 相手先略称

宛先の名称がプリントされます。

■ 受付番号

送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 通信モード

通信種別と通信サービス名を並べてプリントします。

通信種別：送信

■ 枚数

送信原稿の枚数がプリントされます。

メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

付録

17

送信結果レポート／エラー送信レポート

目的の相手先へ正常に送信できたかどうか、送信結果をプリントできます。

送信結果レポートは、文書を送信したあとに自動的にプリントできます。

また、送信エラーが発生したときのみプリントするように設定することもできます。(→ e-マニュアル > 設定/登録)

メモ
- 送信結果レポートには、ファクス、Eメール、Iファクス、ファイルサーバーの宛先に送信したときやボックスに保管したときの送信結果がプリントされます。ただし、以下の場合は、［送信原稿の表示］が「ON」に設定されていても、原稿は表示されません。
  - 暗号化PDFを設定して送信を行った場合
- 送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。（→ e-マニュアル > 設定/登録）

■ 受付番号
送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 部門ID
部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID がプリントされます。

■ 開始時刻
送信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 枚数
送信原稿の枚数がプリントされます。

■ 送信文書名
送信設定によって付けられた文書名がプリントされます。

■ 未送信相手先
送信が終了していない相手先のアドレスと名称がプリントされます。

■ 終了相手先
送信が終了した相手先のアドレスと名称がプリントされます。

■ エラー相手先
送信エラーになった相手先のアドレスと名称がプリントされます。

メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート

ファクス送信を行った場合に、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。

ファクス送信結果レポートは、ファクス送信後に自動的にプリントする／しないを設定できます。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

メモ
- この機能は、FAXボードを装着しているかリモートFAX送信キットを有効にしている場合に使用できます。
- 送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。（→ e-マニュアル > 設定/登録）

■ レポート名

正常に送信が終了したときは「ファクス送信結果レポート」、送信エラーのときは「ファクスエラー送信結果レポート」とプリントされます。

■ メッセージ

送信終了のメッセージがプリントされます。

■ 受付番号

送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 部門ID

部門別 ID 管理がされている場合に、部門 ID がプリントされます。

■ 相手先アドレス

送信した相手先のファクス番号が上位 48 桁までプリントされます。

■ Fコード

F コードを指定したときにプリントされます。

■ 相手先略称

相手先の略称がプリントされます。

■ 開始時刻

送信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 通信時間

送信開始から終了までに要した時間（分' 秒）がプリントされます。

■ 枚数

送信原稿の枚数がプリントされます。

■ 通信結果

正常に送信が終了したときは "OK"、送信エラーのときは "NG" とプリントされます。

NG の場合、並べて終了コードまたは STOP がプリントされます。

ファクスマルチ送信結果レポート

ファクス同報送信を行った場合に、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。

ファクスマルチ送信結果レポートは、［ファクス送信結果レポート］を「ON」に設定してファクス同報送信を行った場合に、自動的にプリントされます。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

メモ
- この機能は、FAXボードを装着しているかリモートFAX送信キットを有効にしている場合に使用できます。
- 送信原稿の一部をつけてプリントできます。（→ e-マニュアル > 設定/登録）

■ 受付番号

送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 部門ID

部門別 ID 管理がされている場合に、部門 ID がプリントされます。

■ 枚数

送信原稿の枚数がプリントされます。

■ 未送信相手先

送信が終了していない相手先のファクス番号と相手先略称がプリントされます。該当する相手先がない場合は、“---” とプリントされます。

■ 終了相手先

送信が終了した相手先のファクス番号と相手先略称がプリントされます。該当する相手先がない場合は、“---” とプリントされます。

■ エラー相手先

送信エラーになった相手先のファクス番号と相手先略称がプリントされます。該当する相手先がない場合は、“---” とプリントされます。

ファクス受信結果レポート

相手先から正常にファクス文書が送信されてきたか、本製品で正常に受信できたかを確認するためのレポートです。

ファクス受信結果レポートは、ファクス受信後に自動的にプリントする／しないを設定できます。(→ e- マニュアル > 設定 / 登録)

メモ　この機能は、FAX ボードを装着している場合に使用できます。

■ **メッセージ**
受信終了のメッセージがプリントされます。

■ **受付番号**
受信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ **相手先アドレス**
送信元で登録されているファクス番号が上位 48 桁までプリントされます。

■ **Fコード**
F コードを指定したときにプリントされます。

■ **相手先略称**
送信元の略称がプリントされます。

■ **開始時刻**
受信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ **通信時間**
受信開始から終了までに要した時間（分' 秒）がプリントされます。

■ **枚数**
受信原稿の枚数がプリントされます。

■ **通信結果**
正常に受信が終了したときは“OK”、受信エラーのときは“NG”とプリントされます。
NG の場合、並べて終了コードまたは STOP がプリントされます。

ファクスボックス受信レポート

ファクスボックス内に文書を受信したことを確認できます。

ファクスボックス受信結果レポートは、受信後に自動的にプリントする／しないを設定できます。(→ e- マニュアル > 設定 / 登録)

メモ　この機能は、FAX ボードを装着している場合に使用できます。

■ **ボックス番号／名称**
受信したファクスボックスの番号（00 ～ 49）と名称がプリントされます。

■ **受付番号**
受信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ **相手先アドレス**
送信元で登録されているファクス番号が上位 48 桁までプリントされます。

■ **Fコード**
F コードを指定したときにプリントされます。

■ **相手先略称**
送信元の略称がプリントされます。

■ **開始時刻**
受信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ **通信時間**
受信開始から終了までに要した時間（分' 秒）がプリントされます。

■ **枚数**
受信原稿の枚数がプリントされます。

■ **通信結果**
正常に受信が終了したときは“OK”、受信エラーのときは“NG”とプリントされます。
NG の場合、並べて終了コードまたは STOP がプリントされます。

通信管理レポート

送信／受信の履歴をレポートとしてプリントします。通信管理レポートは、自動でも手動でもプリントできます。

レポートは、100 件の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択できます。また、送信／受信別にプリントすることもできます。

通信管理レポートを手動でプリントする場合は、状況確認／中止画面から行います。（→ e- マニュアル > 状況確認 / 中止）

メモ
- 通信管理レポートには、ファクスの送信、Eメール、I ファクス、ファイルサーバーの送信／受信やボックスへの保管の履歴がプリントされます。
- プリント機能が使用できないことを示す「プリンターの点検が必要です。（担当サービスに連絡）」、というメッセージが表示された場合、復旧後の通信管理レポートには、最新100件までの通信履歴が印字されます。

■ 部門ID
部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID が記載され、部門 ID ごとに通信履歴がプリントされます。

■ 開始時刻
通信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。（* マークはすでに通信管理レポートをプリントしたことのある通信です。）ログインサービスに SSO-H を設定している場合、開始時刻の下にログイン時のユーザー名が表示されます。（自動転送などユーザーが特定できない場合は表示されません。）

■ 相手先アドレス
送信先のアドレスがプリントされます。
- 通信サービスがファイル（FTP、SMB、IPX、WebDAV）の場合
  パス名が2行目にプリントされます。
- 通信サービスがファクスの場合
  Fコードがある場合は、2行目にプリントされます。

■ 相手先略称
宛先の名称がプリントされます。

■ 受付番号
通信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

送信文書は 0001 ～ 4999、受信文書は 5001 ～ 9999 の受付番号がつけられます。

■ 通信モード
通信種別と通信サービス名を並べてプリントします。

通信種別：送信／受信

通信サービス：FTP/SMB/IPX/WebDAV ／ボックス／ I ファクス／ E メール／ファクス／ G3/ECM

メモ　FAX ボードを装着している場合は、ボックス／ファクス／ G3/ECM が表示されます。

■ 枚数
通信した原稿の枚数がプリントされます。

■ 通信結果
“OK”、“NG” または “--” と通信時間を並べてプリントします。

送信が成功した文書は、“OK” とプリントされます。

送信が失敗した文書には、“NG” とプリントされ、2 行目に終了コードがプリントされます。

“--” 表示は E メール、I ファクスで送信したときに、サーバーまたは相手先まで送信が確認されなかった場合に表示されます。

メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

ファクス通信管理レポート

ファクス通信の結果を確認するためのレポートです。ファクス通信管理レポートは自動でも手動でも出力できます。

レポートは、40 件の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択できます。ファクス通信管理レポートは、自動的にプリントする／しないかを設定できます。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

メモ
- この機能は、FAXボードを装着しているかリモートFAX送信キットを有効にしている場合に使用できます。
- プリント機能が使用できないことを示す「プリンターの点検が必要です。（担当サービスに連絡）」というメッセージが表示された場合、復旧後のファクス通信管理レポートには、最新40 件までの通信履歴が印字されます。

■ 部門ID

部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID が記載され、部門 ID ごとに通信履歴がプリントされます。

■ 開始時刻

通信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。（* マークはすでに通信管理レポートをプリントしたことのある通信です。）ログインサービスに SSO-H を設定している場合、開始時刻の下にログイン時のユーザー名が表示されます。（自動転送などユーザーが特定できない場合は表示されません。）

■ 相手先アドレス

通信した相手先の略称とファクス番号がプリントされます。また､F コードや発信人の名称を指定したときには、ファクス番号の下にプリントされます。

■ 番号

通信を受け付けたとき、自動的につけられた番号（4 桁）がプリントされます。番号 0001 ～ 4999 は送信、番号 5001 ～ 9999 は受信です。

■ 通信モード

通信した内容および、通信モードがプリントされます。

送信時：送信、同報送信、タイマー同報送信、転送送信、ダイレクト送信

受信時：ファクスボックス受信、メモリー受信、転送受信、自動受信、手動受信

通信モード：G3/ECM

回線の種類（回線の増設時のみ表示されます）：1、2、3、4、5、6、7、8

■ 枚数

通信した原稿の枚数がプリントされます。

■ 通信結果

“OK” または “NG” と通信時間を並べてプリントします。

通信が成功した文書は、“OK” とプリントされます。

通信エラーのときは “NG” とプリントされます。

NG の場合、並べて終了コードまたは STOP がプリントされます。

転送条件リスト

転送設定の内容をプリントできます。転送条件リストは、必要に応じて手動でプリントします。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

LDAP サーバー登録リスト

LDAP サーバーの設定内容をプリントできます。LDAP サーバー登録リストは、必要に応じて手動でプリントします。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

宛先表リスト

［宛先設定］（設定／登録）で登録した宛先表 1 〜 10、ワンタッチの内容をプリントできます。宛先表リストは、必要に応じた宛先表を選択して、手動でプリントします。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

メモ　宛先表リストには、ファクス、E メール、I ファクス、ファイルサーバーの宛先やグループ宛先が表示されます。

■ 宛先名

登録されている宛先の名称がプリントされます。

ワンタッチの内容をプリントする場合は、1 行目にワンタッチの番号がプリントされます。

■ 手段

登録されている宛先の送信手段がプリントされます。

■ 宛先アドレス

- 手段がFTP、SMB、IPX、WebDAV（ファイル）の場合
  1行目にホスト名、2行目にフォルダーへのパスがプリントされます。
- 手段がボックスの場合
  ボックス番号がプリントされます。
- 手段がIファクスまたはEメールの場合
  IファクスアドレスまたはEメールアドレスがプリントされます。
- 手段がファクスの場合
  1行目にファクス番号、Fコードがある場合は2行目にプリントされます。
- 手段がグループの場合
  登録されている各宛先を2行目から順にプリントします。
  ファイルが登録されている場合、2行目の項目はプリントされません。

付録

17

保存先管理レポート

ファイルの保存先の履歴をプリントできます。保存先管理レポートは、状況確認／中止画面でプリントできます。（→ e- マニュアル > 状況確認 / 中止）

■ 保存時刻

保存を完了した日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。（* マークはすでに保存先管理レポートをプリントしたことのある履歴です。）

■ 受付番号

保存を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ ユーザー名

保存を行ったユーザー名がプリントされます。

■ 保存先

ファイルの保存先の名称やパスなどがプリントされます。

■ プロトコル

保存先の種別がプリントされます。

メモ　保存先の種別は 3 つあり、以下の条件でプリントされます。
- MemoryMedia：「スキャンして保存」からUSBメモリーなどのリムーバブルメディアに保存した場合
- Local：「スキャンして保存」から本機のアドバンスドボックスに保存した場合
- Network：「スキャンして保存」から他機のアドバンスドボックスに保存した場合

■ 結果

正常に保存が終了したときは “OK”、保存エラーのときは “NG” とプリントされます。

NG の場合、並べて終了コードまたは STOP がプリントされます。

メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

ユーザーデータリスト

設定／登録の登録内容をプリントします。必要に応じて手動でプリントします。（→ e- マニュアル > 設定 / 登録）

メモ　ユーザーデータリストには、以下の種類があります。
- 送信／受信：設定／登録の送受信に関する登録をすべてプリントします。出力する方法はe-マニュアル>設定/登録を参照してください。
- ファクス：設定／登録のファクスに関する登録内容をすべてプリントします。出力する方法はe-マニュアル>設定/登録を参照してください。
- ネットワーク：設定／登録のネットワークに関する登録内容をすべてプリントします。出力する方法はe-マニュアル>ネットワークを参照してください。

システム情報

MEAP 上にインストールされているアプリケーション、および一部のシステムアプリケーションの情報を印刷できます。システム情報は、必要に応じて手動でプリントします。（→ e- マニュアル > セキュリティー）

- MEAP Contents：
  MEAPコンテンツのバージョンが印刷されます。
- MEAP Specifications：
  対応するバージョンが印刷されます。
- MEAP Function ID：
  対応するIDが印刷されます。
- Application Name：
  アプリケーションの名称が印刷されます。
- Application ID/System Application Name：
  システムアプリケーションの場合はファイル名、一般のアプリケーションの場合はアプリケーションIDが印刷されます。
- Application Version：
  アプリケーションのバージョン名が印刷されます。
- Status：
  アプリケーションの状態が印刷されます。
- Installed on：
  アプリケーションをインストールした日時が印刷されます。
- Vendor：
  アプリケーションの開発メーカ名が印刷されます。
- License Status：
  ライセンスの状態が印刷されます。
- License Expires After：
  ライセンス期限が印刷されます。
- License Upper Limit ：
  カウンターごとの上限枚数が印刷されます。
- Counter Value：
  カウンターごとの現在値が印刷されます。
- Free Register：
  レジスターごとの現在値が印刷されます。
- Maximum Memory Usage：
  アプリケーションの最大メモリー使用量が印刷されます。印刷された数値の単位はKバイトです。
- Registered Service：
  アプリケーションからMEAPのシステムに登録しているサービスが印刷されます。該当するデータがない場合は印刷されません。

メモ　プリントされる項目は製品が改良され変更になったり、今後発売される製品によって内容が変更になることがありますので、ご了承ください。

仕様

製品が改良され変更になったり、今後発売される製品によって内容が変更になることがありますので、ご了承ください。

本製品に関する情報はキヤノンホームページでもご確認いただけます。キヤノンホームページ（http://canon.jp/）の製品情報から「複合機／コピー」のカテゴリーを選択し、お使いの機種のページを参照してください。

本体

項目	仕様
名称	キヤノン imageRUNNER ADVANCE 6075/6065/6055
形式	リーダー・プリンター分離型、コンソールタイプ
書き込み解像度	1200 × 1200 dpi
使用可能用紙	本体ペーパーデッキ給紙（左右） 用紙坪量： 52 g/m^2 ～ 220 g/m^2 用紙種類： 薄紙、普通紙、再生紙、色紙、厚紙、パンチ済み紙 カセットから給紙 用紙坪量： 52 g/m^2 ～ 220 g/m^2 用紙種類： 薄紙、普通紙、再生紙、色紙、厚紙、パンチ済み紙、インデックス紙 手差しトレイから給紙 用紙坪量： 52 g/m^2 ～ 256 g/m^2 用紙種類： 薄紙、普通紙、再生紙、色紙、厚紙、OHP フィルム、ラベル用紙、第 2 原図、パンチ済み紙、郵便はがき、郵便往復はがき、郵便 4 面はがき 用紙の種類によっては、使用の際に条件があります。詳細に関しては e- マニュアル > 基本的な使いかたを参照してください。
使用可能用紙サイズ	本体ペーパーデッキ給紙（左右）： A4、B5 カセット給紙： A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5R、ユーザー設定サイズ（139.7 × 182 mm ～ 297 × 487.7 mm） 手差しトレイ給紙： A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5R、郵便はがき、郵便往復はがき、郵便 4 面はがき、ユーザー設定サイズ・フリーサイズ（100 × 148 mm ～ 297 × 487.7 mm）
ウォームアップタイム	主電源立ち上げ時：30 秒以下 スリープモードからの立ち上げ時：30 秒以下（定着器の温度 70 ℃以上の場合） 節電モードからの立ち上げ時：約 20 秒 * 使用環境、使用条件によって変わる場合があります。（上記はいずれも室温 20℃の場合）
ファーストコピータイム	imageRUNNER ADVANCE 6075：3.1 秒 以下 imageRUNNER ADVANCE 6065/6055：3.3 秒以下

項目	仕様
連続複写速度* （手差しトレイ給紙を除く）	等倍、（枚／分） <table><tr><td></td><td>imageRUNNER ADVANCE 6075</td><td>imageRUNNER ADVANCE 6065</td><td>imageRUNNER ADVANCE 6055</td></tr><tr><td>A3</td><td>37</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>B4</td><td>45</td><td>39</td><td>39</td></tr><tr><td>A4</td><td>75</td><td>65</td><td>55</td></tr><tr><td>A4R</td><td>54</td><td>47</td><td>40</td></tr><tr><td>B5</td><td>75</td><td>65</td><td>55</td></tr><tr><td>B5R</td><td>63</td><td>55</td><td>46</td></tr><tr><td>A5R</td><td>35</td><td>35</td><td>35</td></tr></table>* 原稿の内容や設定の組み合せによっては、遅くなる場合があります。速度を優先する場合は、［原稿の種類］で [文字モード] を選択してください。
画像欠け幅	先端：2.5 mm 左右各：2.5 mm 後端：2.5 mm
給紙方式／給紙容量	本体ペーパーデッキ給紙： 1500 枚 × 2 デッキ（80 g/m^2） 1700 枚 × 2 デッキ（64 g/m^2） カセット給紙： 550 枚 × 2 カセット（80 g/m^2） 680 枚 × 2 カセット（64 g/m^2） 手差し給紙： 100 枚（80 g/m^2） 100 枚（64 g/m^2）
連続複写枚数	9999 枚
電源	AC 100 V，15 A，50/60Hz 共通
最大消費電力	最大消費電力：1.5 kW 以下 スリープモード時：1 W 以下 節電モード時：245 W 以下（-10% 設定時）
メモリー容量	標準：1.5GB 最大：2 GB
ハードディスク容量	標準：80GB 最大：250GB
大きさ （原稿台ガラス面まで）	645 mm（幅）× 770 mm（奥行) × 1040 mm（高さ）
大きさ （マルチカラーイメージリーダーユニット・C1 装着時）	立面操作部を含めない場合： 645 mm（幅）× 770 mm（奥行)× 1220 mm（高さ） 立面操作部を含める場合： 1481 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行）×1252 mm（立面操作部標準位置上端まで）
質量	約 237 kg （含トナーボトル、マルチカラーイメージリーダーユニット・C1）
機械占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1362 mm（幅）× 770 mm（奥行) 立面操作部を含める場合： 1901 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （コピートレイ・Q1 装着時、手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

マルチカラーイメージリーダーユニット・C1

項目	仕様
形式	プリンター分離型 流し読み（フィーダー），固定読み（リーダー）
読み取り解像度	600 × 600 dpi
階調数	256 階調
複写原稿	シート、ブック原稿、立体物（約 2 kg まで）
原稿サイズ／種類	用紙サイズ： A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R、B6R 用紙坪量： 片面読み込み：38 ～ 220 g/m^2 両面読み込み：モノクロ 50 ～ 220 g/m^2 カラー 64 ～ 220 g/m^2
複写倍率	定型： 等倍 1：1 縮小 1：0.86（A3 → B4/A4 → B5） 1：0.81（B4 → A4R/B5 → A5R） 1：0.70（A3 → A4R/B4 → B5R） 1：0.61（A3 → B5R） 1：0.50（A3 → A5R） 1：0.25 拡大 1：1.15（B4 → A3/B5 → A4） 1：1.22（A4R → B4/A5 → B5） 1：1.41（A4R → A3/B5R → B4） 1：2.00（A5R → A3） 1：4.00 ズーム： 25 ～ 400%（1% 刻み）
原稿送り装置の種類	自動両面原稿送り装置
原稿の収容可能枚数	300 枚（80 g/m^2）
原稿読み取り速度	コピー時： 片面読み込み： 120 枚／分（A4、600 dpi、モノクロ） 両面読み込み： 60 枚（120 ページ）／分（A4、600 dpi、モノクロ） スキャン時： 片面読み込み： 120 枚／分（A4、300 dpi、モノクロ） 85 枚／分（A4、300 dpi、カラー） 51 枚／分（A4、600 dpi、カラー） 両面読み込み： 100 枚（200 ページ）／分（A4、300 dpi、モノクロ） 50 枚（100 ページ）／分（A4、300 dpi、カラー） 25.5 枚（51 ページ）／分（A4、600 dpi、カラー） * スキャンモード・原稿画像の種類により異なります。
電源／最大消費電力	本体より供給／ 180 W （フィーダー部および読み取り部）
大きさ	635 mm（幅）× 605 mm（奥行）× 253 mm（高さ） （フィーダー部および読み取り部）
質量	39.4 kg （フィーダー部および読み取り部）

ペーパーデッキユニット・D1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	用紙サイズ：A3、B4、A4、A4R、B5 用紙坪量：52 g/m^2 ～ 220 g/m^2 用紙種類：薄紙、普通紙、厚紙、色紙、再生紙、パンチ済み紙
給紙容量	3500 枚（80 g/m^2）、4000 枚（64 g/m^2）
電源／最大消費電力	本体より供給／約 39 W
大きさ	601 mm（幅）× 621 mm（奥行）× 570 mm（高さ）
質量	約 57 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1671 mm（幅）× 770 mm（奥行) 立面操作部を含める場合： 1901 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （コピートレイ・Q1 装着時、補助トレイを伸ばしたサイズ）

ペーパーデッキユニット・A1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	用紙サイズ：A4、B5 用紙坪量：52 g/m^2 ～ 220 g/m^2 用紙種類：薄紙、普通紙、厚紙、色紙、再生紙、パンチ済み紙
給紙容量	3500 枚（80 g/m^2）、4000 枚（64 g/m^2）
電源／最大消費電力	本体より供給／約 39 W
大きさ	323 mm（幅）× 583 mm（奥行）× 570 mm（高さ）
質量	約 37 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1393　mm（幅）× 770 mm（奥行) 立面操作部を含める場合： 1901 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （コピートレイ・Q1 装着時、補助トレイを伸ばしたサイズ）

シフトトレイ・E1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	本体通紙可能な用紙すべて
トレイ容量	500 枚（80 g/m^2）
大きさ	366 mm（幅）× 547 mm（奥行）× 256 mm（高さ）
質量	約 4.2 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1308 mm（幅）× 770 mm（奥行) 立面操作部を含める場合： 1847 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

コピートレイ・Q1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	本体通紙可能な用紙すべて
トレイ容量	250 枚（80 g/m^2）
大きさ	420 mm（幅）× 382 mm（奥行）× 175 mm（高さ）
質量	約 1.1 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1362 mm（幅）× 770 mm（奥行） 立面操作部を含める場合： 1901 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

ペーパーフォールディングインサーターユニット・H1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	用紙サイズ： Z 折り：A3、B4、A4R C 折り：A4R インサーター：A3、B4、A4、A4R、B5、B5R 用紙坪量： Z 折り：60 ～ 105 g/m^2 C 折り：60 ～ 105 g/m^2 インサーター：60 ～ 256 g/m^2 用紙種類： インサーター：薄紙、普通紙、厚紙、色紙、再生紙、インデックス紙、コート紙 * Z 折り、C 折り：薄紙、普通紙、色紙、再生紙 * 91 ～ 105 g/m^2 の用紙で C 折り・Z 折りをする場合は、普通紙を選択してください。 * コート紙はインサーターからの給紙のみ対応しています。
折り機のトレイ積載容量	Z 折り：排紙先フィニッシャーの仕様に従う C 折り：40 枚（80 g/m^2）／高さ 60 mm 相当
インサーター積載枚数	100 枚（80 g/m^2）
電源／最大消費電力	AC 100 V-240 V，1.0 A，50/60Hz 共通 ／約 170 W
大きさ	662 mm（幅）× 679 mm（奥行）× 1242 mm（高さ）
質量	約 76 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1947 mm（幅）× 770 mm（奥行） 立面操作部を含める場合： 2486 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （中綴じフィニッシャー・E1 装着時、手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

ステイプルフィニッシャー・E1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	本体通紙可能な用紙すべて
トレイ容量	ノンソート トレイ A： A4、B5、A5R： 250 枚（高さ 43 mm 相当） A3、B4、A4R、B5R： 125 枚（高さ 21 mm 相当） トレイ B： A4、B5、A5R： 1300 枚（高さ 188 mm 相当）* A3、B4、A4R、B5R： 650 枚（高さ 96 mm 相当） トレイ C： A4、B5： 2450 枚（高さ 347 mm 相当）* A5R： 1700 枚（高さ 243 mm 相当）* A3、B4、A4R、B5R： 650 枚（高さ 96 mm 相当） * 薄紙または坪量 59 g/m^2 以下のユーザー設定用紙を選択した場合は高さ 96 mm 以下、または 1200 枚
	ソート、グループ トレイ B： A4、B5： 1300 枚（高さ 188 mm 相当）* A3、B4、A4R： 650 枚（高さ 96 mm 相当） トレイ C： A4、B5： 1700 枚（高さ 243 mm 相当）* A3、B4、A4R： 650 枚（高さ 96 mm 相当） * 薄紙または坪量 59 g/m^2 以下のユーザー設定用紙を選択した場合は高さ 96 mm 以下、または 1200 枚
	ホチキス トレイ B、トレイ C： A4、B5： 1300 枚／ 100 部（高さ 188 mm 相当）* A3、B4、A4R： 650 枚／ 50 部（高さ 96 mm 相当） * 薄紙または坪量 59 g/m^2 以下のユーザー設定用紙を選択した場合は高さ 96 mm 以下、または 1200 枚
	Z 折り（ペーパーフォールディングインサーターユニット・H1 装着時） トレイ B、トレイ C： A3、B4： 30 枚 ホチキス時 1 部あたり：10 枚 A4R： 10 枚
	ノンソート、ソート、グループ：サイズ混載時 トレイ B、トレイ C： 650 枚（高さ 96 mm 相当）
	ホチキス：サイズ混載時 トレイ B、トレイ C： 650 枚／ 50 部（高さ 96 mm 相当）

項目	仕様
ホチキス	標準ステイプルカートリッジ装着時 （用紙の種類や厚さによって、ホチキス可能枚数が少なくなることがあります。） A4、B5： 　50 枚（80 g/m^2） A3、B4、A4R： 　30 枚（80 g/m^2） コーナーホチキス／ダブルホチキス： 　A3、B4、A4、A4R、B5
電源／最大消費電力	本体より供給／約 108 W
大きさ	649 mm（748 mm*）（幅）× 656 mm（奥行）× 1121 mm（高さ） * 補助トレイを伸ばしたサイズ
質量	約 48 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 　1695 mm（幅）× 770 mm（奥行） 立面操作部を含める場合： 　2234 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

中綴じフィニッシャー・E1

項目	仕様
用紙サイズ／使用可能用紙	本体通紙可能な用紙すべて
トレイ容量	ノンソート 　トレイ A： 　　A4、B5、A5R： 　　　250 枚（高さ 43 mm 相当） 　　A3、B4、A4R、B5R： 　　　125 枚（高さ 21 mm 相当） 　トレイ B： 　　A4、B5、A5R： 　　　1300 枚（高さ 188 mm 相当）* 　　A3、B4、A4R、B5R： 　　　650 枚（高さ 96 mm 相当） 　トレイ C： 　　A4、B5： 　　　2450 枚（高さ 347 mm 相当）* 　　A5R： 　　　1700 枚（高さ 243 mm 相当）* 　　A3、B4、A4R、B5R： 　　　650 枚（高さ 96 mm 相当） 　　* 薄紙または坪量 59 g/m^2 以下のユーザー設定用紙を選択した場合は高さ 96 mm 以下、または 1200 枚
	ソート、グループ 　トレイ B： 　　A4、B5： 　　　1300 枚（高さ 188 mm 相当）* 　　A3、B4、A4R： 　　　650 枚（高さ 96 mm 相当） 　トレイ C： 　　A4、B5： 　　　1700 枚（高さ 243 mm 相当）* 　　A3、B4、A4R： 　　　650 枚（高さ 96 mm 相当） 　　* 薄紙または坪量 59 g/m^2 以下のユーザー設定用紙を選択した場合は高さ 96 mm 以下、または 1200 枚

項目	仕様
トレイ容量	ホチキス トレイ B、トレイ C： A4、B5： 1300 枚／ 100 部（高さ 188 mm 相当）* A3、B4、A4R： 650 枚／ 50 部（高さ 96 mm 相当） * 薄紙または坪量 59 g/m^2 以下のユーザー設定用紙を選択した場合は高さ 96 mm 以下、または 1200 枚
	Z 折り（ペーパーフォールディングインサーターユニット・H1 装着時） トレイ B、トレイ C： A3、B4：30 枚 ホチキス時 1 部あたり：10 枚 A4R：10 枚
	ノンソート、ソート、グループ：サイズ混載時 トレイ B、トレイ C： 650 枚（高さ 96 mm 相当） ホチキス：サイズ混載時 トレイ B、トレイ C： 650 枚／ 50 部（高さ 96 mm 相当）
	中とじ： 1 ～ 5 枚／ 25 部、6 ～ 10 枚／ 15 部、11 ～ 16 枚／ 10 部
ホチキス	標準ステイプルカートリッジ装着時 （用紙の種類や厚さによって、ホチキス可能枚数が少なくなることがあります。） A4、B5： 50 枚（80 g/m^2） A3、B4、A4R： 30 枚（80 g/m^2） コーナーホチキス／ダブルホチキス： A3、B4、A4、A4R、B5
中とじ	中とじ可能枚数： 16 枚（80 g/m^2）（表紙として最大 256 g/m^2 までの用紙を 1 枚含む） 未とじ折り可能枚数： 1 枚（60 ～ 256 g/m^2） サイズ： A3、B4、A4R 表紙の厚さ： 本文以上の坪量であること
電源／最大消費電力	本体より供給／約 112 W
大きさ	649 mm（748 mm*）（幅）× 656 mm（奥行）× 1121 mm（高さ） * 補助トレイを伸ばしたサイズ
質量	約 70.5 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1695 mm（幅）× 770 mm（奥行) 立面操作部を含める場合： 2234 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

外付け 2 穴パンチャー・A1

項目	仕様
パンチ可能サイズ／使用可能用紙	用紙サイズ： A3、B4、A4、A4R、B5、B5R 用紙坪量： 52 ～ 256 g/m^2 用紙種類： 薄紙、普通紙、厚紙、色紙、再生紙、インデックス紙、コート紙 * * コート紙はインサーターからの給紙のみ対応しています。
パンチ穴数／穴径	2 穴：6.5 mm
パンチ穴間隔	2 穴：80 mm
パンチ屑受け容量	約 10000 枚（80 g/m^2）
電源	本体より供給／約 25 W
大きさ	107 mm（幅）× 615 mm（奥行）× 833 mm（高さ）
質量	約 7.7 kg
本体接続時の占有寸法	立面操作部を含めない場合： 1807 mm（幅）× 770 mm（奥行) 立面操作部を含める場合： 2346 mm（立面操作部最右部まで）× 770 mm（奥行） （中綴じフィニッシャー・E1 装着時、手差しトレイと補助トレイを伸ばしたサイズ）

カードリーダー・C1

項目	仕様
使用カード	磁気式カード
カード読み取り方式	磁気式移動読み取り
カード読み取り方向	差込方向
記録・再生	再生
電源	本体より供給
大きさ	88 mm（幅）× 100 mm（奥行）× 32 mm（高さ） （取付け板・ケーブルを含めない）
質量	約 295 g （取付け板・ケーブルを含む）

コピーカードリーダー・F1

項目	仕様
使用カード	磁気式カード
カード読み取り方式	磁気式移動読み取り
カード読み取り方向	差込方向
記録・再生	再生
電源	本体より供給
大きさ	88 mm（幅）× 96 mm（奥行）× 40 mm（高さ） （取付け板・ケーブルを含めない）
質量	約 200 g （取付け板・ケーブルを含む）

スーパー G3FAX ボード・AF1

G3 回線増設キット（2 回線）または G3 回線増設キット（3・4 回線）を装着して回線を増設している場合でも、同じ仕様です。

項目	仕様
適用回線 *	加入電話回線網、ファクシミリ通信網（F ネット）
走査線密度（送信）	ノーマルモード：8 ドット／ mm × 3.85 ライン／ mm ファインモード：8 ドット／ mm × 7.7 ライン／ mm スーパーファインモード：8 ドット／ mm × 15.4 ライン／ mm ウルトラファインモード：16 ドット／ mm × 15.4 ライン／ mm
通信速度	Super G3：33.6 kbps、G3：14.4 kbps
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信モード	Super G3、G3
送信原稿サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5*、B5R**、A5**、A5R** *B4 短尺で送信されます。 **A4 として送信されます。
記録紙サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R
電送時間	ECM-MMR（ITU-T 対応）：約 3.2 秒 G3MR 方式標準モード：約 13 秒 G3MH 方式標準モード：約 13 秒 JBIG：約 2.6 秒
オートダイヤル機能	宛先表：1800 件（ワンタッチボタンで登録された宛先含む）
メモリー	約 8000 枚

* IP 電話にご加入の場合、IP 電話経由ではファクシミリ通信が正常に行えない場合があります。ファクシミリ通信は一般電話（加入電話／ F ネット）回線経由でのご使用をおすすめします。

送信機能

■ プッシュスキャン機能

項目	仕様
通信プロトコル	FTP（TCP/IP）、SMB（TCP/IP）、WebDAV
データフォーマット	TIFF、JPEG、PDF、XPS
解像度	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、200×100 dpi、200×200 dpi、200×400 dpi、300×300 dpi、400 × 400 dpi、600 × 600 dpi
システム環境	Windows 2000 Server SP4、Windows XP Professional SP3、Windows Server 2003 R2 SP2、Windows Vista SP2、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP2、Windows 7、Solaris 10、MacOS X 10.4.x/10.5.x、RedhatLinux 9
インターフェイス	1000BASE-T、100BASE-TX、10BASE-T
カラーモード	自動（カラー／グレースケール）、自動（カラー／白黒 2 値）、カラー、グレースケール、白黒 2 値
入力画像タイプ	文字、文字／写真、写真
その他	プレビュー送信、SMB コンピューター参照
付加機能（PDF ／ XPS）	高圧縮、アウトライン *、暗号化 *、サーチャブル、機器署名、ユーザー署名、タイムスタンプ *、リニアライズド *、PDF/A*、Reader Extensions* * は PDF のみ

付録
17

■ Eメール送信、Iファクス送信機能

項目	仕様		
通信プロトコル	SMTP、POP3		
I ファクス通信モード	Simple モード、Full モード		
解像度	E メール	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、200×100 dpi、 200 × 200 dpi、200 × 400 dpi、300×300 dpi、 400 × 400 dpi、600 × 600 dpi	
	I ファクス	白黒	200 × 100 dpi、200 × 200 dpi、 200 × 400 dpi*、300 × 300 dpi*、 400 × 400 dpi*、600 × 600 dpi*
		* 相手側受信条件設定により可能	
対応フォーマット	E メール	TIFF、JPEG、PDF、XPS	
	I ファクス	白黒	TIFF(MH、MR*、MMR*)
		* 相手側受信条件設定により可能	
原稿サイズ	E メール	A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R	
	I ファクス	A3、B4、A4、A4R、B5*、B5R**、A5**、A5R** *B4 短尺で送信されます。 **A4 として送信されます。	
対応サーバーソフトウェア	Microsoft Exchange 2003 SP2、Microsoft Exchange 2007 SP1、Sendmail 8.12.8、Lotus Domino R7.0		
その他	LDAP サーバーからの宛先取得、プレビュー送信		
E メール付加機能（PDF ／ XPS）	高圧縮、アウトライン *、暗号化 *、サーチャブル、機器署名、ユーザー署名、タイムスタンプ *、リニアライズド *、PDF/A*、Reader Extensions* * は PDF のみ		

付録

17

ネットワーク環境

ハードウェアの仕様

ネットワーク インターフェイス	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 共用（RJ45）

ソフトウェアの仕様

対応プロトコル		
TCP/IP	フレームタイプ：	Ethernet II
	プリントアプリケーション：	LPD/Raw/IPP/IPPS/BMLinkS[*1]/FTP/WSD
IPX/SPX	フレームタイプ：	Ethernet II /Ethernet 802.2/ Ethernet 802.3/Ethernet SNAP/ 自動検出
	プリントアプリケーション：	Bindery PServer/NDS PServer/ RPrinter/NPrinter
NetBIOS[*1]	フレームタイプ：	Ethernet II
	プリントアプリケーション：	SMB
AppleTalk	フレームタイプ：	Ethernet SNAP
	プリントアプリケーション：	PAP

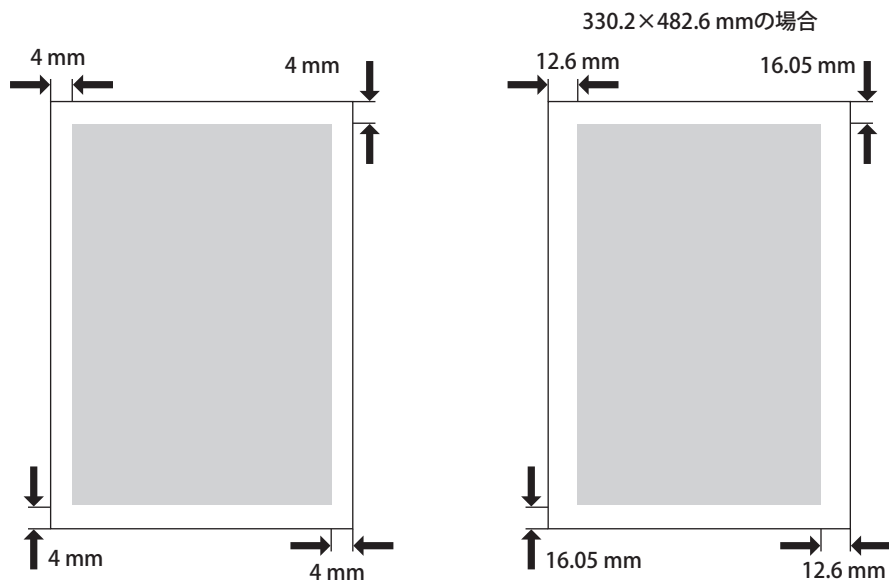
[*1] IPv6 には対応していません 。

プリンター設定

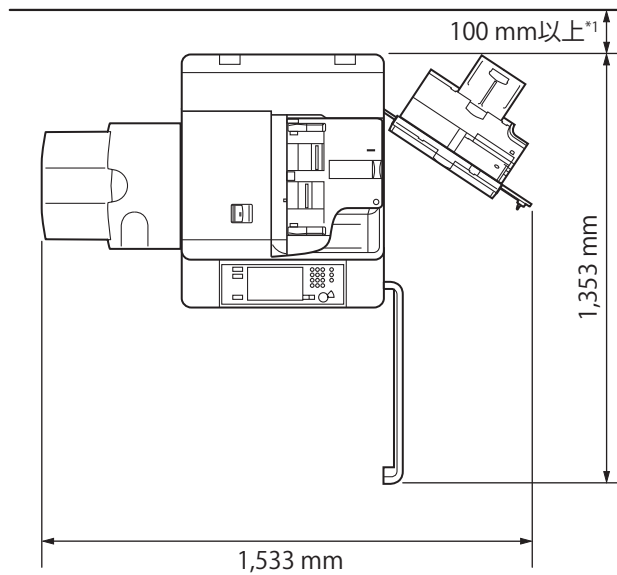
ソフトウェアの仕様

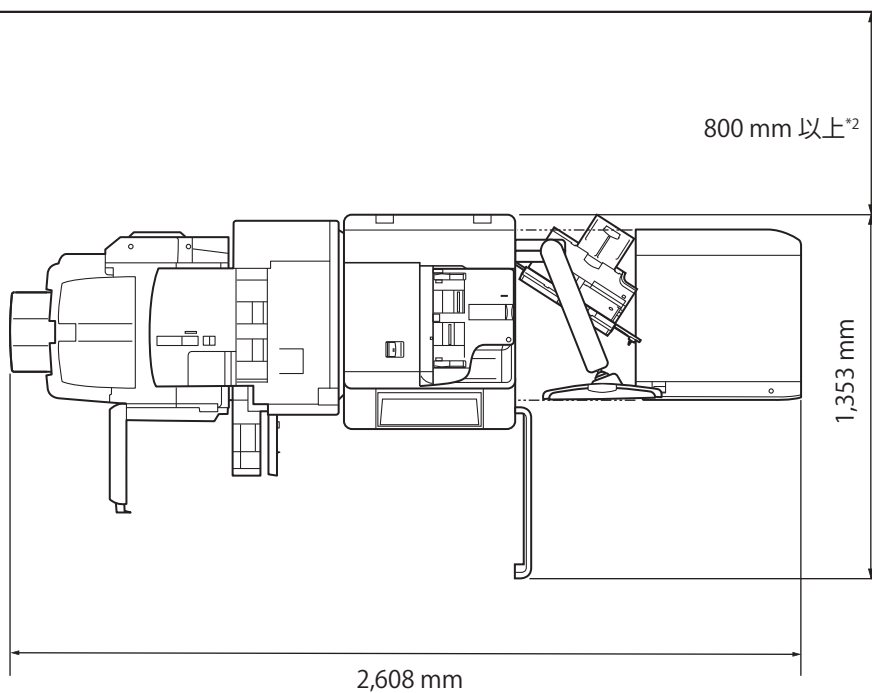
動作モード	LIPS モード、エミュレーションモード（N201、ESC/P、I5577、HP-GL、HP-GL/2）、Imaging モード、PDF モード
内蔵コントロールコマンド（LIPS V プリンターのみ）	LIPS II+/LIPS III/LIPS IV/LIPS LX 標準 N201、標準 ESC/P、標準 I5577、標準 HP-GL、標準 HP-GL/2
内蔵スケーラブルフォント（LIPS V プリンターのみ）	平成明朝体 TMW3（☆注）、平成角ゴシック体 TMW5（☆注）、丸ゴシック体、ラインプリンタボールド、Courier、Dutch、Swiss、Symbol ☆注：これらのフォントは日本規格協会を中心に開発参加者が共同開発したものです。当社の許可なしに複製することはできません。
有効印字領域	**■ LIPS LX プリンター／ LIPS V プリンターの場合** 定形サイズの用紙の場合、用紙の端から上下左右の余白は 5 mm です。 * プリンタードライバーで「印字領域を広げて印刷する」にチェックしてプリントした場合、余白が各用紙のサイズの端から上下左右 2.5 mm となり、有効印字領域が拡大されます。 * 用紙いっぱいにデータがある場合、「印字領域を広げて印刷する」にチェックしてプリントしても、データの周囲が欠けて印字されることがあります。その場合はプリンタードライバーでデータが欠けないように縮小率を設定し、プリントしなおしてください。 **■ダイレクトプリントプリンターの場合** ● PDF ファイルをダイレクトプリントした場合 用紙の端から上下左右の余白は 4 mm です。 * タッチパネルまたはリモート UI の「印字領域拡大する」を設定すると、用紙の周囲の余白は上下左右とも 0 mm となり、有効印字領域が拡大されます。（→ e- マニュアル > プリント、リモート UI） ● TIFF/JPEG データをダイレクトプリントした場合 * 用紙の端から上下左右の余白は 5 mm です。 タッチパネルまたはリモート UI の「印字領域拡大する」を設定すると、用紙の周囲の余白は上下左右とも 0 mm となり、有効印字領域が拡大されます。（→ e- マニュアル > プリント、リモート UI）

■ PSプリンタ

内蔵コントロールコマンド	PostScript3 ☆注：Adobe 社の純正 PostScript です。対応バージョンは 3017 です。
内蔵スケーラブルフォント	和文フォント：Adobe 平成 2 書体（平成明朝体 W3/ 平成角ゴシック体 W5） 欧文フォント：136 書体
有効印字領域	上下左右とも周囲 4 mm の範囲には印字できません。 * PS の仕様は、全周 4 mm の範囲内で画像を作成します。0 mm モードで印刷する場合は、余白が全周 2.5 mm となり、有効印字領域が拡大されます。 * 330.2 × 482.6 mm サイズの用紙は上下 16.05mm、左右 12.6 mmの範囲には印字できません。

設置スペースにはゆとりを

■ 製品の左右と前面および背面には、操作に十分なスペースをとってください。

コピートレイ + マルチカラーイメージリーダーユニット装着時

*1：ペーパーフォールディングインサーターユニットを装着する場合には 800 mm 以上のスペースを確保してください。

中綴じフィニッシャー + 外付け 2 穴パンチャー + ペーパーフォールディングインサーターユニット + マルチカラーイメージリーダーユニット + 立面操作部 + ペーパーデッキユニット・D1 装着時

*2：ペーパーフォールディングインサーターユニットを装着しない場合には 100 mm 以上のスペースを確保してください。

付録

17

ユーザー入力項目の文字制限と機能制限について

文字制限

設定 / 登録

ファンクション設定					
共通	印刷動作	合成のフォーム登録	フォーム名		半角 24 文字、全角 12 文字
		ページ印字 / スタンプの文字列登録	文字列		半角 32 文字、全角 16 文字
		部数印字拡張の設定	文字列		半角 16 文字
		強制地紋印字 / ジョブロック	文字列		半角 32 文字、全角 16 文字
		プリンタードライバー地紋印字 / ジョブロック	文字列		半角 32 文字、全角 16 文字
コピー	よく使う設定の登録 / 編集	名称			半角 10 文字、全角 5 文字
送信	共通設定	よく使う設定の登録 / 編集	名称		半角 10 文字× 2 行、 全角 5 文字× 2 行
	E メール /I ファクス設定	ユーザー略称の登録			半角 24 文字、全角 12 文字
		省略時の件名			半角 40 文字、全角 20 文字
	ファクス設定	発信人の名称登録			半角 24 文字、全角 12 文字
		回線設定	回線	ユーザー略称	半角 24 文字、全角 12 文字
		リモートファクス送信設定	リモートファクスサーバーアドレス	IP アドレスもしくはホスト名	半角 48 文字
受信 / 転送	共通設定	転送設定	転送条件名		半角 50 文字、全角 25 文字
			ファイル名		半角 24 文字、全角 12 文字
		受信トレイ設定	ファクスボックスの設定 / 登録	名称	半角 24 文字、全角 12 文字
ファイル保存 / 利用	共通設定	スキャンして保存設定	よく使う設定の登録 / 編集	名称	半角 10 文字、全角 5 文字
		保存ファイルの利用設定	よく使う設定の登録 / 編集	名称	半角 10 文字、全角 5 文字
	ボックス設定	ボックスの設定 / 登録	名称		半角 24 文字、全角 12 文字
	ネットワーク設定	ネットワークプレース設定	名称		半角 32 文字
			場所		半角 128 文字、全角 64 文字

宛先設定			
LDAP サーバーの登録		サーバー名	半角 24 文字、全角 12 文字
		サーバーアドレス	半角 48 文字
		検索開始位置	半角 128 文字、全角 64 文字
宛先表の名称変更		名称	半角 16 文字、全角 8 文字
リモートアドレス帳取得設定	**リモートアドレス帳サーバーアドレス**	IP アドレスまたはホスト名	半角 128 文字
宛先の登録	**ファクス**	宛先名	半角 24 文字、全角 12 文字
		宛先名フリガナ	半角 24 文字
		ワンタッチ名称 *	半角 12 文字、全角 6 文字
		ファクス番号	120 桁
		F コード	20 桁
		パスワード	20 桁
	E メール	宛先名	半角 24 文字、全角 12 文字
		宛先名フリガナ	半角 24 文字
		ワンタッチ名称 *	半角 12 文字、全角 6 文字
		メールアドレス	半角英数字 128 文字
	I ファクス	宛先名	半角 24 文字、全角 12 文字
		宛先名フリガナ	半角 24 文字
		ワンタッチ名称 *	半角 12 文字、全角 6 文字
		I ファクスアドレス	半角英数字 128 文字
		定型文 1	半角英数字 40 文字
		定型文 2	半角英数字 16 文字
	ファイル	宛先名	半角 24 文字、全角 12 文字
		宛先名フリガナ	半角 24 文字
		ワンタッチ名称 *	半角 12 文字、全角 6 文字
		ホスト名	FTP：半角英数字 128 文字（半角英数字 128 文字、全角 64 文字）** SMB、IPX、WebDAV：半角 128 文字、全角 64 文字
		パス	FTP：半角英数字 255 文字（半角英数字 255 文字、全角 127 文字）** SMB、IPX、WebDAV：半角 255 文字、全角 127 文字
		ユーザー名	FTP：半角英数字 24 文字 SMB、WebDAV：半角 128 文字、全角 64 文字 IPX：半角 24 文字、全角 12 文字
		パスワード	SMB、FTP、IPX、WebDAV：半角英数字 24 文字
	グループ	宛先名	半角 24 文字、全角 12 文字
		宛先名フリガナ	半角 24 文字
		ワンタッチ名称 *	半角 12 文字、全角 6 文字

管理設定			
ユーザー管理	**システム管理者情報の設定**	システム管理者名	半角 32 文字、全角 16 文字
		メールアドレス	半角 64 文字
		連絡先	半角 32 文字、全角 16 文字
		コメント	半角 32 文字、全角 16 文字
デバイス管理	**デバイス情報の設定**	デバイス名	半角 32 文字、全角 16 文字
		設置場所の情報	半角 32 文字、全角 16 文字

* ワンタッチ名称はワンタッチ宛先のときのみの項目です。

** ファンクション設定>送信>共通設定（設定／登録）の［FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可］を「ON」に設定した場合は、カッコ内の文字数を入力できます。

機能制限

設定 / 登録

環境設定			
タイマー / 電力設定	**日付 / 時刻設定**	日付 / 時刻	西暦、月、日、時刻

ファンクション設定					
送信	**ファクス設定**	発信人の名称登録	個数		99
		回線設定	回線	ユーザー電話番号	最大 20 桁
受信 / 転送	**共通設定**	受信トレイ設定	ファクスボックスの設定 / 登録	個数	50
			システムボックス暗証番号		7 桁
ファイル保存 / 利用	**ボックス設定**	ボックスの設定 / 登録	個数		100
			暗証番号		7 桁

宛先設定	
アドレス帳の暗証番号	7 桁
標準の宛先	1600 件
ワンタッチ宛先	200 件

管理設定			
ユーザー管理	**システム管理者情報の設定**	システム管理部門 ID	最大 7 桁
		システム管理暗証番号	最大 7 桁
	部門別 ID 管理	部門 ID	最大 7 桁
		暗証番号	最大 7 桁
		制限面数	各 0 〜 999999

コピー

コピー		
よく使う設定	個数	9
予約コピー	個数	20 ジョブ

スキャンして保存

スキャンして保存		
よく使う設定	個数	9

保存ファイルの利用

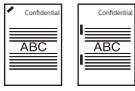
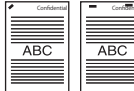
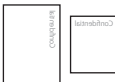
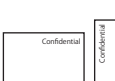
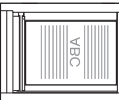
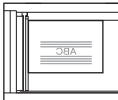
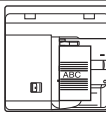
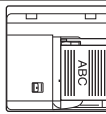
保存ファイルの利用		
よく使う設定	個数	9
送信	文書数	最大 32 文書
	ページ数	最大 999 ページ
予約プリント	個数	32 ジョブ

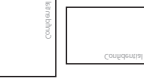
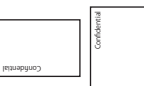
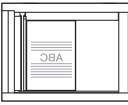
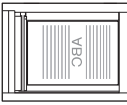
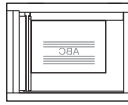
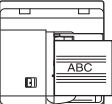
スキャンして送信

スキャンして送信		
よく使う設定	個数	18
送信	ページ数	最大 999 ページ
タイマー送信	E メール I ファクス ファイルサーバー ボックス	120 ジョブ

ファクス

ファクス		
送信	ページ数	最大 999 ページ
タイマー送信	ファクス	64 ジョブ

原稿向きと用紙向きの関係について

あらかじめロゴなどが印刷されている用紙にプリントしてホチキスするときにご利用ください。

メモ　プリントされた用紙のウラ面にプリントする場合は、下記のとおりにセットしてください。
- ペーパーデッキ、カセット：これからプリントする面を下向きにセットしてください。
- 手差し、ペーパーデッキユニット・A1、ペーパーデッキユニット・D1：これからプリントする面を上向きにセットしてください。

■ 右ホチキスをしたい場合

	各種設定 ＼ ホチキス位置 出力例	コーナー:右上 ダブル:右 A4, B5	コーナー:右上 ダブル:上 A3, B4, A4R	コーナー:右上 A4, B5	コーナー:右上 ダブル:右 A3, B4, A4R
プリントされた用紙	ペーパーデッキ プリントされた 用紙:下向き				
	カセット プリントされた 用紙:下向き				
	ペーパーデッキユニット・A1 プリントされた 用紙:上向き				
	手差し、ペーパーデッキユニット ・D1 プリントされた 用紙:上向き				
原稿	原稿台ガラス 原稿:下向き				
	ホチキス設定	コーナー:右上 ダブル　:右	コーナー:右上 ダブル　:右	コーナー:右上	コーナー:右上 ダブル　:右
	フィーダー 原稿:上向き				
	ホチキス設定	コーナー:右上 ダブル　:右	コーナー:左上 ダブル　:左	コーナー:右上	コーナー:右上 ダブル　:右
オートタテヨコ回転設定		ON/OFFどちらでも可	ON/OFFどちらでも可	ON/OFFどちらでも可 （手差し、ペーパーデッキユニット・D1の各タテ位置セットの場合はON）	ON/OFFどちらでも可

■ 左ホチキスをしたい場合

各種設定 ＼ ホチキス位置 出力例		コーナー：左上 ダブル：左 A4, B5	コーナー：左上 ダブル：上 A3, B4, A4R	コーナー：左上 A4, B5	コーナー：左上 ダブル：左 A3, B4, A4R
プリントされた用紙	ペーパーデッキ プリントされた 用紙：下向き				
	カセット プリントされた 用紙：下向き				
	ペーパーデッキユニット・A1 プリントされた 用紙：上向き				
	手差し、ペーパーデッキユニット・D1 プリントされた 用紙：上向き				
原稿	原稿台ガラス 原稿：下向き				
	ホチキス設定	コーナー：左上 ダブル　：左	コーナー：右上 ダブル　：右	コーナー：左上	コーナー：左上 ダブル　：左
	フィーダー 原稿：上向き				
	ホチキス設定	コーナー：左上 ダブル　：左	コーナー：右上 ダブル　：右	コーナー：左上	コーナー：左上 ダブル　：左
オートタテヨコ 回転設定		ON/OFFどちらでも可	ON/OFFどちらでも可	ON/OFFどちらでも可 （手差し、ペーパーデッキユニット・D1の各タテ位置セットの場合はON）	ON/OFFどちらでも可

付録

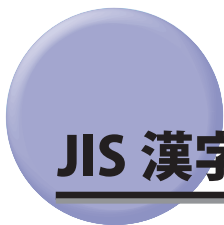
17

■ ホチキスをしない場合

各種設定 ＼ 出力例		A4, B5	A3, B4, A4R	A4, B5	A3, B4, A4R
プリントされた用紙	ペーパーデッキ プリントされた 用紙：下向き				
	カセット プリントされた 用紙：下向き				
	ペーパーデッキユニット・A1 プリントされた 用紙：上向き				
	手差し、ペーパーデッキユニット ・D1 プリントされた 用紙：上向き				
原稿	原稿台ガラス 原稿：下向き				
	フィーダー 原稿：上向き				
オートタテヨコ 回転設定		ON/OFFどちらでも可 （手差し、ペーパーデッキユニット・D1の各ヨコ位置セットの場合はON）	ON/OFFどちらでも可	ON/OFFどちらでも可 （手差し、ペーパーデッキユニット・D1の各タテ位置セットの場合はON）	ON/OFFどちらでも可

ローマ字入力表

メモ
- タッチパネルディスプレーから文字を入力する際、入力モードにかな漢、カタカナを選択した場合に使用してください。
- 文字の入力の詳細については、e-マニュアル > 基本的な使いかたを参照してください。

あ	ア	A	は	ハ	HA	が	ガ	GA	ぁ	ァ	XA
い	イ	I	ひ	ヒ	HI	ぎ	ギ	GI	ぃ	ィ	XI
う	ウ	U	ふ	フ	HU	ぐ	グ	GU	ぅ	ゥ	XU
え	エ	E	へ	ヘ	HE	げ	ゲ	GE	ぇ	ェ	XE
お	オ	O	ほ	ホ	HO	ご	ゴ	GO	ぉ	ォ	XO
か	カ	KA	ま	マ	MA	ざ	ザ	ZA	ゃ	ャ	XYA
き	キ	KI	み	ミ	MI	じ	ジ	ZI	ゅ	ュ	XYU
く	ク	KU	む	ム	MU	ず	ズ	ZU	ょ	ョ	XYO
け	ケ	KE	め	メ	ME	ぜ	ゼ	ZE			
こ	コ	KO	も	モ	MO	ぞ	ゾ	ZO			
さ	サ	SA	や	ヤ	YA	だ	ダ	DA	っ	ッ	XTU
し	シ	SI	ゆ	ユ	YU	ぢ	ヂ	DI			
す	ス	SU	よ	ヨ	YO	づ	ヅ	DU			
せ	セ	SE				で	デ	DE			
そ	ソ	SO				ど	ド	DO			
た	タ	TA	ら	ラ	RA	ば	バ	BA			
ち	チ	TI	り	リ	RI	び	ビ	BI			
つ	ツ	TU	る	ル	RU	ぶ	ブ	BU			
て	テ	TE	れ	レ	RE	べ	ベ	BE			
と	ト	TO	ろ	ロ	RO	ぼ	ボ	BO			
な	ナ	NA	わ	ワ	WA	ぱ	パ	PA			
に	ニ	NI	を	ヲ	WO	ぴ	ピ	PI			
ぬ	ヌ	NU				ぷ	プ	PU			
ね	ネ	NE	ん	ン	NN	ぺ	ペ	PE			
の	ノ	NO				ぽ	ポ	PO			
							ヴ	VU			

JIS 漢字コード表

メモ
- タッチパネルディスプレーから文字を入力する際、入力モードにコード入力を選択した場合に使用してください。
  - 区点コードは「JIS 漢字コード表」の縦列と横列の数字の和になります。
    例：「鯵」の区点コード：1616+3 → 1619
  - コード表にない番号を入力すると、「変換できません。」というメッセージが約2秒間表示されます。
- 文字の入力の詳細については、e-マニュアル > 基本的な使いかたを参照してください。

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	0100			、	。	，	．	・	：	；	？	！	゛	゜	´	｀	¨
	0116	＾	￣	＿	ヽ	ヾ	ゝ	ゞ	〃	仝	々	〆	〇	ー	―	‐	／
	0132	＼	～	?	｜	…	‥	‘	’	“	”	（	）	〔	〕	［	］
	0148	｛	｝	〈	〉	《	》	「	」	『	』	【	】	＋	－	±	×
	0164	÷	＝	≠	＜	＞	≦	≧	∞	∴	♂	♀	°	′	″	℃	￥
	0180	＄	¢	£	％	＃	＆	＊	＠	§	☆	★	○	●	◎	◇	
	0200		◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒	→	←	↑	↓	〓	
	0216											∈	∋	⊆	⊇	⊂	⊃
	0232	∪	∩									∧	∨	¬	⇒	⇔	∀
	0248	∃												∠	⊥	⌒	∂
	0264	∇	≡	≒	≪	≫	√	∽	∝	∵	∫	∬					
	0280			Å	‰	♯	♭	♪	†	‡	¶					◯	
	0316	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9						
	0332		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
	0348	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z					
	0364		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
	0380	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z					
	0400		ぁ	あ	ぃ	い	ぅ	う	ぇ	え	ぉ	お	か	が	き	ぎ	く
	0416	ぐ	け	げ	こ	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ	ぞ	た
	0432	だ	ち	ぢ	っ	つ	づ	て	で	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は
	0448	ば	ぱ	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ	ぼ	ぽ	ま	み
	0464	む	め	も	ゃ	や	ゅ	ゆ	ょ	よ	ら	り	る	れ	ろ	ゎ	わ
	0480	ゐ	ゑ	を	ん												
	0500		ァ	ア	ィ	イ	ゥ	ウ	ェ	エ	ォ	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク
	0516	グ	ケ	ゲ	コ	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ	ゾ	タ
	0532	ダ	チ	ヂ	ッ	ツ	ヅ	テ	デ	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ
	0548	バ	パ	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ	ボ	ポ	マ	ミ
	0564	ム	メ	モ	ャ	ヤ	ュ	ユ	ョ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ヮ	ワ
	0580	ヰ	ヱ	ヲ	ン	ヴ	ヵ	ヶ									
	0600		Α	Β	Γ	Δ	Ε	Ζ	Η	Θ	Ι	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο
	0616	Π	Ρ	Σ	Τ	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω							
	0632		α	β	γ	δ	ε	ζ	η	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο
	0648	π	ρ	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω							
	0700		А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З	И	Й	К	Л	М	Н
	0716	О	П	Р	С	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы	Ь	Э
	0732	Ю	Я														
	0748		а	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й	к	л	м	н
	0764	о	п	р	с	т	у	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э
	0780	ю	я														

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ア	1600		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢	葵	茜	穐	悪	握	渥
	1616	旭	葦	芦	鯵	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾	鮎	或
	1632	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	囲
イ	1648	夷	委	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異	移	維	緯	胃
	1664	萎	衣	謂	違	遺	医	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
	1680	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻	引	飲	淫	胤	蔭	
	1700		院	陰	隠	韻	吋	右	宇	烏	羽	迂	雨	卯	鵜	窺	丑
ウ	1716	碓	臼	渦	嘘	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂	云	運
	1732	雲	荏	餌	叡	営	嬰	影	映	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎
エ	1748	頴	英	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越	閲	榎	厭	円
	1764	園	堰	奄	宴	延	怨	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
	1780	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩	於	汚	甥	凹	央	奥	往	応	
オ	1800		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬	鴎	黄	岡	沖	荻	億
	1816	屋	憶	臆	桶	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音	下	化	仮	何
カ	1832	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁	家	寡	科	暇	果	架	歌	河
	1848	火	珂	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓	蝦	課	嘩	貨
	1864	迦	過	霞	蚊	俄	峨	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
	1880	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔	恢	懐	戒	拐	改	
	1900		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥	蟹	開	階	貝	凱	劾
	1916	外	咳	害	崖	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬	馨	蛙
	1932	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫
	1948	覚	角	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額	顎	掛	笠	樫
	1964	橿	梶	鰍	潟	割	喝	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
	1980	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竃	蒲	釜	鎌	噛	鴨	栢	茅	萱	
	2000		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊	勘	勧	巻	喚	堪	姦
	2016	完	官	寛	干	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺	款	歓
	2032	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦
	2048	莞	観	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館	舘	丸	含	岸
	2064	巌	玩	癌	眼	岩	翫	贋	雁	頑	顔	願	企	伎	危	喜	器
キ	2080	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机	旗	既	期	棋	棄	
	2100		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀	紀	徽	規	記	貴	起
	2116	軌	輝	飢	騎	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺	犠	疑
	2132	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵
	2148	黍	却	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸	宮	弓	急	救
	2164	朽	求	汲	泣	灸	球	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
	2180	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁	禦	魚	亨	享	京	
	2200		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡	卿	叫	喬	境	峡	強

付録
17

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
キ	2216	彊	怯	恐	恭	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興	蕎	郷
	2232	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅
	2248	勤	均	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊	芹	菌	衿	襟
	2264	謹	近	金	吟	銀	九	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
ク	2280	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅	串	櫛	釧	屑	屈	
	2300		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂	栗	繰	桑	鍬	勲	君
	2316	薫	訓	群	軍	郡	卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭	珪	型
ケ	2332	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系
	2348	経	継	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚	鶏	芸	迎	鯨
	2364	劇	戟	撃	激	隙	桁	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
	2380	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌	建	憲	懸	拳	捲	
	2400		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県	肩	見	謙	賢	軒	遣
	2416	鍵	険	顕	験	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現	絃	舷
	2432	言	諺	限	乎	個	古	呼	固	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯
コ	2448	湖	狐	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇	顧	鼓	五	互
	2464	伍	午	呉	吾	娯	後	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
	2480	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功	効	勾	厚	口	向	
	2500		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工	巧	巷	幸	広	庚	康
	2516	弘	恒	慌	抗	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構	江	洪
	2532	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱
	2548	腔	膏	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱	砿	鋼	閤	降
	2564	項	香	高	鴻	剛	劫	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
	2580	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑	忽	惚	骨	狛	込	
	2600		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇	昏	昆	根	梱	混	痕
	2616	紺	艮	魂	些	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂	詐	鎖
サ	2632	裟	坐	座	挫	債	催	再	最	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽
	2648	歳	済	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁	載	際	剤	在
	2664	材	罪	財	冴	坂	阪	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
	2680	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜	鮭	笹	匙	冊	刷	
	2700		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒
	2716	三	傘	参	山	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕	讃	賛
	2732	酸	餐	斬	暫	残	仕	仔	伺	使	刺	司	史	嗣	四	士	始
シ	2748	姉	姿	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯	施	旨	枝	止
	2764	死	氏	獅	祉	私	糸	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
	2780	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児	字	寺	慈	持	時	
	2800		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而	耳	自	蒔	辞	汐	鹿
	2816	式	識	鴫	竺	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉	湿	漆

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
シ	2832	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦
	2848	斜	煮	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺	尺	杓	灼	爵
	2864	酌	釈	錫	若	寂	弱	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
	2880	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹	綬	需	囚	収	周	
	2900		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋	終	繍	習	臭	舟	蒐
	2916	衆	襲	讐	蹴	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十	従	戎
	2932	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟
	2948	出	術	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循	旬	楯	殉	淳
	2964	準	潤	盾	純	巡	遵	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
	2980	署	書	薯	藷	諸	助	叙	女	序	徐	恕	鋤	除	傷	償	
	3000		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨	妾	娼	宵	将	小	少
	3016	尚	庄	床	廠	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶	松	梢
	3032	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦	照	症	省	硝	礁	祥	称	章
	3048	笑	粧	紹	肖	菖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔	詳	象	賞	醤
	3064	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
	3080	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲	醸	錠	嘱	埴	飾	
	3100		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食	蝕	辱	尻	伸	信	侵
	3116	唇	娠	寝	審	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申	疹	真
	3132	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診	身	辛	進	針	震	人	仁	刃
	3148	塵	壬	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭	笥	諏	須	酢	図	厨
ス	3164	逗	吹	垂	帥	推	水	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
	3180	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉	椙	菅	頗	雀	裾	
	3200		澄	摺	寸	世	瀬	畝	是	凄	制	勢	姓	征	性	成	政
セ	3216	整	星	晴	棲	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製	西	誠
	3232	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析
	3248	石	積	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙	接	摂	折	設
	3264	窃	節	説	雪	絶	舌	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
	3280	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎	煽	旋	穿	箭	線	
	3300		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賎	践	選	遷	銭	銑	閃	鮮
	3316	前	善	漸	然	全	禅	繕	膳	糎	噌	塑	岨	措	曾	曽	楚
ソ	3332	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創
	3348	双	叢	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想	捜	掃	挿	掻
	3364	操	早	曹	巣	槍	槽	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
	3380	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗	霜	騒	像	増	憎	
	3400		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息	捉	束	測	足	速	俗
	3416	属	賊	族	続	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜	他	多
タ	3432	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
タ	3448	対	耐	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎	腿	苔	袋	貸
	3464	退	逮	隊	黛	鯛	代	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
	3480	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁	諾	茸	凧	蛸	只	
	3500		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿	棚	谷	狸	鱈	樽	誰
	3516	丹	単	嘆	坦	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪	綻	耽
	3532	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断	暖	檀	段	男	談	値	知	地
チ	3548	弛	恥	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築	畜	竹	筑	蓄
	3564	逐	秩	窒	茶	嫡	着	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
	3580	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯	丁	兆	凋	喋	寵	
	3600		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑	暢	朝	潮	牒	町	眺
	3616	聴	脹	腸	蝶	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗	直	朕
	3632	沈	珍	賃	鎮	陳	津	墜	椎	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴
ツ	3648	槻	佃	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壷	嬬	紬	爪	吊
	3664	釣	鶴	亭	低	停	偵	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
テ	3680	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締	艇	訂	諦	蹄	逓	
	3700		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴	的	笛	適	鏑	溺	哲
	3716	徹	撤	轍	迭	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼	転	顛
	3732	点	伝	殿	澱	田	電	兎	吐	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡
ト	3748	登	菟	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴	怒	倒	党	冬
	3764	凍	刀	唐	塔	塘	套	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	梼	棟
	3780	盗	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	祷	等	答	筒	糖	統	到	
	3800		董	蕩	藤	討	謄	豆	踏	逃	透	鐙	陶	頭	騰	闘	働
	3816	動	同	堂	導	憧	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠	鴇	匿
	3832	得	徳	涜	特	督	禿	篤	毒	独	読	栃	橡	凸	突	椴	届
	3848	鳶	苫	寅	酉	瀞	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁	頓	呑	曇	鈍
ナ	3864	奈	那	内	乍	凪	薙	謎	灘	捺	鍋	楢	馴	縄	畷	南	楠
	3880	軟	難	汝	二	尼	弐	迩	匂	賑	肉	虹	廿	日	乳	入	
ニ	3900		如	尿	韮	任	妊	忍	認	濡	禰	祢	寧	葱	猫	熱	年
ネ	3916	念	捻	撚	燃	粘	乃	廼	之	埜	嚢	悩	濃	納	能	脳	膿
ノ	3932	農	覗	蚤	巴	把	播	覇	杷	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬
ハ	3948	俳	廃	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配	倍	培	媒	梅
	3964	楳	煤	狽	買	売	賠	陪	這	蝿	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
	3980	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠	爆	縛	莫	駁	麦	
	4000		函	箱	硲	箸	肇	筈	櫨	幡	肌	畑	畠	八	鉢	溌	発
	4016	醗	髪	伐	罰	抜	筏	閥	鳩	噺	塙	蛤	隼	伴	判	半	反
	4032	叛	帆	搬	斑	板	氾	汎	版	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範
	4048	釆	煩	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	匪	卑	否	妃	庇

付録 17

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
ヒ	4064	彼	悲	扉	批	披	斐	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
	4080	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微	枇	毘	琵	眉	美	
	4100		鼻	柊	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱	肘	弼	必	畢	筆	逼
	4116	桧	姫	媛	紐	百	謬	俵	彪	標	氷	漂	瓢	票	表	評	豹
	4132	廟	描	病	秒	苗	錨	鋲	蒜	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧
	4148	賓	頻	敏	瓶	不	付	埠	夫	婦	富	冨	布	府	怖	扶	敷
フ	4164	斧	普	浮	父	符	腐	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
	4180	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蕗	伏	副	復	幅	服	
	4200		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏	物	鮒	分	吻	噴	墳
	4216	憤	扮	焚	奮	粉	糞	紛	雰	文	聞	丙	併	兵	塀	幣	平
ヘ	4232	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	箆
	4248	偏	変	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	娩	弁	鞭	保	舗	鋪
ホ	4264	圃	捕	歩	甫	補	輔	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
	4280	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖	抱	捧	放	方	朋	
	4300		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒
	4316	飽	鳳	鵬	乏	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴	望	某
	4332	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿	鉾	防	吠	頬	北	僕	卜	墨
	4348	撲	朴	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔	本	翻	凡	盆
マ	4364	摩	磨	魔	麻	埋	妹	昧	枚	毎	哩	槙	幕	膜	枕	鮪	柾
	4380	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	侭	繭	麿	万	慢	満	
	4400		漫	蔓	味	未	魅	巳	箕	岬	密	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙
ミ	4416	粍	民	眠	務	夢	無	牟	矛	霧	鵡	椋	婿	娘	冥	名	命
メ	4432	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅	免	棉	綿	緬	面	麺	摸	模
モ	4448	茂	妄	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	黙	目	杢	勿	餅
	4464	尤	戻	籾	貰	問	悶	紋	門	匁	也	冶	夜	爺	耶	野	弥
ヤ	4480	矢	厄	役	約	薬	訳	躍	靖	柳	薮	鑓	愉	愈	油	癒	
ユ	4500		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽	悠	憂	揖	有	柚	湧
	4516	涌	猶	猷	由	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	予	余	与
ヨ	4532	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸	揚	揺	擁	曜	楊	様	洋	溶
	4548	熔	用	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遥	陽	養	慾	抑	欲
	4564	沃	浴	翌	翼	淀	羅	螺	裸	来	莱	頼	雷	洛	絡	落	酪
ラ	4580	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覧	利	吏	履	李	梨	理	璃	
リ	4600		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立	葎	掠	略	劉	流	溜
	4616	琉	留	硫	粒	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚	両	凌
	4632	寮	料	梁	涼	猟	療	瞭	稜	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力
	4648	緑	倫	厘	林	淋	燐	琳	臨	輪	隣	鱗	麟	瑠	塁	涙	累
ル	4664	類	令	伶	例	冷	励	嶺	怜	玲	礼	苓	鈴	隷	零	霊	麗
レ	4680	齢	暦	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐	漣	煉	簾	練	聯	
	4700		蓮	連	錬	呂	魯	櫓	炉	賂	路	露	労	婁	廊	弄	朗
ロ	4716	楼	榔	浪	漏	牢	狼	篭	老	聾	蝋	郎	六	麓	禄	肋	録
	4732	論	倭	和	話	歪	賄	脇	惑	枠	鷲	亙	亘	鰐	詫	藁	蕨
ワ	4748	椀	湾	碗	腕												

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	4800		弌	丐	丕	个	丱	丶	丼	丿	乂	乖	乘	亂	亅	豫	亊
	4816	舒	弍	于	亞	亟	亠	亢	亰	亳	亶	从	仍	仄	仆	仂	仗
人	4832	仞	仭	仟	价	伉	佚	估	佛	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻
	4848	佩	佰	侑	佯	來	侖	儘	俔	俟	俎	俘	俛	俑	俚	俐	俤
	4864	俥	倚	倨	倔	倪	倥	倅	伜	俶	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
	4880	偃	假	會	偕	偐	偈	做	偖	偬	偸	傀	傚	傅	傴	傲	
	4900		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僣	僮	價	僵	儉	儁	儂
	4916	儖	儕	儔	儚	儡	儺	儷	儼	儻	儿	兀	兒	兌	兔	兢	竸
	4932	兩	兪	兮	冀	冂	囘	册	冉	冏	冑	冓	冕	冖	冤	冦	冢
	4948	冩	冪	冫	决	冱	冲	冰	况	冽	凅	凉	凛	几	處	凩	凭
	4964	凰	凵	凾	刄	刋	刔	刎	刧	刪	刮	刳	刹	剏	剄	剋	剌
力	4980	剞	剔	剪	剴	剩	剳	剿	剽	劍	劔	劒	剱	劈	劑	辨	
	5000		辧	劬	劭	劼	劵	勁	勍	勗	勞	勣	勦	飭	勠	勳	勵
	5016	勸	勹	匆	匈	甸	匍	匐	匏	匕	匚	匣	匯	匱	匳	匸	區
	5032	卆	卅	丗	卉	卍	凖	卞	卩	卮	夘	卻	卷	厂	厖	厠	厦
	5048	厥	厮	厰	厶	參	簒	雙	叟	曼	燮	叮	叨	叭	叺	吁	吽
口	5064	呀	听	吭	吼	吮	吶	吩	吝	呎	咏	呵	咎	呟	呱	呷	呰
	5080	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	咢	咸	咥	咬	哄	哈	咨	
	5100		咫	哂	咤	咾	咼	哘	哥	哦	唏	唔	哽	哮	哭	哺	哢
	5116	唹	啀	啣	啌	售	啜	啅	啖	啗	唸	唳	啝	喙	喀	咯	喊
	5132	喟	啻	啾	喘	喞	單	啼	喃	喩	喇	喨	嗚	嗅	嗟	嗄	嗜
	5148	嗤	嗔	嘔	嗷	嘖	嗾	嗽	嘛	嗹	噎	噐	營	嘴	嘶	嘲	嘸
	5164	噫	噤	嘯	噬	噪	嚆	嚀	嚊	嚠	嚔	嚏	嚥	嚮	嚶	嚴	囂
	5180	嚼	囁	囃	囀	囈	囎	囑	囓	囗	囮	囹	圀	囿	圄	圉	
	5200		圈	國	圍	圓	團	圖	嗇	圜	圦	圷	圸	坎	圻	址	坏
土	5216	坩	埀	垈	坡	坿	垉	垓	垠	垳	垤	垪	垰	埃	埆	埔	埒
	5232	埓	堊	埖	埣	堋	堙	堝	塲	堡	塢	塋	塰	毀	塒	堽	塹
	5248	墅	墹	墟	墫	墺	壞	墻	墸	墮	壅	壓	壑	壗	壙	壘	壥
	5264	壜	壤	壟	壯	壺	壹	壻	壼	壽	夂	夊	夐	夛	梦	夥	夬
大	5280	夭	夲	夸	夾	竒	奕	奐	奎	奚	奘	奢	奠	奧	奬	奩	
	5300		奸	妁	妝	佞	侫	妣	妲	姆	姨	姜	妍	姙	姚	娥	娟
	5316	娑	娜	娉	娚	婀	婬	婉	娵	娶	婢	婪	媚	媼	媾	嫋	嫂
	5332	媽	嫣	嫗	嫦	嫩	嫖	嫺	嫻	嬌	嬋	嬖	嬲	嫐	嬪	嬶	嬾
	5348	孃	孅	孀	孑	孕	孚	孛	孥	孩	孰	孳	孵	學	斈	孺	宀
宀	5364	它	宦	宸	寃	寇	寉	寔	寐	寤	實	寢	寞	寥	寫	寰	寶
	5380	寳	尅	將	專	對	尓	尠	尢	尨	尸	尹	屁	屆	屎	屓	
	5400		屐	屏	孱	屬	屮	乢	屶	屹	岌	岑	岔	妛	岫	岻	岶
山	5416	岼	岷	峅	岾	峇	峙	峩	峽	峺	峭	嶌	峪	崋	崕	崗	嵜
	5432	崟	崛	崑	崔	崢	崚	崙	崘	嵌	嵒	嵎	嵋	嵬	嵳	嵶	嶇

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	5448	嶄	嶂	嶢	嶝	嶬	嶮	嶽	嶐	嶷	嶼	巉	巍	巓	巒	巖	巛
	5464	巫	已	巵	帋	帚	帙	帑	帛	帶	帷	幄	幃	幀	幎	幗	幔
	5480	幟	幢	幤	幇	幵	并	幺	麼	广	庠	廁	廂	廈	廐	廏	
广	5500		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廨	廩	廬	廱	廳	廰	廴	廸
	5516	廾	弃	弉	彝	彜	弋	弑	弖	弩	弭	弸	彁	彈	彌	彎	弯
	5532	彑	彖	彗	彙	彡	彭	彳	彷	徃	徂	彿	徊	很	徑	徇	從
	5548	徙	徘	徠	徨	徭	徼	忖	忻	忤	忸	忱	忝	悳	忿	怡	恠
	5564	怙	怐	怩	怎	怱	怛	怕	怫	怦	怏	怺	恚	恁	恪	恷	恟
	5580	恊	恆	恍	恣	恃	恤	恂	恬	恫	恙	悁	悍	惧	悃	悚	
	5600		悄	悛	悖	悗	悒	悧	悋	惡	悸	惠	惓	悴	忰	悽	惆
	5616	悵	惘	慍	愕	愆	惶	惷	愀	惴	惺	愃	愡	惻	惱	愍	愎
心	5632	慇	愾	愨	愧	慊	愿	愼	愬	愴	愽	慂	慄	慳	慷	慘	慙
	5648	慚	慫	慴	慯	慥	慱	慟	慝	慓	慵	憙	憖	憇	憬	憔	憚
	5664	憊	憑	憫	憮	懌	懊	應	懷	懈	懃	懆	憺	懋	罹	懍	懦
	5680	懣	懶	懺	懴	懿	懽	懼	懾	戀	戈	戉	戍	戌	戔	戛	
	5700		戞	戡	截	戮	戰	戲	戳	扁	扎	扞	扣	扛	扠	扨	扼
	5716	抂	抉	找	抒	抓	抖	拔	抃	抔	拗	拑	抻	拏	拿	拆	擔
	5732	拈	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵
	5748	捐	挾	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏	掉	掟	掵	捫
手	5764	捩	掾	揩	揀	揆	揣	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
	5780	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕	撓	撥	撩	撈	撼	
	5800		據	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧	舉	擠	擡	抬	擣	擯
	5816	攬	擶	擴	擲	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴	攵	攷
支	5832	收	攸	畋	效	敖	敕	敍	敘	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛
	5848	斟	斫	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无	旡	旱	杲	昊
	5864	昃	旻	杳	昵	昶	昴	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨
日	5880	晟	晢	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝	曁	暹	曉	暾	暼	
	5900		曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰	曵	曷	朏	朖	朞	朦
	5916	朧	霸	朮	朿	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤	枉	杰
	5932	枩	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤
	5948	柞	柝	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩	桀	桍	栲	桎
	5964	梳	栫	桙	档	桷	桿	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
	5980	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘	椢	椦	棡	椌	棍	
木	6000		棔	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥	棹	棠	棯	椨	椪	椚
	6016	椣	椡	棆	楹	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽	楙	椰
	6032	楡	楞	楝	榁	楪	榲	榮	槐	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝
	6048	榻	槃	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂	樛	槿	權	槹
	6064	槲	槧	樅	榱	樞	槭	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲
	6080	樶	橸	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐	檍	檠	檄	檢	檣	

付録

17

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
木	6100		檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻
	6116	欅	蘖	櫺	欒	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃	歉	歐
	6132	歙	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤
	6148	殪	殫	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟	毬	毫	毳	毯
	6164	麾	氈	氓	气	氛	氤	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
水	6180	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗	泅	泝	沮	沱	沾	
	6200		沺	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫	洽	洸	洙	洵	洳	洒
	6216	洌	浣	涓	浤	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊	涵	淇
	6232	淦	涸	淆	淬	淞	淌	淨	淒	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭
	6248	湮	渮	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟	湃	渺	湎	渤
	6264	滿	渝	游	溂	溪	溘	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏
	6280	溥	滂	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿	滲	漱	滯	漲	滌	
	6300		漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯	潛	濳	潭	澂	潼	潘
	6316	澎	澑	濂	潦	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬	濔	濘
	6332	濱	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟
	6348	瀰	瀾	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳	炮	烟	烋	烝
火	6364	烙	焉	烽	焜	焙	煥	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
	6380	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎	燠	燬	燧	燵	燼	
	6400		燹	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰	爲	爻	爼	爿	牀	牆
	6416	牋	牘	牴	牾	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃	狆	狄
犬	6432	狎	狒	狢	狠	狡	狹	狷	倏	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩
	6448	猥	猾	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻	獺	珈	玳	珎
玉	6464	玻	珀	珥	珮	珞	璢	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙
	6480	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞	璧	瓊	瓏	瓔	珱	
	6500		瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸	瓷	甄	甃	甅	甌	甎
	6516	甍	甕	甓	甞	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚	畩	畤
田	6532	畧	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣
病	6548	痂	疳	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙	痣	痞	痾	痿
	6564	痼	瘁	痰	痺	痲	痳	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
	6580	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨	癩	癪	癧	癬	癰	
	6600		癲	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎	皖	皓	皙	皚	皰	皴
	6616	皸	皹	皺	盂	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻	眈	眇
目	6632	眄	眩	眤	眞	眥	眦	眛	眷	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿
	6648	睾	睹	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼	瞽	瞻	矇	矍
	6664	矗	矚	矜	矣	矮	矼	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼
石	6680	碚	碌	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔	碾	碼	磅	磊	磬	
	6700		磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬	礫	祀	祠	祗	祟	祚
	6716	祕	祓	祺	祿	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉	秕	秧
禾	6732	秬	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	6748	穉	穡	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘	窖	窩	竈	窰
穴	6764	窶	竅	竄	窿	邃	竇	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢
	6780	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙	笞	笵	笨	笶	筐	
	6800		筺	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴	筧	筰	筱	筬	筮	箝
	6816	箘	箟	箍	箜	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏	箴	篆
竹	6832	篝	篩	簑	簔	篦	篥	籠	簀	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣
	6848	簧	簪	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐	籘	籟	籤	籖
	6864	籥	籬	籵	粃	粐	粤	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹
米	6880	粽	糀	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯	糲	糴	糶	糺	紆	
	6900		紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿	紵	絆	絳	絖	絎	絲
	6916	絨	絮	絏	絣	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵	緇	綽
糸	6932	綫	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅
	6948	縊	縣	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻	縵	縹	繃	縷
	6964	縲	縺	繧	繝	繖	繞	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
	6980	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖	纎	纛	纜	缸	缺	
	7000		罅	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘	罟	罠	罨	罩	罧	罸
	7016	羂	羆	羃	羈	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹	羮	羶
	7032	羸	譱	翅	翆	翊	翕	翔	翡	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋
	7048	耒	耘	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘	聚	聟	聢	聨
	7064	聳	聲	聰	聶	聹	聽	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬
	7080	胛	胥	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱	脛	脩	脣	脯	腋	
肉	7100		隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥	腦	腴	膃	膈	膊	膀
	7116	膂	膠	膕	膤	膣	腟	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀	臂	膺
	7132	臉	臍	臑	臙	臘	臈	臚	臟	臠	臧	臺	臻	臾	舁	舂	舅
	7148	與	舊	舍	舐	舖	舩	舫	舸	舳	艀	艙	艘	艝	艚	艟	艤
	7164	艢	艨	艪	艫	舮	艱	艷	艸	艾	芍	芒	芫	芟	芻	芬	苡
	7180	苣	苟	苒	苴	苳	苺	莓	范	苻	苹	苞	茆	苜	茉	苙	
	7200		茵	茴	茖	茲	茱	荀	茹	荐	荅	茯	茫	茗	茘	莅	莚
	7216	莪	莟	莢	莖	茣	莎	莇	莊	荼	莵	荳	荵	莠	莉	莨	菴
	7232	萓	菫	菎	菽	萃	菘	萋	菁	菷	萇	菠	菲	萍	萢	萠	莽
艸	7248	萸	蔆	菻	葭	萪	萼	蕚	蒄	葷	葫	蒭	葮	蒂	葩	葆	萬
	7264	葯	葹	萵	蓊	葢	蒹	蒿	蒟	蓙	蓍	蒻	蓚	蓐	蓁	蓆	蓖
	7280	蒡	蔡	蓿	蓴	蔗	蔘	蔬	蔟	蔕	蔔	蓼	蕀	蕣	蕘	蕈	
	7300		蕁	蘂	蕋	蕕	薀	薤	薈	薑	薊	薨	蕭	薔	薛	藪	薇
	7316	薜	蕷	蕾	薐	藉	薺	藏	薹	藐	藕	藝	藥	藜	藹	蘊	蘓
	7332	蘋	藾	藺	蘆	蘢	蘚	蘰	蘿	虍	乕	虔	號	虧	虱	蚓	蚣
	7348	蚩	蚪	蚋	蚌	蚶	蚯	蛄	蛆	蚰	蛉	蠣	蚫	蛔	蛞	蛩	蛬
虫	7364	蛟	蛛	蛯	蜒	蜆	蜈	蜀	蜃	蛻	蜑	蜉	蜍	蛹	蜊	蜴	蜿
	7380	蜷	蜻	蜥	蜩	蜚	蝠	蝟	蝸	蝌	蝎	蝴	蝗	蝨	蝮	蝙	

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
虫	7400		蝓	蝣	蝪	蠅	螢	螟	螂	螯	蟋	螽	蟀	蟐	雖	螫	蟄
	7416	螳	蟇	蟆	螻	蟯	蟲	蟠	蠏	蠍	蟾	蟶	蟷	蠎	蟒	蠑	蠖
	7432	蠕	蠢	蠡	蠱	蠶	蠹	蠧	蠻	衄	衂	衒	衙	衞	衢	衫	袁
衣	7448	衾	袞	衵	衽	袵	衲	袂	袗	袒	袮	袙	袢	袍	袤	袰	袿
	7464	袱	裃	裄	裔	裘	裙	裝	裹	褂	裼	裴	裨	裲	褄	褌	褊
	7480	褓	襃	褞	褥	褪	褫	襁	襄	褻	褶	褸	襌	褝	襠	襞	
	7500		襦	襤	襭	襪	襯	襴	襷	襾	覃	覈	覊	覓	覘	覡	覩
	7516	覦	覬	覯	覲	覺	覽	覿	觀	觚	觜	觝	觧	觴	觸	訃	訖
言	7532	訐	訌	訛	訝	訥	訶	詁	詛	詒	詆	詈	詼	詭	詬	詢	誅
	7548	誂	誄	誨	誡	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂	諚	諫	諳	諧
	7564	諤	諱	謔	諠	諢	諷	諞	諛	謌	謇	謚	諡	謖	謐	謗	謠
	7580	謳	鞫	謦	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎	證	譖	譛	譚	譫	
	7600		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒	讓	讖	讙	讚	谺	豁
	7616	谿	豈	豌	豎	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊	貍	貎
	7632	貔	豼	貘	戝	貭	貪	貽	貲	貳	貮	貶	賈	賁	賤	賣	賚
貝	7648	賽	賺	賻	贄	贅	贊	贇	贏	贍	贐	齎	贓	賍	贔	贖	赧
	7664	赭	赱	赳	趁	趙	跂	趾	趺	跏	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跫
足	7680	跟	跣	跼	踈	踉	跿	踝	踞	踐	踟	蹂	踵	踰	踴	蹊	
	7700		蹇	蹉	蹌	蹐	蹈	蹙	蹤	蹠	踪	蹣	蹕	蹶	蹲	蹼	躁
	7716	躇	躅	躄	躋	躊	躓	躑	躔	躙	躪	躡	躬	躰	軆	躱	躾
	7732	軅	軈	軋	軛	軣	軼	軻	軫	軾	輊	輅	輕	輒	輙	輓	輜
車	7748	輟	輛	輌	輦	輳	輻	輹	轅	轂	輾	轌	轉	轆	轎	轗	轜
	7764	轢	轣	轤	辜	辟	辣	辭	辯	辷	迚	迥	迢	迪	迯	邇	迴
辶	7780	逅	迹	迺	逑	逕	逡	逍	逞	逖	逋	逧	逶	逵	逹	迸	
	7800		遏	遐	遑	遒	逎	遉	逾	遖	遘	遞	遨	遯	遶	隨	遲
	7816	邂	遽	邁	邀	邊	邉	邏	邨	邯	邱	邵	郢	郤	扈	郛	鄂
	7832	鄒	鄙	鄲	鄰	酊	酖	酘	酣	酥	酩	酳	酲	醋	醉	醂	醢
酉	7848	醫	醯	醪	醵	醴	醺	釀	釁	釉	釋	釐	釖	釟	釡	釛	釼
金	7864	釵	釶	鈞	釿	鈔	鈬	鈕	鈑	鉞	鉗	鉅	鉉	鉤	鉈	銕	鈿
	7880	鉋	鉐	銜	銖	銓	銛	鉚	鋏	銹	銷	鋩	錏	鋺	鍄	錮	
	7900		錙	錢	錚	錣	錺	錵	錻	鍜	鍠	鍼	鍮	鍖	鎰	鎬	鎭
	7916	鎔	鎹	鏖	鏗	鏨	鏥	鏘	鏃	鏝	鏐	鏈	鏤	鐚	鐔	鐓	鐃
	7932	鐇	鐐	鐶	鐫	鐵	鐡	鐺	鑁	鑒	鑄	鑛	鑠	鑢	鑞	鑪	鈩
	7948	鑰	鑵	鑷	鑽	鑚	鑼	鑾	钁	鑿	閂	閇	閊	閔	閖	閘	閙
門	7964	閠	閨	閧	閭	閼	閻	閹	閾	闊	濶	闃	闍	闌	闕	闔	闖
	7980	關	闡	闥	闢	阡	阨	阮	阯	陂	陌	陏	陋	陷	陜	陞	
阜	8000		陝	陟	陦	陲	陬	隍	隘	隕	隗	險	隧	隱	隲	隰	隴
	8016	隶	隸	隹	雎	雋	雉	雍	襍	雜	霍	雕	雹	霄	霆	霈	霓
雨	8032	霎	霑	霏	霖	霙	霤	霪	霰	霹	霽	霾	靄	靆	靈	靂	靉

付録

17

	区点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	8048	靜	靠	靤	靦	靨	勒	靫	靱	靹	鞅	靼	鞁	靺	鞆	鞋	鞏
革	8064	鞐	鞜	鞨	鞦	鞣	鞳	鞴	韃	韆	韈	韋	韜	韭	齏	韲	竟
	8080	韶	韵	頏	頌	頸	頤	頡	頷	頽	顆	顏	顋	顫	顯	顰	
頁	8100		顱	顴	顳	颪	颯	颱	颶	飄	飃	飆	飩	飫	餃	餉	餒
食	8116	餔	餘	餡	餝	餞	餤	餠	餬	餮	餽	餾	饂	饉	饅	饐	饋
	8132	饑	饒	饌	饕	馗	馘	馥	馭	馮	馼	駟	駛	駝	駘	駑	駭
馬	8148	駮	駱	駲	駻	駸	騁	騏	騅	駢	騙	騫	騷	驅	驂	驀	驃
	8164	騾	驕	驍	驛	驗	驟	驢	驥	驤	驩	驫	驪	骭	骰	骼	髀
	8180	髏	髑	髓	體	髞	髟	髢	髣	髦	髯	髫	髮	髴	髱	髷	
髟	8200		髻	鬆	鬘	鬚	鬟	鬢	鬣	鬥	鬧	鬨	鬩	鬪	鬮	鬯	鬲
	8216	魄	魃	魏	魍	魎	魑	魘	魴	鮓	鮃	鮑	鮖	鮗	鮟	鮠	鮨
魚	8232	鮴	鯀	鯊	鮹	鯆	鯏	鯑	鯒	鯣	鯢	鯤	鯔	鯡	鰺	鯲	鯱
	8248	鯰	鰕	鰔	鰉	鰓	鰌	鰆	鰈	鰒	鰊	鰄	鰮	鰛	鰥	鰤	鰡
	8264	鰰	鱇	鰲	鱆	鰾	鱚	鱠	鱧	鱶	鱸	鳧	鳬	鳰	鴉	鴈	鳫
鳥	8280	鴃	鴆	鴪	鴦	鶯	鴣	鴟	鵄	鴕	鴒	鵁	鴿	鴾	鵆	鵈	
	8300		鵝	鵞	鵤	鵑	鵐	鵙	鵲	鶉	鶇	鶫	鵯	鵺	鶚	鶤	鶩
	8316	鶲	鷄	鷁	鶻	鶸	鶺	鷆	鷏	鷂	鷙	鷓	鷸	鷦	鷭	鷯	鷽
	8332	鸚	鸛	鸞	鹵	鹹	鹽	麁	麈	麋	麌	麒	麕	麑	麝	麥	麩
	8348	麸	麪	麭	靡	黌	黎	黏	黐	黔	黜	點	黝	黠	黥	黨	黯
	8364	黴	黶	黷	黹	黻	黼	黽	鼇	鼈	皷	鼕	鼡	鼬	鼾	齊	齒
	8380	齔	齣	齟	齠	齡	齦	齧	齬	齪	齷	齲	齶	龕	龜	龠	
	8400		堯	槇	遙	瑤	凜	熙									

付録

17

索引

番号

欧字

A

B

D

E

F

G

I

J

L

M

N

R

S

T

U

W

かな

あ

い

え

お

か

き

く

つ

て

と

な

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

め

も

ゆ

よ

り

れ

ろ

消耗品のご注文先

販 売 先	
電話番号	
担当部門	
担 当 者	

サービス担当者 連絡先

販 売 店	
電話番号	
担当部門	
担 当 者	

Canon キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90056

［受付時間］ <平日> 9:00～12:00、13:00～17:00
（土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は03-5428-1287をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

Canonホームページ：http://canon.jp

FT5-3655 (020) XXXXXXXXXX

PRINTED IN CHINA